

秋田県文化財調査報告書第 293 集

伊 勢 堂 岱 遺 跡

— 県道木戸石鷹巣線建設事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅱ —

1999・9

秋 田 県 教 育 委 員 会

い せ どう たい 遺 跡
伊 勢 堂 岱

— 県道木戸石鷹巣線建設事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅱ —

1999・9

秋田県教育委員会



伊勢堂岱遺跡(手前)と大館能代空港 (西から)



環状列石A (上方が北)



西側調査区 (東から)



大型不整形の土壇墓上の環状列石 A (NJ 74 付近；上方が西)

序

秋田県の歴史は豊かな自然のもとに先人たちが築きあげたものであり、埋蔵文化財はその基盤をなす大いなる遺産の一つであります。そしてそれをそこなうことなく未来へ伝えることが、現代に生きる私たちに負託されたものであります。

このたびの大館能代空港開設にともなうアクセス道路整備を目的とした県道木戸石鷹巣線建設事業で、路線の一部が伊勢堂岱遺跡を通過することになったことから、県教育委員会は遺跡を記録保存することとし、工事に先立って発掘調査を実施してまいりました。

2年にわたる調査が進むにつれて、三つの環状列石をはじめとする遺構群が発見され、縄文時代後期における葬祭祀のあり方が明らかとなり、この遺跡の重要性が再認識されることになりました。そのため県ではアクセス道路の路線変更を決定し、これら大地に刻まれた遺産を現地に保存することにしました。

本書はこの経緯と発掘調査の成果をまとめたものでありますが、文化財に対する理解と歴史研究の上で少しでも役立てば幸いに存じます。

最後に、発掘調査から本書の刊行に至るまで御指導、御協力下さった秋田県土木部北秋田土木事務所、鷹巣町教育委員会ならびに関係各位に対し厚く御礼申し上げます。

平成11年9月

秋田県教育委員会

教育長 小野寺

清

例 言

- 1 本書は秋田県北秋田郡鷹巣町脇神地内に所在する伊勢堂岱遺跡の発掘調査報告書である。同町七日市地内に同名の遺跡（周知の遺跡：No 11-28）が所在するが、それとは別個の遺跡である。すでに平成7年度秋田県埋蔵文化財発掘調査報告会資料・秋田県埋蔵文化財センター年報14（平成7年度）・現地説明会資料（平成8年10月12日）・平成8年度秋田県埋蔵文化財発掘調査報告会資料・秋田県埋蔵文化財センター年報15（平成8年度）・米代川流域の縄文文化―伊勢堂岱遺跡を中心に―（平成11年4月、鷹巣町教委との共催展の図録）において調査成果の一部が公表されているが、本報告書の記載内容がすべてそれらに優先する。
- 2 秋田県教育委員会による伊勢堂岱遺跡の発掘調査は、平成7年5月10日～11月29日、平成8年4月10日～12月12日まで実施した。
- 3 平成8年11月18日に秋田県当局が遺跡の現地保存を決定し、発掘調査現場では同日から遺構の埋め戻し保護に係る作業を開始した。そのため東側調査区西半部・中央調査区南辺部（斜面肩部）・西側調査区中央部（環状列石A周辺部）については、調査未了のまま埋め戻している。
- 4 平成7年度の発掘調査には、秋田県と友好省県となっている中華人民共和國甘肅省からの研修生として秋田県埋蔵文化財センターで研修中の、甘肅省博物館文物科學保護部 張健全氏も参加した。
- 5 本遺跡は県道木戸石鷹巣線（大館能代空港アクセス道路東西線）建設事業に伴い発掘調査に着手したものであるが、現地保存決定による事業計画の変更等に伴い、平成10年度以降は秋田県教育委員会の単独予算により整理作業を実施した。
- 6 第2章 第1節「鷹巣盆地、伊勢堂岱遺跡の立地に関わる地形」は、秋田県立能代工業高等学校 教諭 栗山知士氏より玉稿を賜った。
- 7 第5章 第12節「伊勢堂岱遺跡出土アスファルトの産地同定」は、北海道大学高等教育機能開発総合センター教授 小笠原正明氏より玉稿を賜った。
- 8 第5章 自然科学分析には、株式会社古環境研究所・株式会社パレオ・ラボ・株式会社ズコーシャに業務委託した分析報告書の一部を収載した。
- 9 石器実測図の一部は株式会社アルカに、遺構実測図の一部は三航光測に業務委託した図面を使用した。
- 10 付図5に使用した「伊勢堂岱遺跡 環状列石A 詳細図」は、株式会社シン技術コンサルに業務委託した空中写真測量図面を使用した。
- 11 本報告書挿図中に使用した土層表記法は、農林水産省農林水産技術会議事務局監修・財団法人日本色彩研究所色票監修『新版標準土色帖 1989年版』を使用した。
- 12 本報告書に使用した地形図は、建設省国土地理院発行25,000分の1「鷹巣東部」「鷹巣西部」・50,000分の1「鷹巣」、秋田県土木部北秋田土木事務所作製1,000分の1工事計画図である。
- 13 本遺跡の調査ならびに報告書刊行にあたり、次の方々よりご指導、ご教示をいただいた。記して謝意を表す。














栗山知士、小笠原正明、加納博、藤本幸雄、林謙作、小杉康、遠藤正夫、児玉大成、葛西勲、

高橋潤、青木誠、嶋井康夫、浅野敏昭、高橋和樹、阿部明義、石井淳平、秋元信夫、藤井安正、花海義人、佐藤智雄、福田裕二、鎌田祐二、竹下將夫、高橋憲太郎（順不同）

14 本書の執筆・編集は五十嵐一治がおこなった。

凡 例

- 1 本報告書に収載した遺跡実測図に付した方位は国家座標第X系による座標北を示す。伊勢堂岱遺跡のグリッド杭座標原点MA 50（ $X = 22300.000$, $Y = -41000.000$ ）とした位置における座標北と磁北との偏角は西偏 $8^{\circ} 37'$ である。
- 2 基本層位の土層註記にはローマ数字を用いた。
- 3 本文中記載の遺構番号で遺構種別を表す記号表記が合致しない場合がある（SKF 10とSK 10等）が、「検出遺構一覧表」に記載した遺構種別・番号がすべて優先する。
- 4 基本的に遺構実測図は1/40及び1/20、遺物実測図は1/2及び1/3の縮尺で掲載した。しかし挿図割付の関係上、さらに若干の縮小を施した挿図がある。各頁に付したスケールを参照されたい。
- 5 基本層位IVb層として取り上げ・記載した遺物のうち、沢B周辺部の出土遺物についての記載が若干異なる場合がある。これは1995年度に広義のIVb層として取り上げた部分を1996年度に層位を再検討し、細分したためである。つまり1996年度において『沢Bベルト●▲層』と細分層位で取り上げ・記載した遺物の出土層準は、1995年度に『IVb層』とした層準に含まれるものである。
- 6 発掘調査時における遺構平面・断面図の記録および土層註記に際し、精査を担当した職員の不注意により、掲載図面への不備が生じたものが多数ある。これらの不備により、掲載した図面および註記による遺構記述そのものが完結していないものも存在する。
- 7 発掘調査において検出した遺構のうち、一部の小ピット類については図面および遺構一覧表を省略し、平面配置のみを掲載した。
- 8 挿図中に使用したスクリーンパターンは以下のとおりであり、それ以外については個々に挿図中に示してある。

	漸移層 (V層)		内面黒色処理		磨り
	地山VI層		朱彩・彩文		擦り
	地山VII層		タール付着部分 (灯明皿)		凹み・敲打痕跡
	焼土		厚手土器欠損部		石器被熱痕跡
					アスファルト付着部分

目 次

巻首図版

序

例言

凡例

第1章	はじめに	1
第1節	発掘調査に至る経過	1
第2節	調査要項	1
第2章	遺跡の立地と環境	4
第1節	遺跡の位置と立地 鷹巣盆地、伊勢堂岱遺跡の立地に関わる地形	4
第2節	歴史的環境	15
第3章	発掘調査の概要	20
第1節	遺跡の概観	20
第2節	調査と整理の方法	20
第3節	発掘調査の経過	22
第4章	調査の記録	26
第1節	遺跡の基本層序	26
第2節	検出遺構と出土遺物	27
第5章	自然科学的分析	328
第1節	秋田県、伊勢堂岱遺跡の自然科学分析	328
第2節	伊勢堂岱遺跡出土炭化材の樹種同定	332
第3節	伊勢堂岱遺跡出土竈部のプラント・オパール	333
第4節	伊勢堂岱遺跡の花粉化石群集	335
第5節	伊勢堂岱遺跡出土土器胎土および粘土塊について	335
第6節	伊勢堂岱遺跡出土の赤色顔料について	341
第7節	伊勢堂岱遺跡出土炭化材・植物遺体の放射性炭素年代測定	345
第8節	伊勢堂岱遺跡出土炭化材の樹種同定	347
第9節	伊勢堂岱遺跡の全リン酸分析	348
第10節	伊勢堂岱遺跡のプラント・オパール	351
第11節	伊勢堂岱遺跡から出土した遺構・遺物に残存する脂肪の分析	367
第12節	伊勢堂岱遺跡出土アスファルトの産地同定	383
第6章	まとめ	392

図版

付図

附表

第1章 はじめに

第1節 調査に至る経過

県道木戸石鷹巣線は合川町木戸石から鷹巣町鷹巣に至る県道であるが、県内第二の空港として整備されることになった大館能代空港の開港にあわせ、国道7号から国道285号へ至る空港アクセス道路の東西線として改良整備が進められることになった（第2図）。

本県道の計画路線には埋蔵文化財が包蔵されている可能性があることから、県土木部北秋田土木事務所は文化財保護法に基づきこの事実確認と今後の対応について秋田県教育委員会に調査と指導の依頼をした。秋田県教育委員会はこれを受けて関係市町村とともに平成4年度に計画路線内の遺跡分布調査を実施し、路線内に係る埋蔵文化財包蔵地および包蔵地と推測される地区については今後範囲確認調査が必要であることと、範囲確認調査の結果記録保存の必要なものについては発掘調査を実施すべきことを回答した。

平成6年度には伊勢堂岱遺跡の範囲確認調査を実施し、2ヶ年にわたる本調査の計画が策定された。

平成7年度には伊勢堂岱遺跡の1年目の発掘調査を実施し、同じく空港アクセス道路東西線に係る脇神館跡の範囲確認調査を実施した。

平成8年度には伊勢堂岱遺跡の2年目の発掘調査、および脇神館跡の発掘調査を実施した。

調査が進展するにつれ、連日のように報道関係者が取材に訪れるようになり、その都度最新の調査成果を提供した。その結果、地域住民をはじめとする多くの県民から遺跡保存の声が高まり、同年11月18日、秋田県当局が2ヶ年にわたる調査成果を踏まえてアクセス道路の迂回・遺跡の現地保存・発掘調査の中止を決定した。

第2節 調査要項

遺 跡 名 称	伊勢堂岱遺跡	※遺跡略号 2 I S D T
所 在 地	秋田県北秋田郡鷹巣町脇神字伊勢堂岱5-1外 (北緯40°12'00" , 東経140°21'00") ※同町七日市地内に所在する伊勢堂岱遺跡とは別個の遺跡である	
調 査 期 間	平成7年5月10日～11月29日 平成8年4月10日～12月12日	
調査対象面積	9,817m ²	
調 査 面 積	7,047m ² (調査終了面積5,365m ² ;第9図)	
調 査 主 体 者	秋田県教育委員会	
調 査 担 当 者	秋田県埋蔵文化財センター 発掘担当者 平成7年度	

武藤 祐浩 (学芸主事；現教育庁文化課学芸主事)

五十嵐一治 (学芸主事)

庄内 昭男 (調査課長補佐兼調査第二科長)

小林 克 (文化財主査)

本田 嘉之 (学芸主事；現湯沢北高等学校教諭)

磯村 亨 (学芸主事)

松尾 睦子 (非常勤職員)

平成8年度

小林 克 (文化財主査；現文化庁記念物課文化財調査官)

五十嵐一治 (学芸主事)

庄内 昭男 (調査課長補佐；現博物館学芸課長補佐)

吉川 孝 (学芸主事)

磯村 亨 (学芸主事)

築 一郎 (学芸主事)

高橋 学 (学芸主事；現教育庁弘田柵跡調査事務所学芸主事)

松尾 睦子 (非常勤職員)

村上 義直 (非常勤職員；現文化財主事)

整理担当者

平成9年度・10年度・11年度

五十嵐一治 (学芸主事)

総務担当者

平成7年度

藤肥 良清 (主査)

佐藤 広文 (主任；現県民会館主査)

須田 輝樹 (主事)

平成8年度

藤肥 良清 (主査)

佐藤 幸嗣 (主事)

須田 輝樹 (主事)

平成9年度

藤肥 良清 (主査；現教育庁福利課長補佐)

佐藤 幸嗣 (主事)

須田 輝樹 (主事；現図書館総務課主事)

平成10年度

菅原 晃 (主査)

佐藤 幸嗣 (主事；現教育庁福利課主事)

八文字 隆 (主事)

平成 11 年度

菅原 晃 (主査)

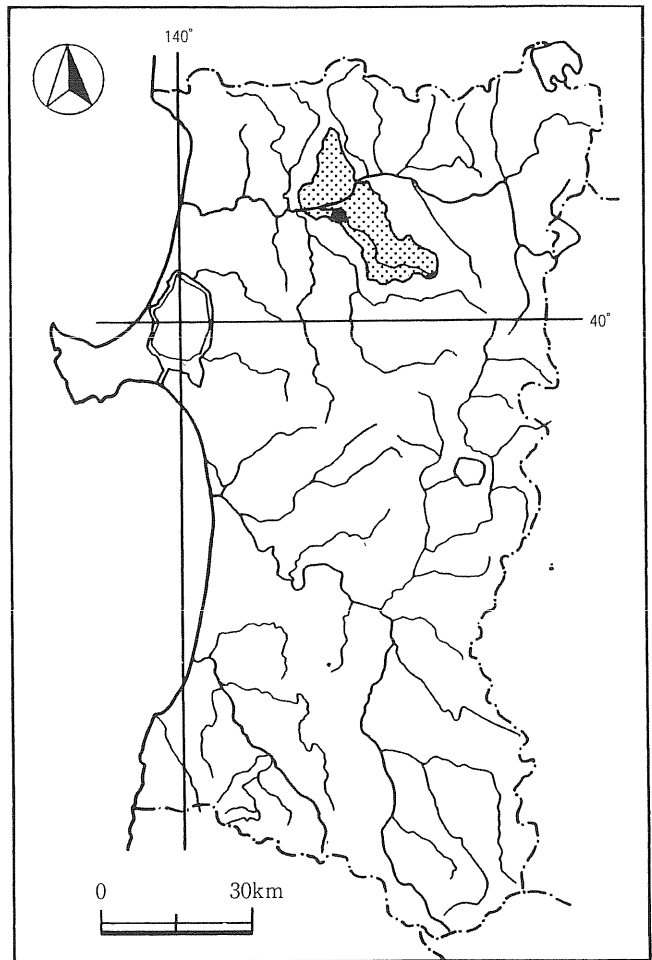
佐々木敬隆 (主事)

八文字 隆 (主事)

調査協力機関

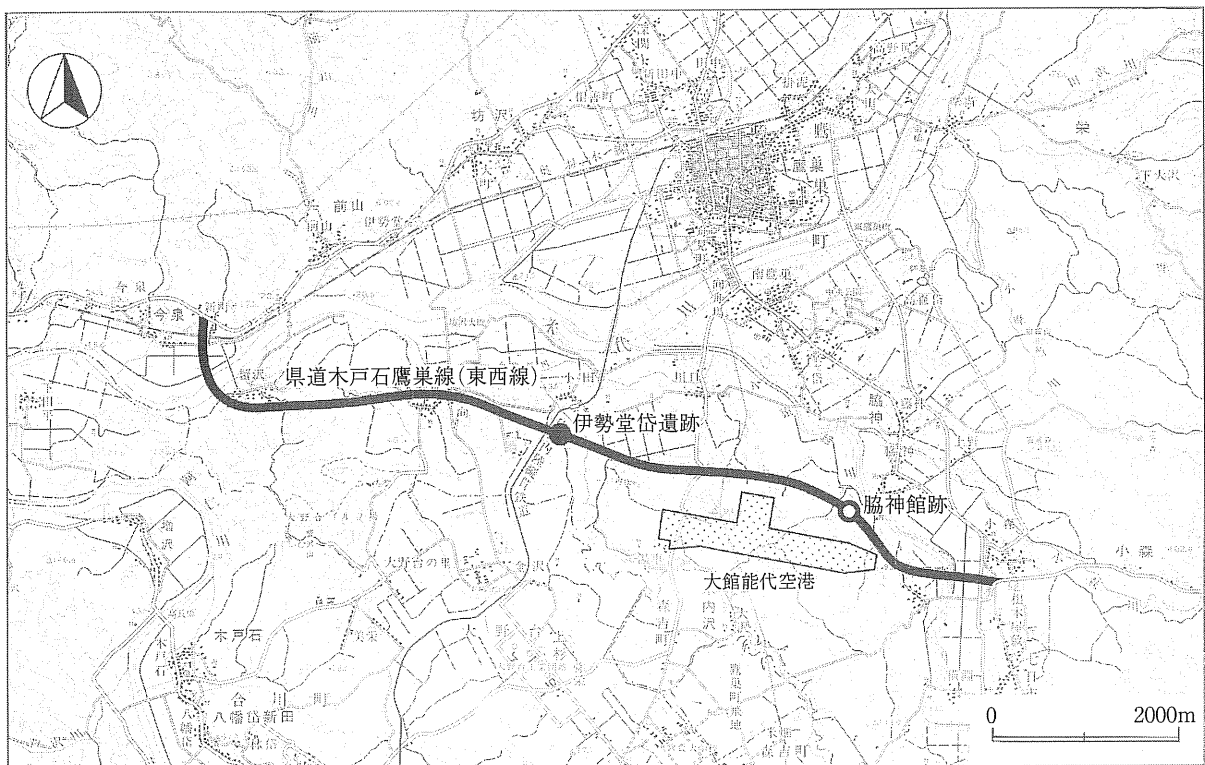
秋田県土木部北秋田土木事務所

鷹巣町教育委員会生涯学習振興課



第1図 遺跡位置図

- 鷹巣町
- 伊勢堂岱遺跡



第2図 路線と遺跡

第2章 遺跡の立地と環境

第1節 遺跡の位置と立地

鷹巣盆地、伊勢堂岱遺跡の立地に関わる地形

栗山知士

I. はじめに

大館・能代空港のアクセス道路(予定)上に位置する伊勢堂岱遺跡は、米代川流域左岸小ヶ田付近の河成段丘面上に立地している縄文時代後期の遺跡であると考えられている(秋田県埋蔵文化財センター, 1997; 岩越, 1998)。

伊勢堂岱遺跡の北方を流れる米代川は、奥羽脊梁山脈の田山に発し、湯瀬溪谷を西に貫流して、花輪盆地で北に流路を変える。そして、盆地の出口付近で西に流路を変え、大館盆地、鷹巣盆地、能代平野を貫流し日本海にそそいでいる。流路は全長4,100kmに及び、秋田県北部の主要河川である。

米代川流域には能代平野から花輪盆地まで段丘地形が連続的に発達している。これらのうち花輪盆地と大館盆地の段丘地形の大部分は、十和田火山由来の火砕流台地で占められている(藤原, 1960; 内藤, 1963, 1966, 1970; 平山・市川, 1966; 白井, 1966; 栗山, 1998)。しかし、鷹巣盆地では、米代川やその支流の阿仁川と小猿部川の河成段丘が大部分であり、十和田火山由来の火砕流台地は、限られた地域にしか分布していない(内藤, 1963, 1966; 豊島, 1987)。

伊勢堂岱遺跡が立地する段丘面は、米代川流域の標高40~50mの河成段丘面で、石巻岱面とよばれている(内藤, 1966)。石巻岱面は、米代川左岸の蟹沢付近から石巻岱付近まで連続的に発達する。しかし、鷹巣中央公園付近でより新期の、したがってより低位の段丘と考えられている高市火砕流台地^{*1}と同一高度に発達して漸移するように見え、段丘崖のような明瞭な地形境界はみられない。

本稿では、伊勢堂岱遺跡が立地する石巻岱面と高市火砕流台地の関係、ならびにそれらの地形的特性を明らかにする。

II. 鷹巣盆地周辺地域の地形概観

鷹巣盆地は、出羽丘陵北部に位置する盆地である(第3図)。盆地内の北半を米代川が東から西に流れ、これに蟹沢付近で阿仁川と小猿部川が合流している。

盆地北方には、白神山地が東西方向にのびている。この山地は、新第三紀中新世の堆積岩類や火山岩類で構成され、壮年期の地形を形成している。山稜には平坦面はみられないが、標高は800~1,000mではほぼ一定の値を示している(角ほか, 1962)。白神山地には、第四紀火山である田代岳(標高1,178m)と太良駒ヶ岳(標高1,158m)が発達している。両火山とも山体の開析はかなり進んでいる(角ほか, 1962)。宝田(1991)は、田代岳火山を第四紀の成層火山であるとし、その噴出物中に十和田火山起源の高市火砕流堆積物(¹⁴C年代は25,000 y. B. P. ^{*2}:一色ほか, 1965)が介在していることを確認して、第四紀更新世後期にも活動していたことを明らかにした。また、太良駒ヶ岳火山も



第3図 鷹巣盆地周辺の接峰面図
2 km の谷を埋谷、等高線間隔は 100 m

第四紀の成層火山であると考えられている（阿部，1991）。

鷹巣盆地の周囲には丘陵地帯が分布している。白神山地と鷹巣盆地間にある北部丘陵地帯は、標高100～300 mで、主に新第三紀中新世の堆積岩類や火山岩類で構成されている。丘陵縁付近の標高50～200 mの地域は、湯車層（湖成層）およびこれと同時に異相の非常に厚い河成礫層で構成されている。また、断片的ではあるが、山稜に平坦面が確認されている（内藤，1963；大月，1991）。南部の丘陵は、阿仁川と小阿仁川の間NW-SE方向と三木田付近、小阿仁川左岸の標高60～200 mに分布し、新第三系海成上部鮮新統前山川層で構成されている（角・盛谷，1973）。

盆地東部の丘陵は仁井田丘陵（摩当山地）とよばれている。摩当山（標高444 m）を最高峰とする標高400 m内外の定高性のある丘陵性山地で、鷹巣盆地とは断層で限られている。本丘陵はグリーンタフを主とする地域で地質構造上の複背斜に相当する（平山・角，1963；東北地方第四紀研究グループ，1977）。盆地西部の丘陵性山地は七座丘陵^{ななくら}とよばれている。七座背斜に一致し、秋田市北方の狙山周辺の山地にN-S方向に連続し、差別的削剝地形であるケスタ地形が発達している（平山・角，1963；SUZUKI et al., 1985）。これは丘陵を構成する上部七座凝灰岩と下位の黒色泥岩との岩質の硬軟の差に対応したものである。また、七座丘陵を横断する米代川は二ツ井付近で穿入蛇行し、顕著な峡谷状の地形を示しており、付近一帯における新期の大きな隆起量の存在を示している（平山・市川，1966；白石ほか，1977）。

Ⅲ．鷹巣盆地の河岸段丘

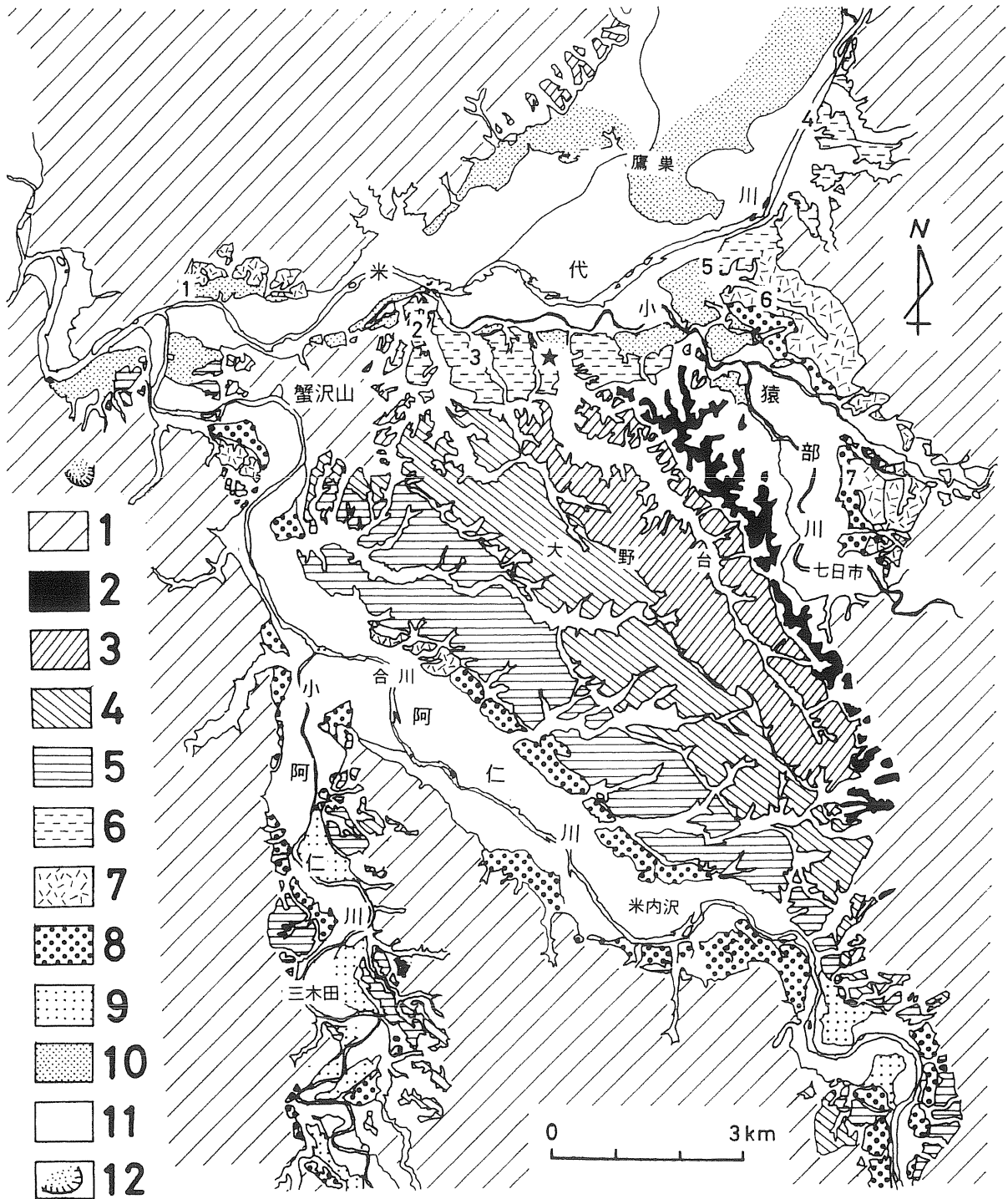
鷹巣盆地には、米代川とその支流の阿仁川・小猿部川流域に河岸段丘が発達している（第4図）。特に阿仁川右岸の大野台地域には標高30～100 mの広大な段丘地形が階段状に発達している。これらの段丘は左岸には分布せず、段丘の分布は非対称的配置をしている。このことは、東側が隆起傾向にあることを示しているものと考えられる。

本地域の河岸段丘は、高位から大野台Ⅰ面・同Ⅱ面・同Ⅲ面・同Ⅳ面・石巻岱面・高市火砕流台地（高市火砕流の堆積面）・米内沢面・浦田面・毛馬内火砕流台地（毛馬内火砕流の堆積面）に区分される。大野台Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ面と米内沢面は大野台地域に広く発達している。しかし、米内沢より上流域では大野台Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ面は断片的にしか発達せず、大野台Ⅳ面、米内沢面とそれより下位の浦田面と思われる河成段丘面が現河床より比高を上げて上流域に連続している。

阿仁川・小阿仁川流域の河成段丘の段丘堆積物中には大量の花崗岩礫が含まれているが、米代川流域の河成段丘堆積物中にはみられないことが報告されている（内藤，1963）。これは、阿仁川・小阿仁川上流域の太平山地に先新第三紀の花崗岩類が広範囲に分布している（斎藤・大沢，1956；大沢・須田，1980；大沢ほか，1981）からである（第5図）。

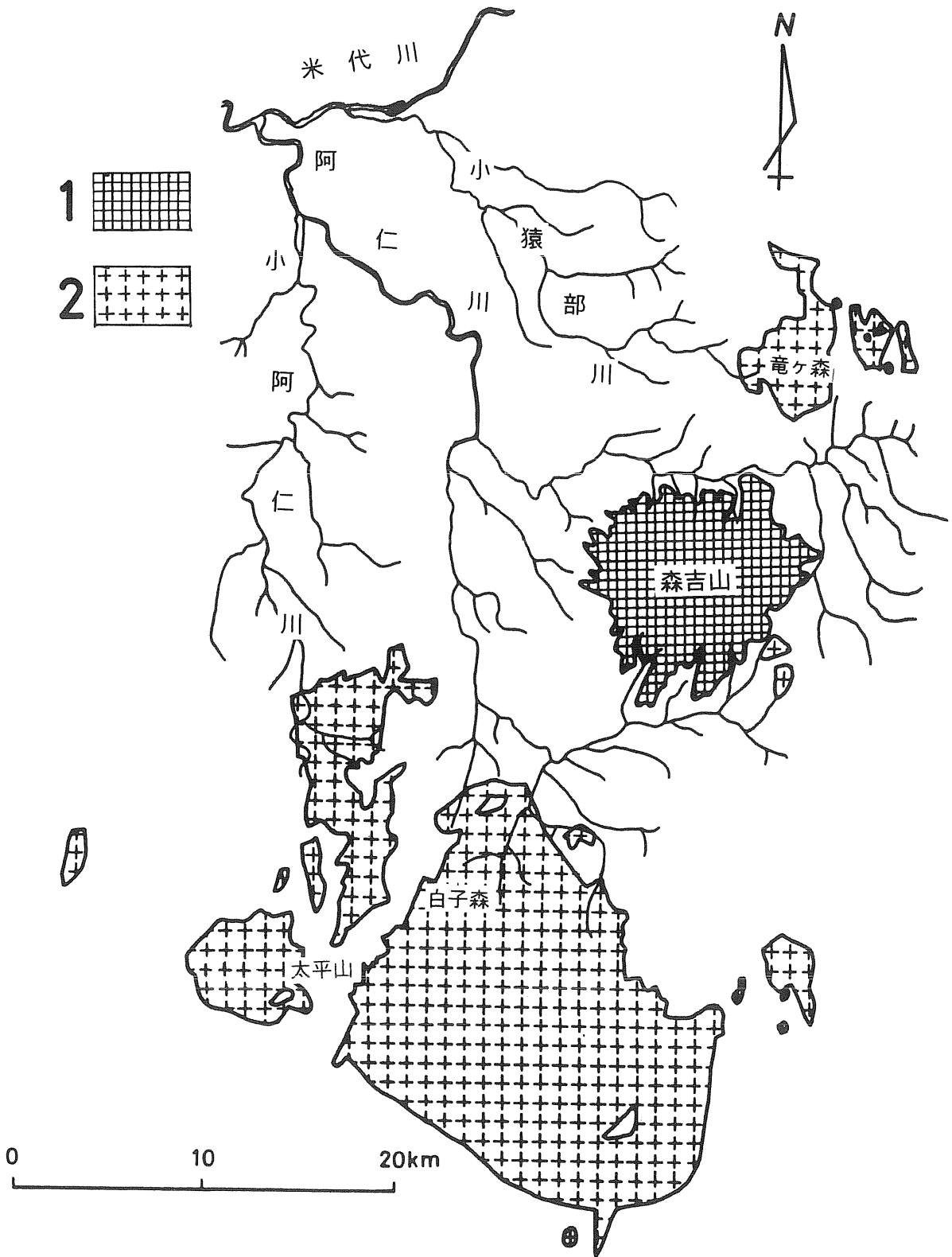
大野台Ⅰ面を構成している河成礫層は鷹巣盆地の段丘構成層の基盤を構成している湯車層（古鷹巣湖を形成した湖成層）とは明瞭な不整合面を持たないことから、大野台Ⅰ面は湯車層の堆積面と考えられている（東北地方第四紀研究グループ，1977；大月，1991）。

大月（1991）は、大野台Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ面を被覆している風化火山灰層^{*3}中に洞爺カルデラ起源の洞爺火山灰（Toya, 9万～10万年前）（町田ほか，1992）^{*4}が挟まれていることを発見し、これに基づいて大野台Ⅰ面は33万～44万年前に、同Ⅱ面は20万年前に、同Ⅲ面は17万～19万年前に形成され



第4図 鷹巣盆地の地形学図

1. 山地・丘陵, 2. 大野台Ⅰ面, 3. 大野台Ⅱ面, 4. 大野台Ⅲ面, 5. 大野台Ⅳ面,
 6. 石巻岱面, 7. 高市火砕流台地, 8. 米内沢面, 9. 浦田面, 10. 毛馬内火砕流台地
 11. 沖積低地, 12. 崩壊地,
 Loc. 1～7は第7図参照, 第4図の位置は第3図参照, ★: 伊勢堂岱遺跡



第5図 鷹巣盆地南部地域の花崗岩類・第四紀火山岩類の分布図
 斎藤・大沢 (1956), 大沢・須田 (1978, 1980), 大沢ほか (1981), 白田ほか (1984) を基
 にして作成, 1. 第四紀火山岩類, 2. 花崗岩類

たことを明らかにした。

高市火砕流台地と毛馬内火砕流台地*⁵は、十和田火山由来の火砕流堆積物の初生的堆積面とその二次堆積物（水を混じえた火山泥流、ラハール）の堆積面である（第6図）。前者は後述する伊勢堂岱遺跡をのせる石巻岱面と関わりをもっている。後者は米代川流域の最低位段丘を形成しており、阿仁川・小阿仁川流域では確認されていない。しかし、小猿部川流域では高市火砕流と鳥越火砕流の堆積面が確認されている（豊島，1987）。

鷹巣盆地の最低位段丘を形成している毛馬内火砕流台地の多くはラハールの堆積面であり、鷹巣盆地のラハールには胡桃館遺跡が埋没している。毛馬内火砕流台地を構成する軽石層に含まれている炭化度の低い樹根の¹⁴C年代は $1,280 \pm 90$ y. B. P.であり（一色ほか，1965）、1,000年前のシラス洪水によって形成されたものと考えられている（平山・市川，1966）。米代川下流域の能代平野にも、毛馬内火砕流台地が分布していることが報告されていた（白井，1966；平山・市川，1966；内藤，1977；大沢ほか，1984）。日本海中部地震災害（1983年）秋田大学地質調査班（1986）は、能代平野の沖積平野をF-I、F-II、F-IIIの三段の地形面に区分し、F-Iを縄文海進時（6,000年前）に、F-IIを“縄文中期の小海退”後の海進期（3,000～4,000年前）に、F-IIIを“4～12世紀の海面小上昇”に対比し、この期間内に毛馬内火砕流堆積物（Kmpfl）由来のシラス洪水が流下して、F-I上に薄く広がったと考えている。なお、町田ほか（1981）・HAYAKAWA（1985）は、西暦915年に十和田火山が噴火し、毛馬内火砕流が米代川を流下したとしている。また、早川・小山（1998）は、その噴火のクライマックスを西暦915年8月17日としている。

IV. 伊勢堂岱遺跡の立地に関わる段丘地形

(1) 石巻岱面の地形と構成層

伊勢堂岱遺跡が立地する河成段丘は、石巻岱面とよばれている（内藤，1966）。石巻岱面は、標高40～50mで米代川左岸の蟹沢、大野尻、石巻岱に分布する米代川水系の河成段丘である。大野尻の大露頭（第7図3）では、下部は最大礫径20cmの安山岩・流紋岩・泥岩の円礫を主体とした厚さ5m以上の河成礫層である（下限不明）。花崗岩礫が検出されないため、米代川によって形成された河成段丘面と考えられる。礫層上部には厚さ1mの粘土層ないしは泥炭層がみられるが、側方へは薄くなって尖滅する。その上部に3枚の火山灰層が存在する。それらは下位より厚さ4mの小ヶ田石質火山灰層（Ogl）、厚さ4mの高市火砕流堆積物（Tkpf1）、厚さ1mの鳥越火砕流堆積物（Trpf1）である。Oglは石質岩片を多く含む火山灰層で鷹巣盆地でみられる最も古い火砕流堆積物と考えられている（一色ほか，1965）。大野尻の大露頭（第7図3）では上位のTkpf1との境界は波状を呈し明瞭である。しかし、石巻岱付近（第7図4）ではOglとTkpf1の境界は不明瞭であり、蟹沢付近（第7図2）ではOglは消失している。大野尻の露頭では最上部のTrpf1とTkpf1との境界には最大層厚50cmの泥炭層が挟まれている。Tkpf1とTrpf1は塊状・乳白色で多量の軽石に石質岩片を多く含んでいる。両層は層相が類似しており肉眼での識別は困難である。露頭で両層の境界に泥炭層や粘土層などが明瞭に認められる場合に限り、その上下関係などから識別は可能である。しかし、露頭で両層が明瞭な境界をなさない場合や単独でみられる場合は、段丘面との関係、あるいは重鉍物分析をおこなって識別する必要がある。

内藤（1966）は米代川流域の段丘地形を構成する十和田火山起源と思われる火山噴出物、あるいはそれを覆う火山灰の重鉍物分析をおこない、下位より小坂軽石質火山灰層、小ヶ田石質火山灰層、高市軽石質火山灰層、鳥越軽石質火山灰層、申ヶ野軽石質火山灰層、大湯軽石質火山礫層、毛馬内軽石質火山灰層に細分した*⁶。細分の根拠は角閃石の有無や段丘面の上下関係である。角閃石を含まない火山灰層は、Ogl、Tkpf1、大湯軽石質火山礫層、Kmpf1である。角閃石を含む火山灰層は小坂軽石質火山灰層、Trpf1、申ヶ野火山灰層である。以上の火山灰層のうち鷹巣盆地でみられるのはOgl、Tkpf1、Trpf1、Kmpf1であり、問題となる火山灰はOglとTkpf1ならびに両層の関係である。

Oglは鷹巣盆地の米代川流域左岸のみに分布する火山灰層で、層相も他の火山灰層と異なっている。Tkpf1と共通するところは角閃石を含有していないことである。しかし、前述したように大野尻の大露頭（第7図3）ではOglとTkpf1の境界は明瞭であるのに対し、摩当の露頭（第7図4）では両層の境界は不明瞭である*⁷。また、蟹沢山付近の露頭（第7図2）ではOglは消滅してしまう。この事実に関し、花輪盆地の北部ではTkpf1の基底部に存在する軽石混じりで石質岩片の多い層相は、重鉍物組成も上下変わらないことから、Tkpf1の基底相の可能性が指摘されている*⁸。

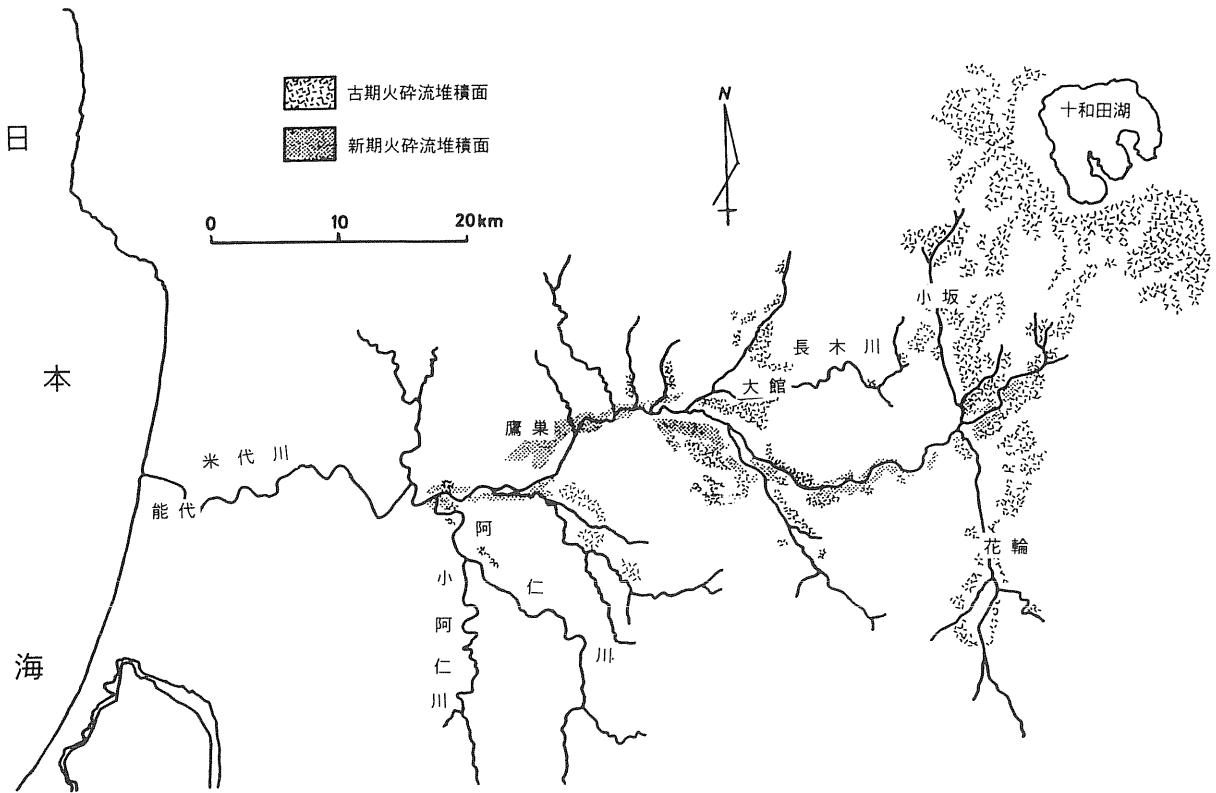
(2) 高市火砕流台地の地形と構成層

高市火砕流台地は、Tkpf1とその二次堆積物（二次シラス、含軽石質段丘堆積物、ラハール）の堆積面である。Tkpf1の初生的堆積物の堆積面を確認できるのは今泉（第7図1）と合川などである。小猿部川流域の七日市から鷹巣中央公園までラハールの堆積面が連続して発達する。七日市の空港アクセス道路上の露頭（第7図7）では基盤の湯車層上に厚さ3mの河成礫層（Nnbt_d）が重なっている。この河成礫層は、Tkpf1が流下する以前の河成段丘堆積物であり、現在はTkpf1に覆われた埋没段丘堆積物と考えられる。この埋没段丘堆積物の堆積面を七日市埋没面と名づける。その上位に下位から順に厚さ3mの乳白色のTkpf1、厚さ2.5mのラハール（Tkpf1₂）、そして最上部に厚さ1mのTrpf1が重なっている。ラハールは、平行ラミナや斜行ラミナの発達した含軽石質段丘礫層である。同様の堆積物は鷹巣中央公園の開析谷沿いの露頭（第7図6）でも観察された。

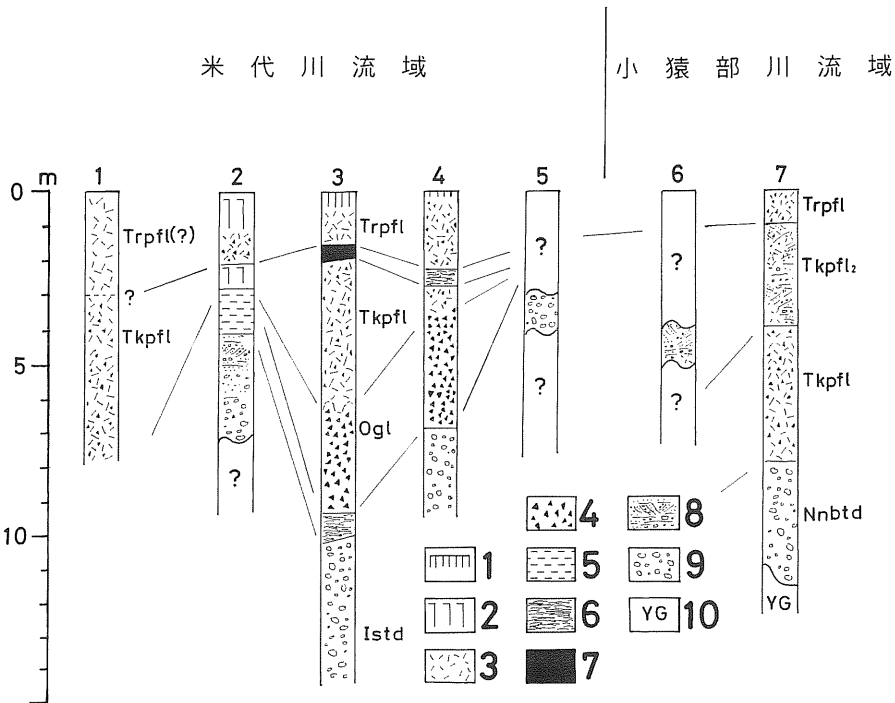
(3) 石巻岱面と高市火砕流台地との関係

以上の記載を基にして石巻岱面と高市火砕流台地との関係を述べる。高市火砕流台地は高市火砕流の初生的堆積物の堆積面とその二次堆積物（二次シラス、火山泥流、ラハール）の堆積面であり、両者の地形境界は不明瞭である。このような火砕流台地の地形特性は、上流の花輪盆地、大館盆地でも確認されている（内藤，1966；1970；栗山，1998）。このような火砕流台地の成因について、横山（1984ab，1985）は、南九州に広く分布する入戸火砕流（22,000年前）で構成される火砕流台地を例にして論じている。それによれば、火砕流は突発的な事変であり、火砕流堆積後は砂漠に類似した状況になる。その結果、砂漠河川類似の豪雨に伴う間欠河川による布状洪水、あるいは類似の水流によって二次シラスの堆積がおこなわれ、その堆積面が形成されたとしている。

鷹巣盆地のラハールの堆積面は、小猿部川流域に限られている。それ以外の地域、米代川流域の今泉、阿仁川流域の合川、川井などは高市火砕流堆積物の初生的堆積面である。小猿部川流域にラハールの堆積面が広く発達するのは、横山（1984ab，1985）の説から推定すると次のようになる。すなわち、Tkpf1（25,000年前）の初生的堆積物は、鷹巣盆地全体を覆い、大野台IV面以下の七日市面を埋没させ、石巻岱面を薄く覆い（?）、その後、数年間は砂漠に類似した環境になったものと考えられ



第6図 米代川流域の火砕流台地（シラス台地）の分布図
 古期火砕流堆積面：小坂・高市・鳥越の各火砕流台地を一括して図示。
 新期火砕流堆積面：毛馬内火砕流台地



第7図 鷹巣盆地の石巻岱面と高市火砕流台地の地質柱状図

1～7はLoc.No. (第4図参照)

- 1. クロボク, 2. クラック帯, 3. 軽石, 4. 石質岩片, 5. シルト, 6. 粘土,
 - 7. 泥炭, 8. ラミナの発達した砂礫層, 9. 礫層, 10. 基盤岩(湯車層)
- Trpfl: 鳥越火砕流堆積物, Tkpf₂: 高市火砕流堆積物の二次堆積物(軽石質段丘堆積物, ラハール), Tkpf₁: 高市火砕流堆積物, Ogl: 小ヶ田石質火山灰, Nnbtd: 七日市埋没面構成層, Istd: 石巻岱面構成層

る。その結果、小猿部川は一種の間欠河川になり、豪雨のたびごとに水分を含んだ泥流を発生させて布状洪水となり、ラハールの堆積面を形成したと考えられる*9。つまり、鷹巣盆地ではラハールの堆積面形成期には小猿部川は下刻作用はおこなわなかったために、火砕流台地が段丘崖を境として二段に区分されることはなかったと考えられる。米代川流域左岸に発達する石巻岱面もTkpfllに覆われ埋没し、石巻岱付近で高市火砕流台地と明瞭な地形境界がみられなくなったと考えられる。したがって、石巻岱面は埋没段丘の可能性を考えざるを得ないのである。また、このことは、大野尻付近の石巻岱面と米代川右岸の今泉に発達するTkpfllの初生的堆積物の堆積面の高度が45 mとほぼ同高度であることから裏づけられる。

V. おわりに

縄文時代後期の伊勢堂岱遺跡の立地する地形（石巻岱面）と高市火砕流台地との関係を論じたが、地形学的に大きな問題が残された。それは、Tkpfllが流下した時、大野台IV面以上の段丘面は原地形を保存していたが、石巻岱面以下の段丘面はTkpfllによって埋没してしまったものと考えられる。したがって、石巻岱面は埋没段丘面ということになるが、この問題に関しては調査を継続して明らかにしていきたいと考えている。

なお、伊勢堂岱遺跡が立地していた当時、毛馬内火砕流台地はまだ形成されておらず、縄文人は鷹巣盆地の中心のKmpflに埋没される以前の地形景観を眺めながら生活をしていたのであろう。

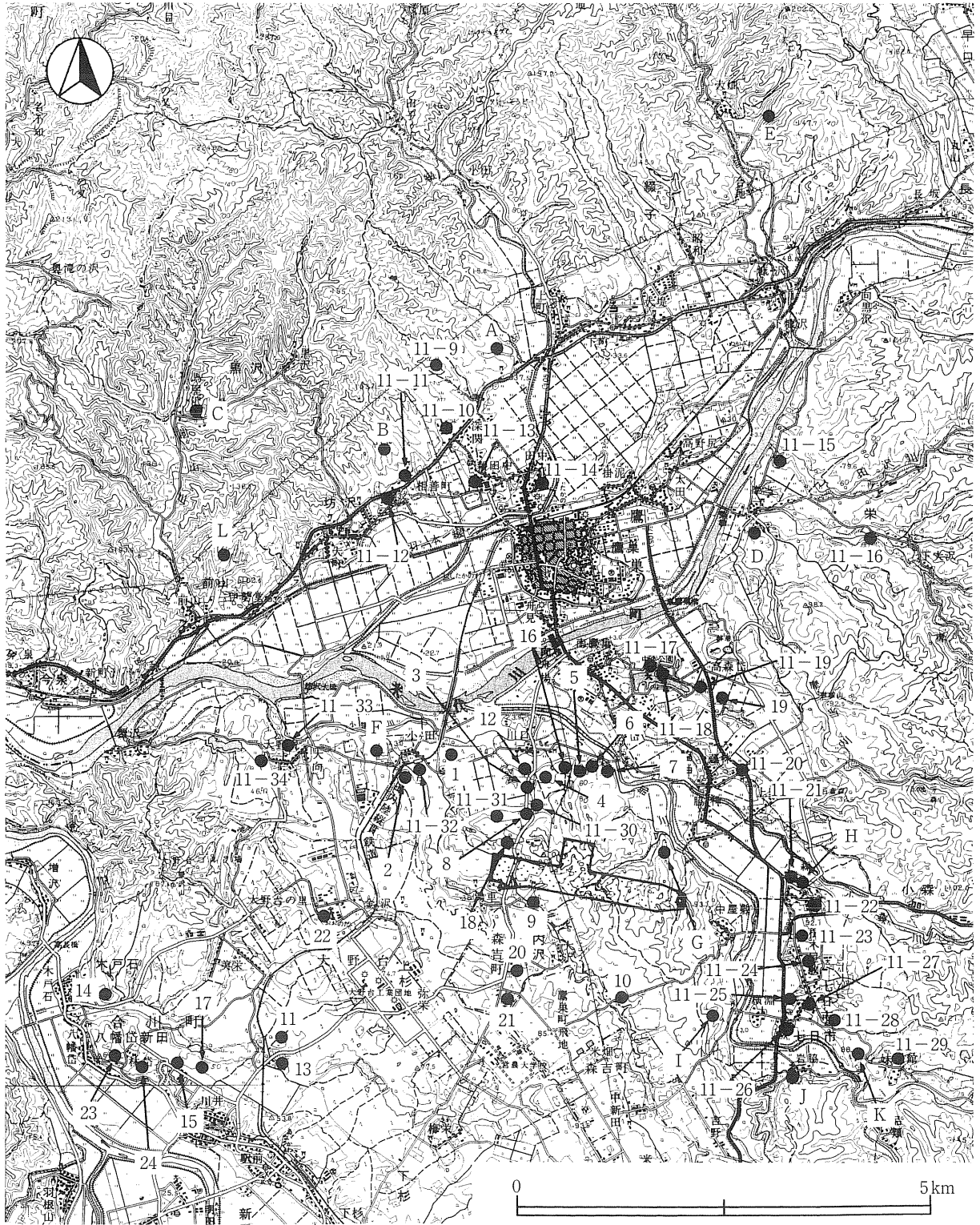
注 釈

- *1 内藤（1966）によれば、岩瀬面（高市火砕流の二次堆積物の堆積面）、高市火砕流の初生的堆積物の堆積面を合川面としている。
- *2 高市火砕流堆積物中の炭化木の¹⁴C年代は、25,700 ± 900 y. B. P. (GaK-549) という値が得られている。また、高市火砕流の下位の草炭の¹⁴C年代は、28,300 ± 1,500 y. B. P. (GaK-551) という値が得られている（一色ほか、1965）。
- *3 風化火山灰：風化火山灰質細粒土は、特定火山の噴火活動とは直接的に関連しない物質を主体とする可能性がきわめて高いと指摘している（大月、1998）。
- *4 最近、町田・新井（1992）は、Toyaの降下年代を10万～12万年前と訂正している。
- *5 内藤（1966）によれば、毛馬内面（毛馬内火砕流の二次堆積物の堆積面）、毛馬内火砕流の初生的堆積物の堆積面を川口面としている。
- *6 小ヶ田石質火山灰層、高市軽石質火山灰層、鳥越軽石質火山灰層、毛馬内軽石質火山灰層は筆者のOgl、Tkpfll、Trpfl、Kmpflに相当する。
- *7 内藤（1966）は、石巻岱の露頭でOglとTkpfllの間に泥炭層を確認している。
- *8 藤本幸雄氏の談
- *9 町田・白尾（1998）は、これに類似したラハールを1991年のフィリピン・ピナツボ火山の噴火後の際に確認している。


文 献

- 秋田県埋蔵文化財センター 「伊勢堂岱遺跡」『平成8年度秋田県埋蔵文化財発掘調査報告会資料』20-21 1997（平成9）年
- 阿部泰久 「森吉火山列、太良駒ヶ岳火山の地質—田代岳火山の地質と比較して—」『日本地質学会東北支部会報 第21号』5-7 1991（平成3）年
- 一色直記・小野晃司・平山次郎・太田良平 「放射性炭素¹⁴Cによる年代測定」『地質ニュース 第133号』20-27 1965（昭和40）年
- 岩越宏典 『伊勢堂岱遺跡—詳細分布調査報告書（1）—』44p 鷹巣町教育委員会 1998（平成10）年
- 臼田雅郎・岡本金一・高安泰助・藤本幸雄 『5万分の1秋田県総合地質図幅「大葛」同説明書』61p 1984（昭和59）年
- 大月義徳 「秋田県鷹巣盆地における中部更新統盆地埋積層と高位段丘」『地学雑誌 第100巻』1077-1091 1991（平成3）年

- 大月義徳 「風成火山灰質細粒土の堆積速度算定に関する圧密沈下特性の影響評価—秋田県米代川流域を例として—(演旨)」『季刊地理学 第50巻』81—82 1998(平成9)年
- 大沢 穠・池辺 穰・平山次郎・栗田泰夫・高安泰助 『能代地域の地質. 地域地質研究報告(5万分の1図幅)』地質調査所 91p 1984(昭和59)年
- 大沢 穠・須田芳朗 『20万分の1図幅地質図「弘前および深浦」』地質調査書 1978(昭和53)年
- 大沢 穠・須田芳朗 『20万分の1図幅地質図「秋田及び男鹿」』地質調査書 1980(昭和55)年
- 大沢 穠・加納 博・丸山孝彦・土谷信之・伊藤雅之・平山次郎・品田正一 『太平山地域の地質. 地域地質研究報告(5万分の1図幅)』地質調査所 69p 1981(昭和56)年
- 栗山知士 「自然地理学の立場からみた秋田県の景観, その1. 段丘地形」『秋田県立能代工業高等学校研修集録 第11号』66—75 1998(平成10)年
- 斎藤正次・大沢 穠 『5万分の1図幅「阿仁合」同説明書』39p(地質調査所) 1956(昭和31)年
- 白井哲之 「米代川流域における含浮石質段丘礫層に関する地形学的研究」『地理学評論 第39巻』802—819 1966(昭和41)年
- 白石建雄・工藤英美・秋田第四紀研究グループ 「秋田県北部日本海沿岸地帯の段丘群」『秋田大学教育学部研究紀要(自然科学) 第27集』86—96 1977(昭和52)年
- 角 清愛・大沢 穠・平山次郎 『5万分の1地質図幅「太良鉾山」及び説明書』地質調査所 51p 1962(昭和37)年
- 角 清愛・盛谷智之 『米内沢地域の地質. 地域地質研究報告(5万分の1図幅)』地質調査所 46p 1973(昭和48)年
- SUZUKI, T., TOKUNAGA, E., NODA, H., and ARAKAWA, H. 'Effects of Rock Strength and Permeability on Hill Morphology' "Transactions, Japanese Geomorphological Union Vol 6" 101—130 1985
- 宝田晋治 「岩屑流の流動・堆積機構—田代岳火山起源の岩瀬川岩屑流の研究—」『火山 第36巻』11—23 1991(平成3)年
- 東北地方第四紀研究グループ 「東北地方内陸盆地の発達に関する問題点」『地質学論集 第14号』11—15 1977(昭和52)年
- 豊島正幸 「米代川支流、小猿部川における最終氷期後半以降の河成段丘形成」『地理学評論 第60巻A』40—51 1987(昭和62)年
- 内藤博夫 「秋田県鷹巣盆地の地形発達史」『地理学評論 第36巻』655—668 1963(昭和38)年
- 内藤博夫 「秋田県米代川流域の第四紀火山砕屑物と段丘地形」『地理学評論 第39巻』463—484 1966(昭和41)年
- 内藤博夫 「秋田県花輪盆地および大館盆地の地形発達史」『地理学評論 第43巻』594—606 1970(昭和45)年
- 内藤博夫 「秋田県能代平野の段丘地形」『第四紀研究 第16巻』57—70 1977(昭和52)年
- 日本海中部地震(1983年)秋田大学地質調査班 「秋田臨海平野の形成史」『地質学論集 第27号』213—235 1986(昭和61)年
- HAYAKAWA, Y., 'Pyroclastic Geology of Towada Volcano' "Bulletin of the Earthquake Research Institute University of Tokyo vol.60" 507—592 1985
- 早川由紀夫・小山真人 「日本海をはさんで10世紀に相次いで起こった二つの大噴火の月日—十和田湖と白頭山—」『火山 第43巻』403—407 1998(平成10)年
- 平山次郎・角 清愛 『5万分の1地質図幅「鷹巣」及び説明書』地質調査所 61p 1963(昭和38)年
- 平山次郎・市川賢一 「1000年前のシラス洪水—発掘された十和田湖伝説—」『地質ニュース 第140号』10—28 1966(昭和41)年
- 藤原健蔵 「米代川流域の河岸段丘と十和田火山噴出物との関係」『東北地理 第12巻』33—40 1960(昭和35)
- 町田 洋・新井房夫・森脇 広 「日本海を渡ってきたテフラ」『科学 第51巻』562—569 1981(昭和56)年
- 町田 洋・新井房夫・宮内崇裕・奥村晃司 「北日本を広くおおう洞爺火山灰」『第四紀研究 第26巻』129—146 1987(昭和62)年
- 町田 洋・新井房夫 『火山灰アトラス [日本列島とその周辺]』276p 東京大学出版会 1992(平成4)年
- 町田 洋・白尾元理 「十和田カルデラと八甲田カルデラ—マグマ水蒸気噴火の産物—」町田 洋・白尾元理 著『写真でみる火山の自然史』73—86 東京大学出版会 1998(平成10)年
- 横山勝三 「シラス地域の河成段丘と二次シラス層(要旨)」『火山 第2集 第29巻』150—151 1984a(昭和59)年
- 横山勝三 「シラス地域の河成段丘(予報)(要旨)」『地形 第5巻』354 1984b(昭和59)年
- 横山勝三 「大規模火砕流堆積物の地形—その特性と問題点—」『地形 第6巻』131—152 1985(昭和60)年



第8図 伊勢堂岱遺跡と周辺遺跡位置図

 大館能代空港

第2節 歴史的環境

伊勢堂岱遺跡が所在する鷹巣町には、縄文時代から近世にかけての遺跡が多数確認されており、米代川とこれに合流する諸河川などによって形成された河岸段丘や、丘陵地に多く分布している。これらの遺跡は昭和51（1976）年に発行した『秋田県遺跡地図』と、昭和56（1981）年発行の『秋田県の中世城館』、平成3（1991）年発行の『秋田県遺跡地図（県北版）』に記載された外、後に新たに発見された遺跡もある。

平成4年度に大館能代空港及びアクセス道路建設予定地を中心に、鷹巣町・森吉町・合川町区域の大野台地域約5,300ヘクタールを対象に、県教委および大館市・能代市・鷹巣町・森吉町・二ツ井町・合川町の教育委員会が合同で遺跡詳細分布調査を実施した。この調査では、まず踏査により遺跡所在の有無の確認を行い、その後、地権者の同意が得られた箇所において試掘調査を実施した。

調査の結果、調査対象区域内において新たに15遺跡が所在することを確認した（その後2遺跡が確認され、合計17遺跡となった）。

第8図には従来確認されていた周知の遺跡の外に、この調査で確認された遺跡も書き入れ、また各一覧表には遺跡の内容についての調査担当者による記載を転載した。なお、この区域では、1976年発行の『秋田県遺跡地図』（以下、旧分布図と記す）と、1991年発行の『秋田県遺跡地図（県北版）』（同、新分布図）の記載に相違があることを認めざるを得ない。今回はそれら記載内容の正誤の検証を十分できなかったため、新分布図には収載されていないが旧分布図に収載されていた遺跡も図上に示し、表中にその旨を記した。本来遺跡分布図は埋蔵文化財保護のための基本台帳とも言うべきものであり、その記載に誤り等があってはならず、早急な是正を要するものである。今後その分布調査の精度を高めながら、正確・最新の埋蔵文化財情報として提供していく必要があることは言うまでもない。

当該区域における縄文時代の遺跡は、本遺跡の東約4kmに藤株遺跡(11-20)がある。昭和56年に国道105号バイパス建設に伴い発掘調査が行われ、主に縄文時代晩期の竪穴住居跡や土壇墓・火葬墓などを検出した。

続縄文・弥生時代の土器片の発見はあるが、続縄文・弥生時代から古墳時代にかけての遺跡は確認されていない。

奈良・平安時代になると本遺跡の外、平成8年に発掘調査が行われた法泉坊沢Ⅱ遺跡(6)（本遺跡から東約2.3km）、胡桃館遺跡(11-13)（本遺跡から北約3.7km）がある。胡桃館遺跡は昭和41年から3ヶ年にわたって県教育委員会が発掘調査を実施し、板校倉造建物跡など4棟と掘立柱列（柵）等を検出した。これらの建物跡は、1,000年前のシラス洪水により埋没し、そのシラス層中に当時の構造を残したままの状態で見出されたことから、建築学的にも貴重な遺跡として注目された。また小ヶ田(11-32)でも、1817（文化14）年にシラスに埋もれた建物を検出したとの伝承記録がある。本遺跡の東約3.2kmに位置する脇神館跡（G）は本遺跡と同様、空港アクセス道路建設のため平成8年度に調査が行われた古代末～中世の遺跡である。

鷹巣町内では、これまで須恵器や土師器の出土した遺跡が大畑神社遺跡・上台遺跡・深関太平山遺跡(11-9)・深関沢遺跡(11-10)・田中遺跡(11-14)・根木屋敷岱Ⅰ遺跡(11-23)の7ヶ所が確認されてい

だが、本格的な発掘調査が実施されず不明な点も多かった。先の詳細分布調査では、法泉坊沢Ⅰ遺跡(7)、からむし岱Ⅲ遺跡(4)、からむし岱Ⅳ遺跡(16)、からむし岱Ⅴ遺跡(4)など脇神地区での古代の遺跡が多く見つかった。

平成8年度に実施した法泉坊沢Ⅱ遺跡の調査では鍛冶炉を検出している。地元では同遺跡の西側の大きな沢を「金掘り沢(かねほりさわ)」と呼んでおり、かね=鉄とすれば原料鉄の採掘場所である可能性もあり、鉄生産について注目すべき遺跡である。

中世になると、米代川右岸には二本杉館・綴子館(A)・坊沢高館(B)・務沢館(C)・大畑下館(E)・前山館(L)が、左岸には館平館(D)・小勝田館(F)・小森館(H)・横淵館(I)・妹尾館(K)・岩脇館(J)・明利又館・槐岱道上館(1)が構築されている。

『秋田県遺跡地図(県北版)』(新分布図) 収載の周知の遺跡

番号	遺跡名	所在地	時代	備考
11-9	深閑大平山	鷹巣町坊沢字深閑沢 122-4	平安	
11-10	深閑沢	鷹巣町坊沢字深閑沢 25-55	平安	
11-11	鱒口	鷹巣町鱒口岱 16-5	続縄文	
11-12	相善	鷹巣町坊沢字相善岱 33-2	縄文	
11-13	胡桃館	鷹巣町字胡桃館 79	平安	県教委による3次の発掘調査で建物跡など検出。学校用地
11-14	田中	鷹巣町字坊沢田中 47	平安	
11-15	碓岱	鷹巣町摩当碓岱 256	縄文	
11-16	岩坂	鷹巣町摩当字岩坂 102	縄文	
11-17	石の巻岱Ⅰ	鷹巣町脇神字石の巻岱 60	縄文晩期	別称陣場岱 遺物包含地 公園
11-18	石の巻岱Ⅱ	鷹巣町脇神字石の巻岱 65	縄文後期	別称陣場岱 遺物包含地 公園
11-19	高森岱	鷹巣町脇神字高森岱 16	縄文前～晩期	遺物包含地 大型遮光器土偶が出土している。水田
11-20	藤株	鷹巣町脇神字藤株塚の岱 43-4	縄文前・後～晩期	縄文集落。学史上も著名な遺跡。バイパス建設に伴う発掘調査が行われているほか、町教委の範囲確認調査も行われている。道路・畑・水田
11-21	タモノ木	鷹巣町小森字タモノ木 17	縄文	
11-22	小森	鷹巣町小森字小森 88-1	縄文	
11-23	根木屋敷岱Ⅰ	鷹巣町七日市根木屋敷岱 20	平安	
11-24	根木屋敷岱Ⅱ	鷹巣町七日市字根木屋敷岱 61	縄文	
11-25	山の上	鷹巣町七日市字山の上 57	縄文	
11-26	囲の内	鷹巣町七日市字囲の内 80	縄文	環状列石
11-27	石倉岱	鷹巣町七日市字石倉岱 3-1	縄文	
11-28	伊勢堂岱	鷹巣町七日市字伊勢堂岱 8-4	縄文	本報告の伊勢堂岱遺跡とは別遺跡
11-29	野尻	鷹巣町七日市字野尻 8-2	縄文	
11-30	からむし岱Ⅰ	鷹巣町脇神字からむし岱 21	続縄文	遺物包含地。水田
11-31	からむし岱Ⅱ	鷹巣町脇神字からむし岱 93	続縄文	遺物包含地 牧草地
11-32	小ヶ田	鷹巣町脇神字小ヶ田伊勢堂岱 8-4	縄文後期	旧分布図では別地点を表示。遺物包含地 林・水田
11-33	観音堂岱	鷹巣町坊沢字観音堂岱 6-23	縄文中・後期	分布調査によって、広大な広がりを確認。米代川の河岸段丘上に立地する広大な縄文集落。山林・畑地
11-34	堀切石	鷹巣町大野尻堀切石 6	縄文中期	遺物包含地。墓地

『秋田県の中世城館』 収載の城館

番号	遺跡名	所在地	時代	備考
A	綴子館	鷹巣町綴子	中世	空堀2条。連郭式館跡。館主についての伝承あり。山林
B	坊沢高館	鷹巣町坊沢字高館	中世	空堀2条。連郭式館跡。館主についての伝承あり。製鉄関連の施設があるか。山林
C	務沢館	鷹巣町黒沢字務沢館	中世	平坦面3段

番号	遺跡名	所在地	時代	備考
D	館平館	鷹巣町栄字館	中世	単郭式館跡。館主についての伝承あり。山林
E	大畑下館	鷹巣町綴子字下館ヶ沢	中世	単郭式館跡
F	小勝田館	鷹巣町脇神字館野	中世	館跡。別称館野館。河岸段丘上の一面に位置し、台地上を空堀で区画し、東側に幅広の腰郭を有す。館主についての伝承あり。山林・畑地
G	脇神館	鷹巣町脇神字タタラノ沢31外	古代・中世	連郭式館跡。館主についての伝承あり。平成8年度に県教委が発掘調査を実施。山林
H	小森館	鷹巣町小森字小森	中世	
I	横淵館	鷹巣町七日市字古館	中世	連郭式館跡。館主についての伝承あり。山林
J	岩脇館	鷹巣町七日市字岩坂の上	中世	連郭式館跡。館主についての伝承あり。山林
K	妹尾館	鷹巣町七日市字長根沢	中世	平坦面3段。館主についての伝承あり。山林
L	前山館	鷹巣町前山字萩の岱	中世	連郭式館跡。館主についての伝承あり。山林

遺跡詳細分布調査で新発見の遺跡

番号	遺跡名	所在地	時代	備考
1	槐岱道上館	鷹巣町	中世	館跡。台地上を幅約5～6mの空堀で区画。山林・畑地
2	伊勢堂岱	鷹巣町脇神字伊勢堂岱5-1外	縄文後期・古代	本報告に係る伊勢堂岱遺跡。米代川支流にのぞむ舌上台地突端に立地。平成7・8年度に県教委が発掘調査を実施。環状列石等の発見により保存決定。山林
3	川口	鷹巣町	縄文後期	旧分布図には川口Ⅱ(12)との間が続縄文の遺物包含地とされている。原野・畑
4	からむし岱Ⅲ	鷹巣町脇神字からむし岱	古代	台地東端の広大な範囲を占める。古代の比較的大規模な集落。山林・原野
5	からむし岱Ⅳ	鷹巣町脇神字からむし岱	古代	集落跡。平成8年度に県教委が工事立ち会いで土坑と土器片を確認。山林
6	法泉坊沢Ⅱ	鷹巣町脇神字法泉坊沢49外	古代	小猿部川に面した舌上台地に立地し、鉄滓が多量に出土しており、製鉄鍛冶等の生産遺跡の可能性が。山林
7	法泉坊沢Ⅰ	鷹巣町脇神字法泉坊沢	古代	法泉坊沢Ⅱと沢を隔てて同一台地上に立地。平安時代の集落跡。試掘により竪穴遺構検出。山林原野
8	湯車Ⅰ	鷹巣町	続縄文	旧分布図では湯車。遺物包含地。分布調査時に場所の特定できず。畑地
9	五右エ門屋敷下	鷹巣町	縄文中期	湯車川に面する河岸段丘上に立地する。縄文時代の小集落。山林原野
10	大野台下	鷹巣町	縄文	遺物包含地。山林
11	羽立岱	鷹巣町	縄文中期	舌状台地縁辺部に立地。縄文集落。畑地・原野
12	川口Ⅱ	鷹巣町	縄文	台地縁辺部に立地。過去の耕作や整地の際に土器が多く出土。試掘調査で石皿断片出土。山林・原野
13	中谷地	鷹巣町	縄文後～晩期	遺物包含地。畑地
14	上ノ山	鷹巣町	縄文中・後期	阿仁川に張り出した台地先端部に立地。遺物包含地。雑木林
15	林岱	鷹巣町	縄文後期	大谷地遺跡と同一台地上にあり、小沢を挟んで隣接する。遺物包含地。山林
16	からむし岱Ⅴ	鷹巣町	縄文後期・古代	からむし岱Ⅲと沢を隔てた一連の台地上に立地。縄文・古代の集落跡。試掘により古代の竪穴住居跡を検出。山林・原野
17	大谷地	鷹巣町	縄文中期	縄文集落。遺跡の西側は宅地化されている。山林

『秋田県遺跡地図』（旧分布図）に記載されていたが、『秋田県遺跡地図（県北版）』に記載されなかった周知の遺跡

番号	遺跡名	所在地	時代	備考
18	湯車Ⅱ	鷹巣町	縄文後期	旧分布図の地点。遺物包含地。分布調査で場所の特定できず。畑地
19	高森岱Ⅱ	鷹巣町	縄文	旧分布図の地点。平成8年度に町教委で分布調査実施。水田
20	大沢岱A	森吉町	縄文後期	遺物包含地。畑地
21	大沢岱B	森吉町	縄文後期	遺物包含地。畑地

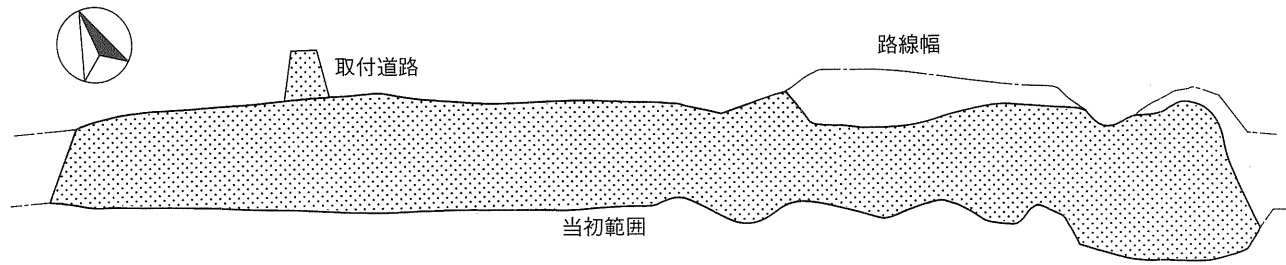
22	金沢	森吉町	縄文後期	遺物包含地。畑地
23	伊豆館	合川町	縄文	遺物包含地。山林
24	林台	合川町	縄文後期	遺物包含地。原野

註

- 1 地図および一覧に付した番号のうち、11-28 などのような番号は、『秋田県遺跡地図（県北版）』に記載されている遺跡の市町村登録番号である。11 は鷹巣町を示す。
- 2 A～Lは、『秋田県の中世城館』には記載されているが、『秋田県遺跡地図（県北版）』に未掲載のため、遺跡の登録番号がない。このため、中世城跡は便宜的にアルファベットで記載した。
- 3 1～17は、大館能代空港建設事業関連遺跡詳細分布調査で新たに発見された遺跡である。未公表だったため、便宜的に同調査の遺跡番号をそのまま記載した。
- 4 『秋田県遺跡地図』には記載されていたが、『秋田県遺跡地図（県北版）』に記載されなかった遺跡には市町村登録番号がない。そのため、18 から 24 までの仮番号で表示した。
- 5 『秋田県遺跡地図（県北版）』記載の [11-28 伊勢堂岱遺跡（鷹巣町七日市）] と、遺跡詳細分布調査で新たに発見した [2 伊勢堂岱遺跡（鷹巣町脇神）] が同名の「伊勢堂岱遺跡」であるが、本報告の記載対象となっているのは、平成7・8年度に発掘調査を実施し、平成8年11月に保存決定された [2 伊勢堂岱遺跡（鷹巣町脇神）] である。同一行政区域内に2つの「伊勢堂岱遺跡」が存在し、環状列石の保存問題が起きた際に混乱を招くとして「脇神伊勢堂岱遺跡」と字名を付して報道されたこともあったが、どちらも「伊勢堂岱遺跡」として現在に至っている。遺跡発見に伴う事務手続きの瑕疵によると思われる。

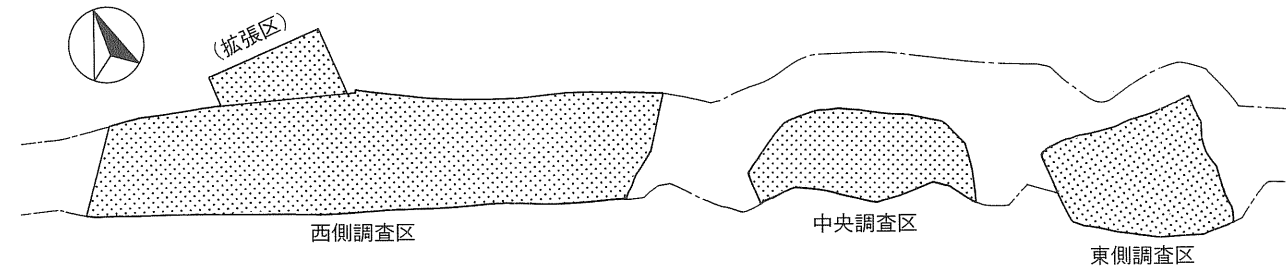
引用・参考文献

- 平山次郎・市川賢一「1000年前のシラス洪水」『地質ニュース』140 1966（昭和41）年
- 秋田県教育委員会『胡桃館埋没建物発掘調査概報』秋田県文化財調査報告書第14集 1968（昭和43）年
- 秋田県教育委員会『秋田県遺跡地図』1976（昭和51）年
- 秋田県教育委員会『秋田県の中世城館』秋田県文化財調査報告書第85集 1981（昭和56）年
- 秋田県『土地分類基本調査 鷹巣』1985（昭和61）年
- 秋田県教育委員会『秋田県遺跡地図（県北版）』1991（平成3）年
- 秋田県教育委員会『遺跡詳細分布調査報告書』秋田県文化財調査報告書第270集 1997（平成9）年
- 秋田県教育委員会『法泉坊沢Ⅱ遺跡－地方特定道路整備工事鷹巣町湯車工区に係る埋蔵文化財発掘調査報告書－』秋田県文化財調査報告書第278集 1998（平成10）年
- 鷹巣町教育委員会『藤株遺跡 発掘調査報告書』1990（平成2）年
- ※（本書は発掘調査報告書という書名になっているが、詳細分布調査の報告書である。）
- 鷹巣町史編さん委員会『鷹巣町史』第一巻 1992（平成4）年
- 秋田県教育委員会『脇神館跡－県道木戸石鷹巣線建設事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅰ－』秋田県文化財調査報告書第284集 1999（平成11）年



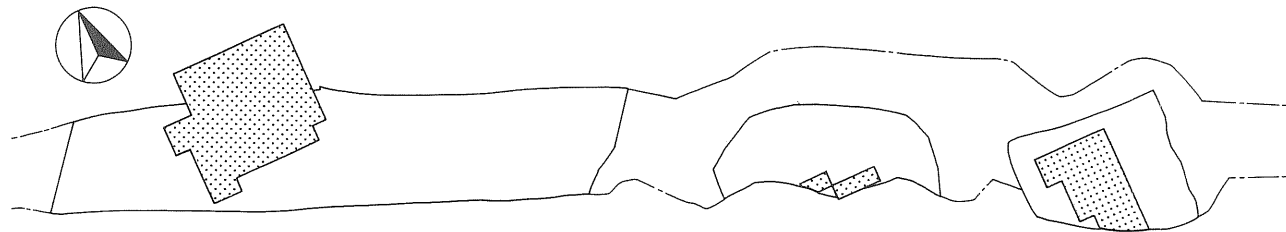
調査対象範囲

当初範囲	9,700㎡
取付道路	117㎡
合計	9,817㎡



調査着手範囲

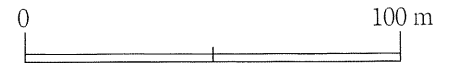
東側調査区	1,280㎡
中央調査区	1,120㎡
西側調査区	4,647㎡
(拡張区330㎡を含む)	
合計	7,047㎡



調査未了範囲

東側調査区	450㎡
中央調査区	80㎡
西側調査区	1,152㎡
合計	1,682㎡
(調査終了面積)	5,365㎡

第9図 伊勢堂岱遺跡 調査関連範囲図



第3章 発掘調査の概要

第1節 調査の概観（第9図・付図1～3）

調査区は大きな段丘の先端部を横断しており、2つの沢により開析された、3つの小舌状部により構成される。これら小舌状部を便宜上、東側調査区・中央調査区・西側調査区と呼称する。

本遺跡は2ヶ年にわたり調査を実施した。1年目は西側調査区、2年目は東側調査区・中央調査区および西側調査区の継続調査部分（環状列石A周辺部）の調査を実施した。

東側調査区は上部の平坦面から縄文時代後期前葉の土壇墓・貯蔵穴などの遺構および近現代と思われる炭窯を、また斜面上部より時期不明の環壕を検出した。平坦部の地山直上では縄文時代早期の土器片も出土した。付近では1グリッド（4×4 m）から複数個のトランシェ様石器を出土する地点もあり、調査区に隣接する林内に、縄文時代早期の遺構が存在する可能性もある。調査区の斜面東側は湯車川によって侵食された段丘崖、斜面西側は戦時中の亜炭採掘坑により大きく掘り崩された様相を呈している。

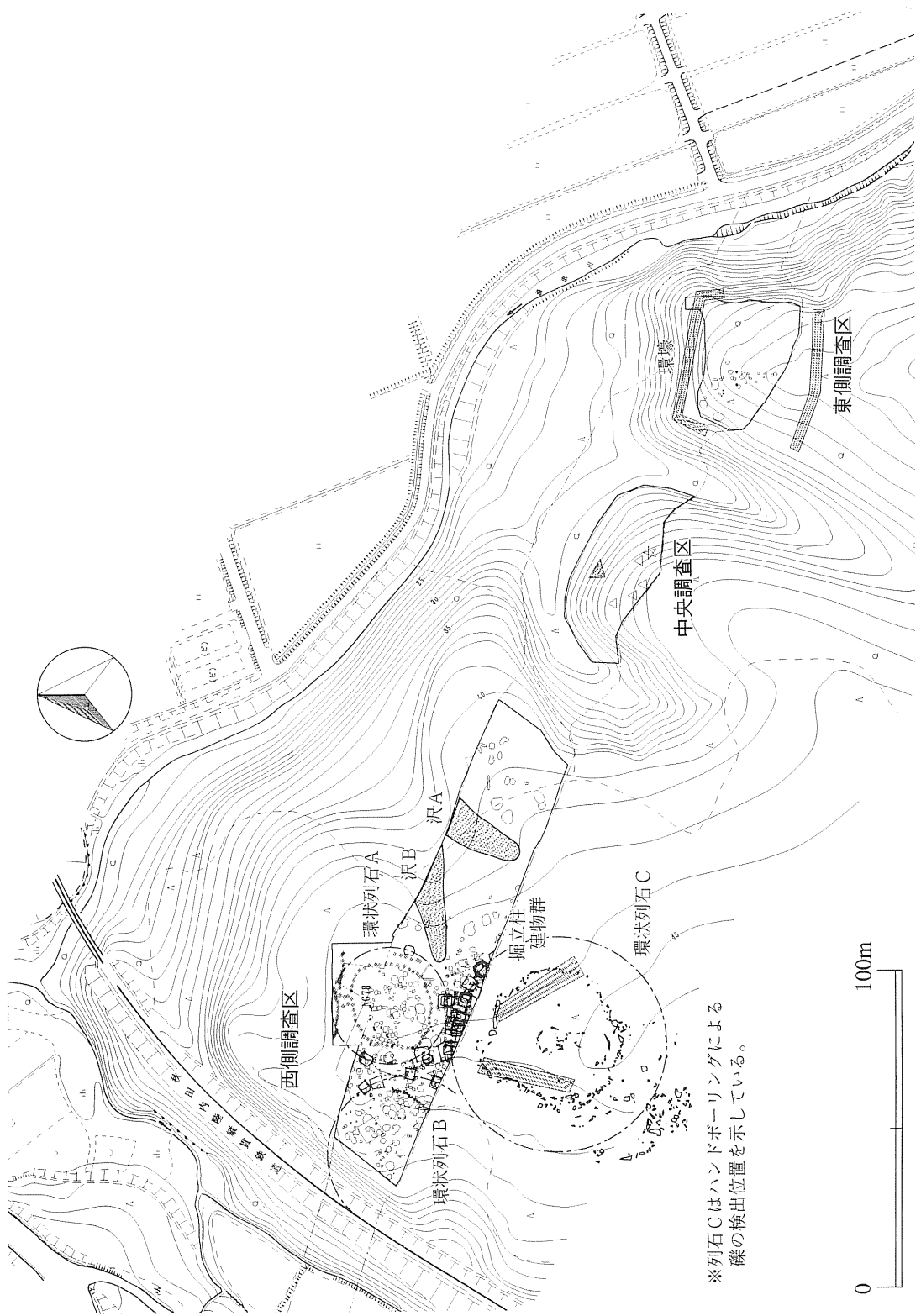
中央調査区のほとんどは急な斜面部にかかっているが、斜面の肩部に縄文時代中期末～後期前葉と思われる配石（墓）・配石遺構・陥し穴状土坑等を検出した。

西側調査区では、1年目の調査で縄文時代後期前葉の環状列石1基（環状列石A）を確認していたが、細部の調査は2年目に持ち越していた。また環状列石Aの北辺の一部が調査区外にかかるため、2年目にはその部分を拡張し、全容把握にも努めた。この環状列石Aは構築にあたって配石列の内側を削平しており、その削土が列石の外側に捨てられていることを確認していた。この際、後にボーリング調査で確認した環状列石Cと同心円状外側を巡る掘立柱建物跡群の柱穴を埋めており、環状列石C→環状列石Aという新旧関係もあわせて確認した。

1年目の調査では、環状列石Aの西側に15 m程の弧状を呈する配石遺構（環状列石B）も1基検出していた。この配石列の延長線上では後世の攪乱・抜き取り痕跡等は確認できなかったため、当初から弧状を呈していたものと考えられる。この列石Bの同心円状外側の掘立柱建物跡群の柱穴も一部が地山ローム様の土によって埋没しており、環状列石B→環状列石Aという新旧関係も想定し得る可能性がある。また環状列石Aにおいても周囲を巡る建物跡群を検出しており、環状列石と建物群の環状空間構成の推移について興味深い事実（環状の空間把握・遺構配置→円環の配石列・環状列石）を提示している。

第2節 調査と整理の方法

発掘調査はグリッド法を採用した。調査区の設定方法は、調査区内の任意の1点（国家座標X系：X = 22300.000, Y = -41000.000）を選定し、これを原点（MA 50）とした。この原点から座標北方向に基準線を設定し、この基準線に直交する4 m×4 mのグリッドを設定した。また数ヶ所の杭を水準測量して水準原点とした。グリッド杭には東から西に向かって東西方向を示す…L S・L T・M



第 10 図 伊勢堂岱遺跡 地形概念図

A・MB・MC…というアルファベットと、南から北に向かって南北方向を示す…4 8・4 9・5 0・5 1・5 2…の2桁の数字を組み合わせた記号を記入し、4 m×4 mの方眼杭の南東端をグリッドの名称とした。

遺構は確認した順に番号を割り当て、精査の結果、遺構でない判断された場合はその番号を欠番扱いとした。遺構プランは埋土堆積状態観察・実測用ベルトを設定して掘り下げ、土層断面の分層時に野帳に堆積状態をスケッチして土色・土性等を記入した。

柱穴様の小ピットの多くについては、他の遺構とは別にピット番号を付し、精査の結果遺構ではない判断した場合にはその番号を欠番扱いとした。小ピットはプラン確認面での土色と土性等を柱穴台帳に記載し、半截あるいは全掘した。小径の遺構・柱穴と小ピットについては、整理作業を進めながら一括して再検討した。

遺物は、グリッド・出土層位・出土年月日を記入したラベルとともに取り上げた。沢などに集中出土した遺物は平面図に記載あるいは座標の測定を行った。遺物の記載は、遺物集中部分ではメジャーおよび自動レベルを使用して人手で行い、部分的にはトータルステーションによる光波測距によった。

調査の記録は平面図・断面図および写真によった。平面図・断面図は縮尺1/20を原則としたが、微細な遺構図面を必要とする際には1/10で記録した。環状列石部分等、広範囲を測図する場合には空中写真による測量図化で対応した。

写真撮影は35mmおよびブローニー判(60×45mm)のモノクロおよびリバーサルフィルムを使用した。

室内における整理では、遺構は現場図面を検討して第2原図を作成し、トレースして挿図を作成した。遺物は洗浄・註記の後に接合および実測図の作成、写真撮影を行った。

第3節 発掘調査の経過

現地での発掘調査は、平成7年5月10日～11月29日、および平成8年4月10日～12月12日まで実施した。

平成7年の6月には、環状列石AおよびB(弧状列石)の存在が確認されたが、同年度中に示された調査方針は環状列石の「移設」であった。そのため環状列石Bについては、精査の後、礫を取り上げて調査が進められた。平成8年度の調査は環状列石Aの「移設」を既定方針として調査が再開されたが、調査の進捗にあわせ、環状列石のみならず周辺遺構群との関連・祭祀の変遷等についての積極的な事実が相次いで見付き、平成8年11月18日に秋田県当局が本遺跡の現地保存を決定した。発掘調査現場では同日から遺構の埋め戻し保護に係る作業を開始した。そのため東側調査区西半部・中央調査区南辺部(斜面肩部)・西側調査区中央部(環状列石A周辺部)については、調査未了のまま埋め戻している(第9図)。

平成7年度の経過

平成7年	作業状況	特記事項
5月2週	機材搬入・バルコン配置	10) 作業開始するも武藤水疱瘡で倒れる
3週	範確時の排土除去	17) 富樫所長・桜田補佐視察, 19) 北秋田地方部長一行来跡

平成7年	作業状況	特記事項
4週	範確時の排土除去および粗掘	23) 武藤復活
6月1週	粗掘・基本層位確認	29) 北秋田土木事務所、町教委・文化財審議委員来跡、2) 富樫所長視察
2週	粗掘・基本層位確認	6) 町教委来跡
3週	組石および小礫群検出	12) 文化課熊谷氏来跡(取付道路分117㎡追加の件)、14) 佐藤・須田来跡
4週	列石Bのほとんどと列石Aの4割を確認し、列石Aについて環状になる可能性を指摘	19) 五十嵐池内へ出向、本田と交替、23) 富樫所長、國學院大學小林達雄教授・助手・留学生を伴ない視察、引き続き池内遺跡を訪れ「環状列石2つあった」と五十嵐に説明
5週	列石Bが単独の弧状列石であることを確認し、列石Aの6割およびS Q 10(径4mの環状配石遺構)の半分を確認	30) 町教委来跡
7月2週	包含層掘り下げ	
3週	列石Aに小牧野型組石があることを確認	10) 高橋忠・藤澤・利部・伊藤来跡、武藤も合流して大館整理室へ、11) 磯村来跡、14) 藤肥来跡
4週	列石Aが環状に巡ることを確認し、外側にもう一列巡る可能性を指摘	18) 桜田補佐・小林来跡、19) 県土木部来跡
5週	週報に別添した文書で、①環状列石の保存、②今後の工程の見直し、を要望	24) 五十嵐復帰、25) 県文書広報課に写真提供、26) 文化課嶋田補佐・熊谷氏来跡し「移設の方向で考えている」と話す、27) 大館市教委板橋氏来跡、28) 庄内補佐視察し現況を把握、29) 青森市教委遠藤氏ほか来跡、富樫所長も同席、魁取材
8月1週	遺構精査・包含層掘り下げ	7/31) 科長会議で移設方針決定?、2) 文化課熊谷氏に現場図面を送付
2週	大雨で現場への進入路決壊	
3週	遺構精査・包含層掘り下げ	16) 青森市教委より平面図使用についての要請(センターへ連絡)、17) 空港対策室一行来跡
4週	遺構精査・包含層掘り下げ	22) ヘリ取材?(連絡なし)、24) 鹿角市教委秋元氏来跡
9月1週	遺構精査・包含層掘り下げ、沢プラン確認	
2週	遺構精査・包含層掘り下げ、沢プラン確認	8) 土木部・空港道路課現況視察
3週	遺構精査・包含層掘り下げ、沢プラン確認	12) 空港建設事務所一行来跡
4週	遺構精査・包含層掘り下げ、沢プラン確認	18) 中国研修生張健全氏来跡、調査参加(～9/21)
5週	遺構精査・包含層掘り下げ、沢A精査開始。週報に「環状列石の移築については文化課と具体的な検討が必要である」と明記(10月3週まで継続)	26) 不審な見学者、無断で写真撮影、27) 庄内補佐と今後の工程について協議
10月1週	遺構精査・包含層掘り下げ、沢A精査	
2週	遺構精査・包含層掘り下げ、沢A精査終了	
3週	遺構精査・包含層掘り下げ、沢B精査	16) 中国研修生張健全氏再び来跡、調査参加(～10/20)、20) 富樫所長来跡
4週	遺構精査・包含層掘り下げ、沢B精査	24) 文化課熊谷氏との電話で「列石の移設については検討中」との回答を得る、写真送付の依頼、26) 佐藤・松井来跡、27) 町教委来跡、28) 現地説明会開催
11月1週	遺構精査・包含層掘り下げ、沢B精査	
2週	遺構精査・包含層掘り下げ、沢B精査、列石B取り上げ開始	
3週	遺構精査・包含層掘り下げ、沢B精査、列石B取り上げ	
4週	遺構精査・包含層掘り下げ、沢B精査、列石B取り上げ、列石Aの越冬準備	
5週	遺構精査・包含層掘り下げ、沢B精査、列石B取り上げ完了、列石Aの越冬準備、週報中で30基前後の遺構について調査不能になることを指摘	29) 現場撤収
12月22日		環状列石移設に関して職員懇談
27日		まとめた資料を武藤が文化課熊谷氏に手渡す
平成8年		
1月		文化課、移設に関して原因者側との協議?、9) 魁「環状列石お引越し」、27) 秋北「環状列石の移設検討」
3月		富樫泰時所長・武藤祐浩学芸主事、文化課へ異動

平成8年度の経過

平成8年	作業状況	特記事項
4月1週		2) 現場立ち会い, 文化課武藤氏来ず, 原因者との話の内容を報告する
2週	器材整理, 除雪作業	8) プレハブ用地を取り付け道路敷に変更了解得る, 10) 小林現場へ, 除雪作業開始, 11) 五十嵐トラックで現場へ合流
3週	器材整理, 除雪作業, 96 東区(現東区)粗掘	17) 庄内補佐・柴田科長・黒澤来跡, 文化課武藤氏来跡, 18) 調査器材到着
4週	96 東区遺構精査・包含層掘り下げ・粗掘, 95 区(現西区)包含層掘り下げ	26) 五十嵐, 結婚休暇その他(～5/10)
5月1週	95区包含層掘り下げ, 空撮準備	
2週	95区包含層掘り下げ, 空撮準備, 列石A図面チェック	
3週	96 東区遺構精査・包含層掘り下げ, 95 区遺構精査・包含層掘り下げ・列石A図面チェック	13) 大館整理室一行来跡, 黒澤来跡, 14) ラジコンヘリ空撮
4週	96 東区遺構精査, 95 区遺構精査・包含層掘り下げ・列石A図面チェック	
5週	96 東区遺構精査, 95 区遺構精査・包含層掘り下げ	
6月2週	96 東区遺構精査, 95 区遺構精査・包含層掘り下げ	
3週	96 東区遺構精査, 95 区遺構精査・包含層掘り下げ	
4週	96 東区遺構精査, 95 区遺構精査・包含層掘り下げ・拡張区立木伐採	
5週	96 東区遺構精査, 95 区遺構精査・包含層掘り下げ・拡張区粗掘	26) 藤原哲・佐藤・須田来跡, ホークスアカデミー来跡, 石井北秋田土木事務所長来跡
7月1週	95 区遺構精査・柱穴群精査・拡張区包含層掘り下げ	3) 湯車川増水のため現場への進入路決壊
2週	96 西区(現中央区)粗掘, 95 区遺構精査・柱穴群精査・拡張区掘り下げ	
3週	96 東区粗掘, 96 西区粗掘, 95 区遺構精査・柱穴群精査・拡張区遺構精査	18) 町議一行来跡, 20) ラジコンヘリ空撮
4週	96 東区粗掘, 96 西区粗掘, 95 区遺構精査・柱穴群精査・拡張区遺構精査	22) 東区・中央区間の沢, 重機で深掘り, 24) シン・近畿ウレタン来跡
8月1週	96 西区粗掘, 95 区遺構精査・柱穴群精査	
2週	96 西区粗掘, 95 区遺構精査・柱穴群精査	7) 青森埋文鈴木氏来跡, 五城目高校栗山氏来跡, 8) 横浜市石井氏ほか来跡, 9) 秋田東高校熊谷氏ほか来跡
3週	95 区遺構精査・柱穴群精査	16) 庄内補佐視察, 青森大学村越潔教授ほか来跡
4週	96 西区粗掘, 95 区遺構精査・柱穴群精査	
5週	96 西区遺構精査, 95 区遺構精査・柱穴群精査, 地形図から地形改変の痕跡を示唆	30) 扇田谷地作業員見学団来跡
9月1週	96 東区遺構精査, 96 西区遺構精査, 95 区遺構精査・柱穴群精査	
2週	96 西区地形測量, 95 区遺構精査・柱穴群精査, 建物群が列石Aとは反対に南側を向いて巡ることを確認	9) 大館能代空港建設事務所総務課長長谷川氏ほか来跡, 11) 鷹巣土建, 東区東側の掘削工事開始, 12) 櫻田補佐, 国立歴史民俗博物館辻誠一郎助教授と来跡, 魁取材(建物跡の分布, 地形改変から予想される別の環状列石の可能性), 13) 魁「環状列石まだある」, 函館市佐藤氏来跡
3週	96 東区遺構精査, 96 西区地形測量, 95 区遺構精査・柱穴群精査, 列石Bを巡る建物群を確認	17) 文化課渡部補佐・石井氏来跡, 地権者代表中島修三氏より地権者・地教委を含めた協力の申し出, 18) 櫻田補佐・高橋忠視察, 19) 町教委佐藤係長来跡, 応用地質に問い合わせ, 20) 櫻田補佐, 国立歴史民俗博物館西本豊助教授と来跡,
4週	96 東区遺構精査, 95 区遺構精査・柱穴群精査	10) 2週までは西区南側の柱穴群の調査を継続できるよう土木部から確認を取る
10月1週	95 区遺構精査・柱穴群精査	29) 航空写真撮影, 1) 庄内補佐合流(列石Aの平・断面図の修正に専従)
2週	95 区遺構精査・柱穴群精査	7) 北海道大学林謙作教授来跡, 12) 現地説明会開催
3週	95 区遺構精査・柱穴群精査・列石Cボーリング探査	14) 北秋田土木事務所一行来跡, 15) 文化庁岡村道雄主任文化財調査官視察, 15・16) 朝日本社ほか取材, 共立女子大小杉康講師来跡, 16) 本庁一行来跡, 一戸町高田氏来跡, 17) 朝日空撮, 土木部長一行来跡, 18) 橋本教育長一行視察
4週	95 区遺構精査・柱穴群精査・列石C測量, 沢Bよりヒョウタン形土器出土	23) 池田副知事一行来跡, 空港建設事務所一行来跡, 24) 埼玉県岩間氏来跡, 25) 磯村朝次郎氏・姫路獨協大吉田氏来跡, 渋谷北秋田地方部長一行来跡

平成8年	作業状況	特記事項
5週	95区遺構精査・柱穴群精査・列石C測量	28) 國學院大學小林達雄教授来跡, 町教委一行来跡, 29) 鷹巣町商工会一行来跡, 北秋田土木事務所歴代所長会来跡, 30) ABS中継(ズームイン朝), 30~1) NHK取材, 31) 企画調整部長一行来跡
11月2週	95区遺構精査・柱穴群精査・列石C測量	6) 栗林次美県議来跡, 簾内出納長一行来跡, 野添憲治氏・福音館書店一行来跡, 7) 建設省一行来跡, 8) 山形埋文一行来跡
3週	95区遺構精査・柱穴群精査	10) 一戸町高田氏来跡, 12) 秋田県知事佐々木喜久治氏一行視察, 13) 県文化財審議委員一行来跡, 協和町教委来跡, 15) 東京都埋文西沢氏来跡, 磯村朝次郎氏, 秋田大学加納博名誉教授と来跡, 五城日高校栗山知士氏現地指導
4週	96東区遺構精査, 95区遺構精査・柱穴群精査, 遺構埋め戻し・保護	18) 県当局による遺跡現地保存決定, 19) 鹿角市長来跡, 20) 県内各土木事務所一行来跡, 大館能代空港期成同盟会一行来跡, 20) 大館市長来跡(期成同盟会), 21) 早稲田大学院生加納氏来跡, 22) 県議一行(教育公安・建設委員)来跡, 23・24) 遺跡公開し, 1,000名を超える来跡者
5週	96東区遺構精査, 95区遺構精査・柱穴群精査, 遺構埋め戻し・保護	25) 早稲田大学OB一行(高橋龍三郎助教授・中村・館・渡辺氏)来跡, 群馬埋文山口・田村氏来跡, 25・26) 大和久震平氏来跡, 26) 岩手埋文一行(金子・小山内氏)来跡, 大曲市教委一行来跡, 27) 鷹巣町役場管理職会来跡, 29) 太田中学校大野憲司氏来跡
12月1週	96東区・西区・95区遺構精査・遺構埋め戻し・保護, 現場撤収	
2週	96東区・西区・95区遺構埋め戻し・保護, 現場撤収	9) 秋田大学加納博名誉教授・新屋高校藤本幸雄氏来跡し, 石材について小猿部川流域巡検, 12) 現場撤収
平成9年		
3月		小林克文化財主査退職, 文化庁記念物課へ採用

西側調査区 調査風景 (平成7年度; 西から)
手前が環状列石B



第4章 調査の記録

第1節 遺跡の基本層序

本遺跡における基本層序は次のとおり。

A 西側調査区・中央調査区平坦部（付図7・11）

基本層位Ⅰ	10YR2/1	黒色シルト	表土
基本層位Ⅱ	7.5YR1.7/1	黒色シルト	ややゆるい 弾性あり
基本層位Ⅲ	7.5YR2/1	黒色シルト	ややしまる 弾性あり 部分的な堆積
基本層位Ⅳa	10YR2/1	黒色シルト	均一でめだつた混入物なし Ⅱ層との分別困難
基本層位Ⅳb	7.5YR2/1	黒色シルト	やや粘性あり
基本層位Ⅳc	7.5YR2/1	黒色シルト	ややしまる 炭中粒中量含む 焼土小粒中量含む
基本層位Ⅴ	2.5Y3/2	黒褐色シルト	しまる 地山小ブロック多量含む 地山漸移層
基本層位Ⅵ	10YR5/6	黄褐色	よくしまる 地山(鳥越軽石質火山灰層)

※Ⅱ層は古代の遺物包含層であるが、古代の遺構および遺物を検出できるのは主として西側調査区の沢B以西の部分である。また沢内においては大湯浮石の2次堆積層を挟在している。

※Ⅳ層は縄文時代後期の遺物包含層である。主たる包含層はⅣb層であり、環状列石Aの南側の一部においては、Ⅳa層とⅣb層の間に列石構築に伴う削土を挟在する。すなわち環状列石A内部においては、Ⅴ(地山漸移)層またはⅤ'(削土に伴う地山ブロックの巻き上げ)層の直上にⅣa層が堆積する。地点によりⅣa層の層相には差がみられる。

B 環状列石A内部(NE・NIライン、Ⅱ層以下)、環状列石B内部(74ライン) (付図7)

Ⅳa	10YR2/3	黒褐色シルト	Ⅱ層よりしまりやや硬質 地山土粒・木炭粒・焼土粒が混じる
Ⅴ'	10YR4/6	褐色シルト	Ⅵ層が巻き上げられた土 地山土塊からなる 粘性が強くしまる
Ⅴ	10YR2/3	黒褐色シルト	地山ブロック(明黄褐色10YR6/8)が浮く 漸移層 軟質

C 環状列石A外部(NEライン、Ⅳa層下の削土堆積層) (付図7)

列石A削土の盛土層	10YR3/3~3/4	暗褐色シルト	地山土粒・木炭粒・焼土粒を多量に含む しまりあり 粘性あり 遺物多量に含む
-----------	-------------	--------	--

D 沢内の堆積土(付図8・9)

沢A

Ⅰ	10YR2/1	黒色シルト	よくしまる 弾性あり 表土
Ⅱa	10YR2/1	黒色シルト	ややしまる 地山小粒少量含む
OYU	7.5YR2/1	黒色シルト	よくしまる 軽石中粒(大湯浮石)少量含む
Ⅱb~Ⅳa	10YR2/1	黒色シルト	ややしまる 地山小粒少量含む
Ⅳb	10YR2/2	黒褐色シルト	よくしまる 地山小粒少量含む 焼土小粒少量含む
Ⅳc'	10YR2/1	黒色シルト	よくしまる 地山小粒少量含む 炭小粒少量含む Ⅳc

層相当

- IVd' 10YR1.7/1 黒色シルト ややしまる 地山小粒少量含む IVd層相当
- 沢B
- I 10YR1.7/1 黒色シルト ややしまる 地山小粒中量含む
- IIa 10YR2/1 黒色シルト よくしまる 地山小粒少量含む
- OYU 10YR2/2 黒褐色シルト よくしまる 粗粒軽石（大湯浮石）中量含む
- IIb 10YR2/1 黒色シルト よくしまる 粘性あり 地山小粒少量含む
- IVa層 10YR2/1 黒色シルト よくしまる 粘性あり 地山小粒少量含む IIb層との境不明瞭
- IVb 10YR2/2 黒褐色シルト かたくしまる 地山中粒中量含む
- IVb' 10YR2/2 黒褐色砂～シルト かたくしまる 地山中粒中量含む 焼土中粒中量含む
- IVc' 10YR2/1 黒色シルト かたくしまる 地山中ブロック中量含む

※沢B内のIVb層には、列石A構築の際の排土を含めている（沢BベルトIVb①～⑥層）。

E 東側調査区（付図10）

- I 10YR4/4 褐色シルト やわらかい 斜面際では直接地山を覆う
- II 10YR3/3 黒褐色シルト やわらかい
- III 10YR3/3 黒褐色シルト
- IV 地山漸移層

※東側調査区内出土遺物はII・III層に包含されている。礫の出土レベルはII層下部で、縄文後期の土器が出土していることから、当時の生活面はII・III層に想定される。

※西側調査区と東側調査区の基本層序の対比は以下のとおり。

東側調査区	I（表土）	II（後期包含層）	III（後期、礫の面）	IV（地山漸移層）
西側調査区	I	IV a	IV b	V

第2節 検出遺構と出土遺物

検出した遺構の総数は1,825遺構にのぼる。そのうち出土遺物等によって古代の所産と確認できるものが13基あるのみで、大多数は縄文時代後期に属する遺構である。また掘立柱建物跡は複数の柱穴で構成されるため、実際の遺構数は1,694遺構となる（付図1～4）。

内訳は次のとおりである。

縄文時代 1,681遺構

環状列石3基・掘立柱建物跡35棟・土坑126基・フラスコ状土坑7基・陥し穴状土坑10基・土壇墓86基・柱穴1,312基・焼土遺構33基・配石遺構51基・土器埋設遺構10基・環壕1条・溝状遺構1条・その他の遺構6基

古代 13遺構

竪穴住居跡1軒・土坑5基・柱穴6基・溝状遺構1条

縄文時代とした遺構には、遺物の出土が無く、所属時期が不明なものも含まれるが、遺構確認面が

ほぼ同レベルであったため、便宜上縄文時代の遺構として計数した。

2ヶ年にわたる調査では、10名以上の職員が現場での遺構精査作業にかかわったが、十分な打ち合わせがなかったため、遺構内に存在し、その遺構に伴うか否かが不明な柱穴や、遺構外の単独の柱穴などに遺構番号を付さずに調査している例が多くあった。逆に単独ではなく、遺構に伴う可能性のある柱穴であるにもかかわらず、単独の遺構として番号を付してしまったものもある。

そのため調査後の整理作業においてすべての図面を照合し重複・新規の遺構番号を整理したが、多くの欠番とともに枝番が生じてしまい、結果として複雑な遺構番号構成となってしまったため、各遺構種別毎にまとめて説明することとした。

また出土遺物については遺構内・外の出土を問わず、一括して概観するにとどめた。

1 縄文時代

(1) 検出遺構

①環状列石 3基

環状列石A (付図5・7・図版2)

環状列石Aは、円環を呈する部分と北側に張り出す部分とで構成される。張り出し部分の一部は調査区外にも連続する。列石を構成する礫は1,263個確認した。

円環の部分は長径30m×短径27mの楕円形を呈する配石列である。また張り出し部分は円環部分から4m程の接続部を介して、東西に30m程の長さで弧状に伸びる配石列である。

列石Aの配石列は、小牧野遺跡で確認された所謂「小牧野型」のほか、さまざまな形の配石が列状になって構成される。配石列の下部には、配石に明確に対応する土坑群は存在しなかった。しかし円環部の両端は、列石構築前の所産である大型不整形の土壙墓(SKS-a)の上に位置している。特に南西側の部分ではまだ埋まりきらない土壙墓の凹地(埋土上面)に礫が直接配置され、配石列が他の部分より比高的に埋没した状況を呈していた(巻首図版4・図版2)。

列石A内部は構築の際に削平を伴う整地地業を施している。その際に従来から所在していた大型不整形の土壙墓を壊して整地したものの、選地の上では前記のように円環部の両端を当該土壙墓上に配している。つまり祭祀方法としては断絶するものの、意識上での有機的な連続を併せ持っているように思われる。削平は地形的に高い列石Aの西半を主として行われ、その削土は列石Aの南辺外側および南東部の沢B内に移動し、排土されていた。そのため削平の度合の大きい南西半では、皿状地形を呈するようになった縁辺に配石列が構築されたが、北東半は削平も小さく、地形の低い部分の配石はほぼ平坦な配置状況を呈している。この際、SKS444Aなど列石A内に位置していた土壙墓も削平され、特に沢B内には削土ともに多くの遺物が移動したと考えられる(付図8・9, 第302~305図)。

環状列石Aには7棟の掘立柱建物跡(SBく・SBけ・SBこ・SBは・SBひ・SBふ・SBも)が伴い、配石列の同心円状外側に並ぶ(付図4)。その配置には偏りがあるものの、一定の位置での建て替えも行われている。このことから環状列石における建物を用いる祭祀が、列石内(配石列)の特定の場所を意識して行われていたことが想定される。

環状列石Aの東辺には二重の配石列を有する部分があるが、この2列目(東側;外側)の弧状の配石列は、円環部分の構築から若干の時間を経て構築されたことが明らかになっている。しかしその時間差についての詳細は不明である。SBも掘立柱建物跡は列石Aの東側に位置するが、6本柱の柱穴

のうち、列石Aに最も近い1基の柱穴が、この2列目の配石列により埋められていたからである（第46図）。少なくともSBも掘立柱建物跡が構築されたのは列石A東側の配石列が円環を呈する1列の時期であったことは確かである。列石Aの周囲を巡る掘立柱建物群が環状列石祭祀に伴うことは間違いないが、建て替えが一定の場所で繰り返されている状況もまた事実である。また建物跡を構成する柱穴で廃絶行為や抜き取り痕跡を伴うものも少なくない。つまりこれらの建物は列石の周囲に1棟ずつ建て加えられていくものではなく、祭祀の都度、あるいは祭祀ののち短い期間のうちに廃絶されたと考えられる。これは他の環状列石に伴う掘立柱建物跡の柱穴の所見でも確認している。

円環部分に接続する張り出し部の弧状配石列は、特に西側では皿状を呈するように北側を向いて斜めに礫が配列している。この部分には「小牧野型」の組石が連続するが、東側ではその配列も崩れ、配石列としての終端を呈する。つまり北辺の張り出し部の弧状配石列は、円環部との接続部より西側のほうでより整った形態を呈しており、調査区外にも配石列が連続することがわかっている。

環状列石A内には遺構配置図に図示したほかにも多くの遺構、特に大型不整形の土壙墓（SKS-a）が点在する（第306・307図）。ほとんどの遺構は未調査のまま埋め戻したが、調査未了のままベルトを残して埋め戻したものもある。これら列石内の未調査土坑のうち特徴的なものとして、確認面に拳大の礫を配した径30cm程の土坑が20基程ある。このうちの一つ（SKS466）を精査したところ、埋土中からミニチュア土器、および拳大の礫による石組を検出した。別項で詳述するが、これもある種の墓の可能性を想定できる。

環状列石B（付図6・7・図版3）

環状列石Bは15mにおよぶ弧状の配石列である。環状列石Aと同様、円弧の内側を削平し、整地している。整地の際に先行する大型不整形の土壙墓群（SKS-a）を壊して整地するものの、配石列の選地としては、これらの土壙墓の位置に接するように構築されている点は、列石Aと同様である。削平に伴う排土の移動先については不明であるが、出土遺物の接合関係により、一部は列石Aとの間に排土されたようである。

列石Bにも9棟の掘立柱建物跡（SBあ・SBい・SBえ・SBお・SBか・SBき・SBむ・SBめ・SBや）が伴う（付図4）。これは弧状の配石列として存在する列石Bの円弧の延長から求められる同心円状外側に並ぶ。列石Bの配石列の延長線上には礫の抜き取りや後世の攪乱の痕跡は確認できず、当初から弧状に作られたか、弧状の状態配石列の構築が中断されたものと判断できる。しかしその弧状配石列から導かれる円環に囲まれる空間を意識した建物配置がとられており、円環による空間の把握はすでに意識されていたものと考えられる。

SBめ掘立柱建物跡を構成する柱穴の一部（SKP993～995）は、遺構確認面の上にローム様の土が被っており、当初は確認できなかった。しかし建物の配置と柱穴の並びを検討していく過程で柱穴の存在が予測されたため、多少削り気味にプラン確認をしたところ初めてプランを確認できたものである。列石Bも削平を伴うことからその削土と考えられなくも無いが、建物と列石祭祀との同時性からみても列石Bの削土が被っているとは考えにくい。距離的にも列石Aの削土の移動範囲とさほど離れないことから、当該柱穴も列石Aの削土を被っている可能性が高いと考えられる。

環状列石C（第10図・図版3）

環状列石Cは列石自体を確認したものではなく、同心円状外側を巡る掘立柱建物跡群を確認したこ

とから、内部（調査区外の杉林）をボーリング調査し、礫の存在を確認したものである。

列石Cには19棟の掘立柱建物跡（SBさ・SBし・SBす・SBせ・SBそ・SBた・SBち・SBつ・SBて・SBと・SBな・SBに・SBぬ・SBね・SBの・SBへ・SBほ・SBま・SBみ）が伴う。これらは環状列石Aの南側に集中し、建物の並びを調べるうちに求心方向が列石Aとは反対であることに気づき、列石Aと反対側に位置する新たな環状列石の存在に気づいたものである。建物跡がのる円環ラインのごく一部しか調査を実施していないが、西側調査区南縁の40m程の範囲から19棟の掘立柱建物跡を検出した。建物跡は複雑に重複しているが、ほぼ同じ位置での建て替えによるものと、そうでないものとの2種類がある。しかし総数として19棟の建物跡および多数の柱穴跡が複雑に重複しており、列石C全体を巡る掘立柱建物跡群はかなりの数に上ると思われる。また列石Cの建物跡を構成する柱穴の多くは、列石A構築の際の削土の排土によって覆われており（付図7）、環状列石C（旧）→環状列石A（新）という新旧関係が想定できる。

②掘立柱建物跡 35棟（付図4）

検出した掘立柱建物跡は35棟に上り、環状列石Aに伴うものが7棟、環状列石Bに伴うものが9棟、環状列石Cに伴うと思われるものが19棟であった。これら建物跡を構成する柱穴の掘り方はほとんどが径1m程度で、柱痕跡は径30cm程度である。小規模な柱穴では掘り方が径30cm程度のものもある。柱痕跡はほとんどのものが断面で確認でき、柱穴底面のアタリ部分が、柱の重量で粘土化しているものも多く確認できた（平面図中に破線で表示）。

遺構掘り込み面はIVb層～V層（場所によってはIVc層）であるが、前述のとおり、環状列石Cに伴う建物跡の柱穴は環状列石A構築時の削土により覆われていた。また列石Bに伴う建物跡の柱穴の一部も類似のローム質の土を被っていたため、環状列石Bも環状列石Aより若干古い可能性がある。

掘立柱建物跡として柱の並びを確認できたのは35棟であるが、その他にもきちんとした掘り方、あるいは柱痕跡を持つ柱穴（SKP-a）を300基近く検出しており、かなりの数の掘立柱建物跡が存在したと考えられる。これらのほとんどは環状列石A～Cの位置する西側調査区の西半部に検出したため、やはり環状列石に伴うものか、当該期の遺構であったと考えられる。

環状列石Cに伴う建物跡は一部を調査したのみにもかかわらず複雑に重複した状況で検出した。しかし列石Aおよび列石Bに伴うもの建物跡は、建て替えによる重複が一部に認められるのみで、ほとんどが重複しない。建物の選地に際しては、一定間隔を置くというよりは選地した場所で建て替えをしつつ、その場所を踏襲することのほうが重要視されたように考えられる。少なくとも環状列石内部の（列石構築以降の）土坑の多少と建物群が対応しているのでは無いように観察されるが、列石A内部の遺構群については未調査のものが多く（第306図）、列石Cについても町教委が調査着手したばかりであるため詳細は不明である。環状列石Aおよび環状列石Bは、従来大型不整形の土墳墓を壊しながらも、強い意識を持ちつつそれに接するかのよう選地し構築されているが、これらの掘立柱建物跡も何らかの有機的な意識を持って選地し、建て替えられている可能性が高いと考えられる。

また建物を構成する柱穴のなかには、柱痕跡の位置に礫や土器片を入れたりする明確な廃絶行為を伴うものや、抜き取り痕跡を持つものが多数見受けられる。このことから、建物が環状列石祭祀に関わって構築されたのち、短い期間で解体されるということが、手続きとしてごく普通に行われていたことを示すのではないだろうか。

③土坑 126基

土坑としたものは、土壙墓とした遺構と比べて積極的な根拠（規格性・出土遺物など）に薄いため便宜上土坑としたものである。そのため、本来土壙墓であったものが含まれている可能性も大きいと思われる。

④フラスコ状土坑 7基

フラスコ状土坑としたものには、本来的な貯蔵穴として用いられたものと、転用して墓として用いられたものの2種類が存在する。貯蔵穴として用いられていたものは、SKF 506～508などで、炭化粟が出土している。特に507・508では大量に出土している。また転用墓として使用されたものはSKF 555・636Aなどで、大型・厚手の土器破片が多く出土している。SKS 636Aでは、本来的には単体で土器棺として使用され得る大型の壺形土器が2個体（第155・156図）、打ち割られた破片の状態で出土した。またこれに接合する破片が20m以上離れた沢Bからも出土しており、死者祭祀に使用するという機能だけが認識されたまま、違った方法で副葬されたものと考えられる。この土器は復元できたものの、部分的には全く破片が無い部分があり、搬入品であった可能性も考えられる。

内部を何回にもわたって凹地として拡張・掘り返しを繰り返した結果、原形はほとんどどめていないものの、SKS 404なども元来はフラスコ状土坑からの転用墓で、本来的な形態が変わるほどに掘り替えられてしまった結果と考えられる。この点については別項で詳述する。

⑤陥し穴状土坑 10基

検出した陥し穴状土坑は、すべて沢状地形の周辺からの検出である。陥し穴状土坑そのものは、狩猟と考える限り、沢状地形を意識した配置をとることに何ら疑問はない。本遺跡においても複数ある沢状地形に添った形で陥し穴状土坑が配置されている。つまり、この段階では沢が地形的に機能しており、遺跡は狩り場として使われている。後述する土壙墓の中でも一部の配石墓（SKS-c）などは、この陥し穴状土坑と重複し、掘削される場合がある。また、沢Bの周辺にも複数の陥し穴状土坑が存在するが、環状列石A構築の際には、沢Bは半分以上がその削土により埋められてしまう。つまりこの段階では沢が地形的に機能しなくなっているため、陥し穴状土坑の構築時期は、本遺跡が墓域として使用され始めた以降で、環状列石Aの構築が始まる以前であることが想定される。しかるに、本遺跡の墓域としての変遷を考える上で、一瞬だけ墓域としての使用が停止する段階、それがすなわち陥し穴状土坑が構築され、狩り場となる段階である。

⑥土壙墓 86基

土壙墓は形態により5つに分類した。

SKS-a 33基

大型不整形のプランを有し、埋土が自然堆積に近いレンズ状を呈するものを一括した。大きいものではSKS469のように10mを超える広がりを持つものもある。深さは1m前後のものが多いが、SKS404のように1.2m以上に達するものもある。不整形のプランとはいっても、元来は廃絶したフラスコ状土坑や単体の土壙墓などであったものが掘り返され、ごく少量の埋土での埋め戻しおよび凹地としての面確保のために袋状の掘り返しが繰り返され、結果として大型で不整形のプランを呈するようになったものである。最終的な平面形は複雑に切りあった土坑状のプランとな

るが、埋土の観察により新旧を持つ土杭群ではなく、単一の土墳墓としてとらえられる。西側調査区の沢Aよりも西側に分布するが、環状列石よりは若干古い。つまり環状列石の構築＝環状列石祭祀の開始とともに機能を停止する。この際に削平を受けたり、その削土で埋められたりしている。また当該土墳墓が環状列石Cに伴う掘立柱建物跡の柱穴と重複し、掘削されていることから確認できる。

環状列石構築の際には、まだ凹地を呈して機能を果たしていたと思われるが、その埋土最上位の凹地面に焼土面を持つ土墳墓が多く見られる（SKS 272・SKS 400など）。そしてその上を環状列石A構築の際の削土が覆っている事実が確認できることから、これらの土墳墓祭祀に対する廃絶行為として火を焚く（焼土面を形成する）行為を行った後に環状列石を構築し、死者祭祀の方法が転換したものと考えられる。列石A構築の際の削土によって埋められた沢Bの埋土には、貝塚の貝層のごとく多量の焼土粒を含んだ土が何層にもわたって投棄され、層中からは多くの焼土粒とともに当該土墳墓起源の遺物が多数出土している（付図8・9）。このことから、前記したような凹地に火を焚く（焼土面を形成する）行為は、環状列石構築時に開口していたすべての遺構に対して行われた可能性が高いと考えられる。基本的には凹地を形成したうえで再使用を繰り返す再葬墓として考えることができるが、遺構内から様々な祭祀具（所謂「第2の道具」）が出土し、その出土が遺構確認面よりも上位の堆積層準にも及ぶことから、追善供養的な祭祀が繰り返される祭祀土坑としての側面も有している（第302～305図）。

SKS-b 27基

所謂単独の小判形土墳墓。小判形もしくは楕円形を呈し、埋土は一括埋め戻しのものを一括した。規模は長径1.5m×短径1m程度、深さ70cm程度のもが多い。東側調査区および西側調査区に分布する。西側調査区では主として沢Bより西側に分布する。環状列石の内部に分布するものは削平を受けていないものが多く、これらについては明確に列石構築以降の所産として考えられる。埋土は人為堆積の様相を呈しており、遺体を直接埋葬した墓と考えられる。SKS 613A・Bのように列石Aの削土により覆われていたものも存在するため、環状列石構築以前から以降まで継続する墓の形態である。特に列石内に所在する土墳墓については、環状列石祭祀に係る特別な人物の墓としてとらえられる可能性がある。

SKS-c 13基

所謂単独の円形土墳墓。円形を呈し、埋土は一括埋め戻しのものを一括した。周囲に小ピットを伴うものが多いため、上屋構造の存在も想定できる。規模は径1.5m程度、深さ70cm程度のもが多い。西側調査区全域に分布する。落とし穴状土坑と重複し、掘削されるものがあり、沢A・Bなど段丘上の微地形によるエリアを考慮することなく分布する数少ない遺構であるため、当該地域が墓域として使用され始めた最初の段階から出現する墓の形態であるかもしれない。埋土は人為堆積の様相を呈しており、遺体を直接埋葬した墓と考えられる。SKS 617Aのように円

形土墳墓に1ヵ所だけ袋状の掘りこみを有するものがあるため、大型不整形の土墳墓（SKS-a）の初源土坑として使用されたものもあると考えられる。

SKS-d 7基

所謂配石墓。内部に組石を持ち、埋土は一括埋め戻しのものを一括した。形態・規模は様々であるが、おおむね小判形（SKS-b）・円形土墳墓（SKS-c）を上回ることは無い。西側調査区の沢Bより西側に分布する。SKS 700 Bのように大型不整形の土墳墓（SKS-a）のタイプを切るものもある。SKS 466は確認面に拳大の礫を配した柱穴様のプランを有し、埋土中位から壺形土器および組石を検出したものもあり、大きさからみて幼児墓あるいは再葬墓として考えられる。同様の遺構は列石A内で20基程度確認できたが、未調査のまま埋め戻している（第306図，SKP①～②）。このSKS466のタイプはSKS-dのタイプからさらに細分できる可能性を持つが、ほとんどが未調査のまま埋め戻しているため、詳細は不明である。環状列石構築以前から以降まで継続する墓の形態であると考えられる。

SKS-e 6基

所謂円形～小判形の土墳墓のうち、長軸の両端に2つの小ピットを伴うものを一括した。形態はSKS-bおよびcに準ずる。西側調査区の沢Bより西側に分布する。

⑦柱穴 1,318基

柱穴は形態により3つに分類した。

SKP-a 295基（掘立柱建物跡を構成するものを含めると459基）

柱穴。掘り方と柱痕跡を有し、地山塊や礫を入れた裏込めがなされる。また掘立柱建物跡を構成したと考えられる径30cm～1mにおよぶ柱穴では、柱の重量により底面が粘土化し、柱アタリを有するものが多く見られる（平面図には破線で図示）。多くは環状列石周辺で検出したが、中でも環状列石Aの南側で検出した柱穴のうち列石Aの削土を被っているものについては、列石Cに伴うか、それ以前の柱穴と考えられる。

埋土の柱痕跡の部分に礫や土器破片を入れ、柱穴としての廃絶行為を伴うものや、抜き取り痕跡を有するものも多く見られる。

SKP-b 9基（掘立柱建物跡を構成するものを含めると11基）

柱穴内に礫を伴うものであるが、広義の立石をも含む。確認面に礫を配しているものについては、廃絶行為を想定できるものである。また掘り方を持って礫が柱穴内に入れられているものの、礫の先端が確認面から上に出ないタイプの立石も含まれる（SKP 754など）。

SKP 439 P 1としたものは、環状列石Aの中央部で、方形に4基並ぶ立石である（第89図）。他の3基は確認したのみで、未調査のまま埋め戻している（第306図，SKP⑨・⑩・⑮）。

SKP-c 1,014基

所謂小ピット。柱痕跡がはっきりしない小型のピットで、単独に存在するものの

ほかに、遺構の周囲に所在するものもある。遺構に伴うと考えられるものは遺構帰属のピットとしている。遺構種別毎の一覧表は省略した。

⑧焼土遺構

33基

東側調査区で1基確認したほかは、すべて西側調査区の沢Bより西側で検出した。S N 630・631は沢B内に所在する焼土遺構であるが、沢Bが列石Aの削土で埋められる初期の段階での大きな焼土面であるため、大型不整形の土壇墓(S K S - a)の項で述べた埋土上面の焼土と同じような意味を持つものかもしれない。

⑨配石遺構

51基

配石遺構は中央調査区および西側調査区で検出されている。西側調査区の配石遺構のほとんどは沢Bより西側に分布している。

中央調査区の斜面肩部に所在するS Q 563は、径5.2m程の環状配石と2m程の中央配石からなる二重構造を持つ配石遺構である。中央配石部には墓標ともとれる板状の礫が1個配されており、下部構造については未調査であるが墓壙が存在する可能性もある。また近接するS Q 565は日時計形を呈する配石遺構である。

西側調査区のS Q 10は弧状の配石であるが、本来は環状を呈していた可能性もある。内部に焼土面を持つが、配石との関係は不明である。近年類似した構造を持つ住居跡が各地で見ついているが、それらと比べると明確な出土遺物もなく、礫が小さく掘り込みも認められないため、配石遺構であると判断した。また環状列石Bで意識される円環に近接する位置に所在するが、直接的な関わりは不明である。ただし列石Bに伴う建物とは重複しないことから、列石B構築以降のものと思われる。

⑩土器埋設遺構

10基

土器埋設遺構は、西側調査区の沢Bより西側で検出した。SR 2はリン分析により墓の可能性が指摘されている。環状列石A内部にも2基(SR 490 A・SR 809)検出したが、ともに小型で残りは悪い。SR 490 Aからは黒曜石破片が4点出土している。

⑪環壕

1条

東側調査区の斜面に環壕が所在する。斜面肩部からの比高差は2m程度である。東側は湯車川によって、西側は戦時中の垂炭採掘坑によって壊されている。また南側の調査区外にも2条の溝状遺構を確認しているが、本遺構と連続するものかどうかは不明である。斜面が急峻なため土の堆積が薄く、上部平坦面の包含層とのはっきりとした対応はつかめなかった(付図2・10)。石槍などが出土したため、便宜上縄文時代の項に含めたが、該期に帰属するかどうかは不明である。斜面への流れ込みの可能性もあり、縄文時代の所産とする積極的な根拠はない。

近年の町教委の詳細分布調査では、調査区外の2条の溝状遺構について、土橋様の施設を確認しており、中世の館跡に関係する空堀の可能性も指摘されている(鷹巣町教育委員会『伊勢堂岱遺跡詳細分布調査報告書(1)』1998)。

⑫溝状遺構

1条

⑬その他の遺構

6基

東側調査区で検出したS X 558 Aは近・現代の炭窯である。

西側調査区の沢Bより西側では、小ピットに白色粘土塊を充填した遺構を4基検出したが、性格は不明である。土壙墓（特に大型不整形の土壙墓）の埋土中にも、白色粘土の粒子が混入する場合がたびたびある。本調査区においては、地山Ⅵ層（鳥越軽石質火山灰層）土を1 m程度掘下げると白色粘土層（地山Ⅶ層）に到達するため、斜面の露頭からは比較的容易に粘土は採取できる。しかしこれらの遺構が何の意味を持って構築されたかについては不明である。

(2) 出土遺物

着手した7,047m²の範囲から土器類 648箱・石器類 274箱・および礫類 612箱が出土した。これらは収納用コンテナに入れて埋蔵文化財センターに搬入し整理作業を実施した。

このうち土器類は、接合・復元作業を通じて容積をさらに増している。

①土器

本調査において出土した土器のうち復元できた個体は300個体を超える。出土した土器は縄文時代早期から後期にいたる土器群であるが、縄文後期前葉のものが主体をなす。これらを施文方法・文様構成等により分類した。

第Ⅰ群土器

縄文時代早期および前期に属する土器である。

出土した土器は次のように1類～3類に分類した。

- 1類 貝殻腹縁圧痕を口縁に施文する土器である。
- 2類 器面の表裏に縄文を施文する土器である。
- 3類 胎土に繊維を含む土器である。

1類は調査区東側部分の地山上から出土し、付近にも1グリッドから数個のトランシェ様石器を出土するグリッドがあることから、南側の調査区外にかけて早期の遺構群が検出できる可能性が高い。

2・3類は少量のみの出土であるが、西側調査区から出土している。

第Ⅱ群土器

縄文時代中期に属する土器を一括した。多くは中期末葉の土器と思われる。

第Ⅲ群土器

縄文時代後期に属する土器である。

出土した土器は次のように1類～6類に分類した。

- 1類 後期初頭の土器で、縄文を施文する口縁部文様帯と、充填縄文による大柄な「E」字状文・渦巻状文などで構成される胴部文様帯を有する。胴部文様帯は胴下半部に及ぶ。
- 2類 後期初頭の土器で、縄文または無文部による狭い口縁部文様帯と、地文縄文上に幅広の沈線・磨消または充填縄文技法による胴部文様帯を有する。胴部文様帯は胴下半部にまで及ぶが、分帯する物がほとんどである。
- 3類 その他後期初頭と思われる土器を一括した。
- 4類 後期前葉の土器で、沈線を主文様として施文される土器を一括した。施文の詳細によって2細分できる。

a類 後期前葉の土器で、沈線による長円形文様を主体とし、胴下半部まで入り組ませる。また2～3条の細い沈線を組にしたり、渦巻状の曲線を縦位に展開し、その間を斜位の副次文様を充填し施文するものも多い。ごくまれに磨消縄文手法により施文されるが、ほとんどは無文地に沈線で施文される。

b類 後期前葉の土器で、胴部文様が横位に展開し、同上半部に文様帯が収まる。前記した2～3条の組沈線のほか、櫛歯状工具による充填条線も施文されるようになる。文様モチーフは幾何学的な文様が多く、磨消縄文手法・縄文地に沈線・無文地に沈線で施文される。

5類 その他後期に属する土器を一括した。

②土製品

形態から分類したものおよび特記する土製品は次のとおりである。そのほかキノコ形土製品・スタンプ形土製品・ヘラ形土製品・渦巻文土製品（巻き貝を意識した土製品と思われる）・球形土製品・指輪形土製品・耳飾り・足形付土版・土版・土錘・動物形土製品・盲孔土製品・有孔土製品が出土した。

土偶

第212図2はSKS 135・SKS 282・SKS 476および遺構外出土の破片を接合したもので、1個体と考えられる。別項に記したように、大型不整形の土壙墓は埋没が進み凹地様になっても継続して祭祀が行われていたと考えられ、それを示す1例である。第218図5・6のように、土偶の破片を使用した円盤状土製品も出土している。

土器蓋

第217図6は直行する2方向に紐の穴が空けられているものである。

ミニチュア土器

第208図15は切断土器であるが、第208図18と同一個体と考えられる。

円盤状土製品 土器の破片を円形に打ち割り、径数cmに成形した土製品である。本遺跡では2,000点を超える個体が出土した。遺構外出土のものは環状列石構築前に機能していた大型不整形の土壙墓(SKS-a)の分布に相関を持って出土するため、死者祭祀およびその追善供養に使用されたものと考えられる(第304図)。

三角形土製品 土器の破片を三角形に打ち割ったもので、機能的には円盤状土製品同様の機能が考えられる。

三脚土製品 3ヶ所に脚部を作り出した土製品である。第205図2は四脚のものと思われる。

環状土製品 径10cm、厚さ5cm程度の、環状を呈する土製品である。

鐸形土製品 頂部に穿孔もしくは作り出しの紐部を有する鐸形の土製品である。円盤状土製品同様の用途が想定できる。横断面形状により、a；円形、b；楕円形のもの、

- A 穿孔による紐部を有するもの
- B 作り出しによるつまみ状の紐部を有するもの
- C 作り出しによる紐部が2又状になっているものにと細分できる。

③石器

形態により分類したものおよび特記する石器は次のとおり。そのほかトランシェ様石器・嘴状石器・半円状扁平打製石器・打製石斧・環状石斧・石皿が出土した。

石鏃 矢の先端につけて使用した石器と考えられる。

- A 平基無茎鏃；平面形が二等辺三角形を呈する。基部両端が角張るものが多い。
- B 凹基無茎鏃；平面形が逆V字形を呈し、基部が凹むものである。
- C 円基鏃；平面形が水滴形で、基部が円く弧状を呈するものである。
- D 平基有茎鏃；基部に茎を有するA類のものである。
- E 凹基有茎鏃；基部に茎を有するB類のものである。

石槍 槍先に使用したと石器と考えられる。

- A 尖頭部・基部ともに尖るものである。
- B 基部が丸みをもつものである。
- C 石槍と考えられるもののうち、二次調整のあり方が粗いものを一括した。
- D 基部に茎を有するものである。

石錐 石製の錐（ドリル）と考えられる。

- A 表裏全面に調整が施され、一方の先端に鋭い錐部、その反対側につまみ部が作出されたものである。
- B 全体の形状が棒状を呈するものである。
- C 小型の剥片の両先端を尖らせたものである。
- D 不整形の剥片の2～3辺に二次調整を加え、比較的鋭い錐部を作出したものである。
- E 拳大の礫の一端を打ち欠き、錐部を作出したものである。

石匙 両側縁から抉りを入れてつまみ部を作出し、主として片面からの加撃によって刃部を作出した石器である。

- A 縦型石匙；つまみ部の中軸線にほぼ並行する刃部を持つものである。
- B 斜型石匙；つまみ部の中軸線に斜行する刃部中軸線を持つものである。
- C 横型石匙；つまみ部の中軸線にほぼ直交する刃部中軸線を持つものである。

篋状石器 平面形が楔形、あるいは短冊形・小判形など、いわゆるヘラ状を呈し、一端に刃部が作出された石器である。

- A 平面形が、基部側よりも刃部側で幅広のものである。
- B 両側縁が並行するものである。
- C 基部・刃部ともに弧を描き、他の類に対して細長い形状を呈するものである。
- D その他のものを一括した。欠損により分類不能なものを含む。

削器 大小の剥片の側縁に、連続的な二次調整によって刃部を作出した石器である。

- A 剥片の1～2側縁に、内弯あるいは直線的な刃部を作出したものである。急斜度調整を伴うものが主体である。
- B 剥片の1側縁に直線的な刃部を作出したものである。
- C 剥片の1側縁に弧状の刃部を作出したものである。
- D 剥片の2側縁に刃部を作出したものと、その他の形状のものを一括した。

E 剥片にU字形の刃部を作出したものである。

F 剥片にV字形の刃部を作出したものである。

搔器 分厚い剥片の一端に片面調整による急斜度の刃部を作出した石器である。

A 剥片の一端にU字形の刃部を作出したものである。

B 剥片の一端に直線的な刃部を作出したものである。

C 剥片の一端にV字形の刃部を作出したものである。

敲石 球状あるいは多面体状の礫に、敲打した痕跡がみられる石器である。

A 内湾する稜に敲打痕がみられるものである。

B 球状・多角形状の残核等の稜に敲打痕がみられるものである。

C 楕円形を呈する礫の両端部に敲打痕が見られるものである。

磨製石斧

A いわゆる乳棒状磨製石斧で、断面が楕円形を呈するものである。

B いわゆる定角式磨製石斧で、断面が隅丸方形を呈するものである。

C 擦り切り技法による磨製石斧である。

D 器長が10cm未満の小型のものである。装身具と考えられるものもある。

石錘 魚網あるいは編物の錘として使用されたとと思われる石器である。

A 石器長軸の両端に2箇所の抉りを有するものである。

B 石器短軸の両端に2箇所の抉りを有するものである。

C 3箇所または4箇所の抉りを有するものである。

D その他の形状、欠損したものを一括した。

磨石 礫の面を磨いている石器である。

A 偏平な礫の片面のみに磨面を有するもの。

B 偏平な礫の両面に磨面を有するもの。

C 楕円形を呈する礫で、全面に磨面を有するもの

凹石 礫の片面、または両面に凹み状を呈する敲打痕を有する石器である。片面のものをa類、両面のものをb類とし、

A 円形の礫の片面、または両面に凹み痕を有するもの

B 楕円形の礫の片面、または両面に凹み痕を有するもの

C 割れた礫の片面、または両面に凹み痕を有するものに細分した。

④石製品

形態により分類したものおよび特記する石製品は次のとおり。そのほか石冠・岩版・四角形岩版・三角形石製品・鐮形石製品・石刀・有孔石製品・有溝石製品・渦卷文石製品・石斧形石製品・線刻礫が出土した。

三脚石器 主として盤状の礫を剝離して3つの脚部を作出している石器である。欠損した脚部にアスファルトを塗布したものや、表面に残る礫面にアスファルトを付しているものもある。また、一方の脚部の端が被熱しているものも見受けられる。円盤状土製品同様の用途が想定される。

A 3つの脚部が広角の二等辺三角形状を呈するもの。

- B 3つの脚部がほぼ正三角形を呈するもの。
- C 3つの脚部が狭角の二等辺三角形を呈するもの。
- D 欠損その他の原因により、原形状が不明なものである。

三角岩版 平面形状は三角石器に似るが、裏面からの剝離による脚部の作り出しが見られないものである。三角石器の素材とも考えられる。

- A 3つの脚部が広角の二等辺三角形を呈するもの。
- B 3つの脚部がほぼ正三角形を呈するもの。
- C 3つの脚部が狭角の二等辺三角形を呈するもの。
- D 欠損その他の原因により、原形状が不明なものである。

三角形岩版 盤状の礫を用いて三角形に剝離成形したものである。表面にアスファルトで規格的に点描しているものが見られる。従来三角石器の素材との見方もあったが、円盤状土製品同様、祭祀に関わる石製品と考えられる。

- A 3つの端部が広角の二等辺三角形を呈するもの。
- B 3つの端部がほぼ正三角形を呈するもの。
- C 3つの端部が狭角の二等辺三角形を呈するもの。
- D 欠損その他の原因により、原形状が不明なものである。

円盤状石製品 主として盤状の礫を剝離成形して円盤状の形状に作り出したものである。

- A 盤状の原石の周囲を打ち欠き、円盤状に作り出したものである。
- B 盤状の原石の周囲を打ち欠き、研磨することによって面取りを施してあるものである。

球状石製品 球状の形状を呈する石製品である。

- A 球形のものである。
- B 長卵形のものである。
- C 直交する沈線が施されているものである。

2 平安時代

(1) 検出遺構

- ① 竪穴住居跡 1軒 (第126・127図)
- ② 土坑 5基 (第128図)

竪穴住居跡は1軒のみの検出であった。規模は6.4×6.2mで、プラン確認面(Ⅱ層)からの深さは最大0.84mであった。床面は全面にわたって貼り床が施され、平坦であった。壁下方に周溝を有する。周溝はかまどの部分のみが途切れるため、構築当初からかまど位置が考慮されて構築されたものと考えられる。周溝の幅は10cm程度、深さは最大15cm程度である。支柱穴は4本(P1～P4)確認した。かまどは住居跡南東壁の東寄りの部分に検出した。壁面より1.64mの長さで煙道が外部に張り出しており、2面にわたる炉床面を確認した。床面中央にも地床炉様の焼土面があり、焼土中より多くの土器破片が出土したが、焼土は床面に対して漸移的で掘り方は確認できなかった。また床面には附設されたと考えられる土坑を5基検出した。

床面で検出した土坑はSK18・SK19・SK20・SK33・SK35の5基で、SK18・19は埋土が焼土と土器破片で構成される。SK20は埋土4層が大湯浮石の堆積層であった。SK33は竪穴住居

跡のかまどに並び、壁面に接して掘り込まれた柱穴様の土坑で、多くの土器が出土した。S K 35 は床面中央近くの溝状の土坑で土器を出土した。

遺物は須恵器・土師器のほか、砥石・鉄製品も出土した。縄文時代の遺物も少量ながら出土している。須恵器は2点のみの出土で、1点が墨書（「丸」＝「穴」＝「大」）を持つ灯明皿（第271図8）、もう1点は大甕の破片を転用した猿面硯である。土師器は坏・甕類が多数出土した。坏では灯明皿と、内面底部に「×」のヘラ書きを持つものが多数出土したことが特徴的である。また甕では叩き目を持つ甕も出土している。

③柱穴 6基

検出した柱穴は径50cm前後のもので、環状列石Aの周辺に広がり、何らかの建物に伴うものと考えられる。出土遺物により明確に古代と判別されるものが6基ということであり、出土遺物が無いため便宜上縄文時代の所産とした柱穴にも同様の規模のものが含まれること、および調査未了のままの遺構も付近には多いことから、実数は更に増えると思われる。

④溝状遺構 1条（付図7・第307図・図版2）

環状列石A内部に巡る。Ⅱ層から掘り込まれており坏類も出土することから、該期の遺構としては間違いないが、調査未了のまま埋め戻したため詳細は不明である。ほぼ地山のレベルまで整地され、内外に柱穴が確認されることから、建物に伴う何らかの施設である可能性もある。環状列石A内部の北寄りの部分で検出し、一辺13m程度の略方形プランを呈する。埋没したとはいえ環状列石A内は未だ皿状の凹地であったと思われるが、それに沿うように列石列を避けて曲がっている。

(2) 出土遺物

①土器

遺構内出土の須恵器はS I 1内から出土した、前述の灯明皿と猿面硯である。遺構外からも須恵器の破片の出土はあるが、極めて少量である。西側調査区の沢Bより西側のⅡ層中に限定される。

古代の出土土器のほとんどは土師器である。S I 1内出土土器でも特記すべきは、灯明皿と内面底部に「×」のヘラ書きを持つ坏の出土である。これらは遺構外からは出土しない。

灯明皿にはタールが付着し、それが口縁の複数部分に付着しているものが多い（第271図）。また第271図9は破片の接合面に沿って付着しているため、ひびの入った坏を利用したものと考えられる。

内面底部に「×」のヘラ書きを持つ坏は、S I 1で多数出土した。使用された工具は木材のようだが、条線様の痕跡を残している。土器の成形時に使用する柁目の板（ヘラ）を縦に使用したのでは、このような条線様の痕跡は残らないと思われるため、何らかの意図を持った工程として、別の施文具を使用したものと考えられる（第272図）。

叩き目のある土師器甕（第276図1）もS I 1から複数個体出土したが、後述するように打ち割った上で住居内の各所に埋納しており、住居の廃絶行為に使用されたものと判断できる。

②石器

砥石が2点出土した。1点はS I 1内、もう1点は遺構外の出土である。

③鉄製品

S I 1のかまど内より親指大の鉄製品が出土したが、腐食しており詳細は不明である。

検出遺構一覧表（縄文時代）

遺構 Na	グリッド	挿 図 Na	土器時期	掲 載 外 出 土 遺 物	備 考	そ の 他
環状列石 A		付図5・付図7	Ⅲ-4			
環状列石 B		付図6・付図7	Ⅲ-4			
環状列石 C		付図6・付図7	—			
遺 構 Na	グリッド	挿 図 Na	土器時期	掲 載 外 出 土 遺 物	備 考	そ の 他
SK 23A	MG 68	49	—	凹石Bb		
SK 23B	MG 68	49	—	凹石Bb		
SK 24A	MI 65	49	—			
SK 34A	NO 78	49	Ⅲ-4	凹石Ab・Bb, 石錘A		
SK 34B	NO 78	49	—	凹石Ab・Bb, 石錘A		
SK 34C	NO 78	49	—	凹石Ab・Bb, 石錘A		
SK 36	NS 77	48	—			
SK 38C	NS 76	48	Ⅲ-4a			
SK 38E	NS 76	48	Ⅲ-4a			
SK 39	NR 76	50	Ⅲ-4	石錘D, 凹石Bb		
SK 41A	NM 79	49	Ⅲ-4	焼粘土塊		
SK 41B	NM 79	49	Ⅲ-4	焼粘土塊		
SK 41C	NM 79	49	—	焼粘土塊		
SK 42	NM 78	50	Ⅲ-4	凹石Ba		
SK 48	NQ 78	付図3	—			
SK 53	NR 77	50	—	凹石Ba, 石錘B		
SK 62	NQ 77	90	—	凹石Aa		
SK 66	NO 78	51	—	円盤状石製品A		
SK 72	NN 77	50	—	凹石Ca		
SK 73	NQ 74	50	—			
SK 74	NQ 75	50	—			
SK 82	NR 77	50	—			
SK 90A	NP 74	60	Ⅲ-4	削器C	一部調査区外	
SK 98	NL 78	51	—	凹石Bb		
SK 109A	NK 78	51	Ⅲ-4	RF		
SK 109B	NK 78	51	Ⅲ-4	RF		
SK 110B	NK 78	51	Ⅲ-4	土偶, 搔器C, RF, 凹石Bb		
SK 130	NK 73	52	Ⅲ-4	凹石Bb, 球状石製品A		
SK 132A	MF 67	51	—			
SK 132B	MF 67	51	—			
SK 143	NM 76	76-77	Ⅲ-4			
SK 147	NK 74	52	Ⅲ-4			
SK 149	NL 74	52	—			
SK 152	NK 73	52-103	—			
SK 157	ND 69	101	—			
SK 163	NL 74	52	Ⅲ-4			
SK 177	NC 71	52	Ⅲ-4	凹石Bb, 円盤状石製品A, 三脚石器D		
SK 183	NM 75	52	Ⅲ-4			
SK 187	NM 74	52	—			
SK 188	NM 74	52	Ⅲ-4			
SK 190	NL 76	52	—			
SK 194	NM 75	45-53	Ⅲ-4	凹石Ba		
SK 250A	NJ 71	20-53	Ⅲ-4	凹石Ba		
SK 253	NA 70	53	Ⅲ-4	球状石製品A		
SK 258A	NP 79	53-104	Ⅲ-4	球状石製品A		
SK 268	NO 80	53	Ⅲ-4			
SK 274	ND 70	99	—			
SK 280	NO 73	54	Ⅲ-4	円盤状土製品, RF		
SK 281	NO 73	54	Ⅲ-4	円盤状土製品, 石錘A, 敲石B		
SK 285	NN 77	74-75	Ⅲ-4			
SK 286B	NO 76	74-75	Ⅲ-4	円盤状土製品, 耳飾り, 削器B・C, RF, 石皿, 石錘A, 磨石B, 凹石Ba・Bb・円盤状石製品A, 三脚石器C, 三脚岩版C, 黒曜石		
SK 287B	NO 76	74-75	Ⅲ-4	土偶, 円盤状土製品, 削器A・B・F, 石錘D, 搔器A, 石器, 凹石Ba・Bb・球状石製品A, 円盤状石製品A, 三脚石器C		
SK 288B	NO 76	74-75	Ⅲ-4b	土偶, 削器C・D, 石錘D, 搔器C, RF, 石錘A, 石皿, 円盤状土製品, 炭化物		
SK 288C	NO 75	74-75	Ⅲ-4b	土偶, 削器C・D, 石錘D, 搔器C, RF, 石錘A, 石皿, 円盤状土製品, 炭化物		
SK 292	NN 75	76-77	Ⅲ-4	搔器A		
SK 293	NM 75	76	—			
SK 295	NN 75	76-77	Ⅲ-2			
SK 296	NN 74	76-77	Ⅲ-4	鐔形土製品Aa, 円盤状土製品, RF, 石皿, 凹石Ba・Bb・Cb		
SK 297A	NN 75	76-77	Ⅲ-4		朱	
SK 297B	NN 75	76-77	Ⅲ-4			
SK 298A	NN 75	76-77	Ⅲ-4	土偶, 円盤状土製品, 削器D, 石器		
SK 298B	NN 75	76-77	Ⅲ-4	土偶, 円盤状土製品, 削器D, 石器		
SK 298C	NN 75	76-77	Ⅲ-4	土偶, 円盤状土製品, 削器D, 石器		
SK 298D	NN 75	76-77	—	土偶, 円盤状土製品, 削器D, 石器		
SK 298E	NN 75	76-77	—	土偶, 円盤状土製品, 削器D, 石器		
SK 299	NL 76	53	—			
SK 410	NH 76	53	Ⅲ-4			
SK 411B	NH 77	付図3	Ⅲ-4	円盤状土製品, 凹石Bb		
SK 437	NE 75	94-95	—	石錘A		
SK 445	NJ 74	54	Ⅲ-4			
SK 447	NK 76	80	Ⅲ-4			
SK 449	NE 77	54	Ⅲ-4	円盤状土製品		
SK 450	NE 77	54	Ⅲ-4			
SK 464	MJ 64	55	Ⅲ-4			
SK 473	NC 71	56	Ⅲ-4b	ミニチュア土器		
SK 479	NJ 78	85-86	Ⅲ-4	削器F, 凹石Aa・Bb		
SK 481A	MI 66	55	—			
SK 481B	MI 66	55	—			
SK 482	MK 67	56	—			
SK 495	ND 75	94	Ⅲ-4	円盤状土製品, 搔器B, 円盤状石製品A・石錘B		ベルト残し中埋め戻し
SK 509	KM 48	56	Ⅲ-4	石製品		
SK 510	KN 47	57	Ⅲ-4a	搔器A, 炭化物		

第4章 調査の記録

遺構 No	グリッド	挿 入 No	土器時期	掲 載 外 出 土 遺 物	備 考	そ の 他
SK 511	KN 48	57	-			
SK 515	KM 51	57	Ⅲ-4	石錘D		
SK 544	KL 48	57	-			
SK 556	KO 49	57	Ⅲ-4	円盤状土製品, 凹石Bb		
SK 559A	KR 51	57	-	円盤状土製品	中途埋め戻し	
SK 570	KM 51	57	-			
SK 571	KM 50	57	-			
SK 606D	NG 70	106	-			
SK 608C	NG 70	106	-	RF, 石皿, 石錘B		
SK 610B	NF 71	41	Ⅲ-5			
SK 611A	NF 70	41	Ⅲ-4			
SK 616	NJ 73	17-100	Ⅲ-4			
SK 619C	NE 71	87-88	Ⅲ-4			
SK 619I	NE 71	87	-			
SK 623A	NE 73	107	Ⅲ-4			
SK 624A	NE 72	107	Ⅲ-4			
SK 626	MK 67	59	-			
SK 646	NA 67	58	Ⅲ-4	削器C, 円盤状土製品A	Ⅱ～Ⅳaを切る	
SK 647B	NA 67	58	Ⅲ-4	竈状石器A		
SK 647C	NA 67	58	Ⅲ-4	竈状石器A	一部調査区外	
SK 650C	NH 71	24-28	-			
SK 662B	NH 71	23-24	Ⅲ-4			
SK 662C	NH 71	23	Ⅲ-4			
SK 664C	NJ 72	21-22	-			
SK 672B	NE 69	34-57	-			
SK 686	NE 72	付図3	-			
SK 699	NE 71	付図3	Ⅲ-4			
SK 716	NF 69	付図3	-			
SK 719B	NG 70	40-106	Ⅲ-4			
SK 735	NG 72	109	Ⅲ-4			
SK 755	ND 72	62	Ⅲ-4			
SK 758	ND 73	62	-			
SK 784	NL 72	16-68	Ⅲ-4	RF, 円盤状土製品A		SKS-d?
SK 786	NJ 71	107	-			
SK 794	NK 74	58	Ⅲ-4	削器D		
SK 795	NJ 74	58-112	-			
SK 796	NE 71	付図3	-			
SK 803	NF 69	付図3	-			
SK 823	NB 73	58	Ⅲ-5	石錘B		
SK 865A	NL 75	13-45-91	-			
SK 1027	MT 74	付図3	-			
SK 1251B	NI 70	24-25	-			
SK 1257	NO 73	71	-		一部調査区外	
P 36	NR 77	付図3	Ⅲ-4	凹石Bb		SK

遺構 No	グリッド	挿 入 No	土器時期	掲 載 外 出 土 遺 物	備 考	そ の 他
SKF 506	KN 45	59	Ⅲ-4	凹石Bb		
SKF 507	KN 45	59	Ⅲ-4	ミニチュア土器, 石皿, 凹石Bb, 炭化物		
SKF 508A	KN 44	60	Ⅲ-4a	円盤状土製品, 焼粘土塊, 石錘, 削器B・F, 円盤状土製品B, 炭化物	貯蔵穴 (炭化粟)	
SKF 508B	KN 44	60	Ⅲ-4a	円盤状土製品, 焼粘土塊, 石錘, 削器B・F, 円盤状土製品B, 炭化物	貯蔵穴 (炭化粟)	
SKF 555	KP 49	60	Ⅲ-4b	炭化物	中途埋め戻し	
SKF 558B	KP 50	125	Ⅲ-4		中途埋め戻し	
SKF 636A	NE 69	33-108	Ⅲ-1	円盤状土製品, 削器D・F, 軽石		

遺構 No	グリッド	挿 入 No	土器時期	掲 載 外 出 土 遺 物	備 考	そ の 他
SKT 90B	NP 74	60	Ⅲ-4	削器C	一部調査区外	
SKT 179	ND 70	60	Ⅲ-4			
SKT 201	MF 69	61	-		一部調査区外	
SKT 215B	NB 70	97	-			
SKT 218	ND 68	101-102	Ⅲ-4	凹石Cb		
SKT 220	MI 68	61	Ⅲ-5			
SKT 567	LO 57	61	-			
SKT 647A	NA 67	58	Ⅲ-4	竈状石器A		
SKT 681	ND 73	62	Ⅲ-4	円盤状土製品		
SKT 683	ND 73	62	Ⅲ-4	焼粘土塊, 凹石Ba・Bb	中途埋め戻し	

遺構 No	グリッド	挿 入 No	土器時期	掲 載 外 出 土 遺 物	備 考	そ の 他
SKS-a 14A	NK 72	63	Ⅲ-4b	円盤状土製品, 焼粘土塊, RF, 敲石A, 凹石Bb, 三脚石器D, 三角形岩版A・C球状石製品A, 球状石製品B, 有孔礫B		
SKS-a 14B	NK 72	63	Ⅲ-4b	円盤状土製品, 焼粘土塊, RF, 敲石A, 凹石Bb, 三脚石器D, 三角形岩版A・C球状石製品A, 球状石製品B, 有孔礫B		
SKS-a 28	NM 77	12-63	Ⅲ-4	ミニチュア土器, 円盤状土製品, 焼粘土塊, 削器B・C・D・RF, 磨製石斧A, 磨石B, 凹石Ab・Bb, 石錘B, 円盤状土製品A, 三角形岩版A, 石斧形石製品, 石製品		
SKS-a 29	MQ 66	65	Ⅲ-4	円盤状土製品, 焼粘土塊, 削器B・C・D・RF, 凹石Ba・Bb, 球状石製品A, 円盤状土製品A, 三角形岩版D	一部調査区外のため一部未掘	
SKS-a 31	NA 70	64-65	Ⅲ-4	土偶, 円盤状土製品, 三角形土製品, 土製品, 焼粘土塊, 掻器C, 石錘E, 削器A・B・C・石器, RF, 敲石B, 石皿, 石錘B, 石錘A, 凹石Ab・Ba・磨石A・B, 球状石製品A, 円盤状土製品A, 三角形石製品, 三角形岩版A・D有孔礫B, 石製品, 炭化物		
SKS-a 38A	NS 76	48	Ⅲ-4a	円盤状土製品, 土偶, 焼粘土塊, 削器B・E, 掻器A・C, 石錘A, 敲石B, 凹石Ba・0Bb・Ca・Cb	埋没過程の焼土2基 (SN38F-G)	
SKS-a 40	NP 76	63	Ⅲ-4b	凹石Bb, 凹石Cb, 石皿		
SKS-a 44A	NQ 79	66	Ⅲ-4			
SKS-a 45B	NQ 79	47-66	Ⅲ-4a	円盤状土製品, 三角形土製品, 掻器A・B, ビエス・エスキュー, RF, 凹石Ba・Bb, 敲石B, 三脚石器B		
SKS-a 104	NM 73	67	Ⅲ-4	円盤状土製品, 焼粘土塊, 削器C・D・F, 掻器C, 石器, RF, 凹石Ba・Bb・石皿, 石錘B, 円盤状土製品A, 三脚石器D, 石製品		
SKS-a 135	MS 67	68	Ⅲ-4b	ミニチュア土器, 円盤状土製品, 土偶, 焼粘土塊, 掻器A・B・C, 削器B・C・D・石錘D, 石器, RF, 石錘B, 敲石A, 凹石Ab・Ba・球状石製品A, 円盤状土製品A, 四角形岩版, 三角形岩版D, 有孔礫B, 石製品		

第2節 検出遺構と出土遺物

遺構 No.	グリッド	挿 図 No.	土器時期	掲 載 外 出 土 遺 物	備 考	そ の 他
SKS-a 136	MT 68	67	Ⅲ-4	円盤状土製品、三角形土製品、土製品、焼粘土塊、削器D、石錘D、捺器A・B・C、石器、RF、石皿、敲石B、凹石Ba・Bb、石錘A、球状石製品A、円盤状石製品A・三脚石器D、三角形岩版D、有孔礫B、石製品、炭化物		
SKS-a 166A	NL 72	68	Ⅲ-4	凹石Bb		
SKS-a 204A	MT 75	69	Ⅲ-2	円盤状土製品、削器D、石皿、石錘B、敲石A・B、凹石Ba・Cb、円盤状石製品A、有孔礫B、石製品	一部調査区外	
SKS-a 254	NO 78	51	Ⅲ-4b	円盤状土製品、焼粘土塊、削器B・F、RF、凹石Ba・Bb、石錘A		
SKS-a 272	ND 70	33・70・99	Ⅲ-1	須恵器、円盤状土製品、耳飾り、焼粘土塊、土製品、削器B、RF、石錘A、磨石A、凹石Ab・Ba・石皿		
SKS-a 276A	NP 74	71	Ⅲ-4	円盤状土製品		
SKS-a 282	NN 73	72・73	Ⅲ-4b	円盤状土製品、三角形土製品、土製品、焼粘土塊、石筒B、削器A・C・D・捺器A・B・C、篋状石器A・B・RF、敲石A、石錘A、凹石Aa・Ab・石皿、球状石製品B、円盤状石製品A、三角形岩版D・有孔礫B、炭化物		
SKS-a 286A	NO 76	74・75	Ⅲ-4b	円盤状土製品、耳飾り、削器B・C、RF、石皿、石錘A、磨石B、凹石Ba・Bb・円盤状石製品A、三脚石器C、三脚岩版C、黒曜石		
SKS-a 289B	NO 75	74・75	Ⅲ-4	土偶、環状土製品、円盤状土製品、削器D、削器F、凹石Bb、円盤状石製品A		
SKS-a 291	NM 76	76・77	Ⅲ-4	円盤状土製品、削器E、三角形岩版A		
SKS-a 294	NN 75	76・77	Ⅲ-4	円盤状土製品、削器F、円盤状石製品A		
SKS-a 400	NC 70	78・79	Ⅲ-4a	ミニチュア土器、円盤状土製品、焼粘土塊、削器B・C・D・捺器A・C、凹石Aa・Ba・石皿、石錘C、石錘D、磨石B、三脚石器A、有孔礫B、炭化物		
SKS-a 404A	NJ 76	80	Ⅲ-1	ミニチュア土器、円盤状土製品、鐸形土製品D、削器A・B・C・石錘B、篋状石器A、石器、石錘A・B、凹石Aa・Ab・石皿、球状石製品B、三角形岩版A、線刻礫、有孔礫B、炭化物	周囲にSKP-bあり	
SKS-a 442	NE 77	79	Ⅲ-4	鐸形土製品Aa、篋状石器B、削器C・F		
SKS-a 444A	NG 76	81	Ⅲ-4b	円盤状土製品、削器C、石錘D、捺器A、RF、敲石B、凹石Bb、石錘B		
SKS-a 469B	NI 72	82・83・84	Ⅲ-4b	ミニチュア土器、円盤状土製品、三角形土製品、焼粘土塊、石錘D、削器B・C・D・E、捺器A・B・C、石筒B・C、石錘C、篋状石器A・B、磨製石斧B、石器、RF、石錘A・B、凹石Ba・Bb・球状石製品A、円盤状石製品A、石製品、有孔礫B、軽石、アスファルト		
SKS-a 476A	NJ 77	85	Ⅲ-4a	円盤状土製品、焼粘土塊、凹石Ba・Bb		
SKS-a 478B	NK 78	85・86	Ⅲ-4b	円盤状土製品、焼粘土塊、削器C、石器、磨石B・C、凹石Ab・Ba・三角形岩版A・D、炭化物		
SKS-a 602	NG 70	29・30・106	Ⅲ-4			
SKS-a 619A	NE 71	87・88	Ⅲ-4	円盤状土製品、削器C・E・F、RF、凹石Bb・Ca、石錘B、有孔礫B、炭化物		
SKS-a 619B	NE 71	87・88	Ⅲ-4b	円盤状土製品、削器C・E・F、RF、凹石Bb・Ca、石錘B、有孔礫B、炭化物		
SKS-a 700A	NJ 75	89	Ⅲ-4	削器F、石錘D、凹石Bb		
SKS-b 7	NQ 77	90	Ⅲ-5			
SKS-b 47	NQ 79	47・66	Ⅲ-4b	焼粘土塊、捺器C、凹石Ba・Bb・球状石製品A、三角形岩版B		
SKS-b 58	NT 76	90	Ⅲ-4b	捺器A		
SKS-b 63	NQ 76	90	Ⅲ-4	円盤状土製品、削器B、凹石Ca		
SKS-b 101	NL 79	91	Ⅲ-4	石錘B		
SKS-b 105	NL 74	91	Ⅲ-4	円盤状土製品、焼粘土塊		
SKS-b 204C	MT 75	69	Ⅲ-2	円盤状土製品、削器D、石皿、石錘B、敲石A・B、凹石Ba・Cb、円盤状石製品A、有孔礫B、石製品	一部調査区外	
SKS-b 204H	MT 75	69	Ⅲ-2	円盤状土製品、削器D、石皿、石錘B、敲石A・B、凹石Ba・Cb、円盤状石製品A、有孔礫B、石製品	一部調査区外	
SKS-b 277	NO 74	71	Ⅲ-4	円盤状土製品、削器C、炭化物		
SKS-b 278	NO 74	71	Ⅲ-4			
SKS-b 284	NN 74	72・73	Ⅲ-2	石錘A、凹石Bb		
SKS-b 412A	NH 77	93	Ⅲ-4	円盤状土製品、削器C・D、凹石Ba・Bb		
SKS-b 412B	NH 77	93	Ⅲ-4	円盤状土製品、削器C・D、凹石Ba・Bb		
SKS-b 412C	NH 77	93	Ⅲ-4	円盤状土製品、削器C・D、凹石Ba・Bb		
SKS-b 412D	NH 77	93	Ⅲ-4	円盤状土製品、削器C・D、凹石Ba・Bb		
SKS-b 440A	NE 76	92	Ⅲ-4b	凹石Ba・Bb		
SKS-b 441	NE 76	92	Ⅲ-4	土偶		
SKS-b 446	NJ 74	91	Ⅲ-4			
SKS-b 451	NE 76	92	Ⅲ-4	円盤状土製品		
SKS-b 474	NN 73	54・72・73	Ⅲ-4			
SKS-b 494A	ND 76	94・95	Ⅲ-4b	円盤状土製品、三角形土製品、石錘B、円盤状石製品A		
SKS-b 494B	ND 76	94・95	Ⅲ-4b	円盤状土製品、三角形土製品、石錘B、円盤状石製品A		
SKS-b 512	KN 46	91	Ⅲ-4a	鐸形土製品Ca、削器F、凹石Aa・Ab・石錘C、炭化物		
SKS-b 514	KM 45	93	Ⅲ-4	ミニチュア土器、円盤状土製品、鐸形土製品Ab、土製品、焼粘土塊、石皿、凹石Bb、石錘B		
SKS-b 554	KP 49	93	Ⅲ-4b	石皿	中途埋め戻し	
SKS-b 613A	NF 71	41・87・88	Ⅲ-2	捺器B		
SKS-b 613B	NF 71	87・88	Ⅲ-2	捺器B		
SKS-c 22	MF 68	95	-			
SKS-c 77	NR 75	95・121	Ⅲ-4a	円盤状土製品、敲石B、凹石Ba・Bb・円盤状石製品A		
SKS-c 102	NL 78	96	Ⅲ-4a	三角形土製品、削器B・E、凹石Ba・Bb		
SKS-c 106	NL 77	96	Ⅲ-4b	円盤状土製品、焼粘土塊、篋状石器B、削器F、RF、凹石Bb・Cb、石皿		
SKS-c 142	NN 76	96	Ⅲ-4	円盤状土製品、焼粘土塊、土偶、石錘E、削器F、捺器B・C、凹石Ba・Bb、円盤状石製品A、三角形岩版A		
SKS-c 215A	NB 70	97	Ⅲ-4	円盤状土製品、三角形土製品、捺器B、RF、石皿、凹石Ba・Bb、球状石製品B		
SKS-c 252	MT 74	96	Ⅲ-4	円盤状土製品、三角形土製品、石器、RF、捺器A、凹石Bb、石皿、石斧形石製品、三角形岩版B	撻石あり	
SKS-c 279	NN 74	54	Ⅲ-4b	円盤状土製品、RF、磨石B、三脚石器A		
SKS-c 290A	NM 76	76・77	Ⅲ-4	盲孔石製品		
SKS-c 408	NH 76	97	Ⅲ-4			
SKS-c 411A	NH 77	93	Ⅲ-4	円盤状土製品、凹石Bb		
SKS-c 614	NH 72	98	Ⅲ-4	円盤状土製品、土偶、石皿、磨石B		
SKS-c 617A	NE 70	33・70	Ⅲ-4	円盤状土製品、削器F、石錘B		
SKS-d 213	NB 69	91	Ⅲ-4b	円盤状土製品、三角形土製品、削器C、RF、石皿、石錘B・C、凹石Aa・Ba・三角形岩版A・D	礫多量	
SKS-d 273	ND 70	70・99	Ⅲ-2	削器F、石錘A		
SKS-d 439A	NE 76	89	Ⅲ-4	石錘B		
SKS-d 466	NH 75	98	Ⅲ-4	凹石Ba・Bb		
SKS-d 609C	NG 70	106	Ⅲ-4b	円盤状土製品		内部にRP・組石
SKS-d 621	NE 71	87	Ⅲ-4			
SKS-d 700B	NJ 75	89	Ⅲ-4	削器F、石錘D、凹石Bb		
SKS-e 80	NK 72	104	-	削器C		
SKS-e 240	NP 74	71	Ⅲ-4	石錘A・B、凹石Bb		
SKS-e 436A	NE 75	94・95	Ⅲ-4	RF		
SKS-e 438	NE 76	94・95	Ⅲ-4			

第4章 調査の記録

遺構 Na	グリッド	挿 図 Na	土器時期	掲 載 外 出 土 遺 物	備 考	そ の 他
SKS-e 493	ND 76	98	-	削器E		
SKS-e 494C	ND 76	94-95	Ⅲ-4b	円盤状土製品, 三角形土製品, 石鍾B, 円盤状石製品A		

遺構 Na	グリッド	挿 図 Na	土器時期	掲 載 外 出 土 遺 物	備 考	そ の 他
SKP-a 9	NI 77	99	-			
SKP-a 12	NH 77	93	-			
SKP-a 24B	MI 65	49	-			
SKP-a 25	NE 76	92	-			
SKP-a 37	NS 77	48	-	凹石Ba・Bb		
SKP-a 38D	NS 76	48	Ⅲ-4a			
SKP-a 43	NQ 80	47	-			SBや
SKP-a 44B	NQ 79	47-66	-			SBや
SKP-a 45A	NQ 79	47-66	Ⅲ-4a			
SKP-a 45C	NQ 79	47	Ⅲ-4a			SBや
SKP-a 49	NQ 78	99	-			
SKP-a 54	NR 77	50	-	削器D		
SKP-a 55	NR 76	50	-			
SKP-a 57	NS 77	48	Ⅲ-4			
SKP-a 64B	NP 76	118	-	凹石Ba		
SKP-a 79	NK 72	20・104	Ⅲ-4			SBさ
SKP-a 94	NM 78	11	-			SBあ
SKP-a 95	NM 78	11	-			SBあ
SKP-a 96	NM 79	11	-			SBあ
SKP-a 97	NM 79	99	-			
SKP-a 99	NL 79	99	-			
SKP-a 107	NL 77	99	-			
SKP-a 108	NK 77	85-86	Ⅲ-4	円盤状土製品, 削器F		
SKP-a 109C	NK 78	51	Ⅲ-4			
SKP-a 110A	NK 78	51	Ⅲ-4	土偶, 掻器C, RF, 凹石Bb		
SKP-a 110C	NK 78	51	Ⅲ-4	土偶, 掻器C, RF, 凹石Bb		
SKP-a 111	NN 77	付図3	-			
SKP-a 122A	NC 69	36-42-101-102	-	焼粘土塊		SBの
SKP-a 122B	NC 69	36-42-101-102	-	焼粘土塊		SBま
SKP-a 123	NC 69	101-102	Ⅲ-4			
SKP-a 125A	NK 73	18-19	-	凹石Ba・Bb		SBけ
SKP-a 125B	NK 73	18-19	Ⅲ-4a	凹石Ba・Bb		SBこ
SKP-a 125C	NK 73	18-19	-	凹石Ba・Bb		
SKP-a 126	NK 73	18-19-100	Ⅲ-5	凹石Bb		
SKP-a 127A	NK 73	100	Ⅲ-5	削器D		
SKP-a 127C	NK 73	100	Ⅲ-5	削器D		
SKP-a 128	NM 78	99	Ⅲ-4			
SKP-a 139A	NK 75	100	Ⅲ-4			
SKP-a 139B	NK 75	100	Ⅲ-4			
SKP-a 140	NK 74	17-103-121	Ⅲ-5			SBく
SKP-a 141A	NL 74	45	Ⅲ-4b	凹石Ba		
SKP-a 141B	NL 74	13	Ⅲ-4b	凹石Ba		SBえ
SKP-a 144	NL 74	102	-			
SKP-a 145	NK 74	103	-			
SKP-a 148	NK 74	13-52	Ⅲ-4			SBえ
SKP-a 150	NL 74	102	Ⅲ-4	凹石Bb		
SKP-a 151	NL 75	102	Ⅲ-4			
SKP-a 153A	ND 69	35-42-101	Ⅲ-2			SBね
SKP-a 153B	ND 69	36-42-101	-			SBま
SKP-a 153C	ND 69	36-101	-			SBの
SKP-a 160	NJ 77	103	Ⅲ-5			
SKP-a 161	NI 77	103	-			
SKP-a 162	NK 74	13-103	-			
SKP-a 164	NL 75	付図3	-			
SKP-a 173	ND 69	33-101	Ⅲ-4			
SKP-a 175	ND 70	33-102	-	凹石Ba		SBに
SKP-a 176	ND 70	102	Ⅲ-4			
SKP-a 184A	NL 75	13-45	Ⅲ-4			SBめ
SKP-a 184B	NL 75	13-45	-			SBえ
SKP-a 185	NK 74	103	-			
SKP-a 186	NK 74	104	-			
SKP-a 189	NL 76	104	Ⅲ-4			
SKP-a 191	NL 76	44	Ⅲ-4			SBむ
SKP-a 192	NK 75	13	-			SBえ
SKP-a 193	NM 76	44	Ⅲ-4			SBむ
SKP-a 195	NL 75	103	-	凹石Bb		
SKP-a 196	NL 75	103	-			
SKP-a 197	NK 75	104	-			
SKP-a 198	NM 75	53	-			
SKP-a 217A	NC 68	43-101	Ⅲ-4			SBみ
SKP-a 217C	NC 68	43-101	-			
SKP-a 221	NC 68	101	Ⅲ-4			
SKP-a 222	NC 68	36-42-101	-			SBま, SBの
SKP-a 223A	ND 70	99	Ⅲ-4			
SKP-a 223B	ND 70	99	-			
SKP-a 227A	ND 69	36-101	Ⅲ-4	RF		SBの
SKP-a 227B	ND 69	36-42-101	-	RF		SBま
SKP-a 234	NK 72	104	-	凹石Ba		
SKP-a 235	NK 72	付図3	-			
SKP-a 236	NK 72	104	Ⅲ-4			
SKP-a 237	NK 71	20-53	Ⅲ-4			
SKP-a 238	NM 72	付図3	Ⅲ-5			
SKP-a 241	NK 73	18-19-100	-			SBく
SKP-a 245	NK 77	付図3	Ⅲ-4			
SKP-a 247	NK 78	85	-			
SKP-a 250B	NJ 71	20-53	Ⅲ-4	凹石Ba		SBさ
SKP-a 255	NK 79	85	Ⅲ-4	凹石Bb		

第2節 検出遺構と出土遺物

遺構 No.	グリッド	挿 入 No.	土器時期	掲 載 外 出 土 遺 物	備 考	そ の 他
SKP-a 256	NM 77	11	Ⅲ-4			SBあ
SKP-a 257	NP 80	47	-			SBや
SKP-a 258B	NP 79	53・104	Ⅲ-4	球状石製品A		
SKP-a 259	NP 79	47	Ⅲ-4			SBや
SKP-a 260	NP 79	104	Ⅲ-5			
SKP-a 261	NO 79	53・104	-			
SKP-a 262	NP 79	47・53・104	-			SBや
SKP-a 263	NP 79	105	-			
SKP-a 264	NM 78	11	-			SBあ
SKP-a 266	NK 78	85	Ⅲ-4			
SKP-a 269A	NL 77	12・105	Ⅲ-4			
SKP-a 269B	NL 77	12・105	-			SBい
SKP-a 270	NL 78	11	Ⅲ-4			SBあ
SKP-a 289A	NO 75	74	Ⅲ-4			
SKP-a 289C	NO 75	74・75	Ⅲ-4			
SKP-a 404B	NJ 76	80	Ⅲ-1			
SKP-a 409	NH 76	105	Ⅲ-4			
SKP-a 440B	NE 76	92	Ⅲ-4b			
SKP-a 454	NF 76	92	Ⅲ-4			
SKP-a 455	NF 76	92	Ⅲ-4			
SKP-a 469A	NJ 73	20・82・83・84	Ⅲ-4b			
SKP-a 469C	NI 73	17・82・83	Ⅲ-4b			
SKP-a 470B	NJ 72	17・82・84	Ⅲ-1			
SKP-a 476B	NJ 77	85	-			
SKP-a 476C	NJ 77	85・86	-			
SKP-a 478A	NK 78	85・86	Ⅲ-4b			
SKP-a 480A	NJ 78	85・86	Ⅲ-4			
SKP-a 480B	NJ 78	85・86	-			
SKP-a 484	NG 72	37	Ⅲ-4	石器		
SKP-a 485A	NG 71	37	Ⅲ-4b			
SKP-a 485B	NG 71	37	Ⅲ-4b			
SKP-a 486A	NG 71	29・37	Ⅲ-4			SBは
SKP-a 486B	NG 71	29・30・37	Ⅲ-4			SBつ
SKP-a 486C	NG 71	29・30	-			SBて
SKP-a 486D	NG 71	40	-			SBへ
SKP-a 487	NG 71	26	Ⅲ-4	天然アスファルト (第5章 第12節参照)	アスファルト塊 (S2)	SBた
SKP-a 488	NE 71	37・87	Ⅲ-4a	削器B		SBは
SKP-a 489	NH 71	30	-			SBて
SKP-a 490B	NE 76	124	-			
SKP-a 566	LO 57	107	-			
SKP-a 601	NF 72	37	Ⅲ-4			SBは
SKP-a 603	NH 70	26・29・30	-			SBた
SKP-a 605A	NG 70	31・40・106	Ⅲ-4	削器B		SBへ
SKP-a 605B	NG 70	31・106	Ⅲ-4	削器B		SBと
SKP-a 605C	NG 70	29・40・106	Ⅲ-4	削器B		SBつ
SKP-a 605D	NG 70	30・106	Ⅲ-4	削器B		SBて
SKP-a 606A	NG 70	31・74	-			SBと
SKP-a 606B	NG 70	40・106	-			SBへ
SKP-a 606C	NG 70	106	Ⅲ-4			
SKP-a 606E	NG 70	30・106	-			
SKP-a 607A	NG 71	106	Ⅲ-4			
SKP-a 607B	NG 71	106	Ⅲ-4			
SKP-a 607C	NG 71	106	Ⅲ-4			
SKP-a 608A	NG 70	30・106	Ⅲ-4	RF, 石皿, 石錘B		SBと
SKP-a 608B	NG 70	28・30・106	Ⅲ-4a	RF, 石皿, 石錘B		SBつ
SKP-a 608D	NG 70	106	-	RF, 石皿, 石錘B		SBて
SKP-a 609A	NG 70	41・106	Ⅲ-4b	円盤状土製品		SBほ
SKP-a 609B	NG 70	41・106	Ⅲ-4b	円盤状土製品		
SKP-a 610A	NF 71	41	Ⅲ-5			SBほ
SKP-a 611B	NG 70	41	Ⅲ-4			SBほ
SKP-a 611C	NG 70	106	Ⅲ-4			
SKP-a 612	NF 70	32・41	Ⅲ-5			
SKP-a 613C	NF 71	87	Ⅲ-4			
SKP-a 613D	NF 71	38・39・40・87	Ⅲ-4			SBふ, SBひ
SKP-a 615A	NF 69	付図3	Ⅲ-4	石皿, 凹石Bb		
SKP-a 615B	NF 69	32	-	石皿, 凹石Bb		SBな
SKP-a 615C	NF 69	41	Ⅲ-4	石皿, 凹石Bb		SBほ
SKP-a 615D	NF 69	付図3	Ⅲ-5	石皿, 凹石Bb		
SKP-a 617B	NE 70	33・70	Ⅲ-4	円盤状土製品, 削器F, 石錘B		SBに
SKP-a 617C	NE 70	33・70	Ⅲ-4	円盤状土製品, 削器F, 石錘B		
SKP-a 618A	NI 71	20・24・25	-	円盤状土製品, 削器B		SBさ, SBそ, SBせ
SKP-a 618B	NI 71	23	Ⅲ-4	円盤状土製品, 削器B		
SKP-a 618C	NI 71	23	-	円盤状土製品, 削器B		
SKP-a 618D	NI 71	23・24	Ⅲ-4	円盤状土製品, 削器B		
SKP-a 618E	NI 71	20・25	-	円盤状土製品, 削器B		SBさ, SBせ, SBそ
SKP-a 619D	NE 71	87・88	Ⅲ-4			
SKP-a 619E	NE 71	40・87	Ⅲ-4			SBへ
SKP-a 619F	NE 71	87	-			
SKP-a 619G	NE 71	37・87・88	Ⅲ-4			SBは
SKP-a 619H	NE 71	41・87・88	-			SBほ
SKP-a 620	NI 71	25・26	Ⅲ-5			SBた
SKP-a 622A	NI 71	23・24	Ⅲ-4			SBせ
SKP-a 622B	NI 71	24	Ⅲ-4			
SKP-a 623B	NE 73	107	Ⅲ-4			
SKP-a 624B	NE 72	107	-			
SKP-a 625A	NH 72	24	Ⅲ-4			SBそ, SBせ
SKP-a 625B	NH 72	24・25	-			
SKP-a 627	NI 72	23・26・27	Ⅲ-4			SBた
SKP-a 628A	NI 71	23・107	Ⅲ-4			SBち
SKP-a 628B	NI 71	23・28・107	-			
SKP-a 629A	NJ 72	20・107	Ⅲ-4			
SKP-a 629B	NJ 72	20・107	-			

第4章 調査の記録

遺構 Na	グリッド	挿 入 Na	土器時期	掲 載 外 出 土 遺 物	備 考	そ の 他
SKP-a 633A	NH 70	27・29・30	Ⅲ-4	凹石Bb		SBつ
SKP-a 633B	NH 70	27・29・30	-	凹石Bb		SBて
SKP-a 634	NI 70	25・26	-			SBた
SKP-a 635A	NG 71	29・30・31・106	Ⅲ-4			SBた
SKP-a 635B	NG 71	29・31・106	Ⅲ-4			
SKP-a 636B	NE 69	33・108	Ⅲ-4	円盤状土製品, 削器D・F, 軽石		SBに
SKP-a 636C	NE 69	108	Ⅲ-4	円盤状土製品, 削器D・F, 軽石		
SKP-a 636D	NE 69	108	Ⅲ-4	円盤状土製品, 削器D・F, 軽石		
SKP-a 638	NH 70	28・31	Ⅲ-4			SBち
SKP-a 639A	NF 70	32・41	-			SBは
SKP-a 639B	NF 70	32	Ⅲ-4			
SKP-a 639C	NF 70	32	-			SBな
SKP-a 640	ND 71	108	-			
SKP-a 641	ND 71	108	Ⅲ-5			
SKP-a 642	ND 71	108	Ⅲ-5			
SKP-a 643	NF 70	32・40	Ⅲ-4			
SKP-a 644	NF 70	32・40	Ⅲ-4			SBへ
SKP-a 645A	NJ 71	20・107	Ⅲ-4			
SKP-a 645B	NJ 71	20・107	Ⅲ-4			
SKP-a 645C	NJ 71	107	Ⅲ-4			
SKP-a 650A	NH 71	25・24・27	Ⅲ-4			SBそ, SBせ
SKP-a 650B	NH 71	23・24	Ⅲ-4			
SKP-a 651B	NI 71	107	-			
SKP-a 651C	NI 71	107	-			
SKP-a 652A	NH 70	27・105	-	凹石Ba		
SKP-a 652B	NH 70	27・105	-	凹石Ba		
SKP-a 653	NI 70	25・24・27	Ⅲ-4			SBそ
SKP-a 654	NH 71	28・106	Ⅲ-4			SBち
SKP-a 656A	NE 70	32・34	Ⅲ-4			SBな
SKP-a 656B	NE 70	32	Ⅲ-4			SBぬ
SKP-a 656C	NE 70	付図3	-			SBぬ
SKP-a 657	NE 70	33	-			SBに
SKP-a 658A	NE 69	33	Ⅲ-5			SBに
SKP-a 658B	NE 69	付図3	Ⅲ-5			
SKP-a 659	NF 71	38・109	-			
SKP-a 660A	NH 71	27・31	Ⅲ-4	円盤状土製品, 搔器B, 凹石Bb		SBつ
SKP-a 660B	NH 71	30・31	Ⅲ-5	円盤状土製品, 搔器B, 凹石Bb		SB上
SKP-a 660C	NH 71	27・29・30	Ⅲ-5	円盤状土製品, 搔器B, 凹石Bb		SBて
SKP-a 660D	NH 71	30	Ⅲ-5	円盤状土製品, 搔器B, 凹石Bb		
SKP-a 661	NH 71	28・105	Ⅲ-4			
SKP-a 662A	NH 71	23・24	Ⅲ-4			SBせ
SKP-a 663A	NF 70	106	Ⅲ-4			
SKP-a 663B	NF 70	30・106	Ⅲ-4			
SKP-a 664A	NJ 72	22	Ⅲ-4			SBす
SKP-a 664B	NJ 72	22	Ⅲ-4			
SKP-a 665A	NJ 71	21	Ⅲ-4a			SBし
SKP-a 665B	NJ 71	付図3	Ⅲ-4a			
SKP-a 665C	NJ 71	付図3	Ⅲ-4a			
SKP-a 667A	NF 69	34	-			SBぬ
SKP-a 667B	NF 69	34	-			
SKP-a 668	NG 70	106	-			
SKP-a 669	NE 70	107	Ⅲ-4			
SKP-a 670A	ND 70	102	Ⅲ-4			
SKP-a 670B	ND 70	102	-			
SKP-a 671	ND 70	102	Ⅲ-4			
SKP-a 672A	NE 69	34・57	-			
SKP-a 672C	NE 69	34・57	Ⅲ-4			SBぬ
SKP-a 673A	NH 71	29	-			SBつ
SKP-a 673B	NH 71	29	-			
SKP-a 674	NE 71	109	Ⅲ-4b			
SKP-a 675	NF 71	38	Ⅲ-5	削器F		SBひ
SKP-a 676	NE 69	109	-			
SKP-a 679A	NH 70	28・30・31	Ⅲ-4			SB上
SKP-a 679B	NH 70	28・30・31	Ⅲ-4			
SKP-a 680	NI 71	28	-			SBち
SKP-a 685	NE 72	付図3	-			
SKP-a 687	NF 72	38	Ⅲ-4	石錘B		SBふ
SKP-a 688	NF 72	37・39	Ⅲ-4			SBふ
SKP-a 689A	NF 72	39・109	Ⅲ-4		朱	
SKP-a 689B	NF 72	39・109	Ⅲ-4		朱	
SKP-a 690	NF 71	39	-			SBふ
SKP-a 691	NF 72	38	Ⅲ-4			SBひ
SKP-a 694A	NF 71	37・105・109	-			
SKP-a 694B	NF 71	105・109	-			
SKP-a 697	NF 71	38・39	-			SBふ, SBひ
SKP-a 698	NF 72	39・105	-			SBふ
SKP-a 701	NE 71	109	Ⅲ-4	円盤状土製品		
SKP-a 704	NF 70	40	-			
SKP-a 705	NF 70	32・41	-			SBな
SKP-a 707	NF 70	32	-			SBな
SKP-a 708	NG 71	38・39	-			SBふ
SKP-a 709	NG 71	109	-			
SKP-a 710	NG 71	38・39	Ⅲ-4			SBひ
SKP-a 711	NG 71	105	-			
SKP-a 712	NG 71	29・109	-			
SKP-a 713A	NG 72	109	Ⅲ-4	円盤状土製品		
SKP-a 713B	NG 72	109	Ⅲ-4	円盤状土製品		
SKP-a 715	NF 70	32	-			SBな
SKP-a 717	NF 69	付図3	-			
SKP-a 718	NG 71	30・106	-			
SKP-a 719A	NG 70	106	Ⅲ-4			
SKP-a 723	NG 70	106	-			

第2節 検出遺構と出土遺物

遺構 No.	グリッド	挿 図 No.	土器時期	掲 載 外 出 土 遺 物	備 考	そ の 他
SKP-a 727	NH 71	27・28・105	—			
SKP-a 728	NH 71	27・28・105	Ⅲ-4			
SKP-a 729A	NH 71	105	—			
SKP-a 730	NH 71	105	—			
SKP-a 731	NH 71	108	—			
SKP-a 740	NF 69	41	—			
SKP-a 741	NF 70	付図3	—			
SKP-a 743	NF 69	41	—			
SKP-a 744	NF 69	34	—			
SKP-a 749	NE 69	105	—			
SKP-a 750	NE 69	34	—			SBぬ
SKP-a 752	NF 70	105	—			
SKP-a 753	NF 71	39・109	—			
SKP-a 759	NE 72	109	Ⅲ-4			
SKP-a 760	NE 72	109	—			
SKP-a 764	NH 72	98	—			
SKP-a 765	NH 72	98	—			
SKP-a 768	NI 73	82	—			
SKP-a 769	NI 72	82・83	—			
SKP-a 770	NJ 72	21	—			SBし
SKP-a 771A	NJ 71	20・22	—			SBす
SKP-a 771B	NJ 71	20	—			
SKP-a 772	NJ 71	22	Ⅲ-5			SBす
SKP-a 773	NJ 72	21	—			SBし
SKP-a 774	NF 70	付図3	—			
SKP-a 775A	NJ 72	20・110	Ⅲ-4			
SKP-a 776	NE 70	107	—			
SKP-a 777	NF 71	38・109	—			
SKP-a 778	NJ 72	82・83	Ⅲ-4			
SKP-a 779	NJ 72	20・82・83・110	—			
SKP-a 780	NJ 72	82・83	Ⅲ-4b			
SKP-a 781	NJ 72	110	—			
SKP-a 782	NJ 72	110	Ⅲ-4			
SKP-a 789	NJ 72	82・83・110	Ⅲ-5			
SKP-a 790	NK 73	18・19・100	—			SBこ
SKP-a 791	NI 71	107	—			
SKP-a 793	NJ 74	17	—			SBく
SKP-a 797	NJ 73	82・83・100	—	揺器C		
SKP-a 798	NJ 73	18・19	—			SBこ
SKP-a 799	NJ 73	18・19・82・83	Ⅲ-4			SBけ
SKP-a 800	NJ 74	17・54	—			SBく
SKP-a 801	NF 69	105	—			
SKP-a 802	NF 69	付図3	—			
SKP-a 804	NG 69	106	—			
SKP-a 805	NG 69	106	—			
SKP-a 806	NG 69	106	—			
SKP-a 807	NE 76	92	—			
SKP-a 808	ND 76	付図3	—			
SKP-a 812	NJ 71	21	—			SBし
SKP-a 813A	ND 69	42・101	Ⅲ-4			SBま
SKP-a 815	ND 69	35・101	—			SBね
SKP-a 816	NC 69	36・42	—			SBの
SKP-a 818B	NF 76	110	Ⅲ-4			
SKP-a 821	NG 78	付図3	—			
SKP-a 822A	NE 76	92	—			
SKP-a 822B	NE 76	92	—			
SKP-a 824	NA 74	46	—			SBも
SKP-a 825	NB 74	46	Ⅲ-4	円盤状土製品		SBも
SKP-a 826	NB 75	110	—			
SKP-a 827	NB 74	46	—			SBも
SKP-a 828	NB 73	46	—			SBも
SKP-a 829A	NA 75	111	Ⅲ-4	凹石Cb		
SKP-a 829B	NA 75	111	Ⅲ-4	凹石Cb		
SKP-a 830	NA 75	110	Ⅲ-5			
SKP-a 831	MT 75	111	—			
SKP-a 832	NB 75	111	—			
SKP-a 833	NC 72	62	—			
SKP-a 834A	NC 74	111	—			
SKP-a 834B	NC 74	111	—			
SKP-a 837	NK 73	100	—			
SKP-a 838	NK 73	18・100	—			
SKP-a 840	NK 73	18・19・100	—			
SKP-a 850	NK 74	付図3	—			
SKP-a 855	NK 76	111	—			
SKP-a 856	NK 75	100	—			
SKP-a 857	NK 75	111	—			
SKP-a 858	NK 75	111	—			
SKP-a 865B	NL 75	13・45・91	—			
SKP-a 871	NM 74	45	Ⅲ-4a			SBめ
SKP-a 879	NJ 77	80・110	—			
SKP-a 882	NK 76	111	Ⅲ-4			
SKP-a 887	NL 77	111	—			
SKP-a 889	NL 77	111	—			
SKP-a 891	NL 76	111	Ⅲ-4			
SKP-a 892	NL 76	111	—			
SKP-a 897	NJ 76	80	—			
SKP-a 903	NJ 77	110	Ⅲ-5			
SKP-a 904	NJ 77	80・110	Ⅲ-4			
SKP-a 905	NJ 77	80・110	Ⅲ-4			
SKP-a 912	NJ 78	85	Ⅲ-5			
SKP-a 913	NJ 78	85	—			
SKP-a 914	NJ 78	85	—	石鏃B		

第4章 調査の記録

遺構 No.	グリッド	挿 図 No.	土器時期	掲 載 外 出 土 遺 物	備 考	そ の 他
SKP-a 915	NJ 78	85・86・112	-			
SKP-a 917	NK 79	85・86	Ⅲ-4			
SKP-a 933	NK 73	100	-			
SKP-a 934	NK 73	100	-			
SKP-a 935	NJ 73	18・19	Ⅲ-4			SBこ
SKP-a 953	NH 72	98	-			
SKP-a 956	NH 73	98	-			
SKP-a 985	NJ 78	34・85・112	-			
SKP-a 986	NJ 78	85・112	-			
SKP-a 987	NJ 77	80	Ⅲ-5			
SKP-a 988	NL 72	16	-			SBき
SKP-a 992	NL 75	付図3	-	削器C		
SKP-a 993	NM 74	45・52	-		埋設していた	SBめ
SKP-a 994	NM 75	45	-		埋設していた	SBめ
SKP-a 995	NM 75	45	Ⅲ-5		埋設していた	SBめ
SKP-a 996	NL 76	44	-			SBむ
SKP-a 997	NK 73	52	-			
SKP-a 998	NM 73	付図3	-			
SKP-a 999	NL 76	44	-			SBむ
SKP-a 1000	NB 73	46	-			SBも
SKP-a 1001	NK 73	100	-			
SKP-a 1002	NK 73	100	-			
SKP-a 1004	NK 74	103	-			
SKP-a 1005	NB 73	112	-			
SKP-a 1006	NK 74	103	-	削器F		
SKP-a 1022	NA 74	112	-			
SKP-a 1026	MT 73	付図3	-			
SKP-a 1053	NO 74	71・72	Ⅲ-4			
SKP-a 1056	NO 75	112	-			
SKP-a 1057	NO 75	112	-			
SKP-a 1059	NP 74	71・72	-			
SKP-a 1061	NP 74	付図3	-			
SKP-a 1062	NP 74	71・72	-			
SKP-a 1065	NP 74	71・72	-			
SKP-a 1080	NN 75	76	Ⅲ-5			
SKP-a 1084	NO 74	71・72	-			
SKP-a 1087	NO 74	付図3	-			
SKP-a 1090	NL 75	111	-			
SKP-a 1100A	NK 73	18・19	-			SBこ
SKP-a 1100B	NK 73	付図3	-			
SKP-a 1111	NP 75	付図3	-			
SKP-a 1112	NP 75	付図3	-			
SKP-a 1122	NN 76	付図3	-			
SKP-a 1123	NN 76	76	Ⅲ-5			
SKP-a 1124	NN 75	76	-			
SKP-a 1125	NN 76	76	-			
SKP-a 1128	NO 75	74	-			
SKP-a 1129	NO 75	74	-			
SKP-a 1130	NO 75	74・112	-			
SKP-a 1131	NK 75	100	-			
SKP-a 1132	NK 75	100	-			
SKP-a 1133	NK 75	89	-			
SKP-a 1134	NJ 74	112	-			
SKP-a 1139	NA 68	112	-			
SKP-a 1140	NA 68	112	-			
SKP-a 1202	ND 73	62	-			
SKP-a 1226	NM 72	16	-			SBき
SKP-a 1227	NM 73	15	-			SBか
SKP-a 1228	NM 73	14	-			SBお
SKP-a 1229	NL 73	15	-			SBか
SKP-a 1230	NL 73	14	-			SBお
SKP-a 1231	NL 72	15	-			SBか
SKP-a 1232	NL 72	14	-			SBお
SKP-a 1233	NM 72	16・104	-			SBき
SKP-a 1234	NJ 73	18・19	-			SBけ
SKP-a 1235	NK 73	18・100	-			SBけ
SKP-a 1236	NK 72	19・100	-			SBこ
SKP-a 1237	NJ 73	18・19・100	-			SBけ
SKP-a 1238	NJ 71	21・22	-			SBし
SKP-a 1239	NC 68	35・36・42・101	-			SBね
SKP-a 1240	NC 69	35・101・102	-			SBね
SKP-a 1241	ND 69	35・42・101	-			SBね
SKP-a 1242	NB 68	43	-			SBみ
SKP-a 1246	ND 70	78	-			
SKP-a 1247	NM 73	付図3	-			
SKP-a 1248	NM 73	14	-			
SKP-a 1249	MH 66	付図3	-			
SKP-a 1250	NE 69	109	-			
SKP-a 1251A	NI 70	24・25	-			SBそ
P 215	NP 76	63・110	Ⅲ-4		彩文土器	SKP-a
P 250	NL 77	12・111	Ⅲ-4			SKP-a, SBい
P 260	NM 77	12	Ⅲ-5			SKP-a, SBい
P 267	NM 77	12	Ⅲ-4			SKP-a, SBい
P 283	NL 78	12	Ⅲ-5			SKP-a, SBい
P 326	NK 71	22	Ⅲ-4			SKP-a, SBす
P 360	NM 77	12	Ⅲ-4			SKP-a, SBい
P 1363	NL 74	付図3	-			SKP-a
P 1364	NL 74	付図3	-			SKP-a
P 1367	NL 72	付図3	-			SKP-a
P 2001	NL 72	付図3	-			SKP-a
SKP-b 439P1	NE 75	89	Ⅲ-4		立石, 全部で4基あり	
SKP-b 754	ND 72	62	Ⅲ-4		立石	

第2節 検出遺構と出土遺物

遺構 No.	グリッド	挿 図 No.	土器時期	掲 載 外 出 土 遺 物	備 考	そ の 他
SKP-b 811	NF 76	112	Ⅲ-5			
SKP-b 818A	NF 76	110	-			
SKP-b 874	NM 76	44	Ⅲ-4	三脚石器A		SBむ
SKP-b 888	NL 76	44	Ⅲ-4			SBむ
SKP-b 1024	NA 75	112	Ⅲ-4	凹石Bb		
SKP-b 1194	NB 69	91	Ⅲ-4	凹石Aa		
SKP-b 1258	NO 75	112	-			
P 140	NR 75	121	-		立石(分制・倒立)	SKP-b
P 175	NR 75	付図3	-			SKP-b

遺構 No.	グリッド	挿 図 No.	土器時期	掲 載 外 出 土 遺 物	備 考	そ の 他
SN 3	NL 73	112	Ⅲ-4			
SN 5	NG 76	113	Ⅲ-4	円盤状土製品		
SN 10B	NO 79	120	-			
SN 11	NI 76	113	Ⅲ-4			
SN 13	NR 79	113	Ⅲ-4			
SN 21	ND 77	113	Ⅲ-5			
SN 38F	NS 76	48	Ⅲ-4a		SK38A埋没過程の焼土	
SN 38G	NS 76	48	Ⅲ-4a		SK38A埋没過程の焼土	
SN 46G	NQ 79	47-66	Ⅲ-4		SK45B埋没過程の焼土	
SN 56	NR 76	50	-			
SN 68	NJ 78	113	-			
SN 70	NI 75	113	-			
SN 83	NL 77	113	Ⅲ-4	凹石Ab		
SN 86	NK 73	114	-			
SN 87	NJ 74	113	-			
SN 88	NJ 73	114	-			
SN 89	NL 76	114	-			
SN 199A	NB 70	114	Ⅲ-4			
SN 199B	NB 70	114	-			
SN 210	NF 71	114	-			
SN 211	NG 71	106	-	凹石Bb		
SN 224	ND 69	付図3	-	焼粘土塊、凹石Ab		
SN 228	NH 71	115	Ⅲ-4	鐮形土製品Aa、凹石Ba		
SN 229	NH 71	115	Ⅲ-4	凹石Ba		
SN 267	MT 71	114	-			
SN 492	NK 77	85	Ⅲ-4	石錘B、凹石Aa		
SN 505	KK 46	114	Ⅲ-4	削器B、石皿、凹石Ba		
SN 630	MS 72	115	Ⅲ-4	円盤状土製品、凹石Bb、円盤状石器A、三角形岩版D		
SN 631	MT 71	116	Ⅲ-4	円盤状土製品、焼粘土塊、削器D、掻器A、石器		
SN 684	ND 73	62-121	Ⅲ-5			
SN 1252	NJ 77	114	-			
SN 1253	NE 72	114	-			
SN 1254	MT 69	114	-			

遺構 No.	グリッド	挿 図 No.	土器時期	掲 載 外 出 土 遺 物	備 考	そ の 他
SQ 4	NJ 76	116	-			
SQ 10A	NO 79	120	Ⅲ-4			
SQ 51	MR 68	116	-			
SQ 60	NR 75	117	Ⅲ-5			
SQ 64C	NP 76	118	-			踵を伴うPit、SKP-b?
SQ 65	NJ 73	117	-	磨石B、石錘B		
SQ 69	NF 71	117	-			
SQ 76	MR 66	116	-			
SQ 78	NK 73	116	-			
SQ 91	NK 77	付図3	-			立石
SQ 92	NK 75	117	-			立石
SQ 112	ND 69	108-119	Ⅲ-4			
SQ 113	NE 69	117	-			
SQ 116	NG 70	117	Ⅲ-4	凹石Bb、球状石器A、三脚石器B、三角形岩版C・D		
SQ 117	NG 70	106	-	凹石Bb		
SQ 118	NG 71	117	-			
SQ 119	NG 70	付図3	-			
SQ 124	ND 71	117	-	凹石Bb		
SQ 137	MS 66	118	-			
SQ 154	NB 71	118	-	ミニチュア土器		
SQ 165	NJ 76	118	-			
SQ 168	NK 76	119	-			
SQ 169	NK 76	119	-	削器D		
SQ 170	NI 72	119	-			
SQ 171	MT 71	119	-			
SQ 172	MQ 72	119	-			
SQ 200	NG 72	119	-			
SQ 209	NF 71	119	-			
SQ 231	NE 71	119	-			
SQ 232	NE 71	119	-			
SQ 233	NG 72	119	-			
SQ 271	MH 66	121	-			
SQ 301	ND 73	121	-			列石A周辺SQ
SQ 302	NC 71	122	-			列石A周辺SQ
SQ 303	NB 71	121	-			列石A周辺SQ
SQ 304	NI 77	121	-			列石A周辺SQ
SQ 305	NB 76	121	-			列石A周辺SQ
SQ 306	NB 76	122	-			列石A周辺SQ
SQ 307	NC 77	121	-			列石A周辺SQ
SQ 308	NB 75	122	-			列石A周辺SQ
SQ 309	NI 75	122	Ⅲ-4	磨石B、凹石Bb		列石A周辺SQ
SQ 310	NE 73	122	-			列石A周辺SQ
SQ 311	NB 76	付図5	-			立石
SQ 312	NC 78	付図5	-			立石

第4章 調査の記録

遺構 No	グリッド	挿 図 No	土器時期	掲 載 外 出 土 遺 物	備 考	そ の 他
SQ 313	NJ 75	付図5	-		立石	
SQ 500	NB 74	119	Ⅲ-4	石皿	列石A周辺SQ	
SQ 563	LK 55	123	-			
SQ 564	LK 55	119	-			
SQ 565	LN 56	119	-		日時計状SQ	
SQ 568	LO 58	120	-			
SQ 569	LK 55	120	-			

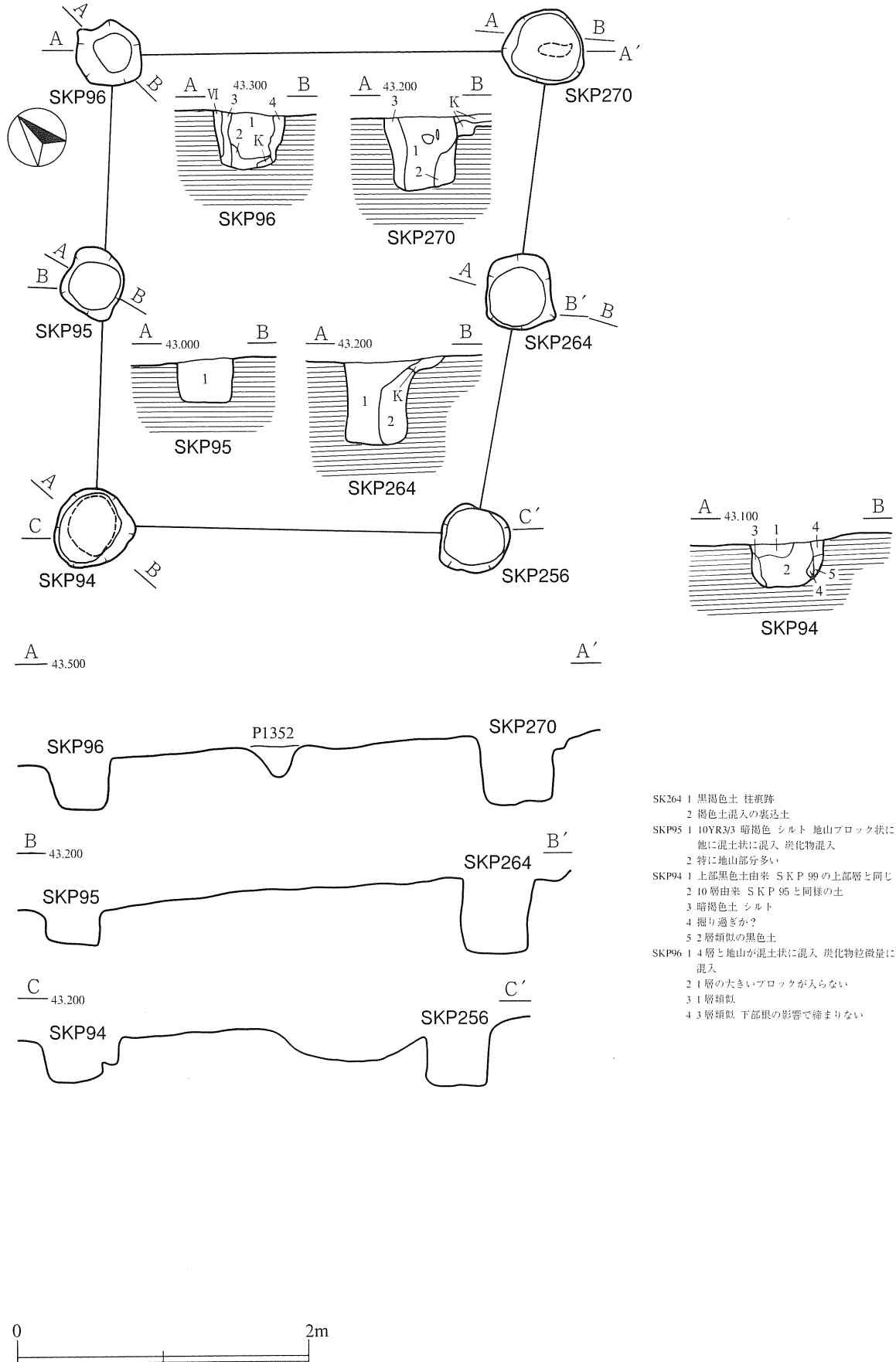
遺構 No	グリッド	挿 図 No	土器時期	掲 載 外 出 土 遺 物	備 考	そ の 他
SR 2	NJ 77	124	Ⅲ-2			
SR 59	NT 76	124	Ⅲ-5			
SR 81	NN 78	125	Ⅲ-2			
SR 93	NK 74	124	Ⅲ-2			
SR 138	MT 73	124	Ⅲ-4			
SR 159	NJ 78	86	-			
SR 490A	NE 76	124	Ⅲ-4	石器、黒曜石		
SR 491	NN 75	124	Ⅲ-5	搔器C		
SR 809	ND 76	124	Ⅲ-5			
SR 940	NI 71	付図3	Ⅲ-4b			

遺構 No	グリッド	挿 図 No	土器時期	掲 載 外 出 土 遺 物	備 考	そ の 他
環産		付図2・付図10	-			
SD 133	MF 69	61	-			
SX 32	NC 70	125	Ⅲ-4			
SX 75	NS 76	125	-	凹石Bb	Pitに粘土塊を充填	
SX 84	NM 73	125	-		Pitに粘土塊を充填	
SX 558A	KP 50	125	Ⅲ-4	炭化材	炭窯、中産埋め戻し	近・現代
SX 655	NF 71	125	Ⅲ-5		Pitに粘土塊を充填	
SX 810	NF 77	110	-			

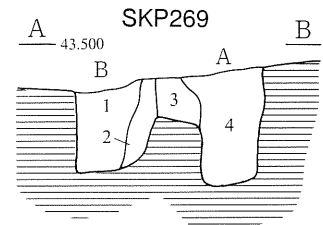
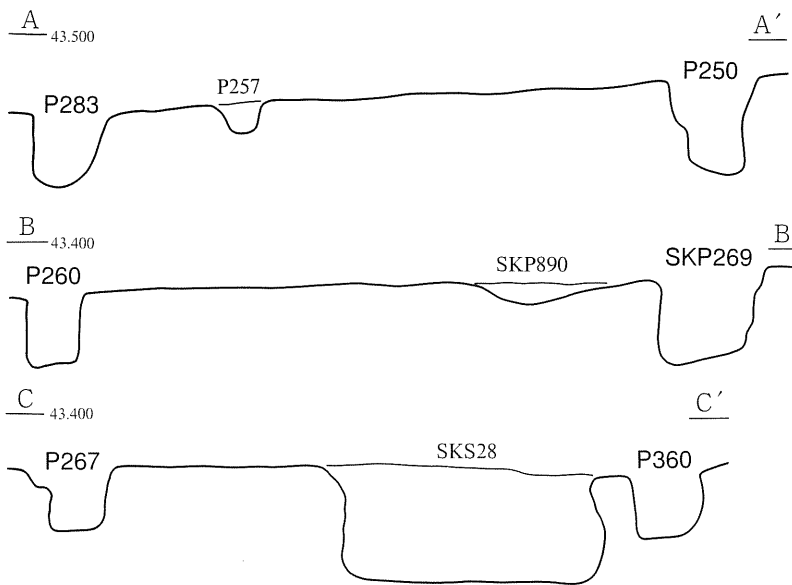
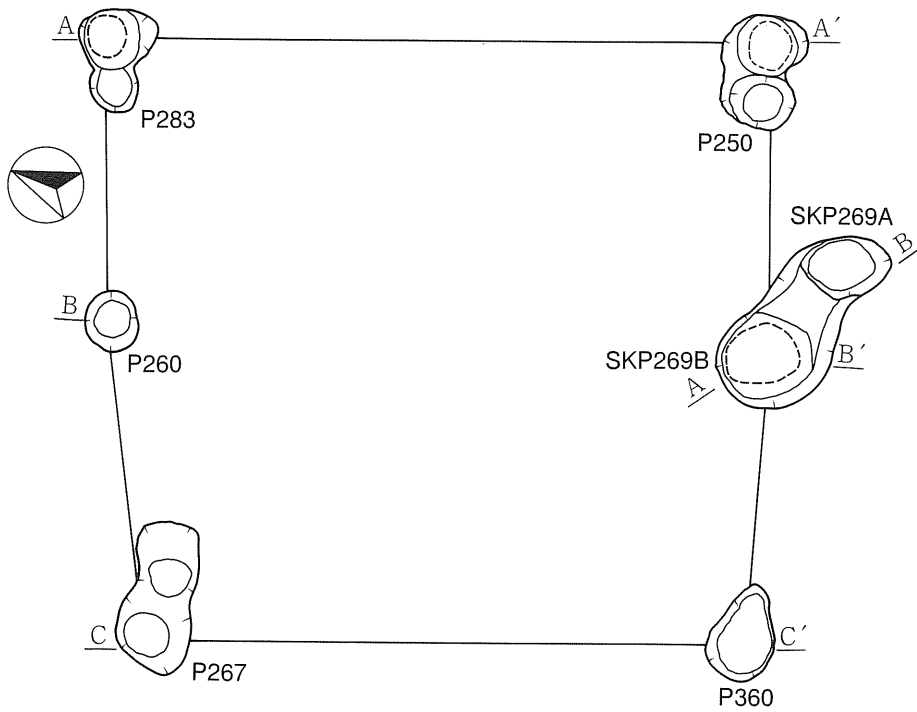
※ 土器時期は埋土中出土の土器の帰属時期を記入している。「-」は出土土器が無いことを示す。

検出遺構一覧表（古代）

遺構 No	グリッド	挿 図 No	土器時期	掲 載 外 出 土 遺 物	備 考	そ の 他
SI 1	NP 78	126-127	古代	三角形石製品、円盤状土製品、石皿、石錘B、磨石B、凹石Ba・Bb・球状石製品B、鉄製品	全面に貼床、古代	
SK 18	NP 77	126-128	古代		SI1底面で確認、確認面焼土化、古代	
SK 19	NQ 77	126-128	古代	搔器A	SI1底面で確認、確認面焼土化、古代	
SK 20	NP 78	126-128	古代		SI1底面で確認、大湯浮石(4層)、古代	
SK 33	NP 77	126-127	古代		SI1底面で確認、古代	
SK 35	NP 77	126-128	古代		SI1底面で確認、古代	
SKP-a 8	NH 77	99	-	凹石Ba、石槍C	古代	
SKP-a 16	NH 77	99	-		古代	
SKP-a 26	NH 76	99	-		古代	
SKP-a 146	NK 74	113	古代		古代	
SKP-a 819	ND 75	付図3	-		古代	
SKP-a 820	NG 77	付図3	-		古代	
SD 67	NG 77	95-306-307・付図7	古代	円盤状土製品、削器E	貼床状、一部未掘のまま中産埋め戻し、古代	



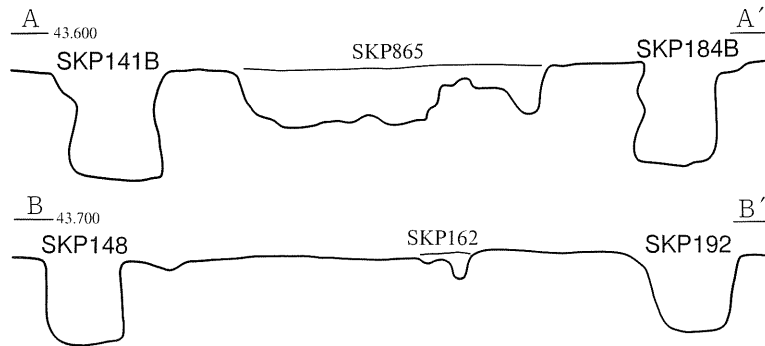
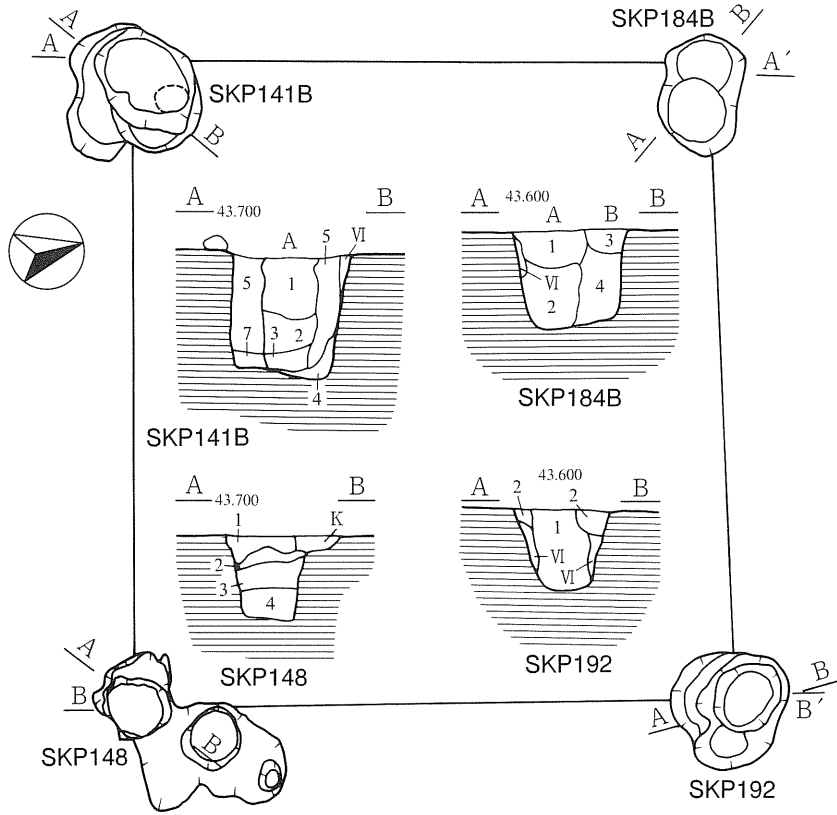
第11図 掘立柱建物跡(1) SBあ



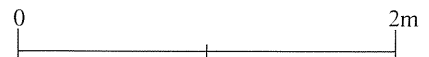
- SK269 1 地山粘土 IVb層土
 2 地山フロックが下方まで混入
 3 色調が1・2層よりやや暗褐色系 混入物は同じ
 4 黒褐色土と地山土の混土状



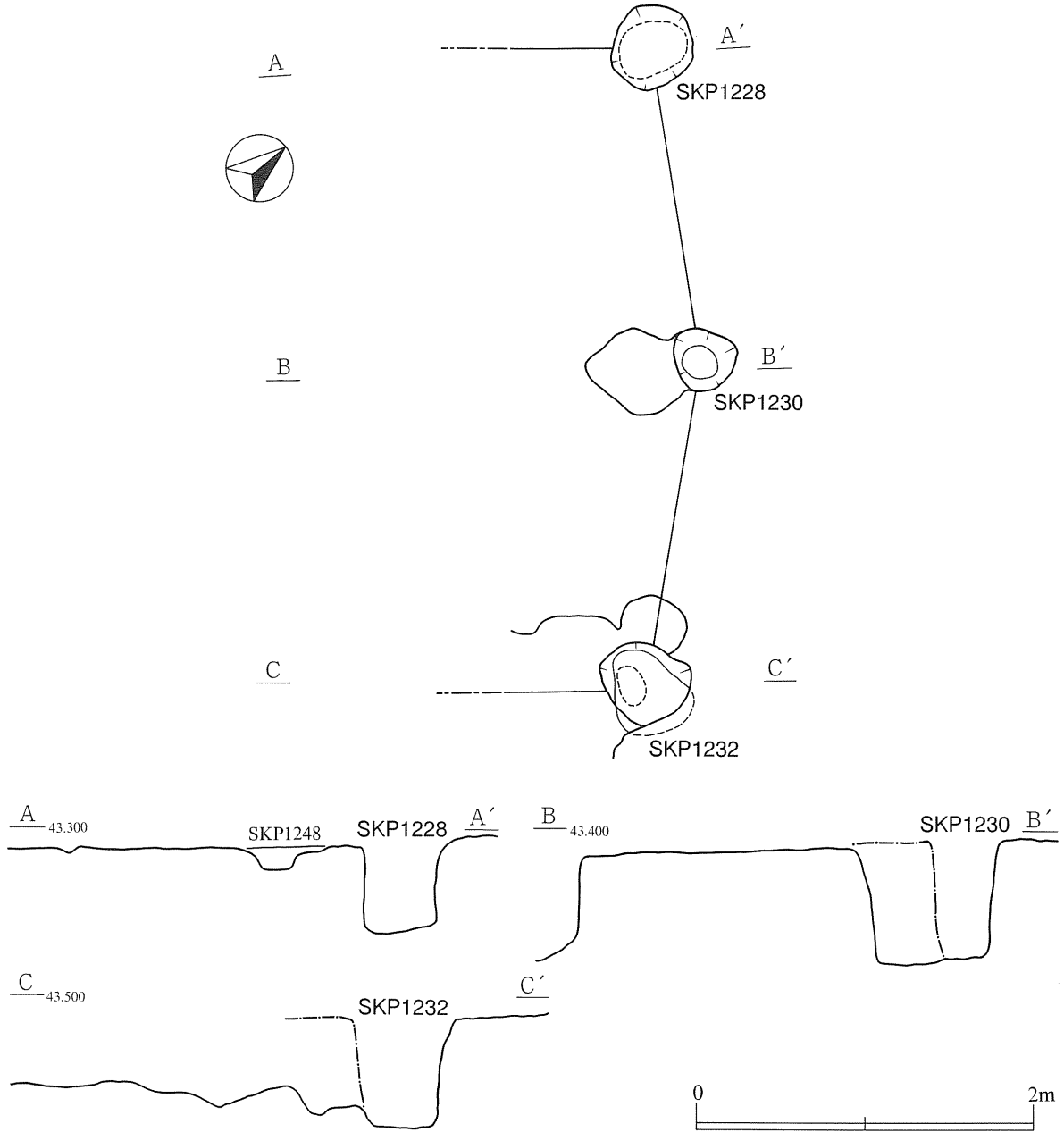
第12図 掘立柱建物跡(2) S Bい



- SKP141 1 10YR4/6 褐色シルト～砂 硬 地山粘土
- 2 10YR3/3 暗褐色シルト やや軟 炭
- 3 7.5YR5/8 明褐色シルト～砂 硬 地山粘土
- 4 10YR2/1 黒色シルト やや軟 炭
- 5 10YR3/4 暗褐色シルト やや硬 地山粘土
- 6 2に類似
- 7 3に類似
- SKP184 1 10YR4/3 に近い黄褐色シルト やや硬
- 2 10YR4/4 褐色シルト やや硬 地山粘土 1層と同じ
- 3 10YR5/6 黄褐色シルト 硬
- 4 10YR4/6 褐色シルト 硬 地山粘土
- SKP148 1 10YR3/3 暗褐色シルト やや軟 地山粒混入
- 2 10YR2/1 黒色シルト やや軟 地山粒混入
- 3 10YR3/3 暗褐色シルト やや軟 地山粒混入
- 4 10YR2/3 黒褐色シルト 軟 地山粒混入
- SKP192 1 10YR2/3 黒褐色シルト やや硬 地山ブロック 炭化物混入
- 2 10YR3/4 暗褐色シルト 軟 根による影響有り



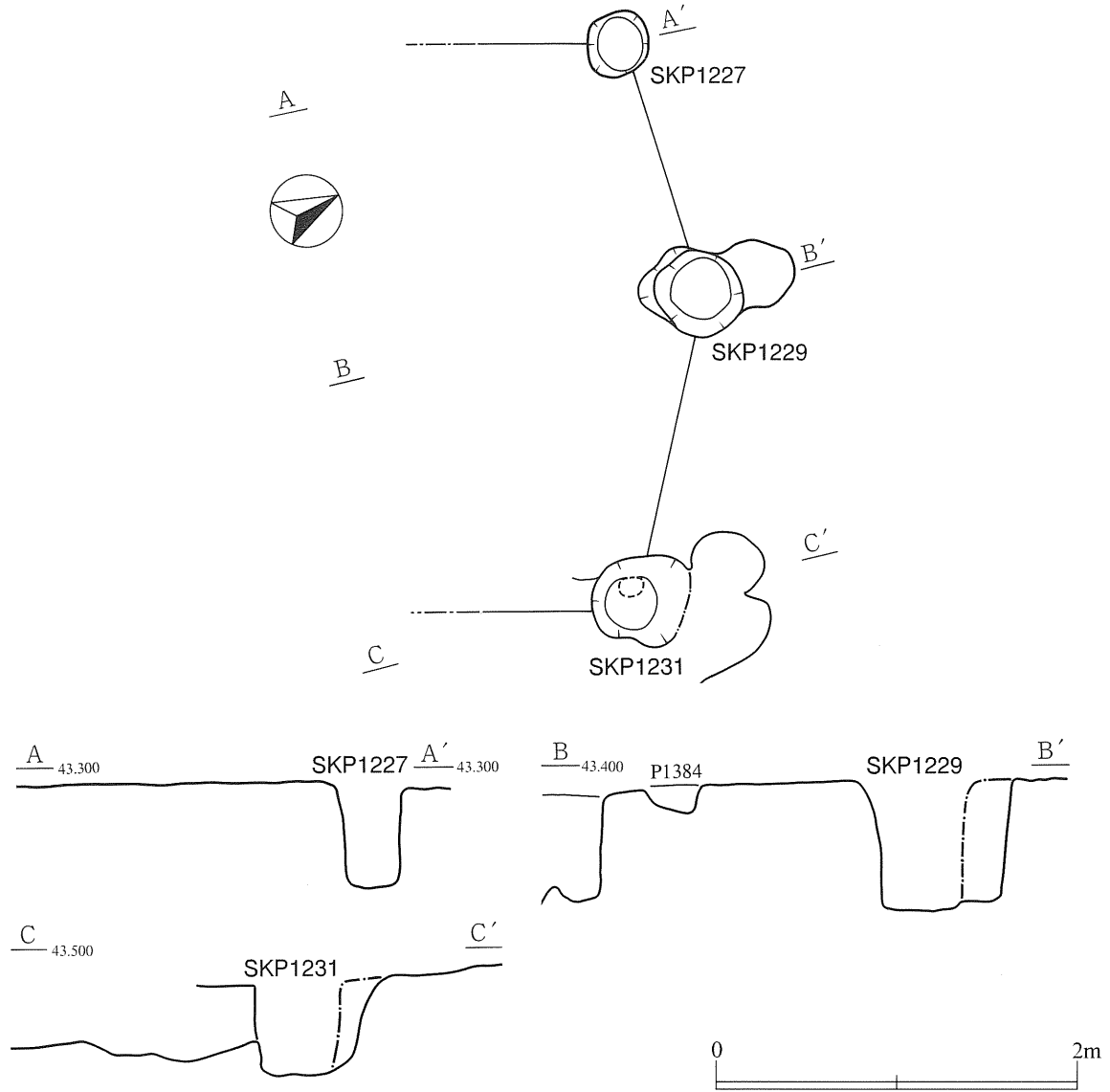
第13図 掘立柱建物跡(3) SBえ



第14図 掘立柱建物跡(4) SBお

第17図 掘立柱建物跡(4) SBく 土層註記

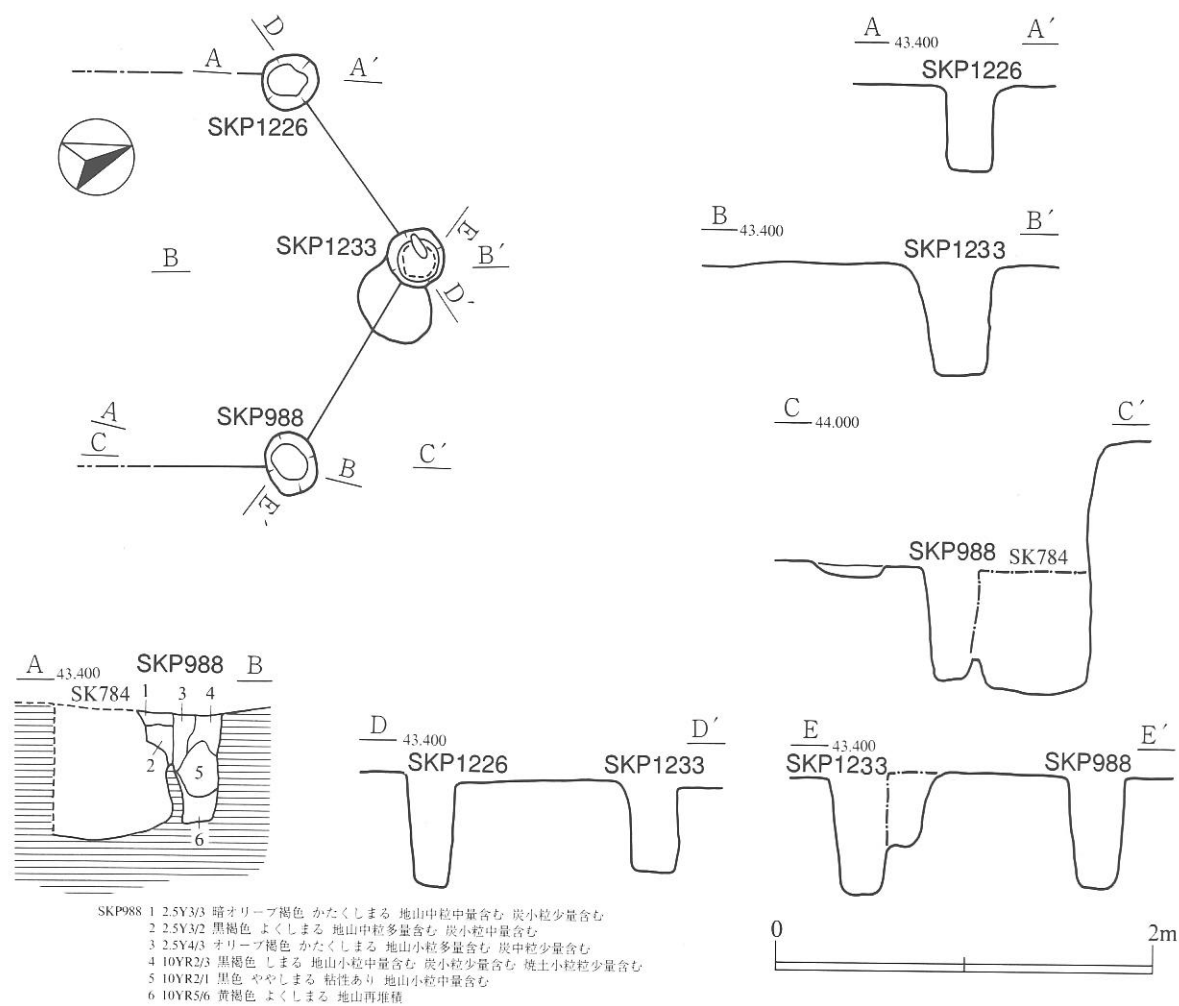
- SKP800
- 1 10YR4/4 褐色シルト 径2～8mmの地山土粒・塊少量 径1～2mmの本炭粒ごくわずかに含まれる やや硬質
 - 2 10YR4/4 暗褐色～褐色シルト 径1～10mmの地山土粒少量 径1～8mmの本炭粒ごくわずかに含まれる 軟質
 - 3 10YR4/4 褐色～黄褐色シルト～粘土 径1～15mmの地山土粒・塊ごくわずかに 径1～2mmの本炭粒ごく少量が含まれる やや硬質
 - 4 10YR4/3 暗褐色～褐色シルト～粘土 径1～8mmの地山土粒・塊中量含まれる
 - 5 10YR4/4 暗褐色～灰褐色粘土～シルト 径1～15mmの地山土塊少量 径20～50mmの地山土塊2箇所程度に混じる やや硬質
 - 6 10YR4/6 褐色～黄褐色粘土～シルト 径15～30mmの地山土塊多量に 径1～3mmの地山土粒ごく少量が含まれる やや硬質
 - 7 10YR3/4 暗褐色シルト～粘土 径1～15mmの地山土粒少量 径2～5mmの本炭粒ごく少量が含まれる 下部に地山
 - 8 10YR4/4 褐色粘土 地山土塊からなる 間に暗褐色土が入り込む 硬質
- SKP793
- 1 10YR5/6 褐色～黄褐色シルト 径1mmの地山土粒ごく少量含まれる 軟質
 - 2 10YR3/3 暗褐色シルト 径1mmの地山土粒 径1～5mmの本炭粒・片少量含まれる やや軟質
 - 3 10YR5/6 黄褐色粘土 地山土ブロックからなる 結質 やや軟質
 - 4 10YR3/3 暗褐色シルト 径1～10mmの地山土粒・塊少～中量含まれる 部分的に白色粘土塊が含まれる やや軟質
 - 5 10YR4/6 黄褐色粘土 径10～15mmの地山土ブロックからなる 間に暗褐色土が埋める やや軟質
 - 6 10YR4/4 暗褐色～褐色粘土～シルト 地山土ブロックの間に暗褐色土が入る やや軟質
 - 7 10YR4/6 黄褐色粘土 地山土ブロックからなる 少量の暗褐色土が含まれる 硬質
 - 8 10YR5/6 黄褐色粘土 地山土ブロックからなる 暗褐色土ほとんど含まず 硬質
 - 9 10YR6/4 灰褐色粘土 柱アタリにできたグライ化粘土 硬質
 - 10 10YR5/6 黄褐色粘土 地山土再埋積土 柱穴堀形底部に埋められた土 硬質
 - 11 10YR2/3 暗褐色粘土～シルト やや軟質 柱穴堀形底部に最初に入った土 やや軟質
- SKP140
- 1 10YR4/3 におい黄褐色シルト 硬炭
 - 2 10YR3/4 暗褐色シルト 硬炭 地山粒混入
 - 3 10YR2/1 黒色シルト 軟 地山粒混入
 - 4 7.5YR5/6 明褐色粘土～シルト やや軟
 - 5 10YR2/3 黒褐色シルト やや軟



第15図 掘立柱建物跡 (5) S Bか

第20図 掘立柱建物跡 (5) SBさ 土層註記

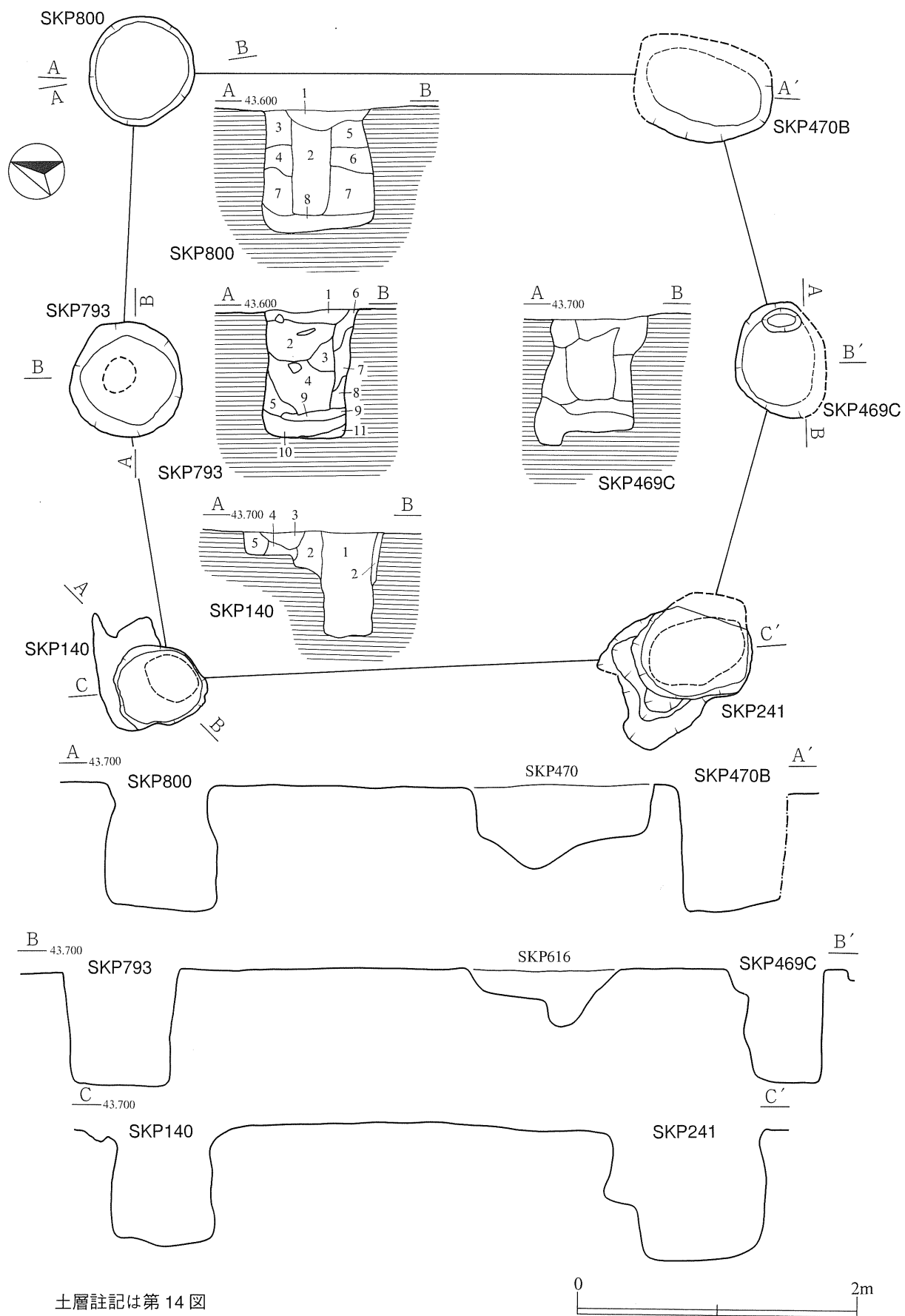
- SKP79
 - 1 10YR2/3 黒褐色シルト やや硬 炭 地山粒混入
 - 2 1層基本で地山ブロックやや多い
 - 3 10YR4/4 褐色シルト やや硬 地山ブロックと黒色土の混土状
 - 4 10YR3/4 暗褐色シルト 硬 IV層土と地山土が互層状に入る
 - 5 10YR2/3 黒褐色シルト やや硬 地山粒 焼土粒 炭化物混入
- SK237
 - 1 10YR5/4 灰褐色粘土～シルト 径2～5mmの地山土粒・塊ごく少量 径2～5mmの本炭粒ごくわずかに含まれる 暗褐色シルトも塊状に含まれる やや硬質
 - 2 10YR3/4 暗褐色シルト 径1～2mmの本炭粒少量 径2～5mmの地山土粒ごくわずかに含まれる 硬質
 - 3 10YR6/6 明灰褐色粘土 径20mm前後のグライ化した地山土塊多量に含まれる やや硬質
 - 4 10YR3/3 暗褐色シルト～粘土下部で径20～30mm前後のグライ化した灰褐色地山土塊を多く含む やや硬質
 - 5 10YR2/3 暗褐色シルト 径5～30mmの地山土粒・塊少～中量含まれる やや硬質
 - 6 10YR4/3 暗褐色シルト 径5～20mmの地山土粒・塊中～多量含まれる やや硬質
 - 7 10YR6/6 明灰褐色粘土～シルト 径20～30mmのグライ化したものを含む地山土塊からなる 硬質
 - 8 10YR6/8 明黄褐色粘土 径30mm程の地山土塊からなる 間にわずかに暗褐色土を含む 硬質
 - 9 10YR2/3 暗褐色シルト～粘土 径5mm程の地山土粒ごく少量が含まれる やや硬質
 - 10 10YR6/6 明灰褐色粘土 径20mmの地山土塊からなる 際に暗褐色土がはいる 硬質
- SK618A
 - 1 10YR3/3 暗褐色粘土～シルト 径1mm程の地山土粒 径2～3mmの本炭粒ごくわずかに含まれる やや硬質
 - 2 10YR4/4 褐色粘土～シルト 地山土粒を主体とし 暗褐色土粒を少量含む
 - 3 10YR2/3 暗褐色シルト 径1mmの地山土粒・径3～5mmの本炭粒を少量含む 軟質
 - 4 10YR2/3 暗褐色シルト 径1mm未満の地山土粒・径3～5mmの本炭粒ごく少量を含む 軟質
 - 5 10YR3/3 暗褐色シルト 径5～8mmの地山土塊・径5～8mmの本炭粒少量含まれる 軟質
 - 6 10YR3/4 暗褐色～褐色シルト～粘土 径5～10mmの地山土粒・塊少～中量含まれる やや軟質
 - 7 10YR2/2 黒褐色～暗褐色粘土～シルト 径1～3mmの地山土粒ごく少量 径3～5mmの本炭粒ごくわずかに含まれる 地山土粒は立ち上がり際に多く混じる やや軟質
 - 8 10YR3/2 暗褐色粘土～シルト 径1～3mmの地山土粒少量を含む やや軟質
 - 9 10YR3/2 暗褐色粘土～シルト 径1～3mmの地山土粒ごくわずかに含む やや軟質
 - 10 10YR3/2 暗褐色粘土 径1～2mmの地山土粒ごく少量が含まれる やや硬質
 - 11 10YR3/3 暗褐色～褐色粘土～シルト 粉状地山土粒ごく少量が含まれる やや硬質
 - 12 10YR3/3 褐色粘土～シルト 全体に粉状地山土粒が少～中量含まれる また径2～3mmの地山土粒ごく少量も含む やや硬質
 - 13 10YR4/3 褐色粘土 ややグライ化し 灰褐色を帯びる 径3～5mmの地山土粒少～中量が含まれる



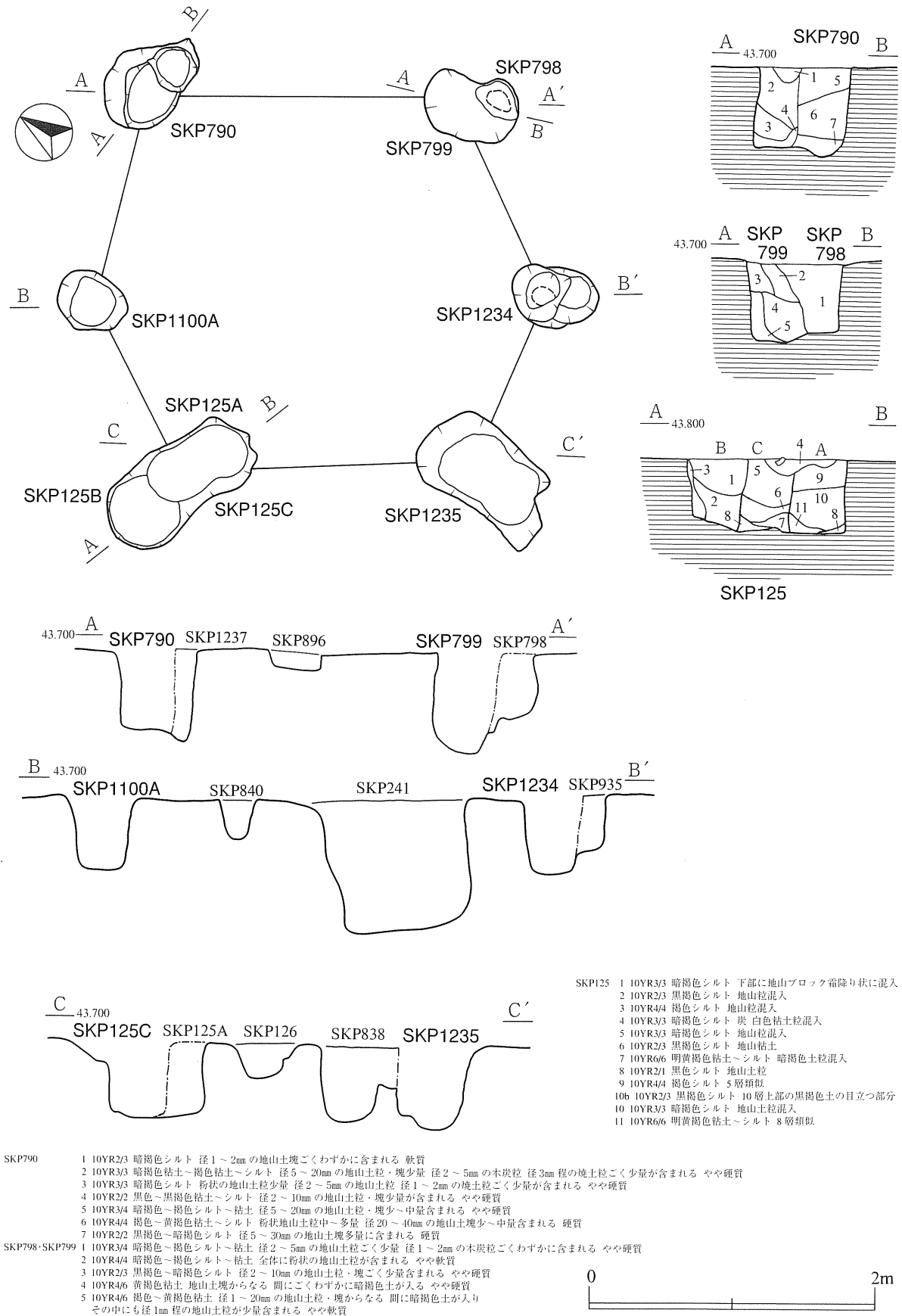
第16図 掘立柱建物跡 (6) S B き

掘立柱建物跡の調査

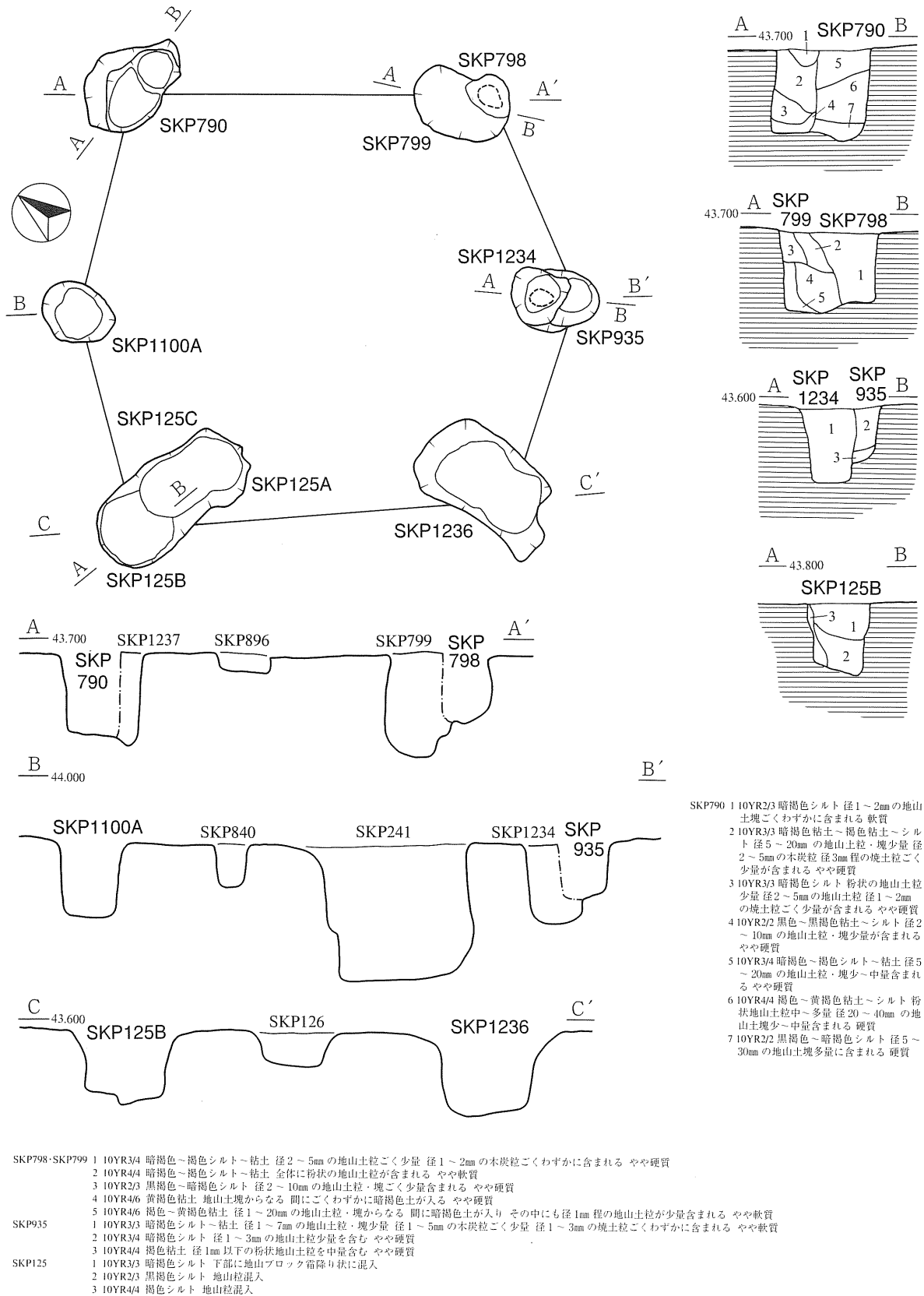




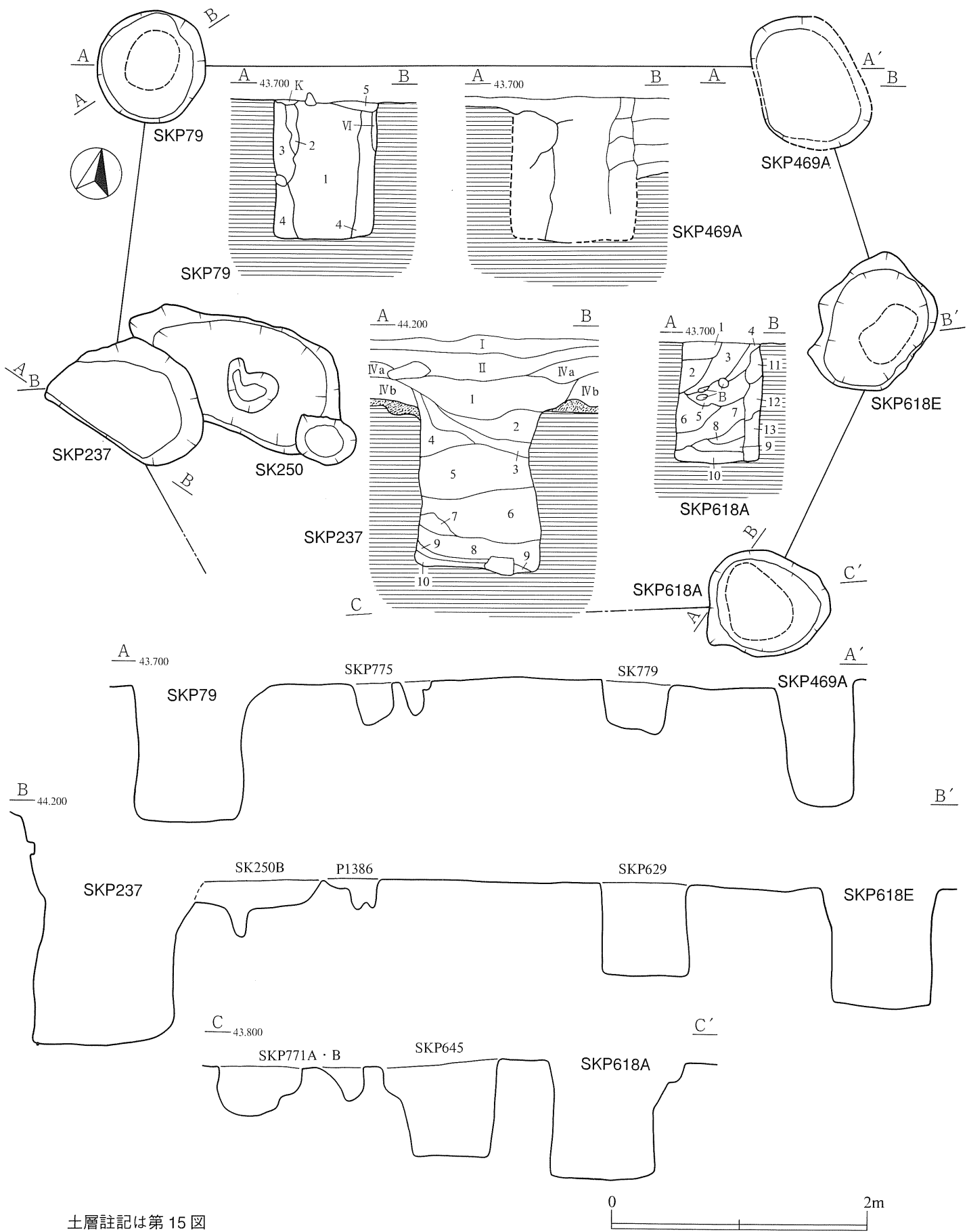
第17図 掘立柱建物跡(7) S B <



第18図 掘立柱建物跡(8) SBけ

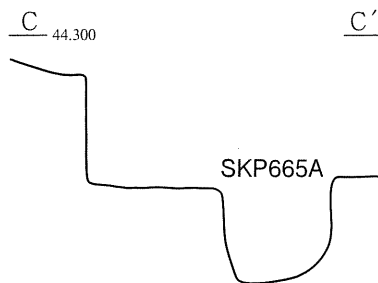
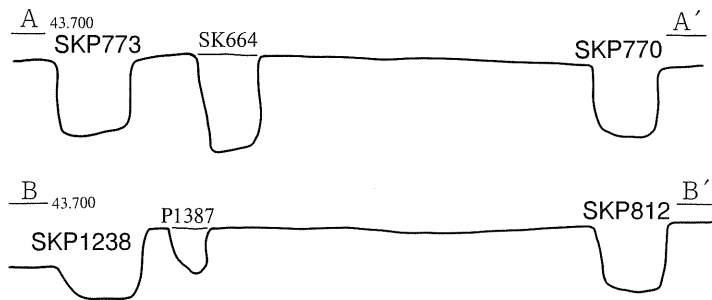
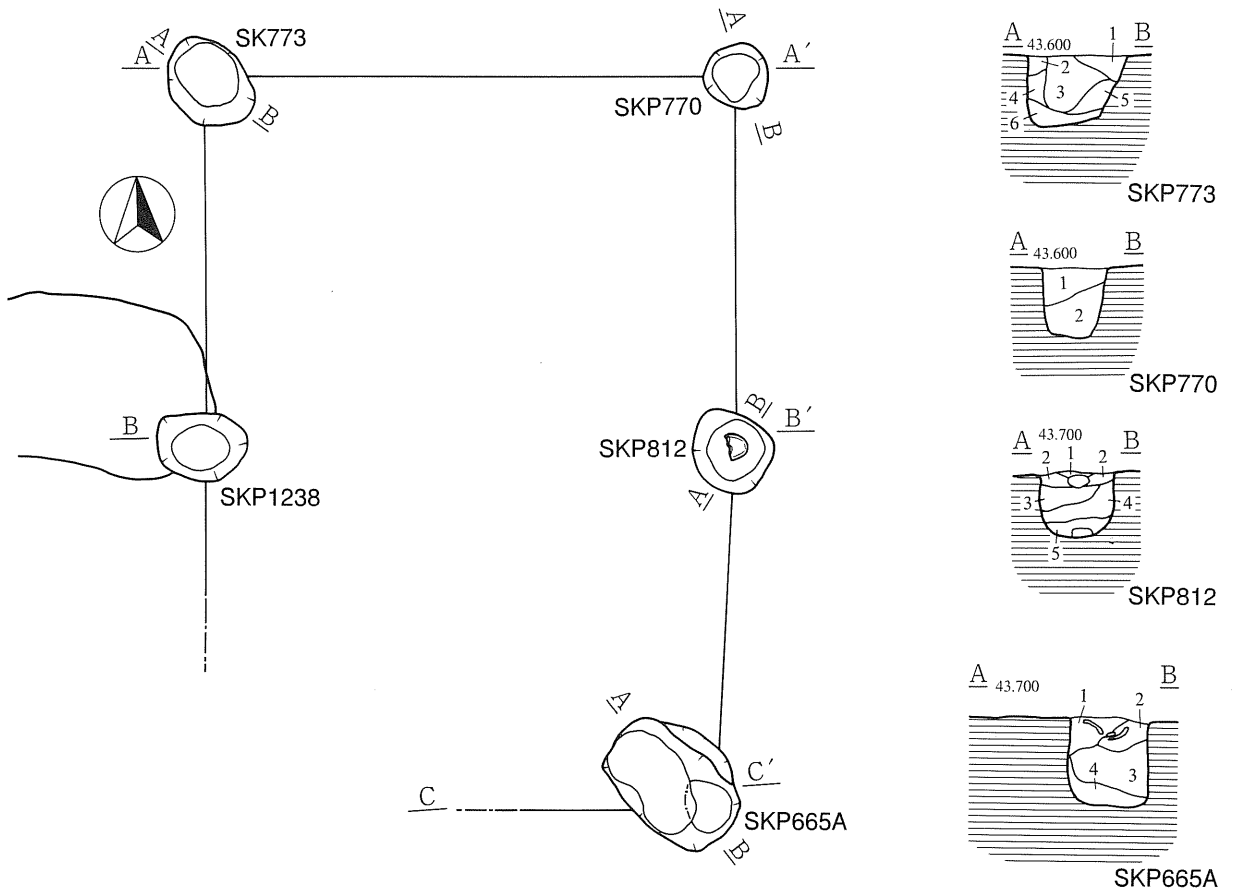


第19図 掘立柱建物跡(9) SBこ

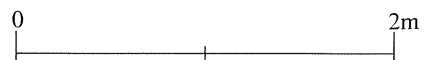


土層註記は第15図

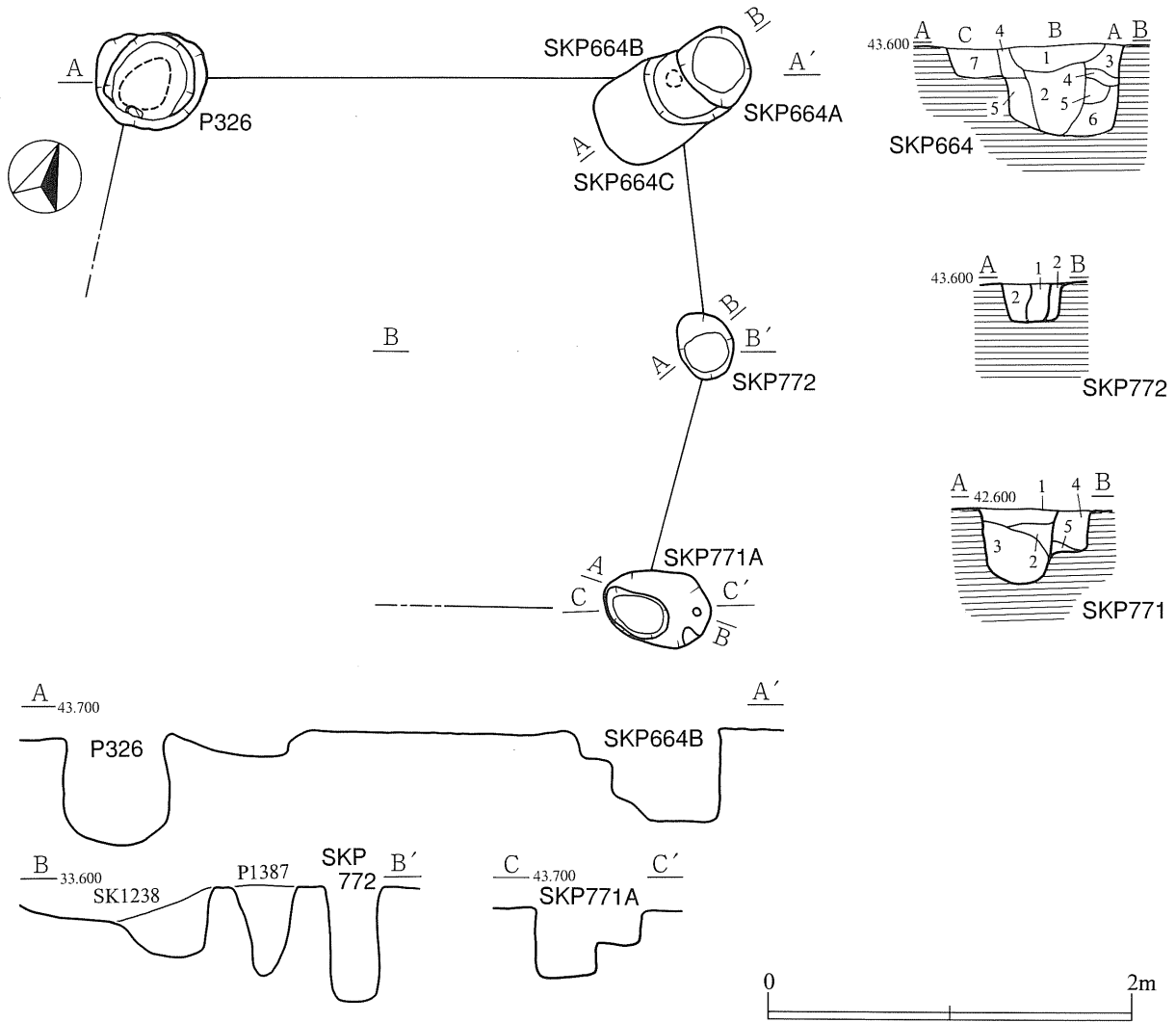
第20図 掘立柱建物跡(10) S Bさ



- SKP773 1 10YR2/2 黒褐色～暗褐色シルト～粘土 径3～8mmの地山土粒少～中量含まれる 軟質
- 2 10YR2/2 黒褐色～暗褐色シルト 径1～5mmの地山土粒ごく少量含まれる 軟質
- 3 10YR2/3 暗褐色シルト 径1～3mmの地山土粒少～中量が含まれる やや軟質
- 4 10YR3/4 暗褐色～褐色粘土 全体に粉状の地山土粒が混じる やや軟質
- 5 10YR3/2 暗褐色～褐色粘土 径2～3mmの地山土粒少量が含まれる 軟質
- 6 10YR2/3 暗褐色シルト 径1mm以下の地山土粒ごくわずかに含まれる 軟質
- SKP770 1 10YR3/2 暗褐色シルト～粘土 径2～10mmの地山土粒・塊ごく少量 径1～8mmの木炭粒ごく少量 径2～3mmの焼土粒ごくわずかに含まれる やや軟質
- 2 10YR4/3 灰褐色～褐色粘土～シルト 全体に粉状の地山土粒が混じる また 径2～3mmの地山土粒少量が含まれる やや軟質
- SK812 1 10YR4/4 褐色粘土～シルト 径1～3mmの地山土粒少～中量含まれる やや軟質
- 2 10YR3/2 黒褐色～暗褐色シルト～粘土 径1～8mmの地山土粒・塊少量 径2～5mmの木炭粒 径3～5mmの焼土粒ごく少量が含まれる 軟質
- 3 10YR4/4 褐色～灰褐色粘土～シルト 径1～5mmの地山土粒ごく少量 径1～2mmの木炭粒ごくわずかに含まれる やや硬質
- 4 10YR3/3 暗褐色粘土～シルト 径5～8mmの地山土粒・塊ごくわずかに含まれる やや硬質
- 5 10YR3/4 暗褐色粘土～シルト 径5～8mmの地山土粒・塊ごくわずかに含まれる
- SK665A 1 10YR3/4 暗褐色粘土～シルト 径1～5mmの地山土粒・径3～5mmの木炭粒少量を含む 径5mm程の焼土粒もごく少量含まれる やや軟質
- 2 10YR3/2 暗褐色粘土～シルト 径1～3mmの地山土粒・径3～5mmの木炭粒ごく少量を含む 径3mmの焼土粒ごくわずかに含まれる やや軟質
- 3 10YR3/3 暗褐色粘土～シルト 径1～3mmの地山土粒ごく少量が含まれる 径1～5mmの木炭粒ごくわずかに含まれる やや軟質
- 4 10YR3/3 暗褐色粘土 径3～10mmの地山土粒少量が含まれる 硬質



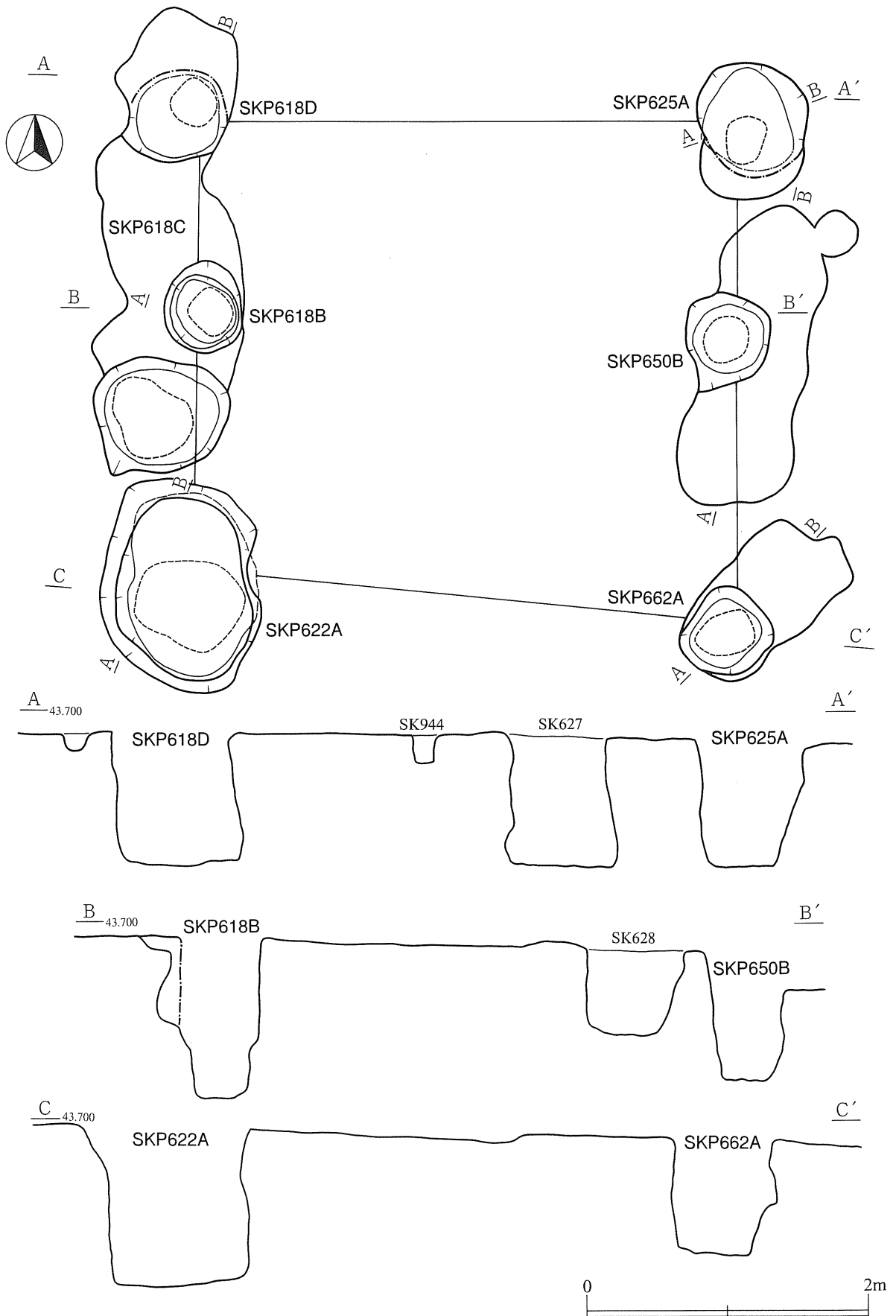
第21図 掘立柱建物跡(11) S B し



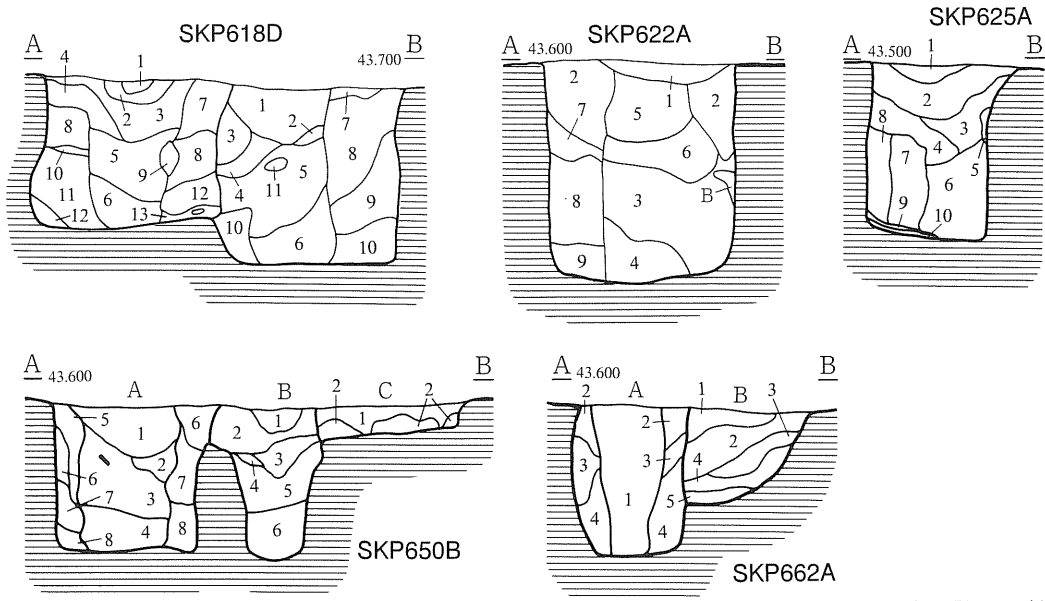
第22図 掘立柱建物跡(12) SBす

第24図 掘立柱建物跡(14) SBそ 土層註記

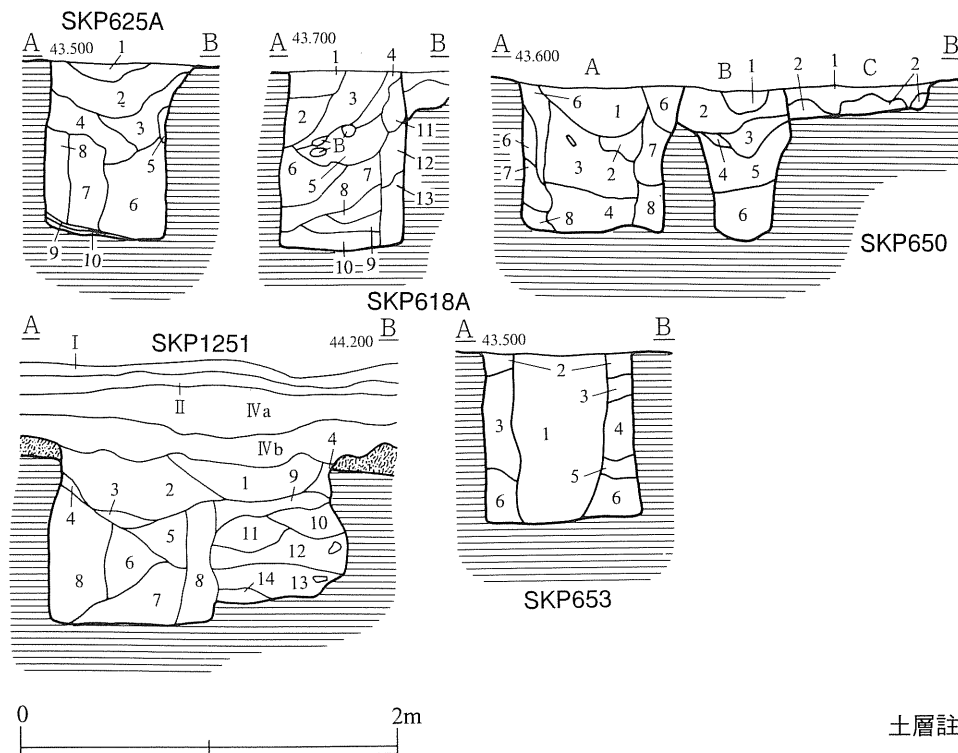
- SK625 SB せの土層註記を参照
- SK618A 1 10YR/3 暗褐色粘土～シルト 径1mm程の地山土粒 径2～3mmの本炭粒ごくわずかに含まれる やや硬質
 2 10YR/4 褐色粘土～シルト 地山土粒を主体とし 暗褐色土粒を少量含む
 3 10YR/2/3 暗褐色シルト 径1mmの地山土粒・径3～5mmの本炭粒を少量含む 軟質
 4 10YR/2/3 暗褐色シルト 径1mm未満の地山土粒・径3～5mmの本炭粒ごく少量を含む 軟質
 5 10YR/3/2 暗褐色シルト 径5～8mmの地山土塊・径5～8mmの本炭粒少量含まれる 軟質
 6 10YR/2/2 暗褐色～褐色シルト～粘土 径5～10mmの地山土粒・塊少～中量含まれる やや軟質
 7 10YR/2/2 黒褐色～暗褐色粘土～シルト 径1～3mmの地山土粒ごく少量 径3～5mmの本炭粒ごくわずかに含まれる 地山土粒は立ち上がり際に多く混じる やや軟質
 8 10YR/3/2 暗褐色粘土～シルト 径1～3mmの地山土粒少量を含む やや軟質
 9 10YR/3/2 暗褐色粘土～シルト 径1～3mmの地山土粒ごくわずかに含む やや軟質
 10 10YR/3/2 暗褐色粘土 径1～2mmの地山土粒ごく少量が含まれる やや硬質
 11 10YR/3/3 暗褐色～褐色粘土～シルト 粉状地山土粒ごく少量が含まれる やや硬質
 12 10YR/3/3 褐色粘土～シルト 全体に粉状地山土粒が少～中量含まれる また径2～3mmの地山土粒ごく少量も含む やや硬質
 13 10YR/4/3 褐色粘土 ややグライ化し 灰褐色を帯びる 径3～5mmの地山土粒少～中量が含まれる
- SK650A SB せの土層註記を参照
- SK1251 1 10YR/2/2 黒褐色～暗褐色シルト 径1mm以下の地山土粒ごくわずかに 径5mm程の本炭粒ごく少量 径2～5mmの焼土粒ごくわずかに含まれる やや硬質
 2 10YR/2/3 暗褐色粘土～シルト 径1～5mmの地山土粒ごくわずかに 径1～2mmの本炭粒ごく少量が含まれる 部分的に1mm以下の地山土粒が粉状塊となって混じる やや硬質
 3 10YR/2/3 暗褐色粘土～シルト 径1～5mmの地山土粒ごく少量が含まれる 硬質
 4 10YR/3/2 暗褐色粘土～シルト 径1～3mmの地山土粒ごく少量 径2～5mmの本炭粒ごくわずかに含まれる やや硬質
 5 10YR/3/2 暗褐色粘土～シルト 径1～2mmの地山土粒ごく少量が含まれる やや軟質
 6 10YR/3/3 暗褐色粘土～シルト 径1～3mmの地山土粒ごく少量が含まれる やや軟質
 7 10YR/3/2 暗褐色シルト 径1～2mmの地山土粒ごく少量が含まれる 軟質
 8 10YR/2/3 暗褐色シルト 径2～30mmの地山土粒・塊少～中量 径5～8mmの本炭粒ごく少量が含まれる やや硬質
 9 10YR/2/2 黒褐色～暗褐色粘土～シルト 径1～2mmの地山土粒・径2～3mmの焼土粒ごく少量が含まれる やや軟質
 10 10YR/5/6 暗褐色シルト 地山土塊からなる 間に暗褐色シルトが混じる 硬質
 11 10YR/2/1 黒色～黒褐色シルト～粘土 径1～2mmの地山土粒・径1mm以下の地山土粒ごくわずかに 径15mmの地山土塊少量 径5～8mmの本炭粒ごく少量が含まれる やや硬質
 12 10YR/2/1 黒色～黒褐色シルト～粘土 径1mm以下の地山土粒ごくわずかに含まれる やや軟質
 13 10YR/2/2 黒褐色～暗褐色粘土～シルト 径1mm以下の地山土粒ごくわずかに 径5～8mmの本炭粒ごく少量が含まれる やや軟質
 14 10YR/2/3 暗褐色～黒褐色粘土～シルト 径3mm～10mm程の地山土粒・塊少量が含まれる やや硬質
- SK653 1 10YR/2/3 暗褐色粘土～シルト 径2～10mm程の地山土塊が少量含まれる 軟質 径2～3mmの本炭粒もごく少量をならある
 2 10YR/4/4 暗褐色粘土 径1mm前後の地山土粒ごく少量含まれる 黄褐色地山土と暗褐色土が均等に混じり合っている やや硬質
 3 10YR/5/8 黄褐色粘土 地山粘土の再堆積土 地山土塊からなる 間隙に暗褐色土が埋まる
 4 10YR/2/3 暗褐色粘土～シルト 径10～40mmの地山土塊が中量含まれる やや軟質
 5 10YR/5/6 黄褐色粘土 地山土塊からなる やや軟質
 6 10YR/2/3 暗褐色粘土～シルト 径10mm前後の地山土塊が少量含まれる



第23図 掘立柱建物跡 (13) S B せ

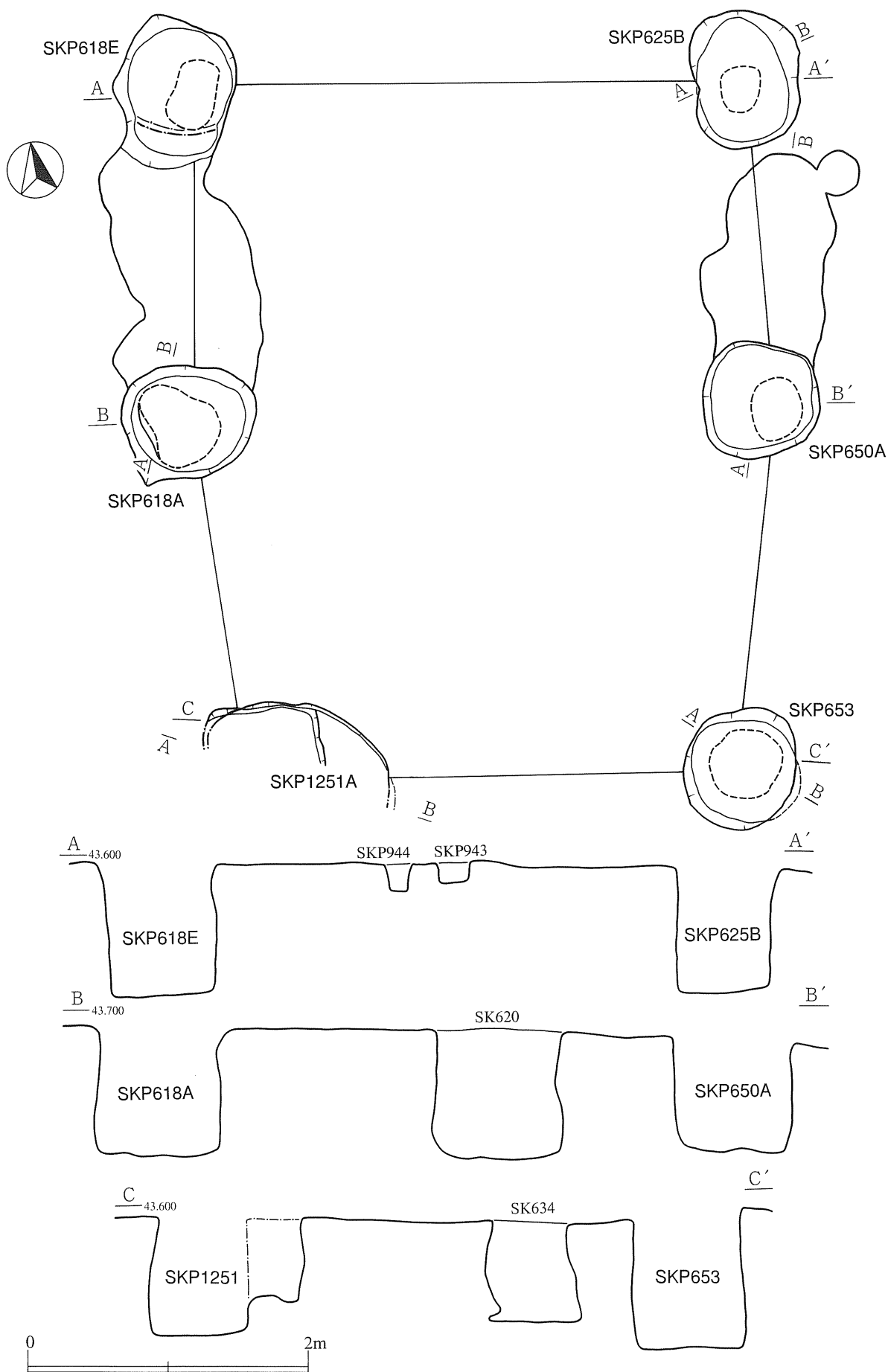


土層註記は付表1

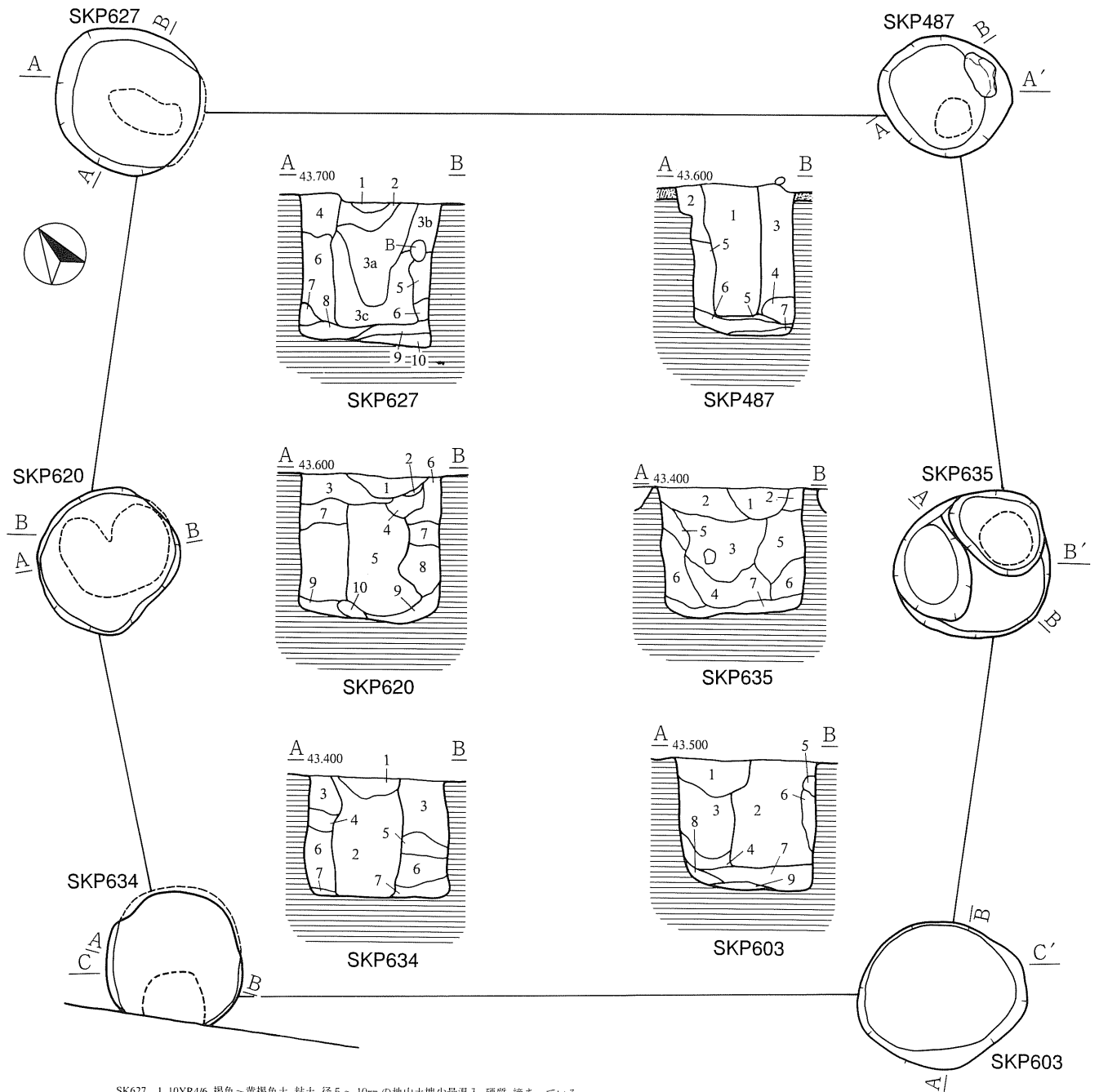


土層註記は第22図

第24図 掘立柱建物跡(14) S Bせ・S Bそ

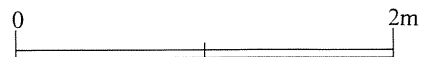


第25図 掘立柱建物跡 (15) S B ぞ

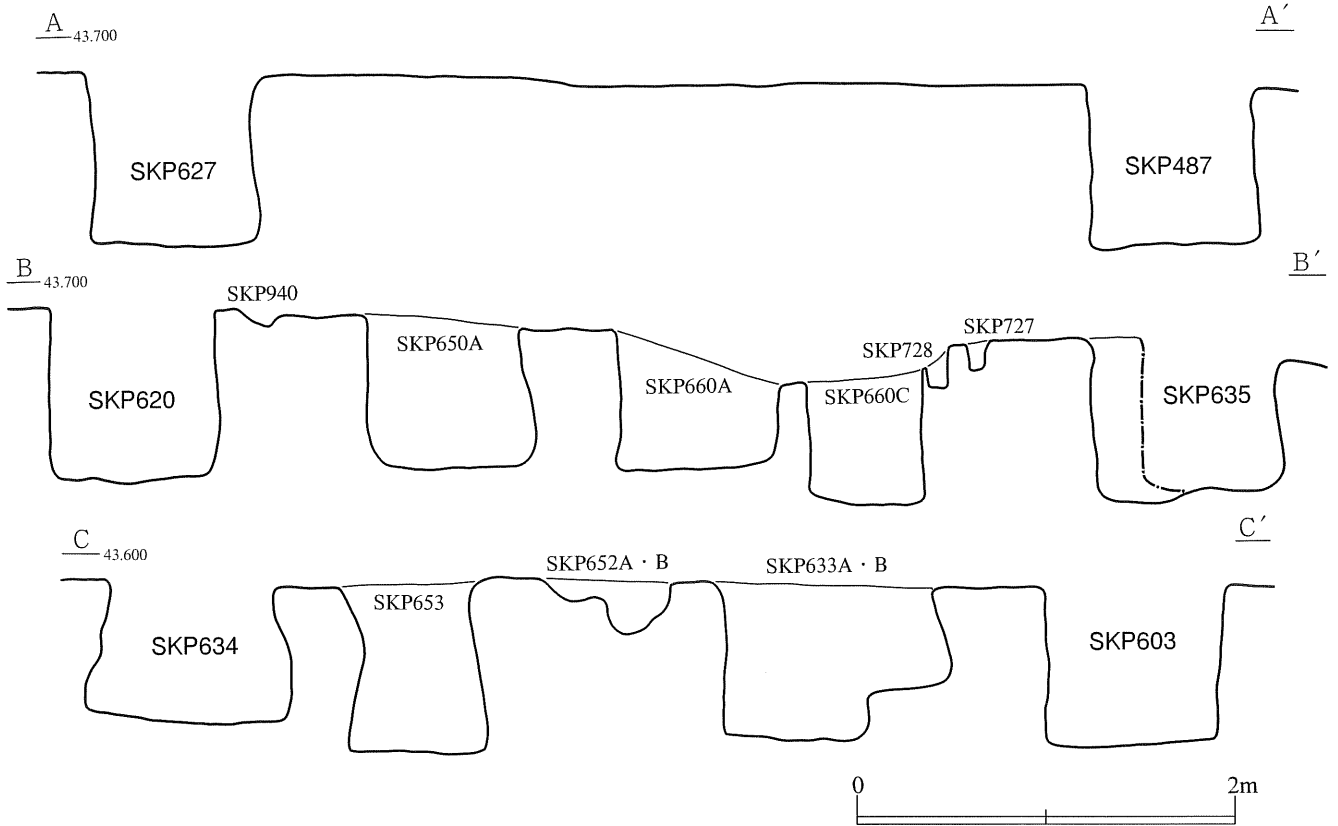


- SK627 1 10YR4/6 褐色～黄褐色土 粘土 径5～10mmの地山土塊少量混入 硬質 縮まっている
 2 10YR3/3 暗褐色土 粘土～シルト 径2～3mmの地山土粒少量粉状の褐色土斑状に混じる 軟質
 3a 10YR3/4 暗褐色土 粘土～シルト 褐色粘土をベースとし 粉状地山土粒が全体に混じる 孔隙多い 極めて軟質
 3b 10YR3/3 暗褐色土 粘土～シルト 暗褐色シルトをベースとし 粉状地山土粒が斑状に混じる 径2～10mmの地山土塊少量混入 やや軟質
 3c 10YR3/3 暗褐色シルトをベースとし 径5～10mmの地山土塊が中量混入 孔隙多く 極めて軟質
 4 10YR4/3 褐色～暗褐色土 シルト 径10～20mmの地山土塊多量に含まれる 硬質 縮まっている
 5 10YR2/3 暗褐色土 シルト～粘土 径3～15mmの地山土粒 塊中量含まれる 硬質
 6 10YR4/6 褐色～黄褐色土 粘土 南側では暗褐色シルトが斑状に混じる 硬質
 7 10YR3/4 暗褐色土 褐色シルト 暗褐色土をベースとし 径5～10mmの地山土塊が中量混入 硬質
 8 10YR4/6 黄褐色土 粘土 暗褐色シルトが斑状に混じる 硬質
 9 10YR5/6 黄褐色土 砂質土 (地山土中に含まれる土) 硬く締まる
 10 10YR5/6 黄褐色粘土をベースとし 砂粒を少量含む 硬質
- SK620 1 10YR3/4 暗褐色粘土～シルト 地山粘土と黒褐色とが均質に混じり合った土 硬質
 2 10YR2/2 ブロックとして混入した黒褐色シルト やや軟質
 3 10YR3/4 暗褐色～シルト 径5～20mmの地山土ブロックが少量含まれる やや軟質
 4 10YR4/4 褐色～暗褐色粘土 地山土粒 (径3mm以下) を主体とし 暗褐色土粒が混じり合った土 やや軟質
 5 10YR3/4 暗褐色粘土～シルト 径2～15mmの地山土粒 塊少量含まれる また径10mm前後の木炭片も僅かに含まれる 軟質
 6 10YR3/3 暗褐色粘土～シルト 径2～3mmの地山土粒ごくわずかに含まれる 軟質
 7 10YR4/4 褐色粘土 地山再堆積土を主体とし 径5～6mmの地山土粒 塊を中量含む 硬質
 8 10YR3/4 径20～40mmの地山土ブロックを主体とし 径5～6mmの地山土粒を中量含む 硬質
 9 10YR3/4 暗褐色～褐色粘土 やや軟質
 10 10YR4/6 地山土ブロック

第27図下に続く

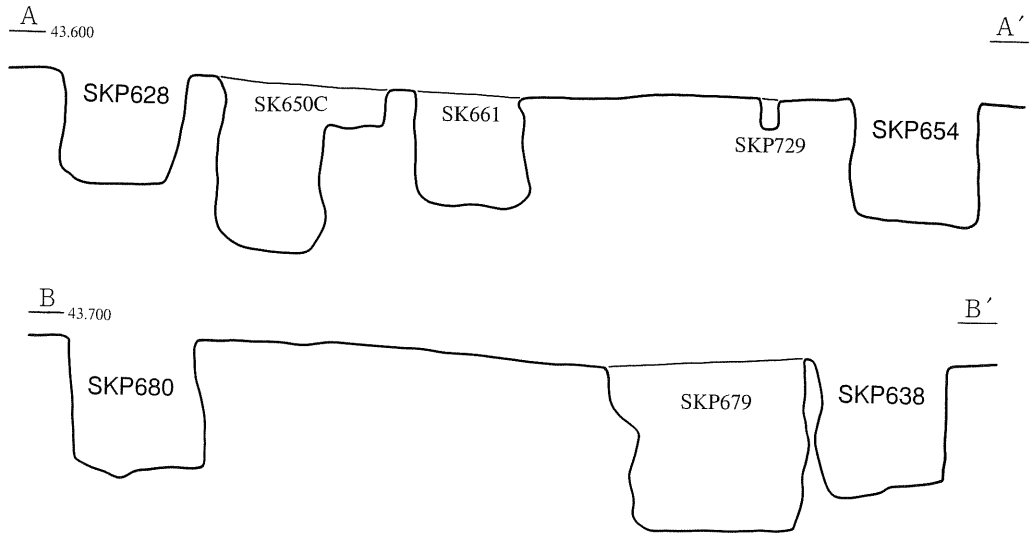
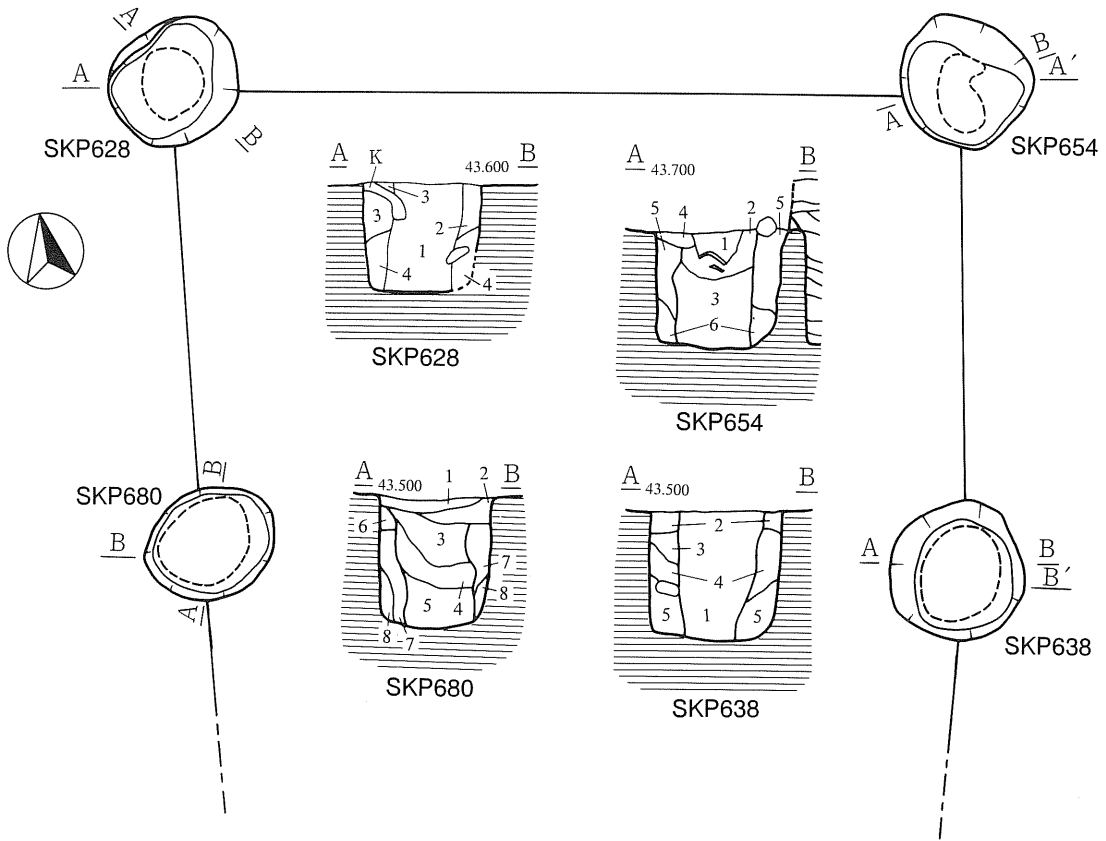


第26図 掘立柱建物跡 (16) S B た

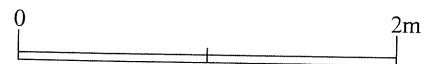


- SK634 1 10YR4/4 褐色～黄褐色粘土 地山粘土を主体とする 隙にごくわずかに暗褐色土が入る やや硬質 他にいくつかの柱穴にある様に列石内部の削土を母材とする粘土層
- 2 10YR3/4 暗褐色粘土～シルト 径2～8mmの地山土粒少量含まれる また 黒褐色土塊少量が含まれる 軟質
- 3 10YR4/4 褐色粘土 径20～40mmの地山土塊少～中量が含まれる 暗褐色土塊には径2～3mmの地山土粒少量が含まれる 硬質
- 4 10YR2/3 暗褐色シルト 径1～2mmの地山土粒ごく少量 径10～15mmの地山土塊少～中量が含まれる やや軟質
- 5 10YR3/4 暗褐色～褐色粘土～シルト 径1～5mmの地山土粒少量が含まれる やや硬質
- 6 10YR4/4 褐色～黄褐色粘土 地山土を主体とする粘土 間に僅かに暗褐色土が入る やや硬質
- 7 10YR3/3 暗褐色シルト 径5～10mmの地山土粒ごく少量含まれる やや硬質
- SK487 1 10YR3/3 暗褐色シルト～粘土 径3～15mmの地山土粒・塊を中量 径3～5mmの木炭粒を少量含む やや軟質
- 2 10YR2/3 暗褐色シルト～粘土 径1～2mmの地山土粒ごく少量含む やや硬質
- 3 10YR4/4 褐色～黄褐色粘土 地山土を母材としたなかに 粉状の暗褐色土が少量混じる また 上部に径1mm前後の木炭粒ごく僅かに混じる 硬質で締まる
- 4 10YR2/3 暗褐色シルト 柱穴裏込め土にブロック状に混じった暗褐色土塊 軟質
- 5 10YR4/6 黄褐色粘土 柱アタリ下面に敷かれた地山粘土 硬く締まる
- 6 10YR3/2 暗褐色シルト～粘土 径5～8mmの地山土塊が少量混じる 硬く締まる
- 7 10YR2/2 暗褐色シルト～粘土 径2～3mmの地山土粒少量混じる 硬質
- SK635 1 10YR4/4 暗褐色～褐色粘土 粉状の暗褐色土粒を少量含まれる 径1mm前後の木炭粒ごくわずかに含まれる 硬質
- 2 10YR4/3 暗褐色～褐色粘土 径2～5mmの地山土粒少量 径1mm未満の木炭粒ごく僅かに含まれる やや硬質
- 3 10YR3/4 暗褐色粘土～シルト 径5～15mmの地山土塊中量 径2～3mmの木炭粒少量混じる 軟質
- 4 10YR4/4 暗褐色～褐色シルト～粘土 径8～15mmの地山土粒ごく少量含まれる 径5～8mmの木炭片少量混じる
- 5 10YR4/4 暗褐色～褐色粘土～シルト 径10～20mmの地山土塊多量に含まれる 黒褐色シルト・暗褐色シルト・地山土塊が混じり合った土 やや硬質
- 6 10YR4/6 褐色～黄褐色粘土 ほとんど純粋な地山粘の再堆積土 暗褐色シルトが斑状に混じる やや硬質
- 7 10YR2/3 暗褐色シルト 径8～10mmないし粉状の地山粘土が少量含まれる やや軟質
- SK603 1 10YR3/3 暗褐色シルト～粘土 径5～8mmの地山粘土塊が少量混じる 南側(図左側)で地山土塊の混じる割合が幾分高い 径3～4mmの木炭粒ごくわずかに混じる やや硬質
- 2 10YR3/3 暗褐色シルト～粘土 径5～8mmの地山粘土塊わずかに混じる ごく少量の焼土粒も混じる やや軟質
- 3 10YR4/6 褐色～黄褐色粘土 径10～30mmの地山粘土塊の間を暗褐色土かシルトが埋める
- 4 暗褐色～黒褐色シルト～粘土 径10～20mmの粘土塊を多く含む やや軟質
- 5 黄褐色粘土 地山粘土のブロック 柱根裏込め土の残存
- 6 暗褐色シルト 径10～20mmの地山粘土塊を中量含む 裏込土やや硬質
- 7 灰褐色～褐色粘土 酸化鉄分を多く含んだ粘土 この面が柱根底面 硬質
- 8 暗～黒褐色シルト～粘土 径1mm程の地山粘土粒をごく少量含む 硬質
- 9 暗褐色シルト～粘土 径2～3mmの地山粘土をごく少量含む 硬質

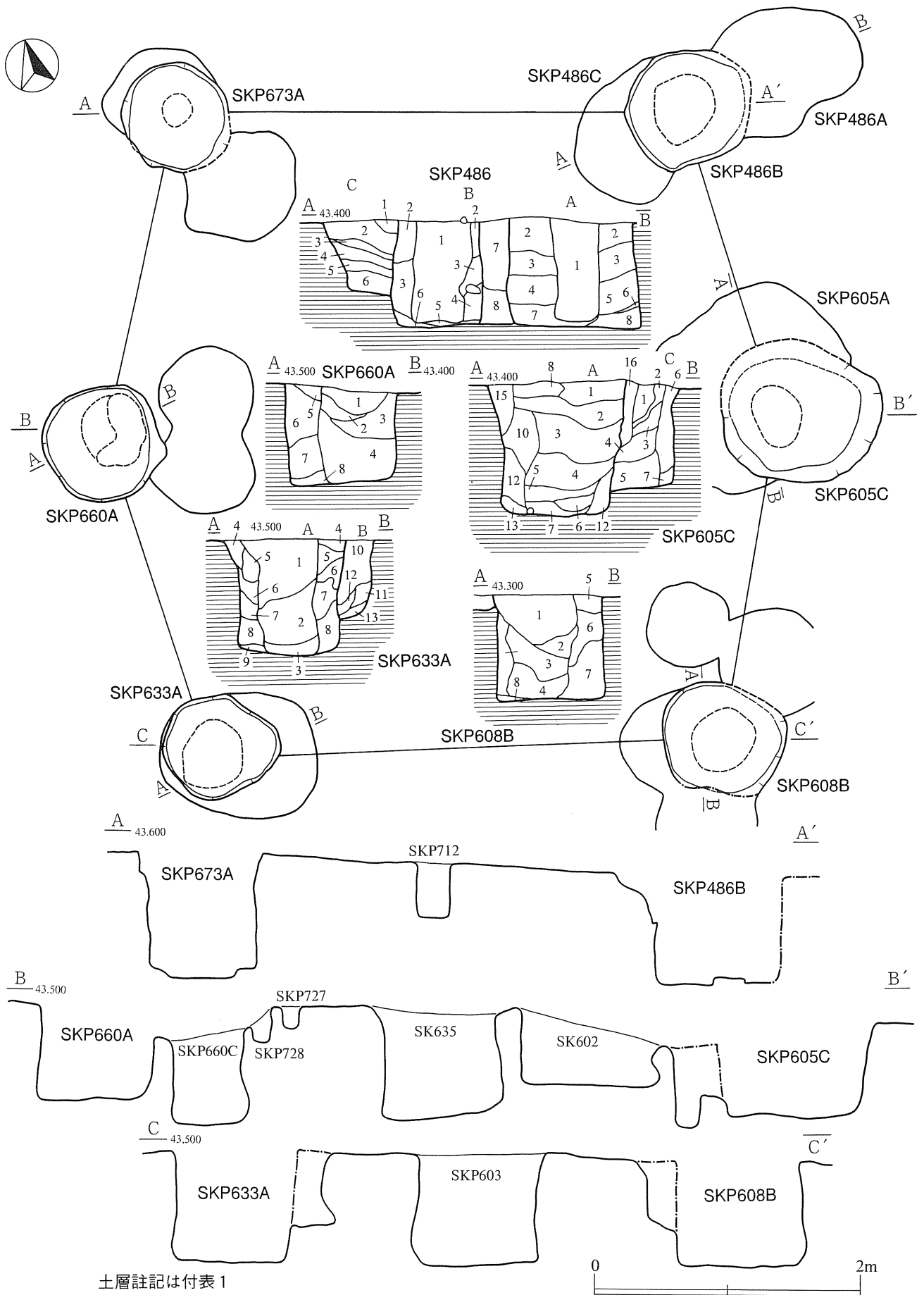
第27図 掘立柱建物跡(17) S B 次



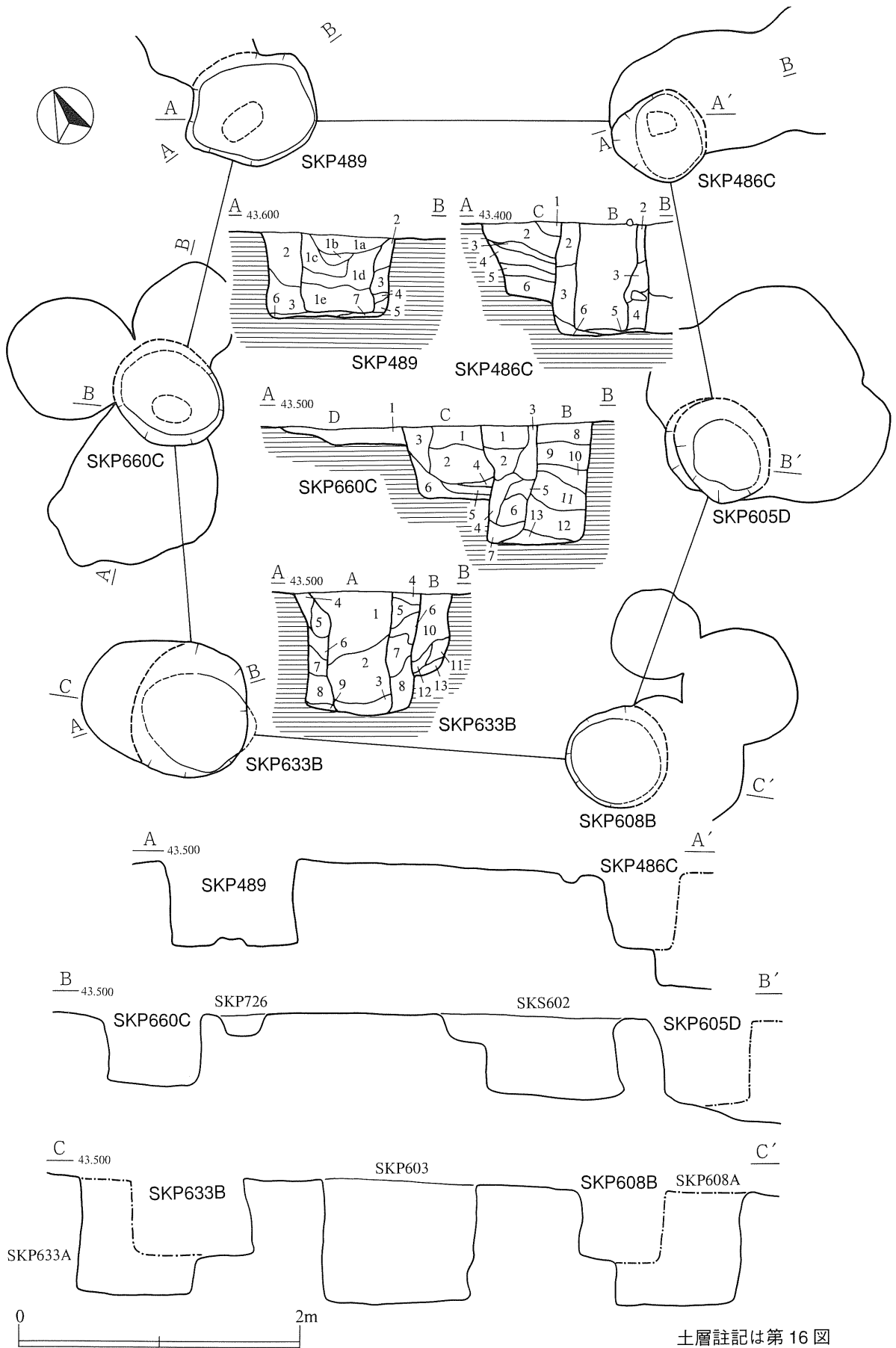
土層註記は付表1



第28図 掘立柱建物跡 (18) S B ち

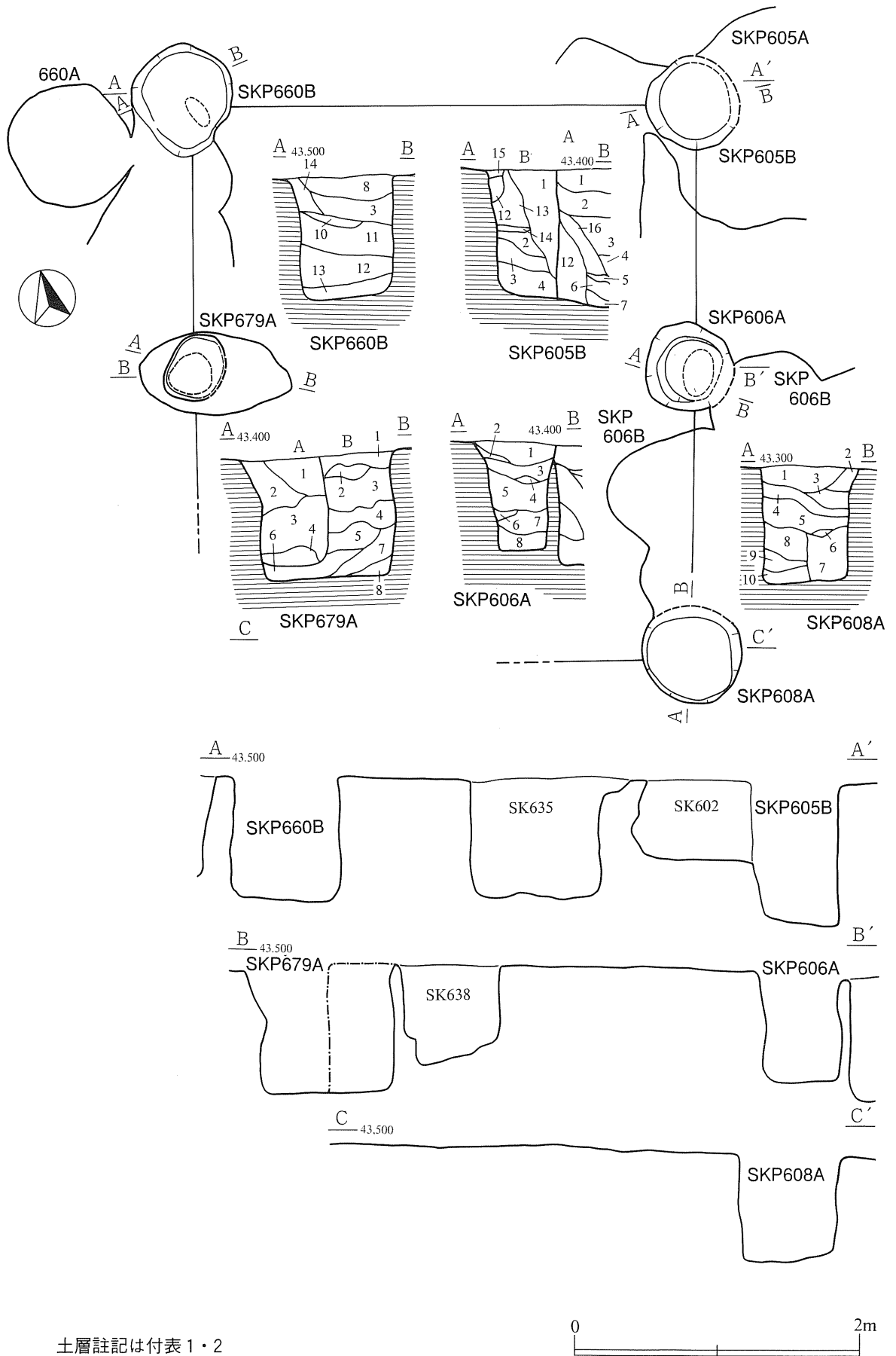


第29図 掘立柱建物跡 (19) S B つ



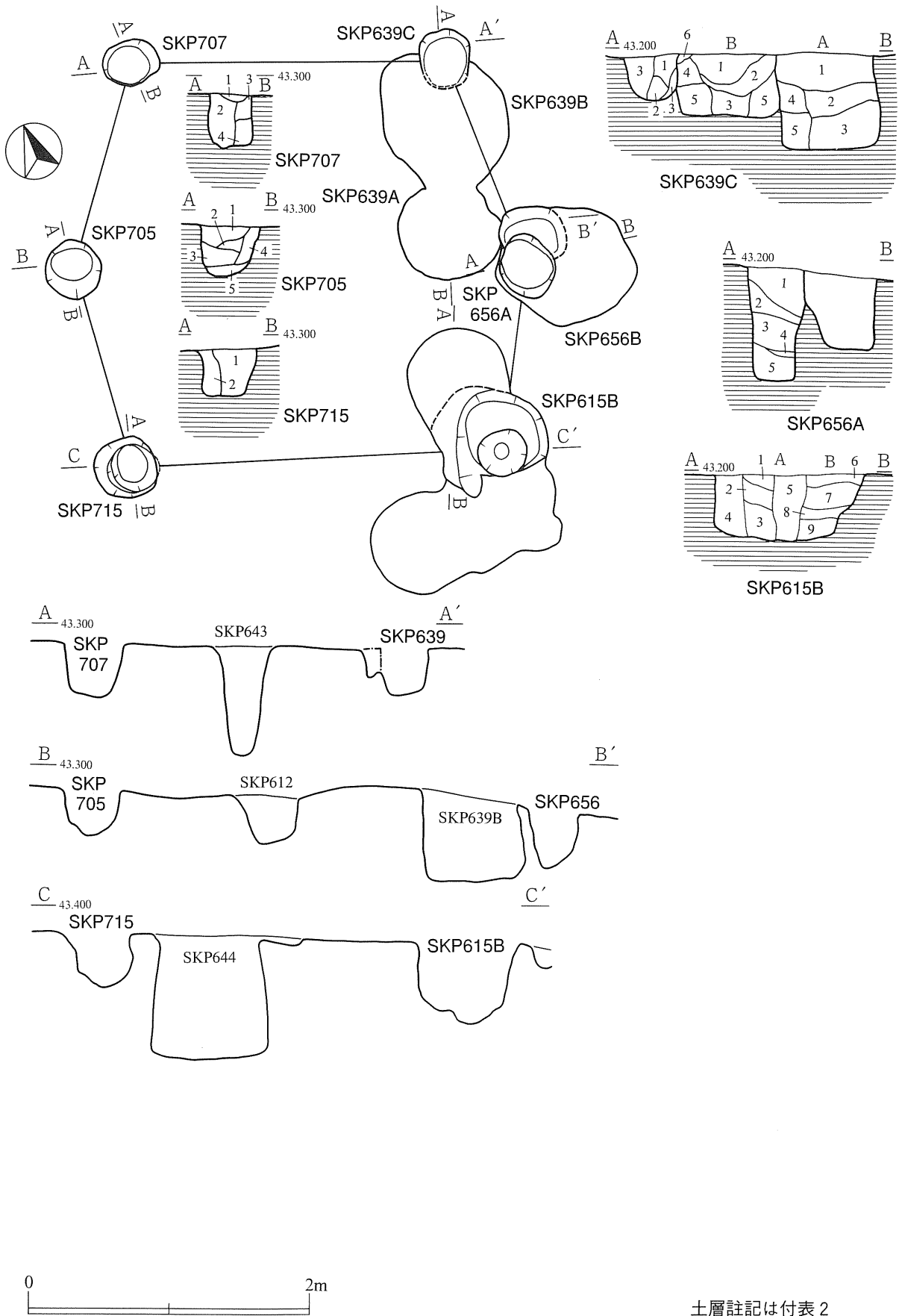
土層註記は第16図

第30図 掘立柱建物跡(20) S B へ

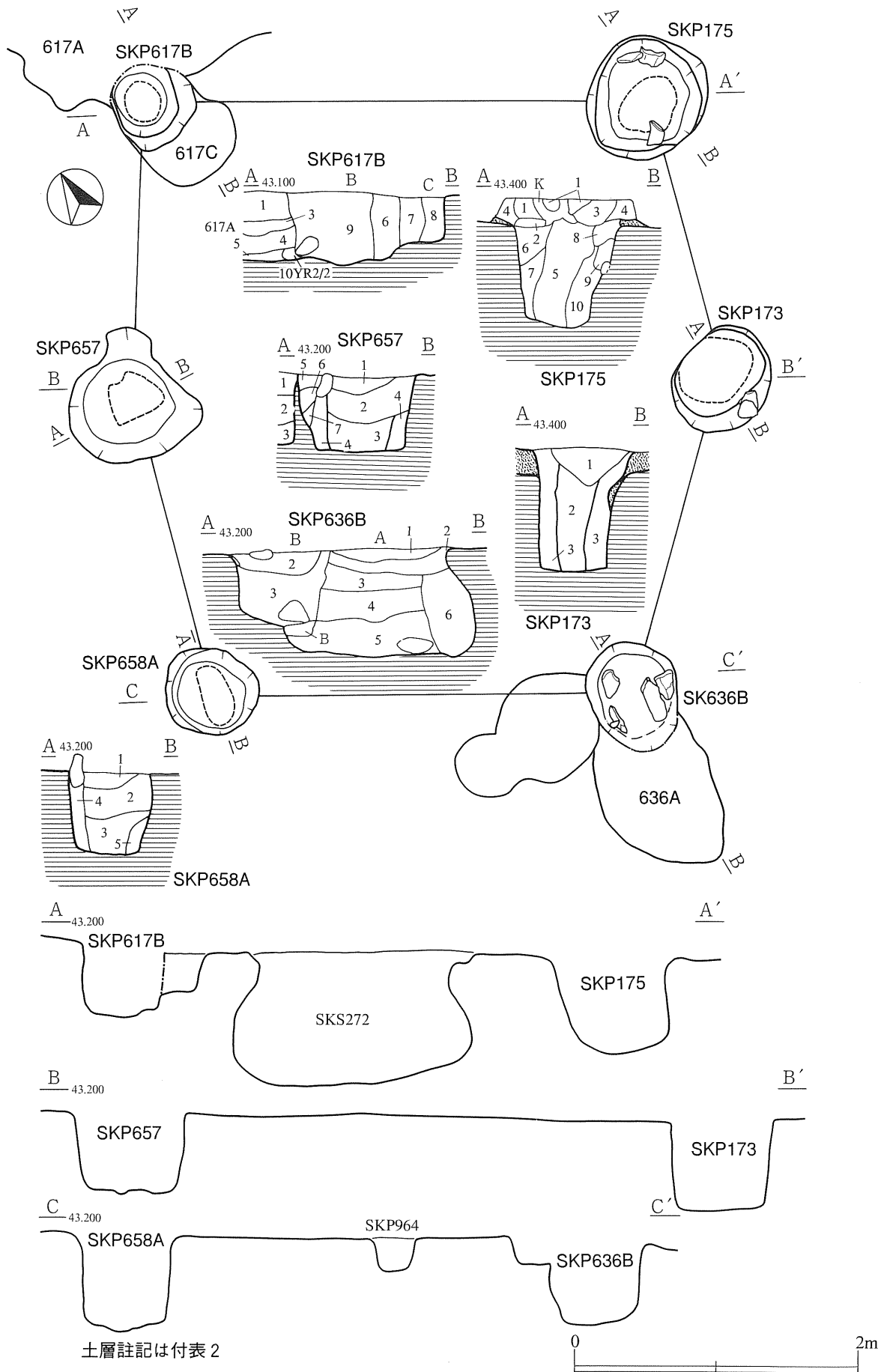


土層註記は付表1・2

第31図 掘立柱建物跡(21) S Bと

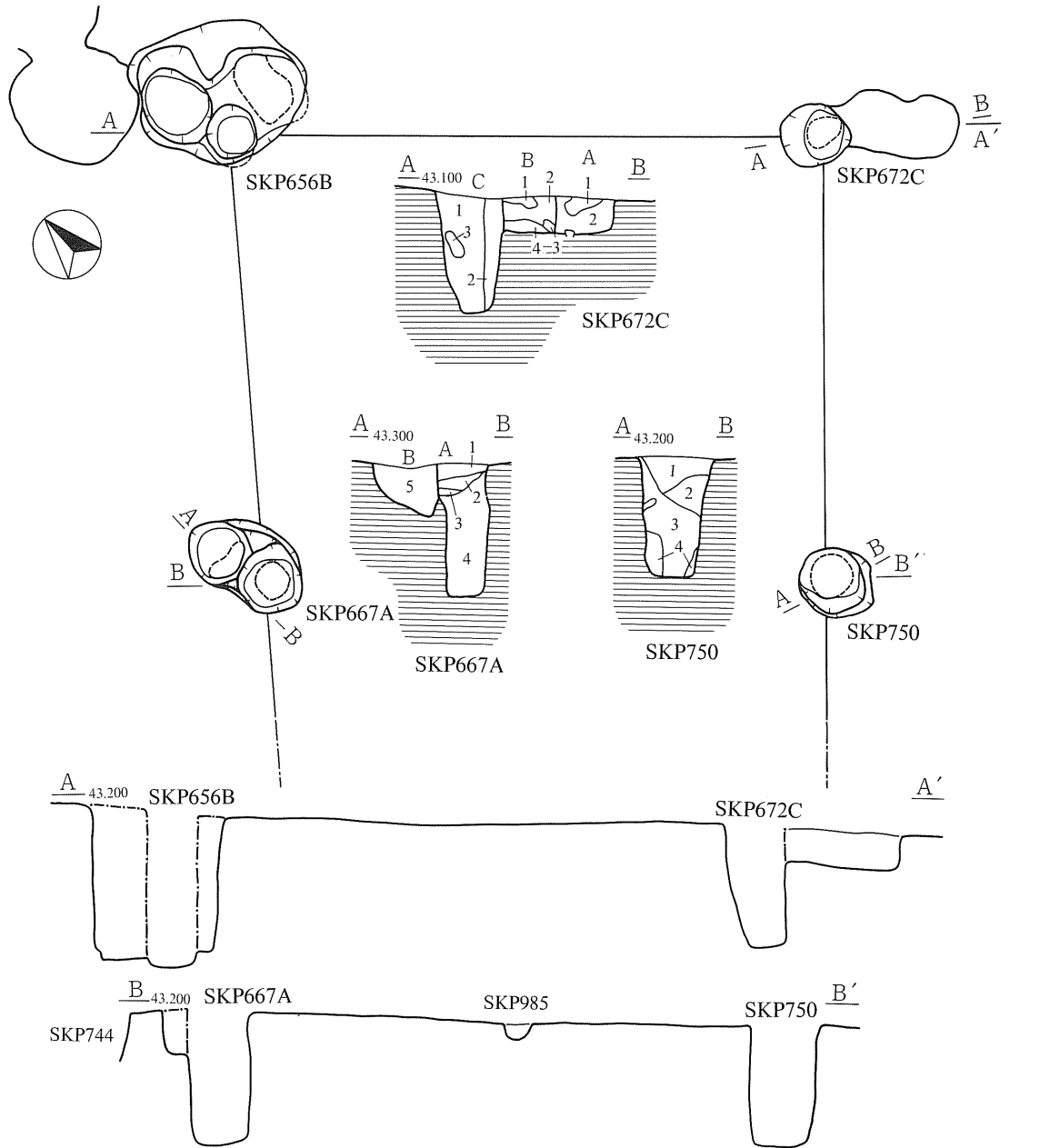


第 32 図 掘立柱建物跡 (22) S B な

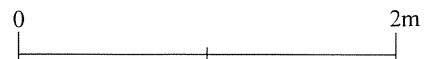


土層註記は付表 2

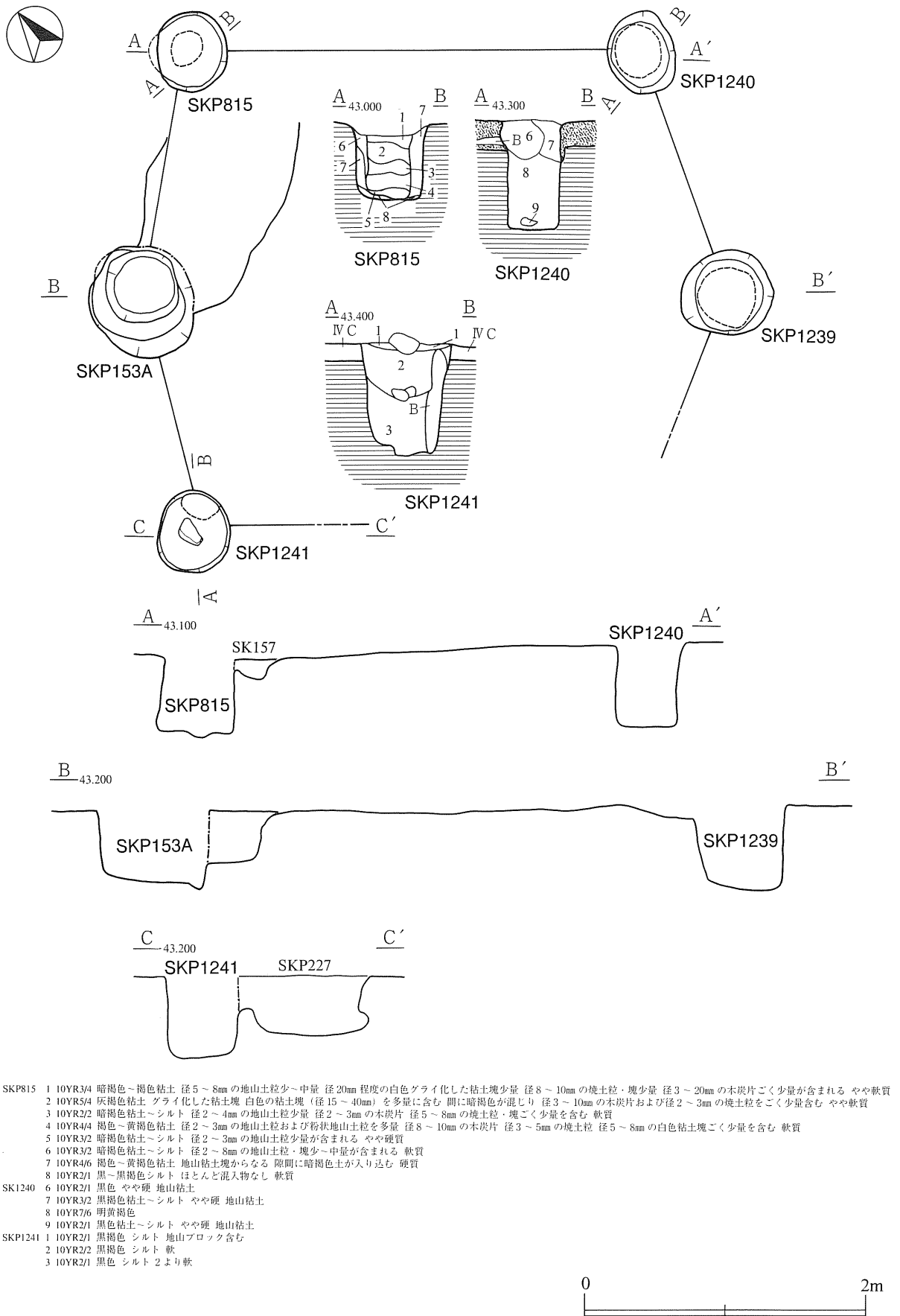
第 33 図 掘立柱建物跡 (23) S B に



- SK672A 1 10YR3/2 黒褐色シルト 黄褐色ブロック・焼土ブロック5mm 前後のもの・炭化物少量含む しまっている
- 2 10YR2/2 黒褐色シルト 明黄褐色 (10 Y R 7/6) ブロック1cm 前後のもの (2~3cmのものも含む) 少量含む 炭化物わずかに含む 締まっている
- SK672B 1 10YR3/2 黒褐色シルト 明黄褐色ブロック 2~3mm 前後のものやや多く混じる 1cm 前後のものも含む 炭化物2mm 以下のものわずかに含む
- 2 10YR2/1 黒色シルト 明黄褐色のブロック 2~3mm のもの少量を含む 焼土ブロック小さいもの・不定形・1cm 前後のもの現に含む
- 3 10YR3/2 黒褐色シルト 一部黄褐色土斑状に混じる かたくなる
- 4 10YR2/1 黒色シルト 明黄褐色ブロック状に混じる (1cm 以下の不定形)
- SK672C 1 10YR2/2 黒褐色シルト 黄褐色土ブロック 2~3mm 前後のものやや多く含む 焼土粒・ブロック (1cm 以下のもの) 少量含む 炭化物 2~3mm 前後のもの少量含む
- 2 10YR2/2 黒褐色シルト 黄褐色土ブロック 1~2cm のものやや多く含む 焼土径2mm 前後のものわずかに含む
- 3 10YR6/6 暗褐色土ブロック 締まっていない
- SKP750 1 10YR3/3 暗褐色粘土~シルト 径1mm の地山土粒・木炭粒ごく少量含まれる 軟質
- 2 10YR2/3 暗褐色粘土~黒褐色シルト 径1~10mm の地山土粒・塊ごく少量 径1mm の木炭粒僅かに含まれる 軟質
- 3 10YR3/4 暗褐色粘土~シルト 径1~10mm の地山土粒・塊少量含まれる やや軟質
- 4 10YR4/6 黄褐色粘土 地山土ブロック 間に若干の暗褐色土が入る
- SK667A 1 10YR3/3 暗褐色~灰褐色粘土~シルト 径1~3mm の地山土粒少~中量含まれる やや硬質 黒色土も径6~7mm の塊となってごく少量が含まれる
- 2 10YR3/3 暗褐色~褐色粘土~シルト 径1mm 以下の地山土粒ごく少量が含まれる やや硬質
- 3 10YR5/6 褐色~黄褐色粘土 地山土塊からなる やや軟質
- 4 10YR3/2 暗褐色シルト~粘土 径1~10mm の地山土粒少量が含まれる 軟質
- SK667B 5 10YR3/4 暗褐色粘土~シルト 径1~5mm の地山土粒少量 径2~3mm の木炭粒ごく少量が含まれる 軟質

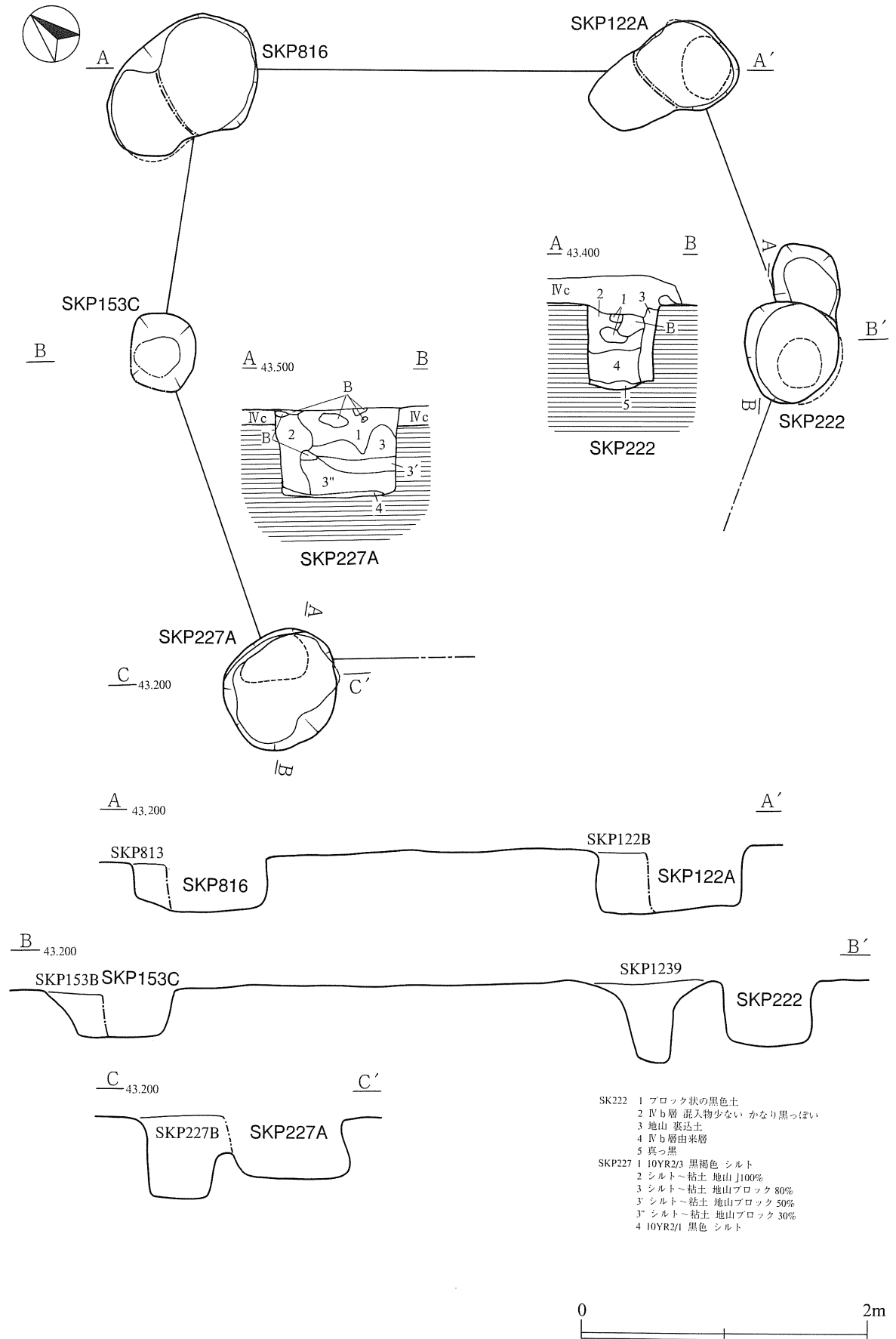


第34図 掘立柱建物跡 (24) S Bぬ

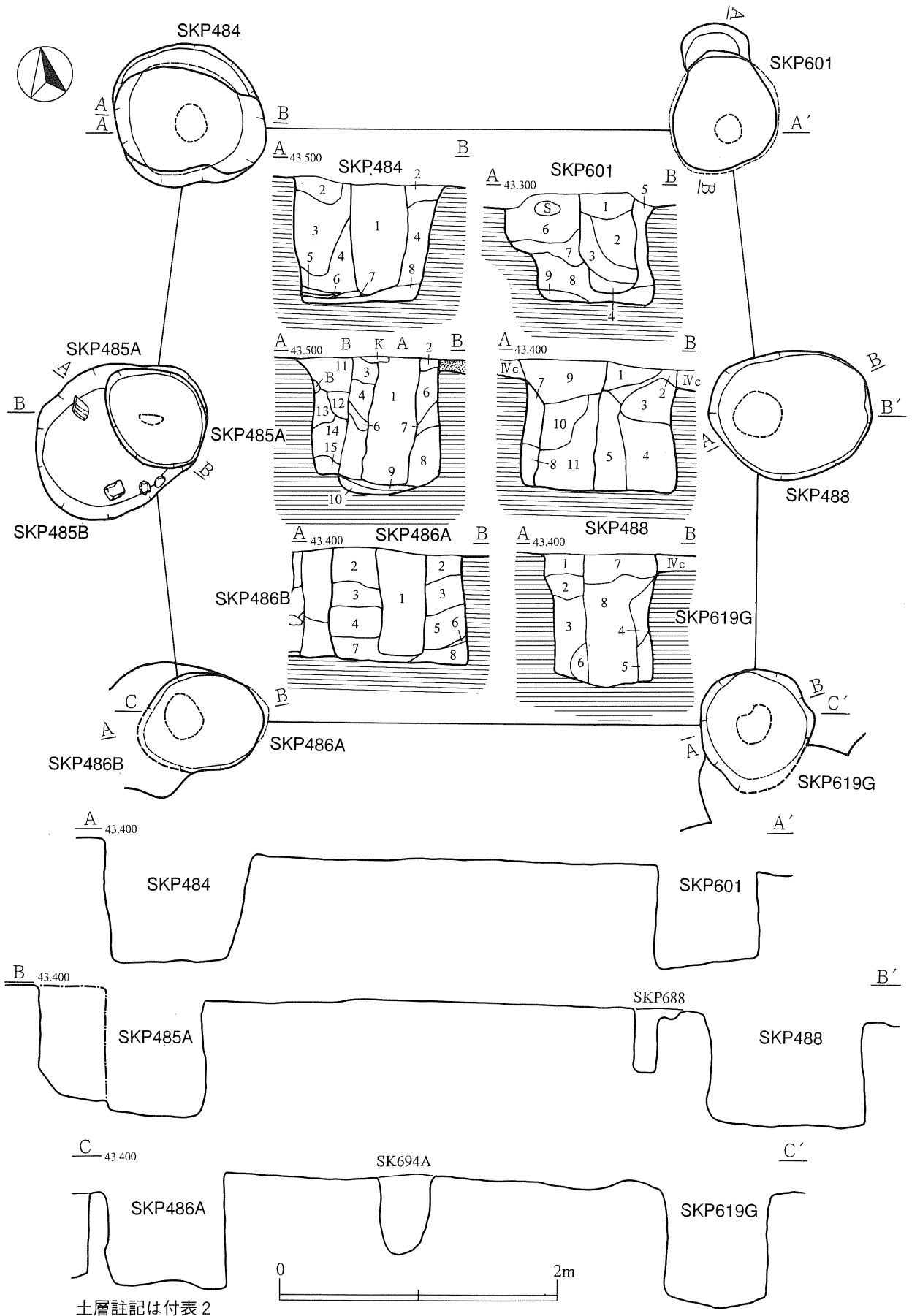


- SKP815 1 10YR3/4 暗褐色～褐色粘土 径5～8mmの地山土粒少～中量 径20mm程度の白色グライ化した粘土塊少量 径8～10mmの焼土粒・塊少量 径3～20mmの木炭片ごく少量が含まれる やや軟質
 2 10YR5/4 灰褐色粘土 グライ化した粘土塊（径15～40mm）を多量に含む 間に暗褐色が混じり 径3～10mmの木炭片および径2～3mmの焼土粒をごく少量含む やや軟質
 3 10YR2/2 暗褐色粘土～シルト 径2～4mmの地山土粒少量 径2～3mmの木炭片 径5～8mmの焼土粒・塊ごく少量を含む 軟質
 4 10YR4/4 褐色～黄褐色粘土 径2～3mmの地山土粒および粉状地山土粒を多量 径8～10mmの木炭片 径3～5mmの焼土粒 径5～8mmの白色粘土塊ごく少量を含む 軟質
 5 10YR3/2 暗褐色粘土～シルト 径2～3mmの地山土粒少量が含まれる やや硬質
 6 10YR3/2 暗褐色粘土～シルト 径2～8mmの地山土粒・塊少～中量が含まれる 軟質
 7 10YR4/6 褐色～黄褐色粘土 地山粘土塊からなる 隙間に暗褐色土が入り込む 硬質
 8 10YR2/1 黒～黒褐色シルト ほとんど混入物なし 軟質
- SK1240 6 10YR2/1 黒色 やや硬 地山粘土
 7 10YR3/2 黒褐色粘土～シルト やや硬 地山粘土
 8 10YR7/6 明黄褐色
 9 10YR2/1 黒色粘土～シルト やや硬 地山粘土
- SKP1241 1 10YR2/1 黒褐色 シルト 地山アロックス含む
 2 10YR2/2 黒褐色 シルト 軟
 3 10YR2/1 黒色 シルト 2より軟

第35図 掘立柱建物跡 (25) S Bね

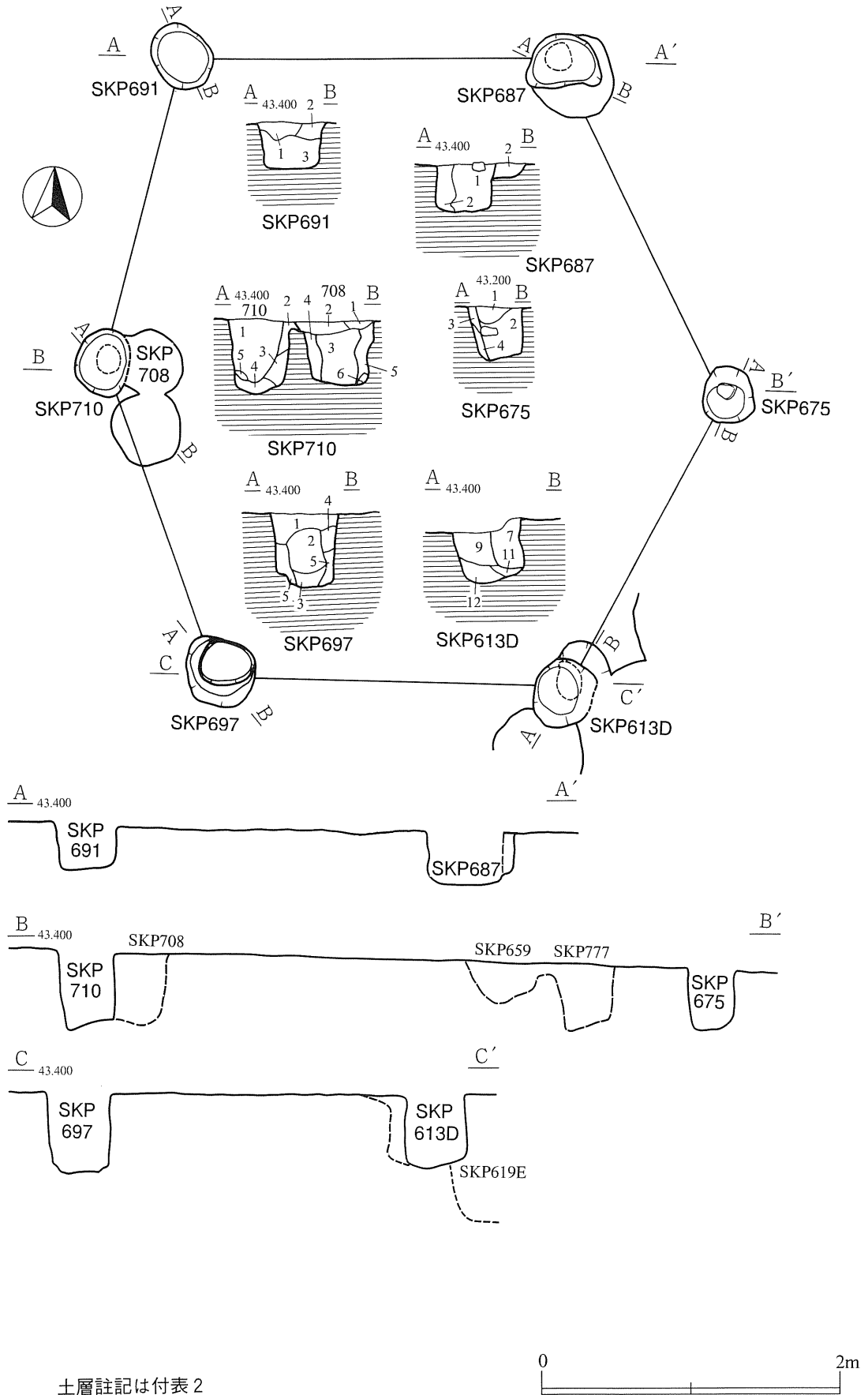


第36図 掘立柱建物跡 (26) S Bの

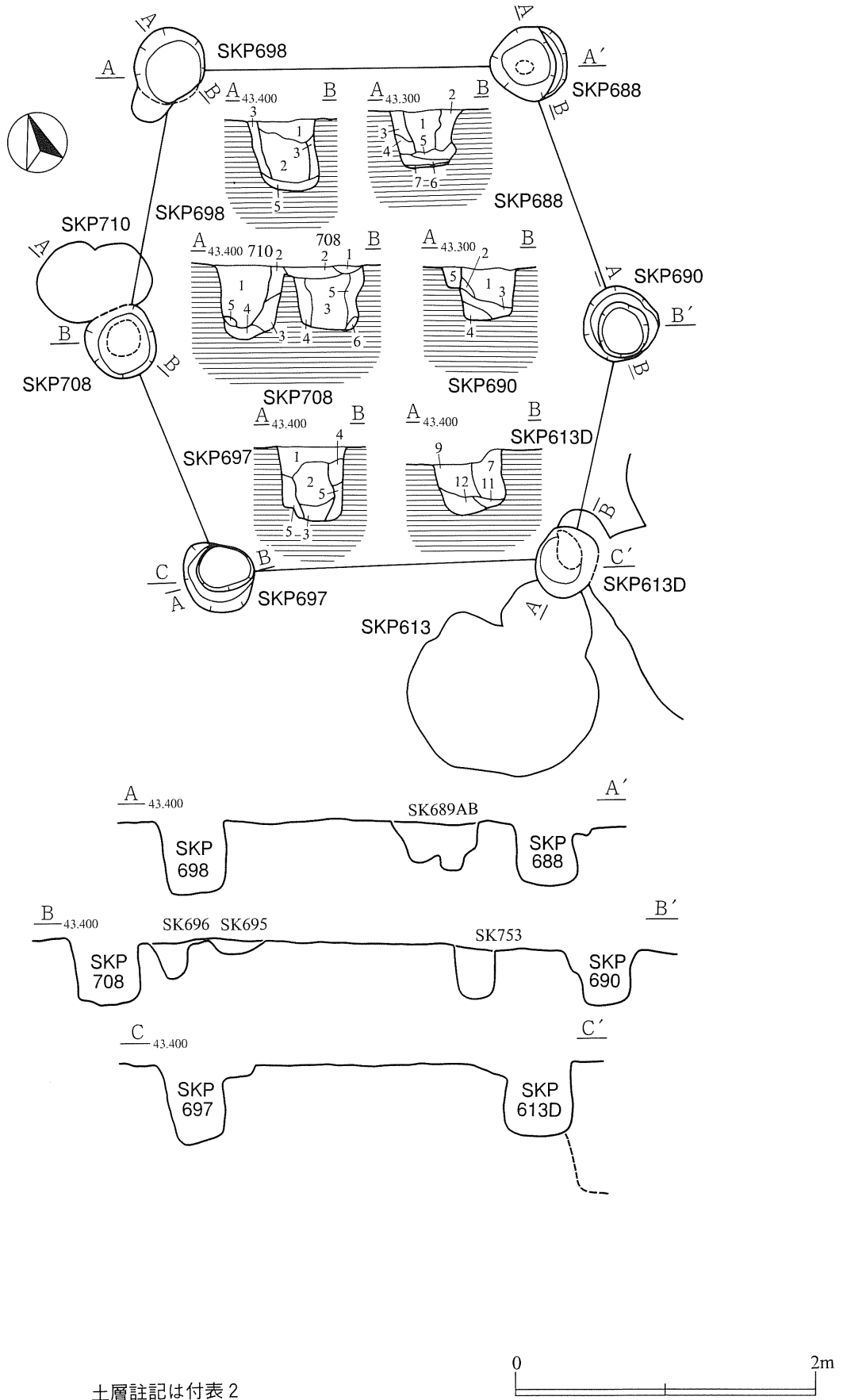


土層註記は付表 2

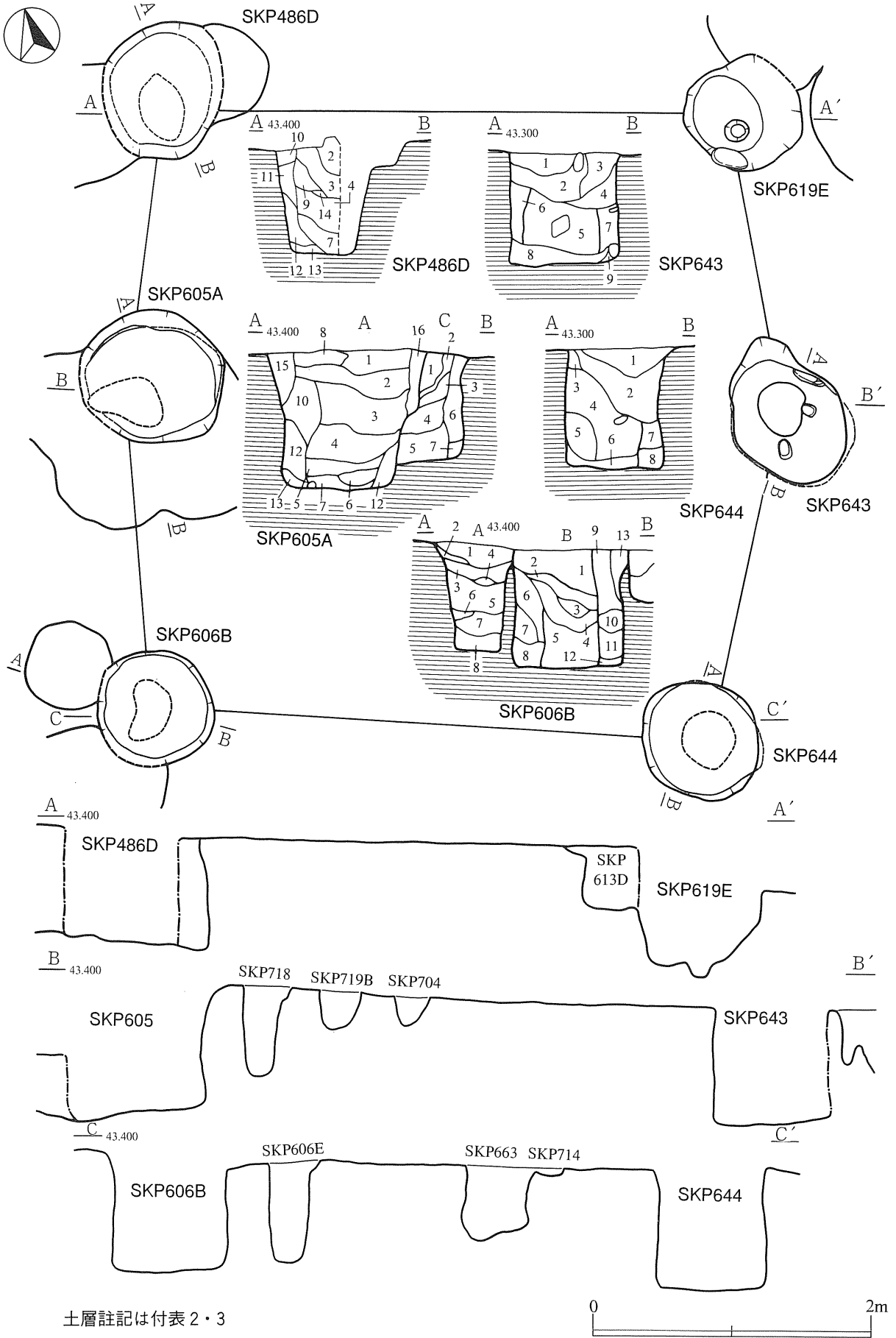
第 37 図 掘立柱建物跡 (27) S B は



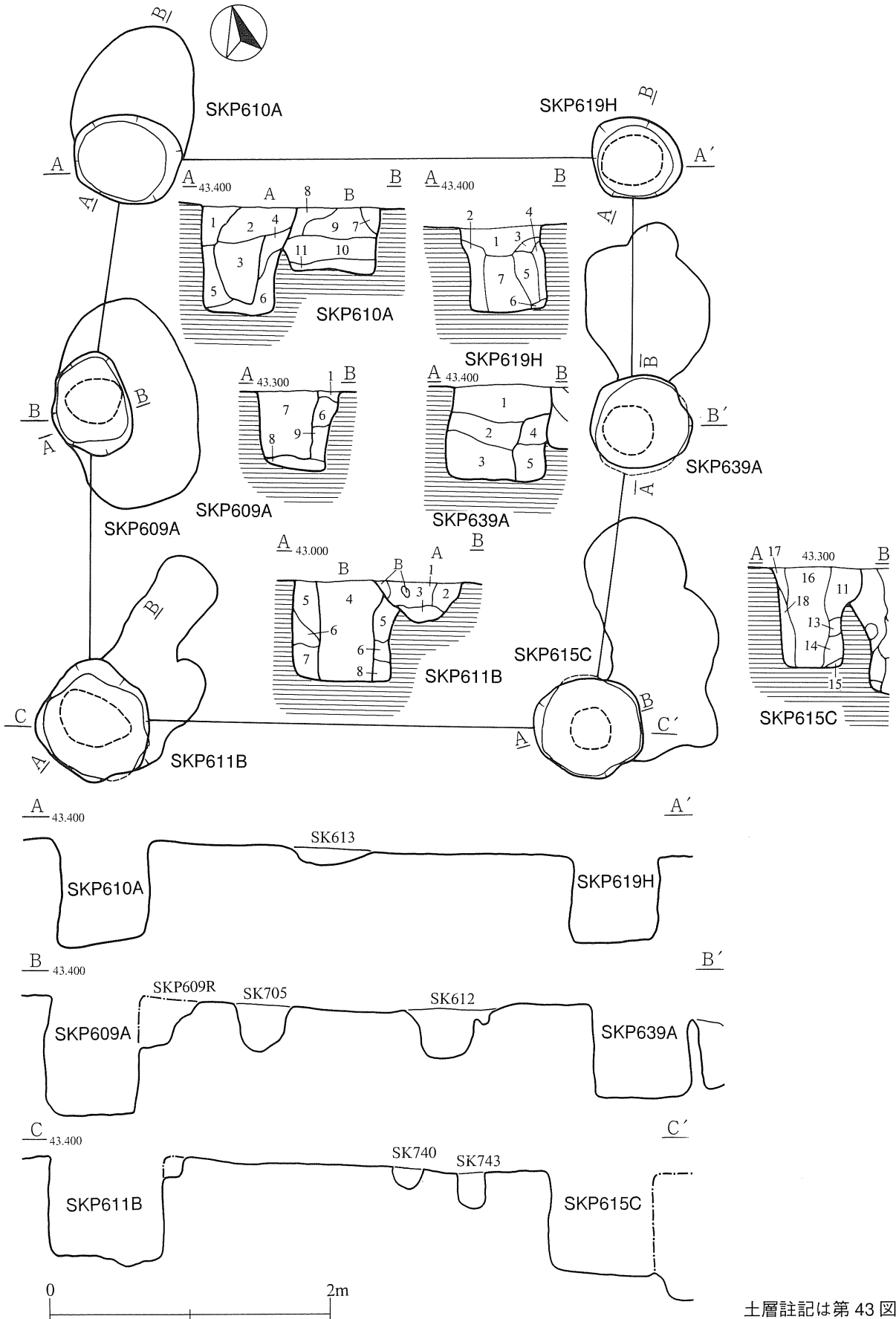
第38図 掘立柱建物跡(28) S B 凸



第39図 掘立柱建物跡 (29) S B 込

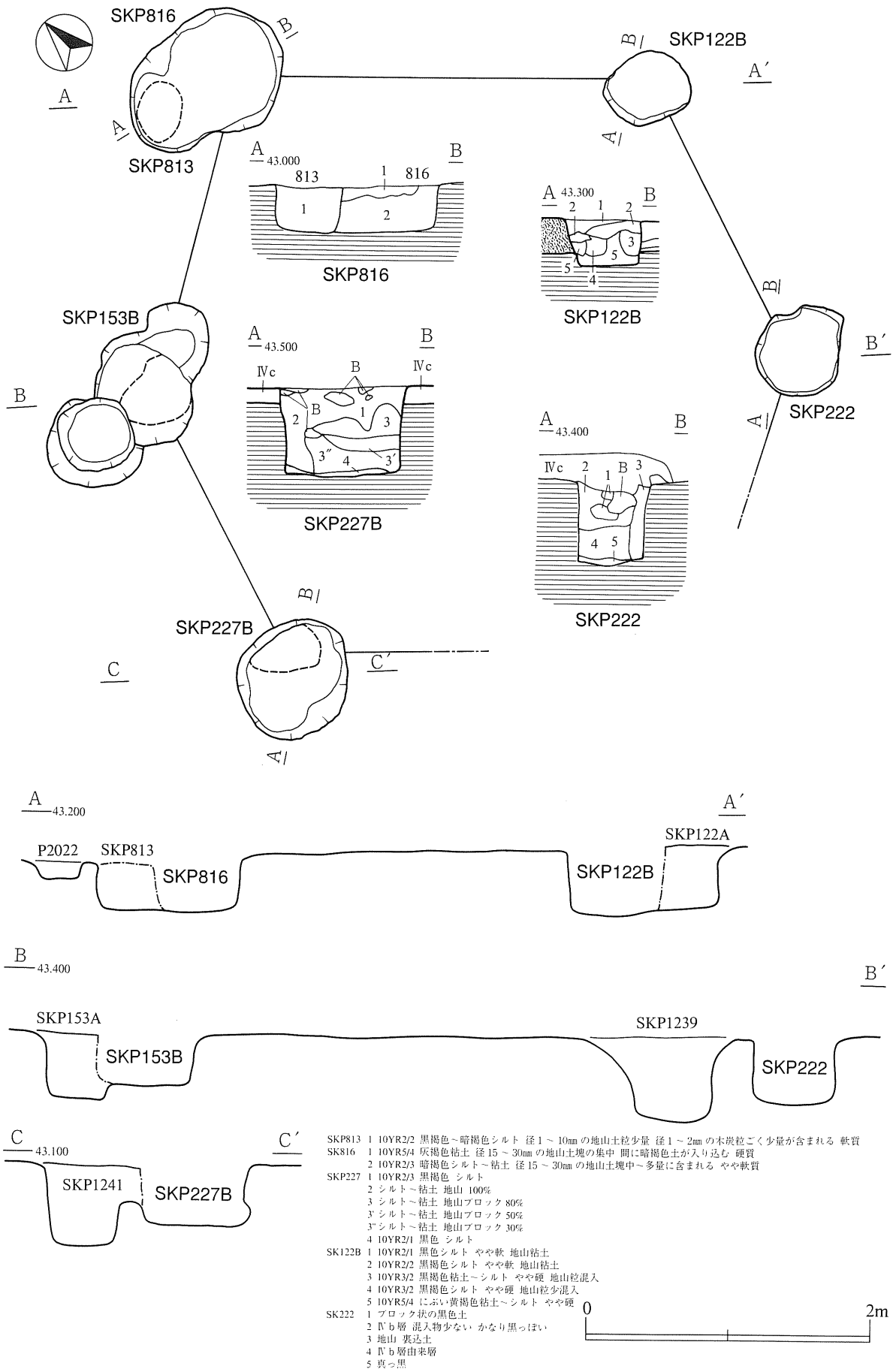


第40図 掘立柱建物跡 (30) S Bへ

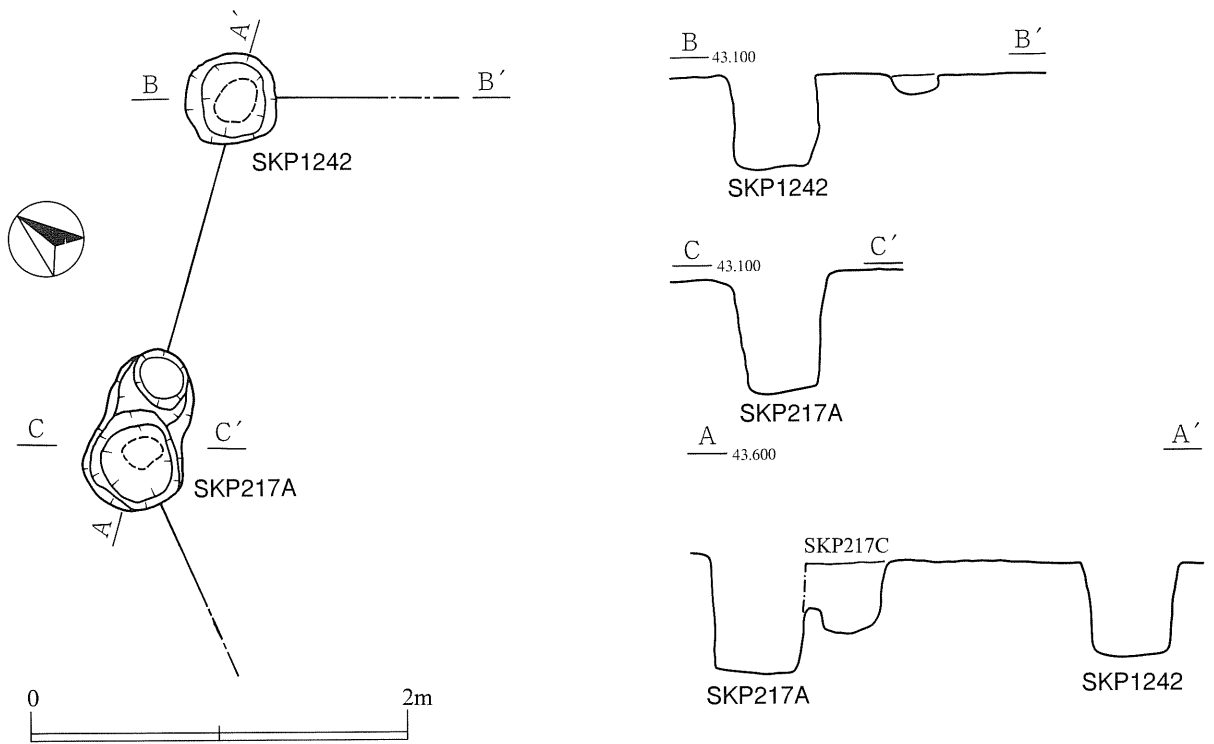


土層註記は第43図

第41図 掘立柱建物跡(31) S Bほ



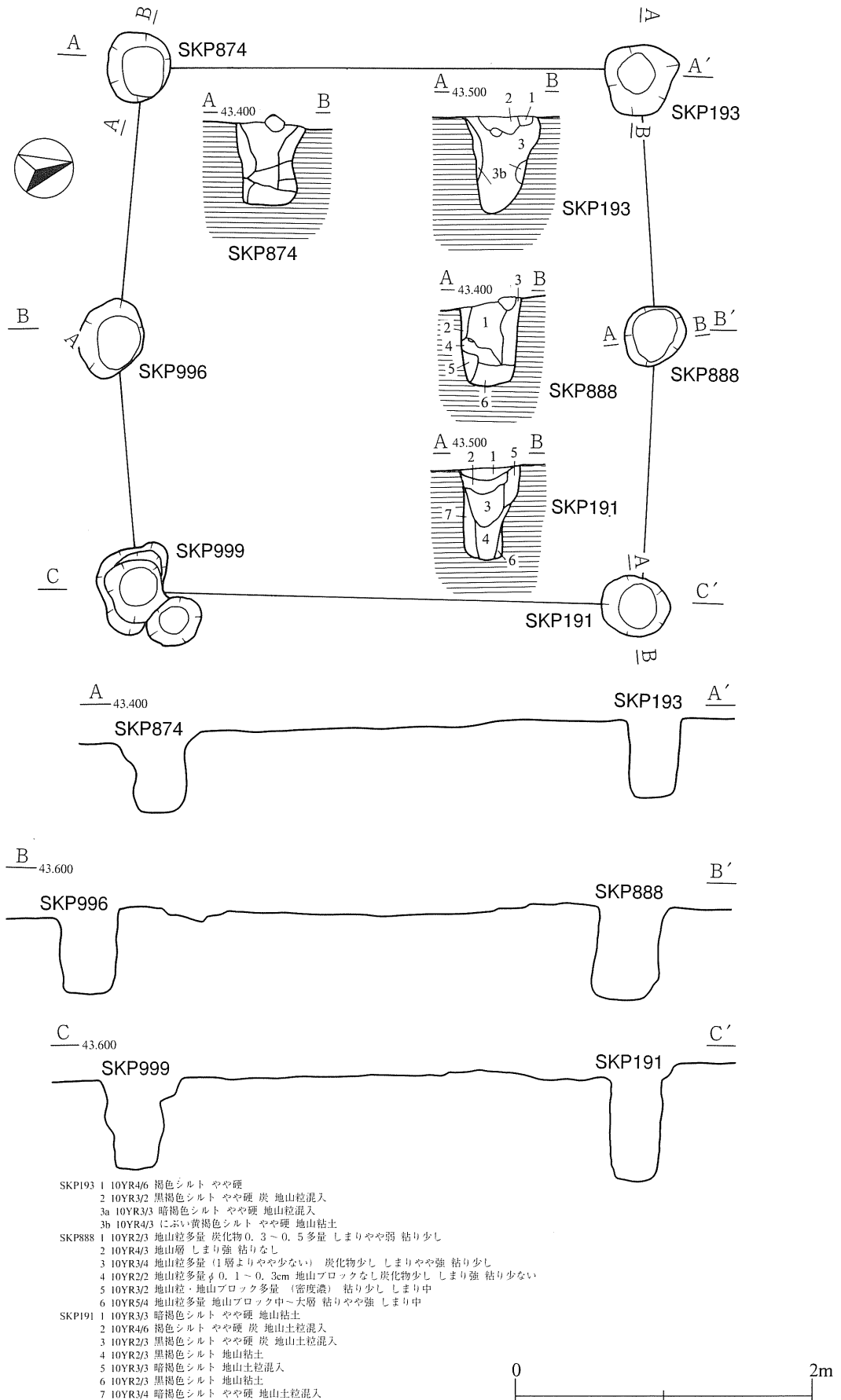
第42図 掘立柱建物跡 (32) S Bま



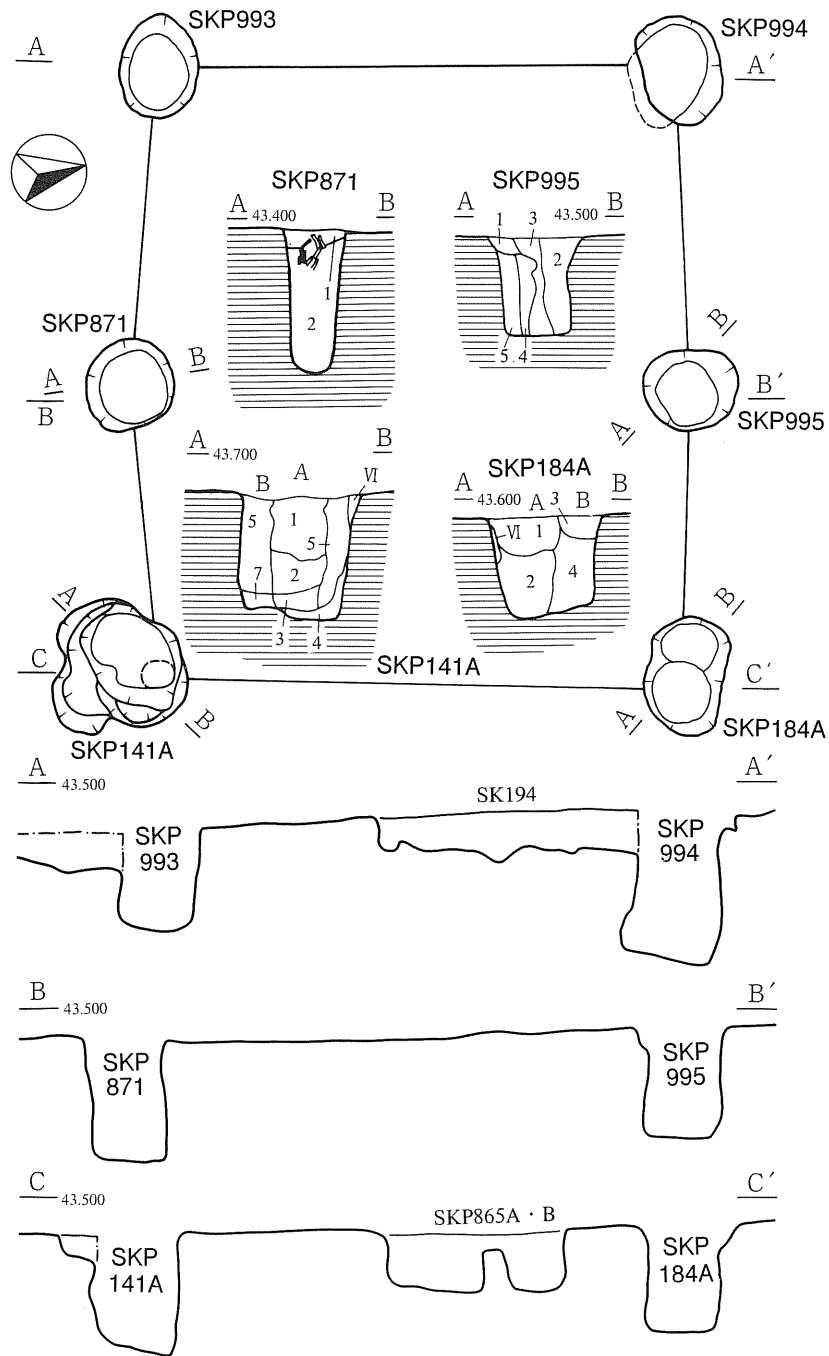
第43図 掘立柱建物跡 (33) S Bみ

第41図 掘立柱建物跡 (31) SBほ 土層註記

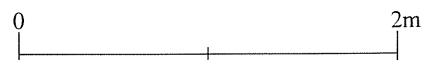
- SK610A・B
- 1 10YR3/3 暗褐色シルト～粘土 径1～5mmの地山土粒・径1～3mmの本炭粒少量混じる 軟質
 - 2 10YR3/3 暗褐色シルト～粘土 径1～5mmの地山土粒あるいは粉状地山土粒が中量 径1～5mmの本炭粒が少量混じる 軟質
 - 3 10YR3/3 暗褐色シルト～粘土 径2～5mmの地山土粒 径3～5mmの本炭粒少量混じる 軟質
 - 4 10YR3/2 暗褐色～黒褐色シルト 径1～10mmの地山土粒中量混じる やや硬質
 - 5 10YR3/4 暗褐色シルト～粘土 径10mm前後の地山土ブロックが中量含まれる
 - 6 10YR3/3 暗褐色～褐色シルト 径10～40mmの地山土ブロックが多量に含まれる 間隙を暗褐色土が埋める やや硬質
 - 7 10YR4/6 褐色～黄褐色粘土 径10mm前後の地山土ブロックからなる やや硬質
 - 8 10YR2/3 暗褐色シルト 径5～10mmの地山土塊中量含まれる 軟質
 - 9 10YR2/2 暗褐色～黒褐色シルト 径2～20mmの地山土塊多量に含まれる 軟質
 - 10 10YR4/6 褐色～黄褐色粘土 径5～20mmの地山土塊からなる 間隙を暗褐色土が埋める やや硬質
 - 11 10YR3/1 黒～黒褐色シルト 径2～5mmの地山土粒わずかに含まれる 軟質
- SK609
- 土坑内埋土
- 1 10YR3/4 暗褐色～褐色粘土～シルト 径3mmの地山土粒・塊土粒中量混じる 軟質
 - 6 10YR4/6 褐色～黄褐色粘土 粘土の径30～40mmのブロックが集まる 間に暗褐色シルトが入る 土坑を切る柱穴埋土
 - 7 10YR3/3 暗褐色シルト～シルト 径5～8mmの焼土塊・径5～15mmの地山粘土塊・径3～5mmの本炭粒がそれぞれ多量に混じる また径40mm程の灰褐色粘土塊も2・3カ所で混じる 軟質
 - 8 10YR2/2 黒褐色シルト 径1mmの地山土粒少量混入する きわめて軟質
- SK611A・B
- 1 10YR4/3 暗褐色～褐色粘土～シルト 径2～10mmの地山土粒少量含まれる やや軟質
 - 2 10YR2/3 暗褐色シルト 径5～10mmの地山土粒少量含まれる また斑状に黒褐色土が入る やや軟質
 - 3 10YR4/4 褐色粘土 径10mm前後の地山土塊が多量に含まれる やや硬質
 - 4 10YR3/4 暗褐色粘土～シルト 径2～3mmの地山土粒が少量含まれる 軟質
 - 5 10YR2/3 暗褐色粘土～シルト 径2～10mmの地山土粒・塊が少～中量含まれる 硬質
 - 6 10YR3/3 暗褐色粘土～シルト 径10～20mmの地山土塊が中量含まれる やや硬質
 - 7 10YR4/6 褐色～黄褐色粘土 地山土塊からなる わずかな間隙を暗褐色土が埋める
 - 8 10YR2/3 暗褐色シルト 径2～3mmの地山土粒ごく少量含まれる
- SK619H
- 1 10YR2/2 黒褐色 よくしまる 地山中粒中量含む 炭小粒少量含む
 - 2 10YR3/2 黒褐色 よくしまる 地山大粒中量含む
 - 3 地山大粒多量含む 2と同じ
 - 4 2と同じ
 - 5 10YR3/3 暗褐色 よくしまる 地山中粒多量含む 炭小粒少量含む
 - 6 10YR2/2 黒褐色 よくしまる 地山小ブロック中量含む
 - 7 10YR3/2 黒褐色 よくしまる 地山中粒中量含む 炭小粒少量含む
 - 8 複乱
- SK639A
- 1 10YR2/3 暗褐色シルト 径2～15mmの地山土粒・塊少～中量 径1～5mmの本炭粒・片ごく少量 径1～5mmの本炭粒・片ごくわずかに含まれる やや軟質
 - 2 10YR2/2 黒褐色～暗褐色粘土～シルト 径1～10mmの地山土粒少量 径2～3mmの本炭粒ごく僅かに含まれる 軟質
 - 3 10YR3/4 暗褐色粘土～シルト 径3～5mmの地山土粒・塊少～中量 部分的に径60～70mmの範囲にまとまって含まれる
 - 4 10YR3/3 黒褐色～暗褐色シルト 径10～40mmの地山土塊中～多量に含まれる やや硬質
 - 5 10YR5/8 黄褐色粘土 径20～40mmの地山土塊からなる 間に暗褐色土が混じる 硬質



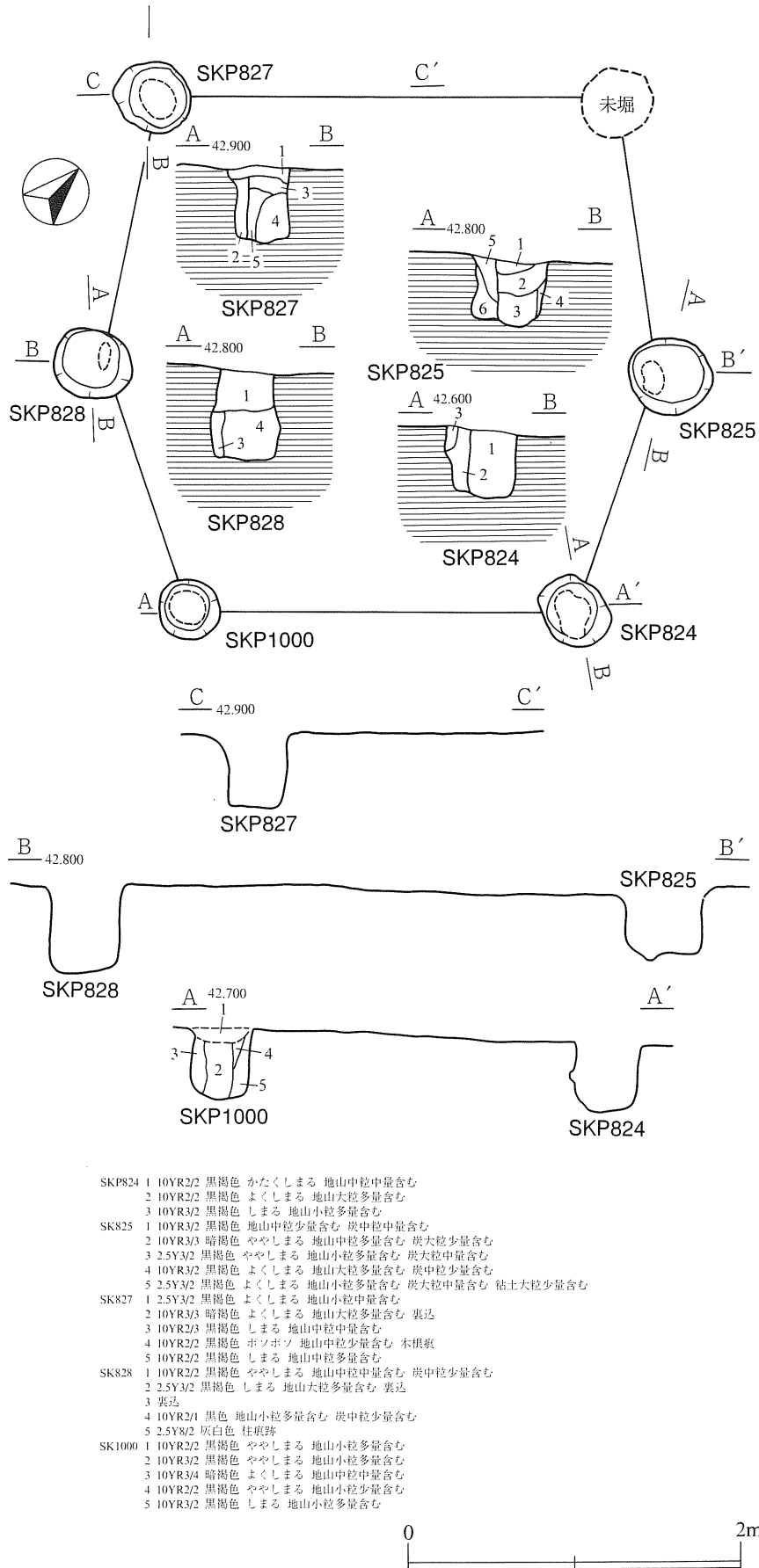
第44図 掘立柱建物跡 (34) S B む



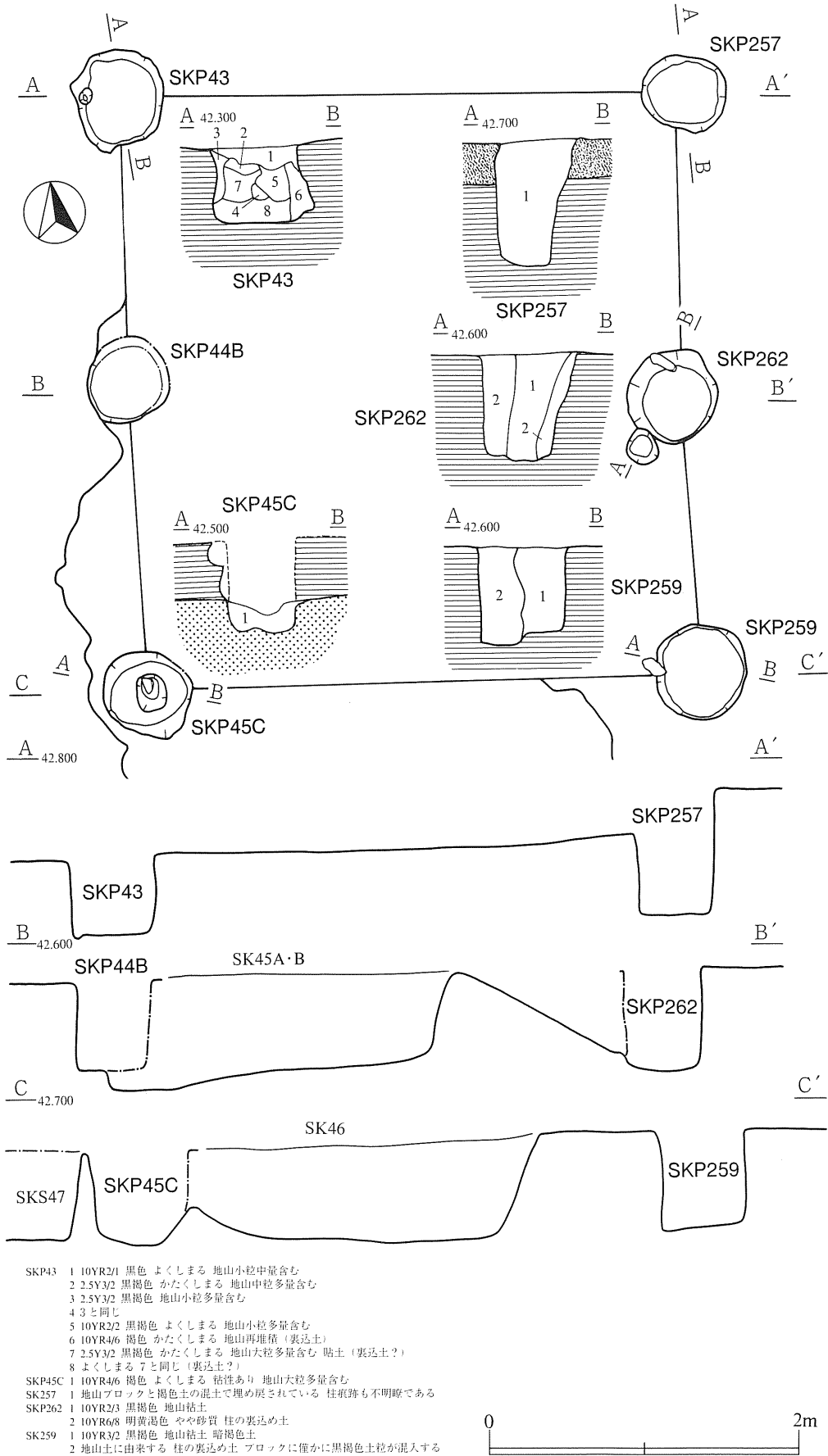
- SKP871 1 10YR3/3 暗褐色シルト 粉状地山土粒ごくわずかに含まれる 径5~8mmの木炭粒少~中量含まれる やや硬質
 2 10YR4/4 暗褐色~褐色粘土~シルト全体に粉状地山土粒少量が含まれる 径1~2mmの木炭粒ごくわずかに含まれる 軟質
- SKP995 1 10YR4/4 黒色 よくしまる 粘性あり 地山小粒多量含む
 2 10YR5/6 黄褐色 よくしまる 地山土再堆積 裏込
 3 10YR2/3 黒褐色 よくしまる 地山小粒多量含む 炭中粒少量含む
 4 10YR3/4 暗褐色 よくしまる 地山中粒少量含む
 5 10YR4/4 褐色 しまる 地山小粒多量含む
- SKP141 1 10YR4/6 褐色シルト~砂 硬 地山粘土
 2 10YR3/3 暗褐色シルト やや軟 炭
 3 7.5YR5/8 明褐色シルト~砂 硬 地山粘土
 4 10YR2/1 黒色シルト やや軟 炭
 5 10YR3/4 暗褐色シルト やや硬 地山粘土
 6 2に類似
 7 3に類似
- SKP184 1 10YR4/3 に近い黄褐色シルト やや硬
 2 10YR4/4 褐色シルト やや硬 地山粘土 1層と同じ
 3 10YR5/6 黄褐色シルト 硬
 4 10YR4/6 褐色シルト 硬 地山粘土



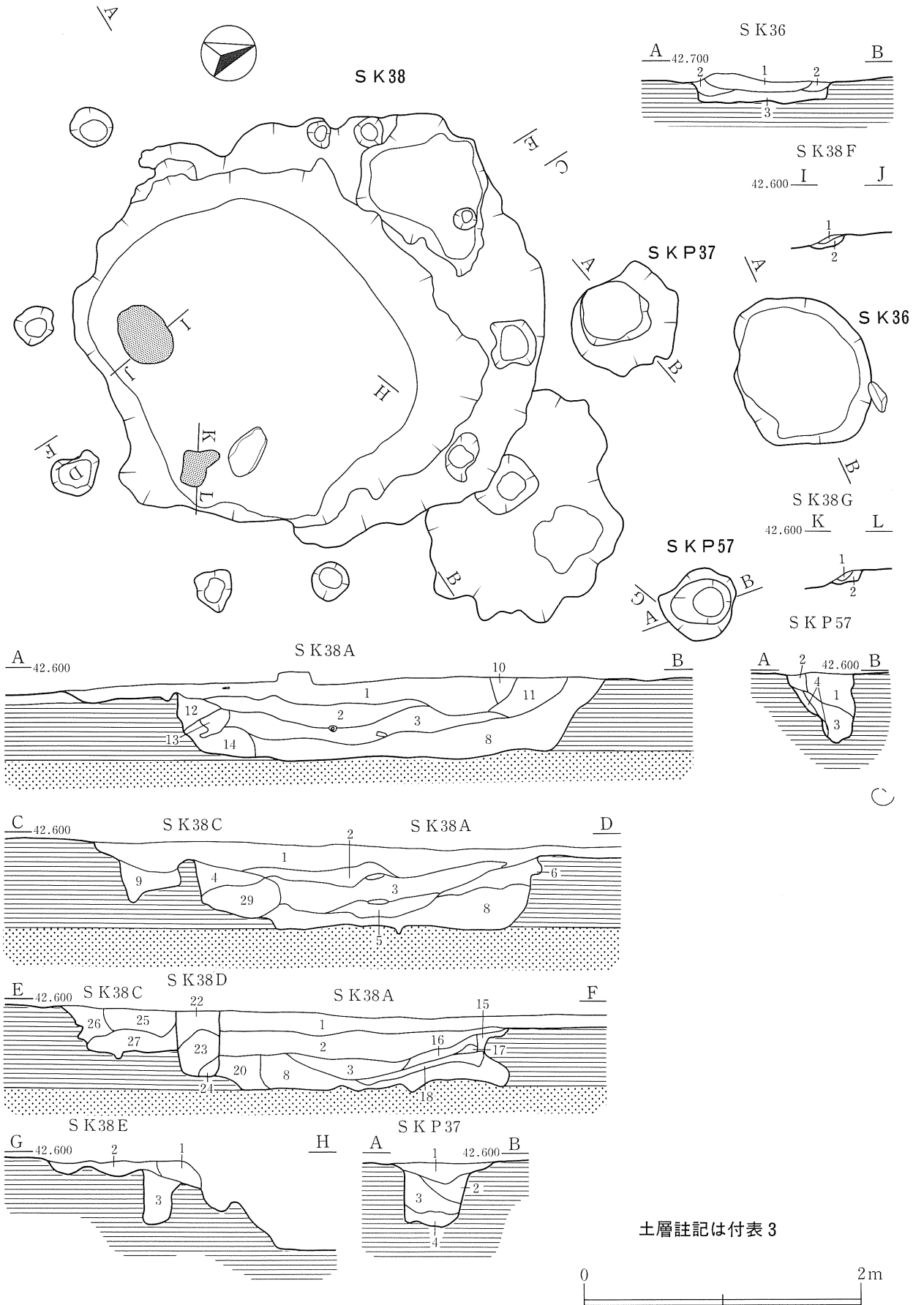
第45図 掘立柱建物跡 (35) S B め



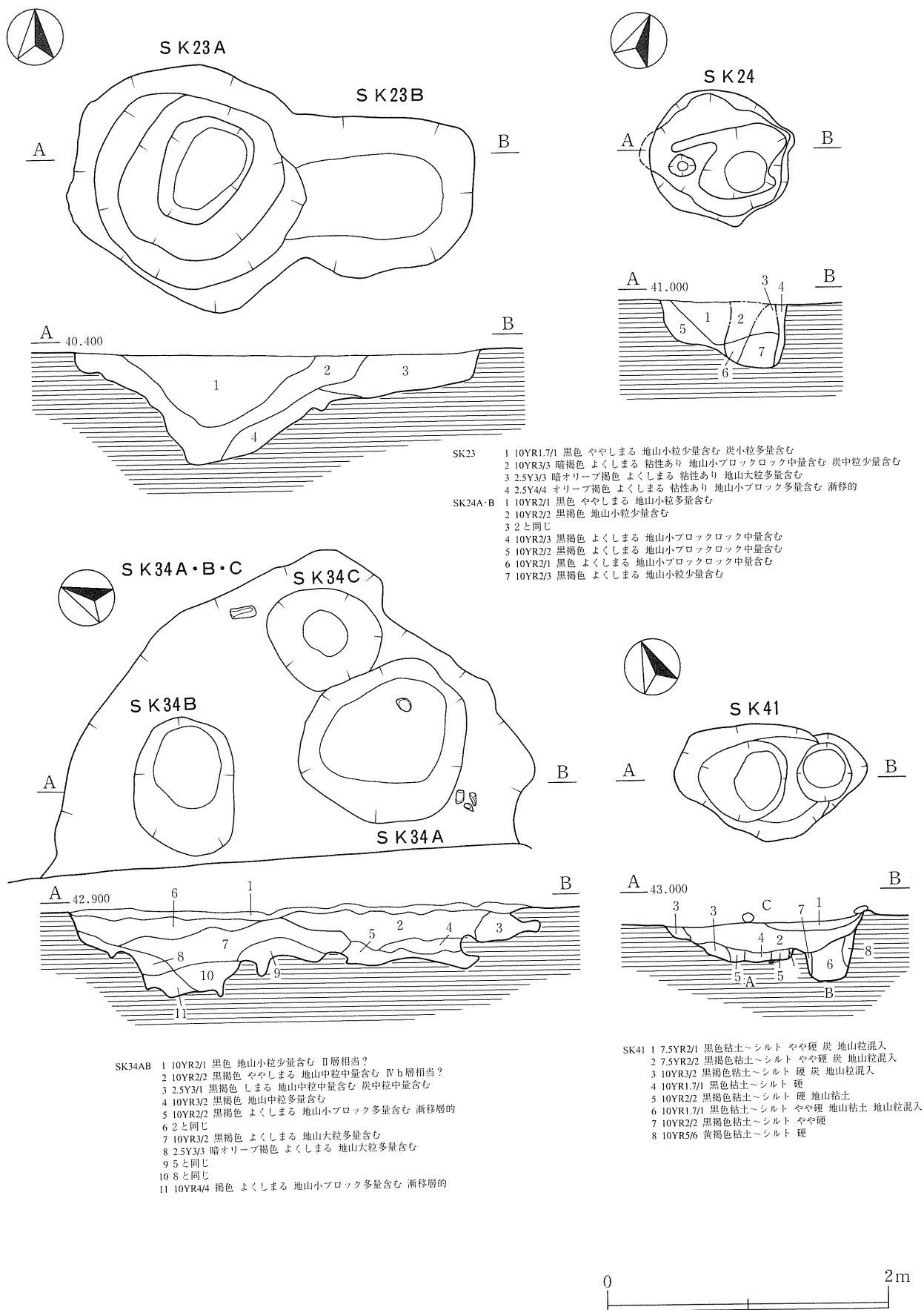
第46図 掘立柱建物跡 (36) S B も



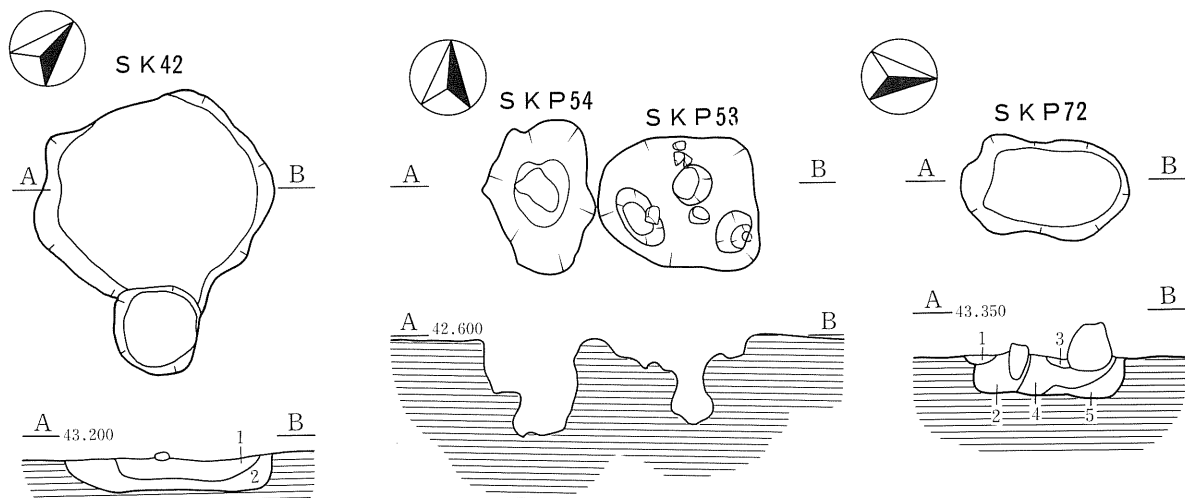
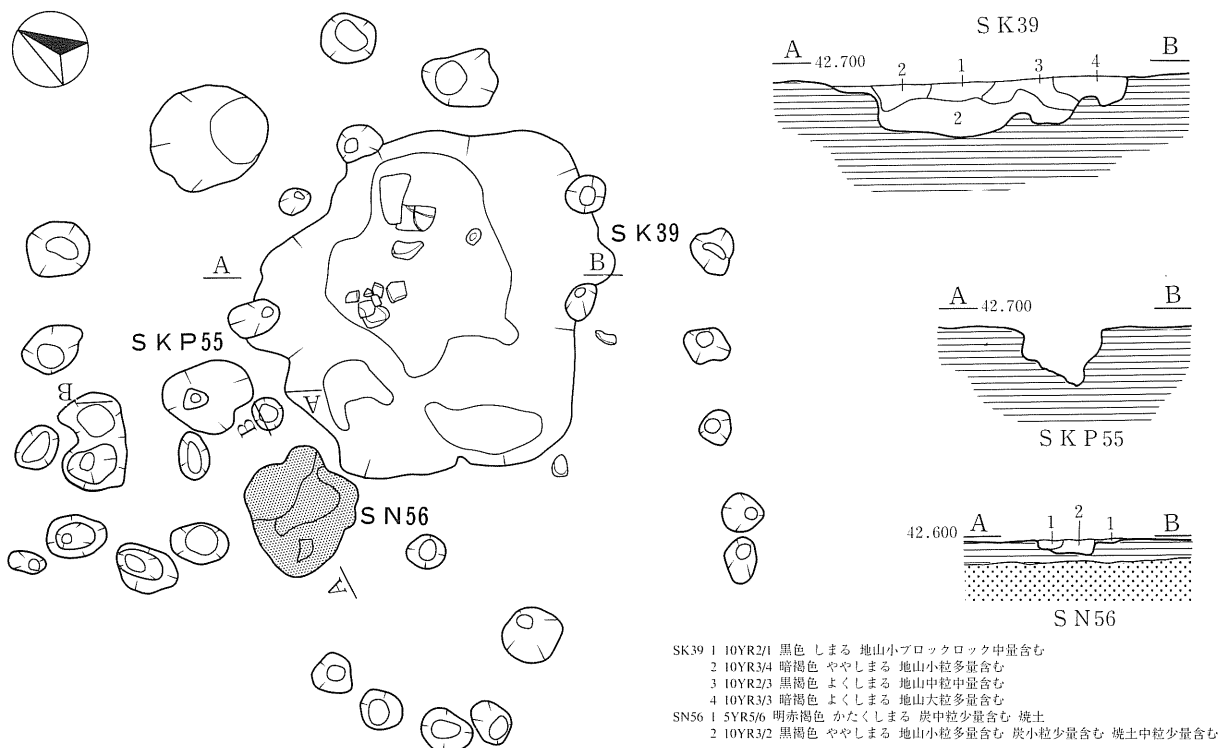
第47図 掘立柱建物跡 (37) S B や



第48図 検出遺構(1)

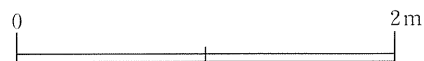
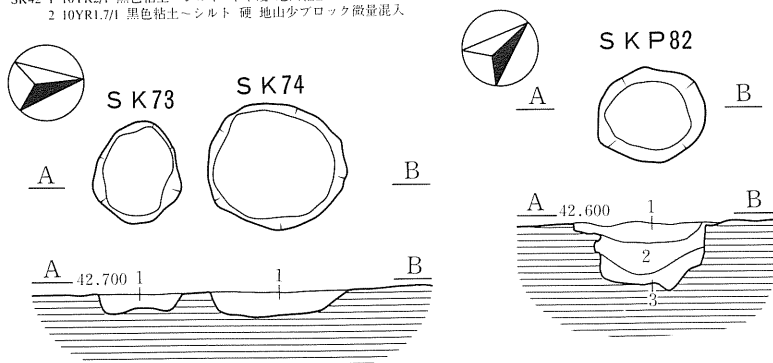


第49図 検出遺構(2)

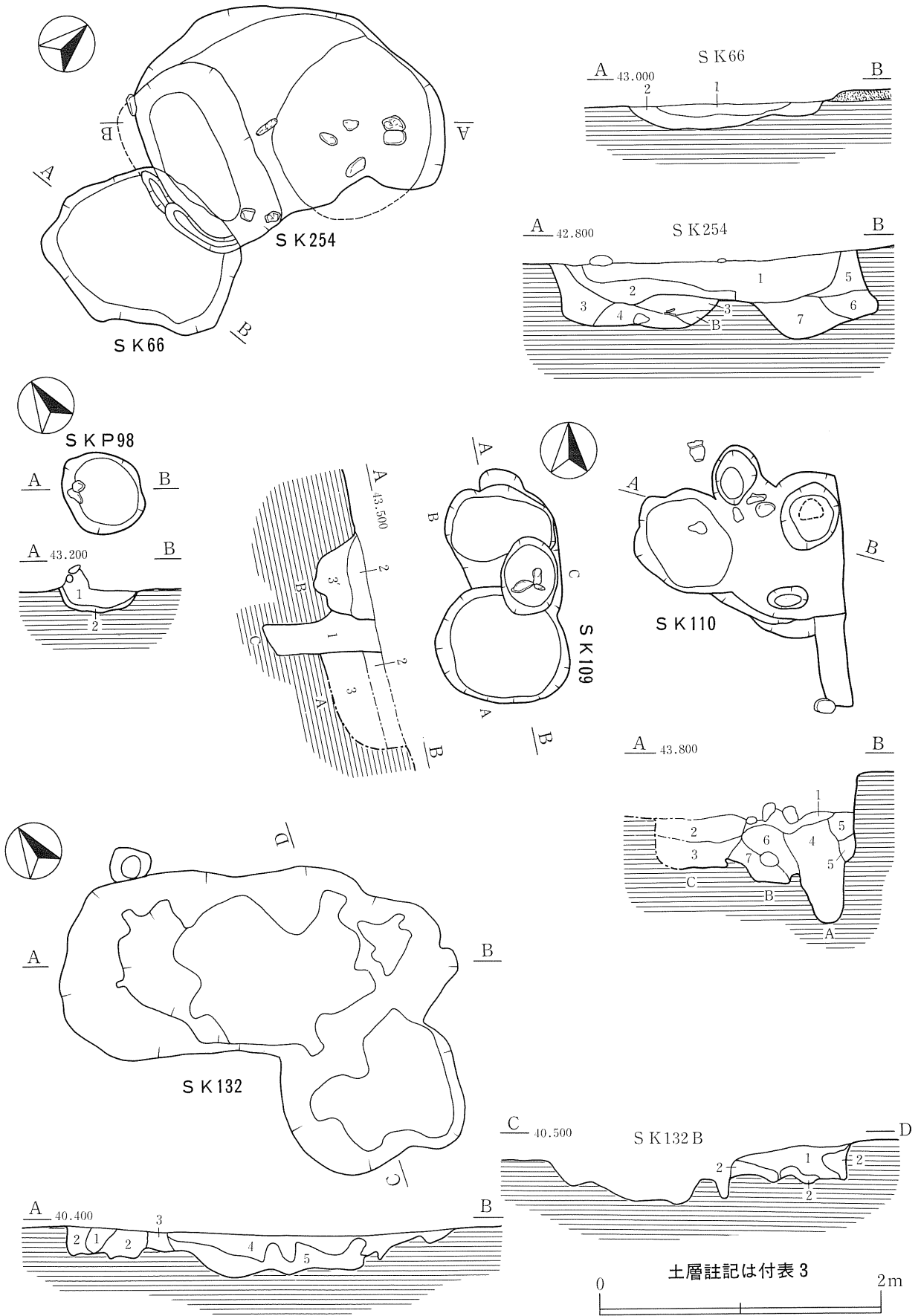


SK42 1 10YR2/1 黒色粘土～シルト やや硬 地山粘土
2 10YR1.7/1 黒色粘土～シルト 硬 地山少ブロック微量混入

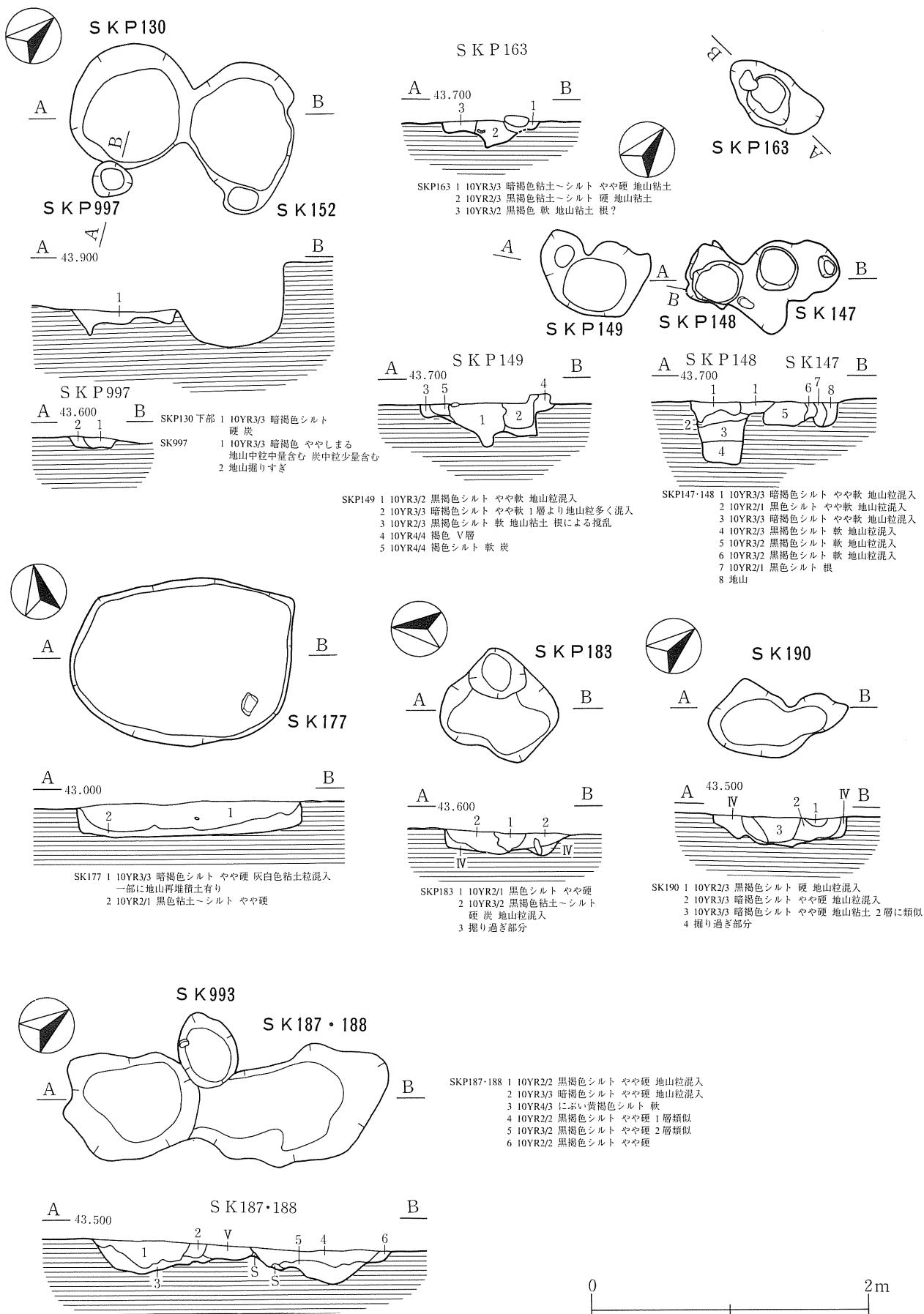
SKP73 1 10YR2/2 黒褐色 よくしまる 地山小粒少量含む
SK74 1 10YR2/1 黒色 よくしまる 地山小ブロックロクク中量含む
SKP72 1 10YR2/1 黒色シルト やや軟
2 10YR3/3 暗褐色シルト やや硬
3 10YR2/3 黒褐色シルト IV b由来
4 10YR2/1 黒色 地山粘土
5 10YR3/3 暗褐色シルト やや硬
SK82 1 10YR3/3 暗褐色 よくしまる 地山中粒中量含む
2 10YR4/4 褐色 よくしまる 地山中粒少量含む
3 10YR5/4 濃い黄褐色 ややしまる 地山再堆積



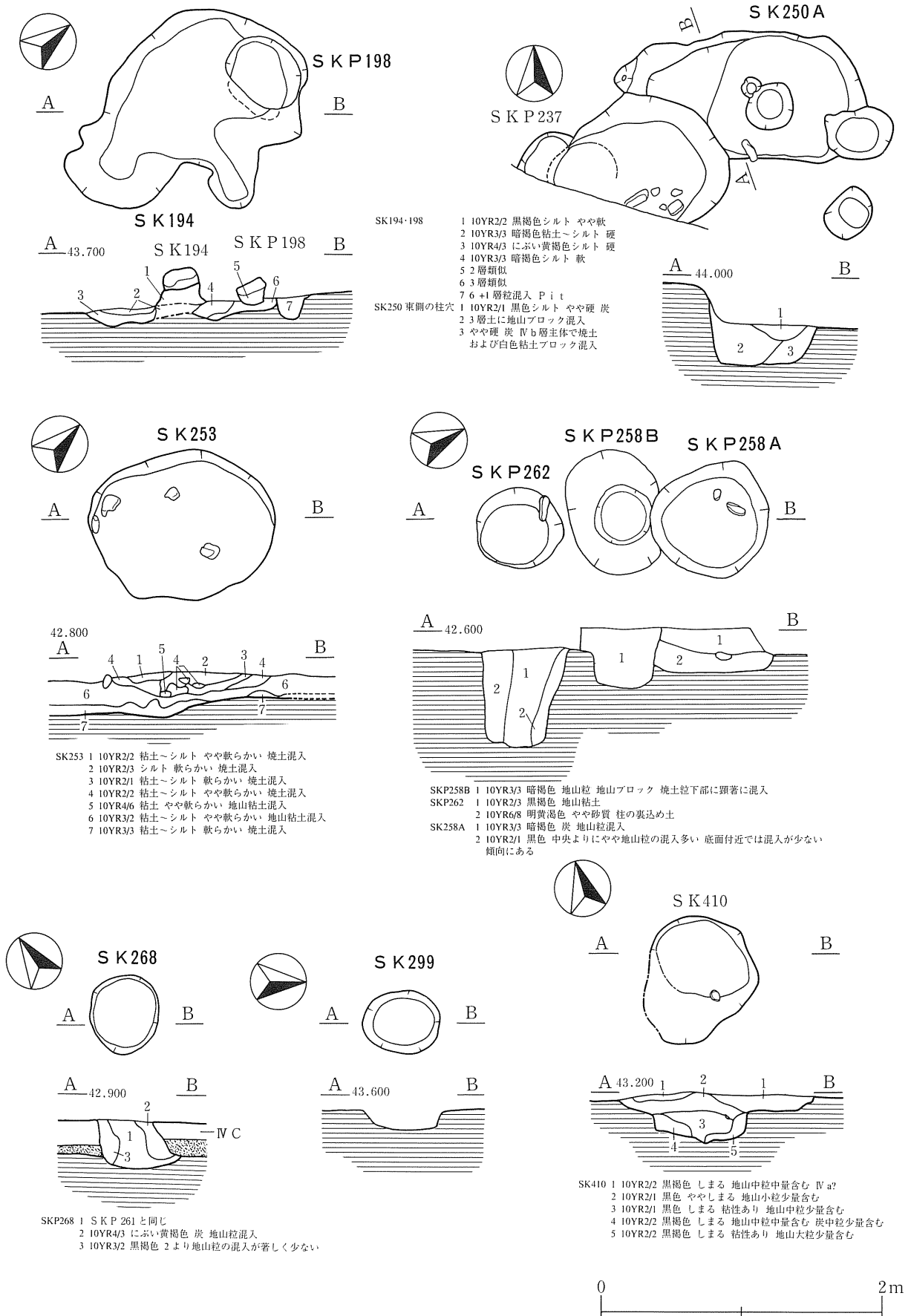
第50図 検出遺構 (3)



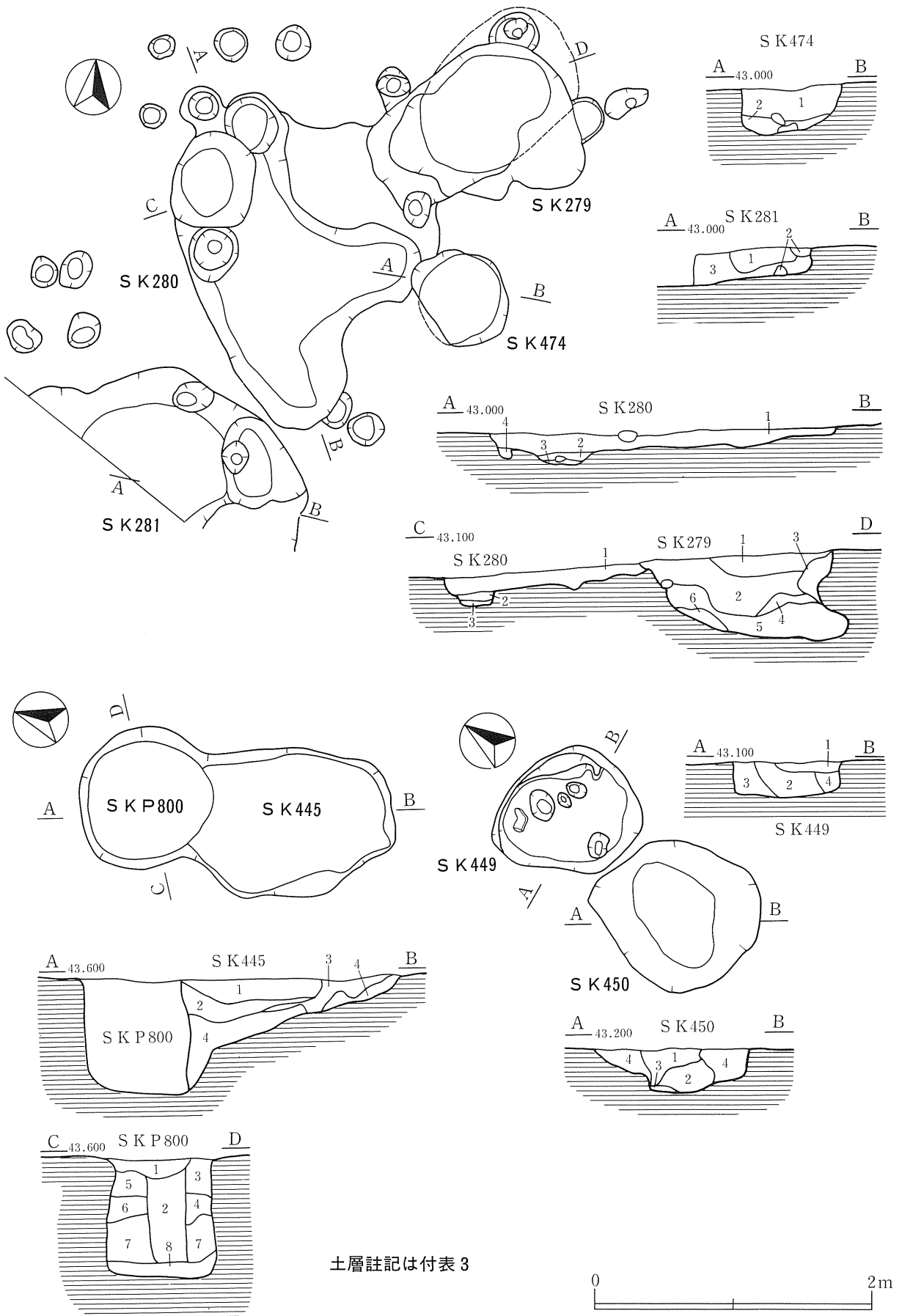
第51図 検出遺構(4)



第52図 検出遺構 (5)

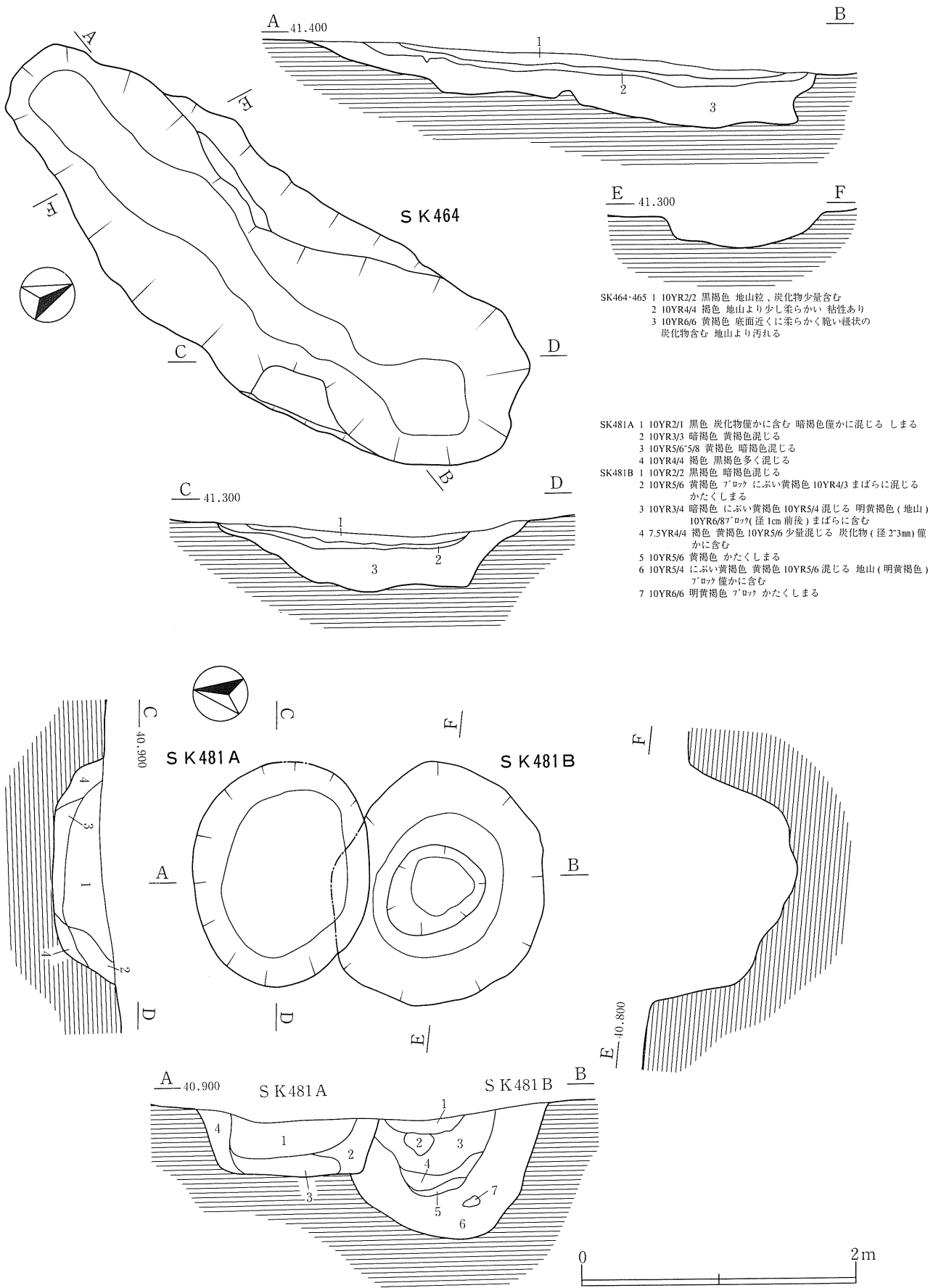


第53図 検出遺構 (6)

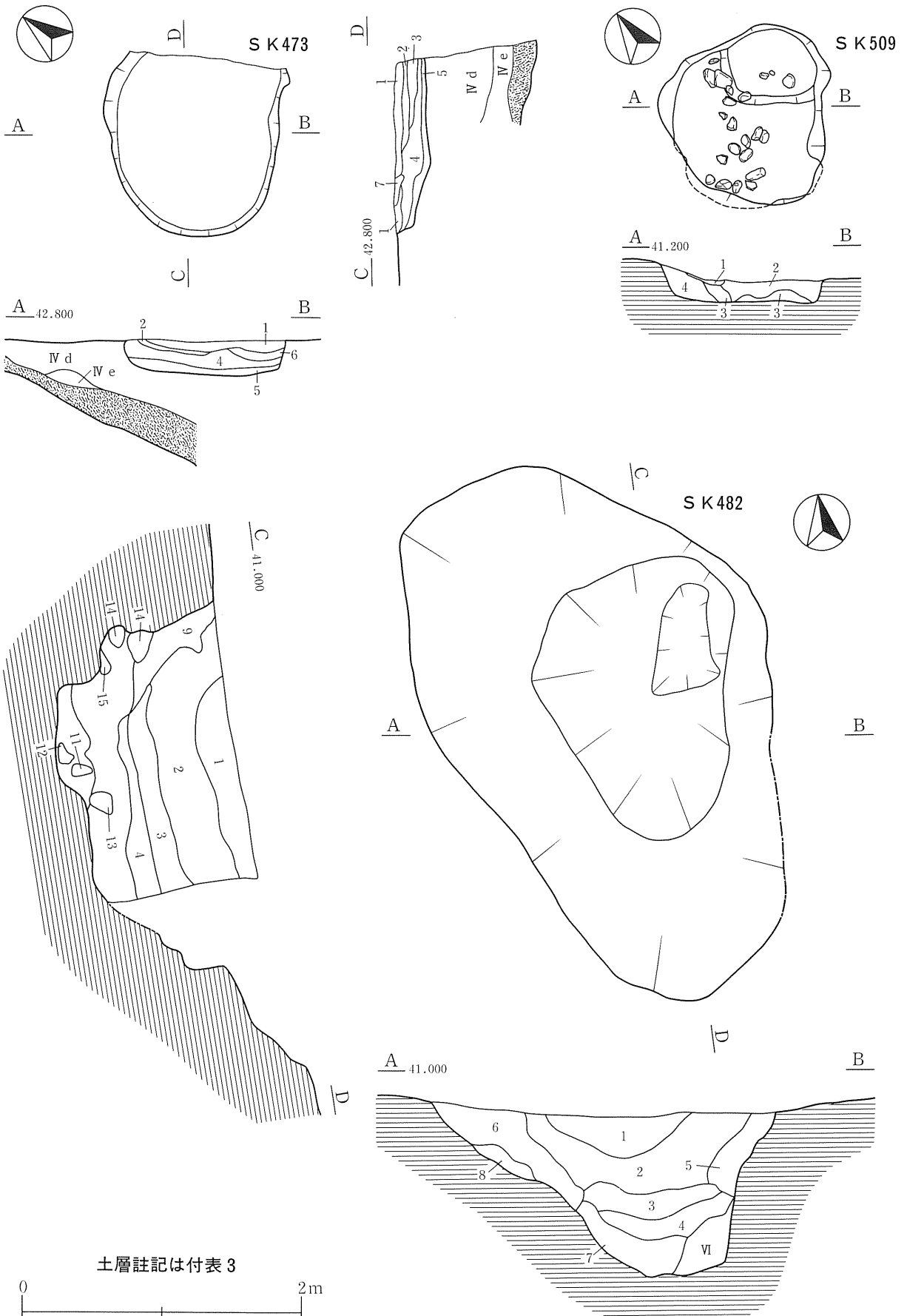


土層註記は付表3

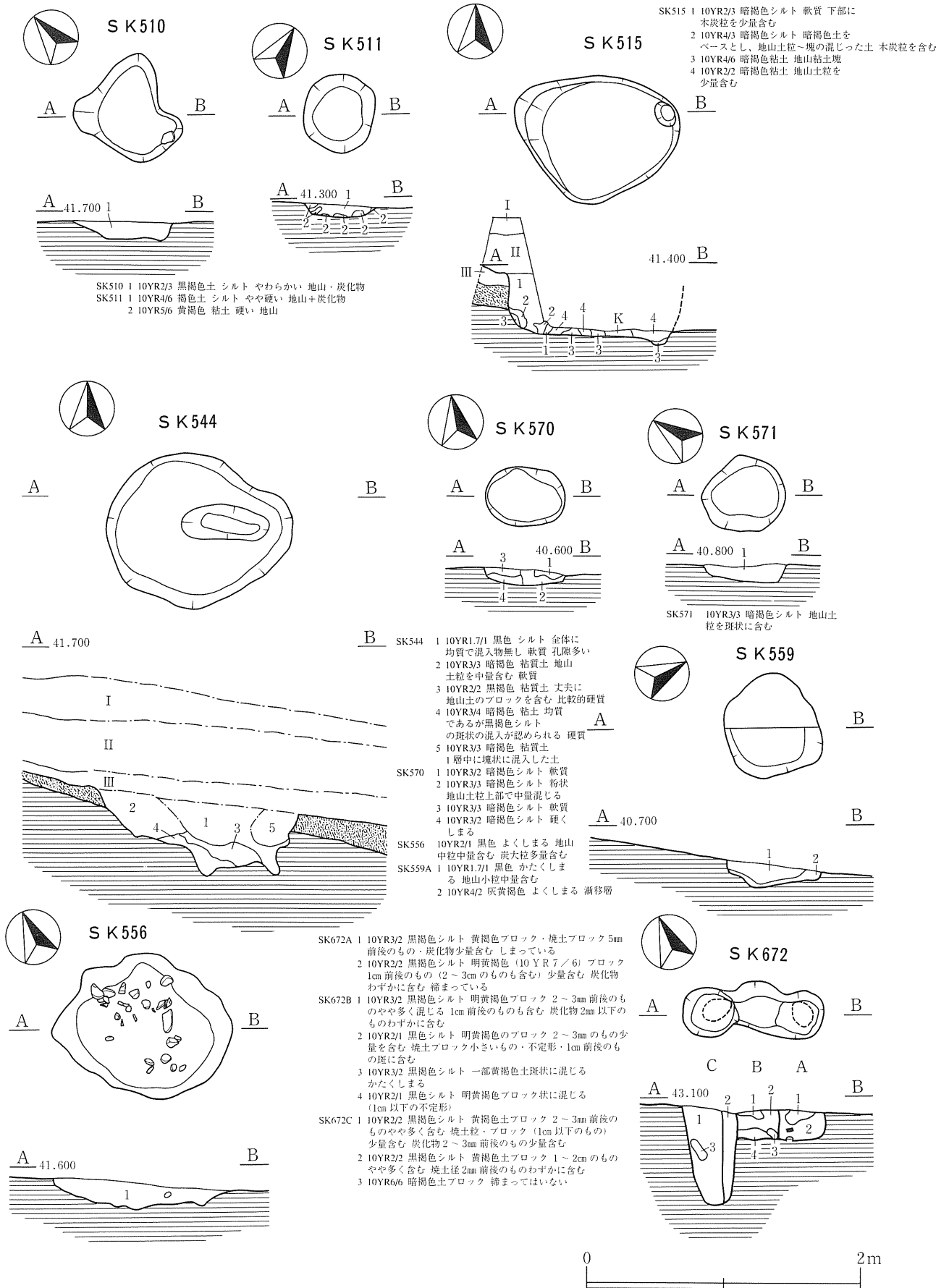
第54図 検出遺構(7)



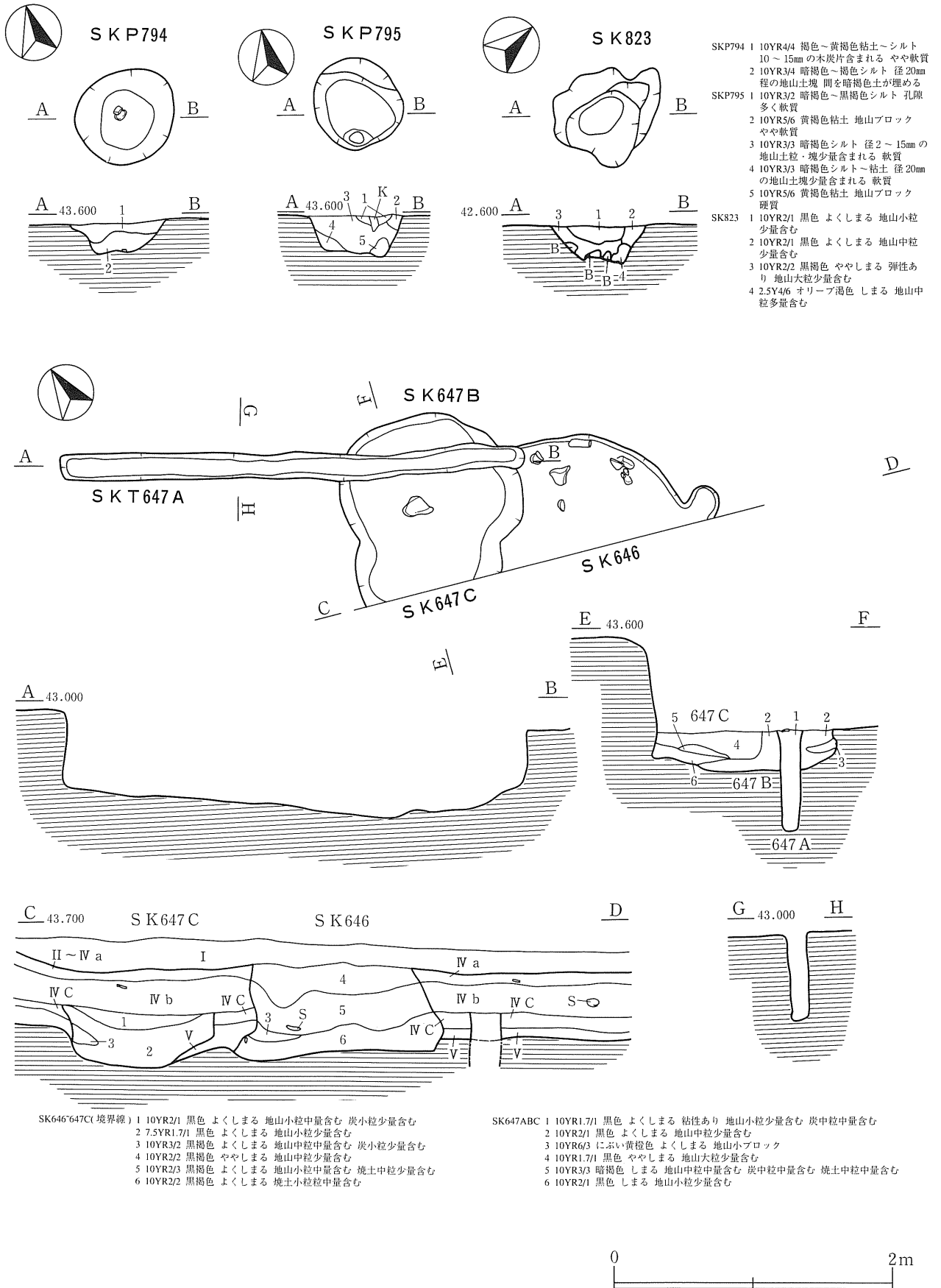
第55図 検出遺構 (8)



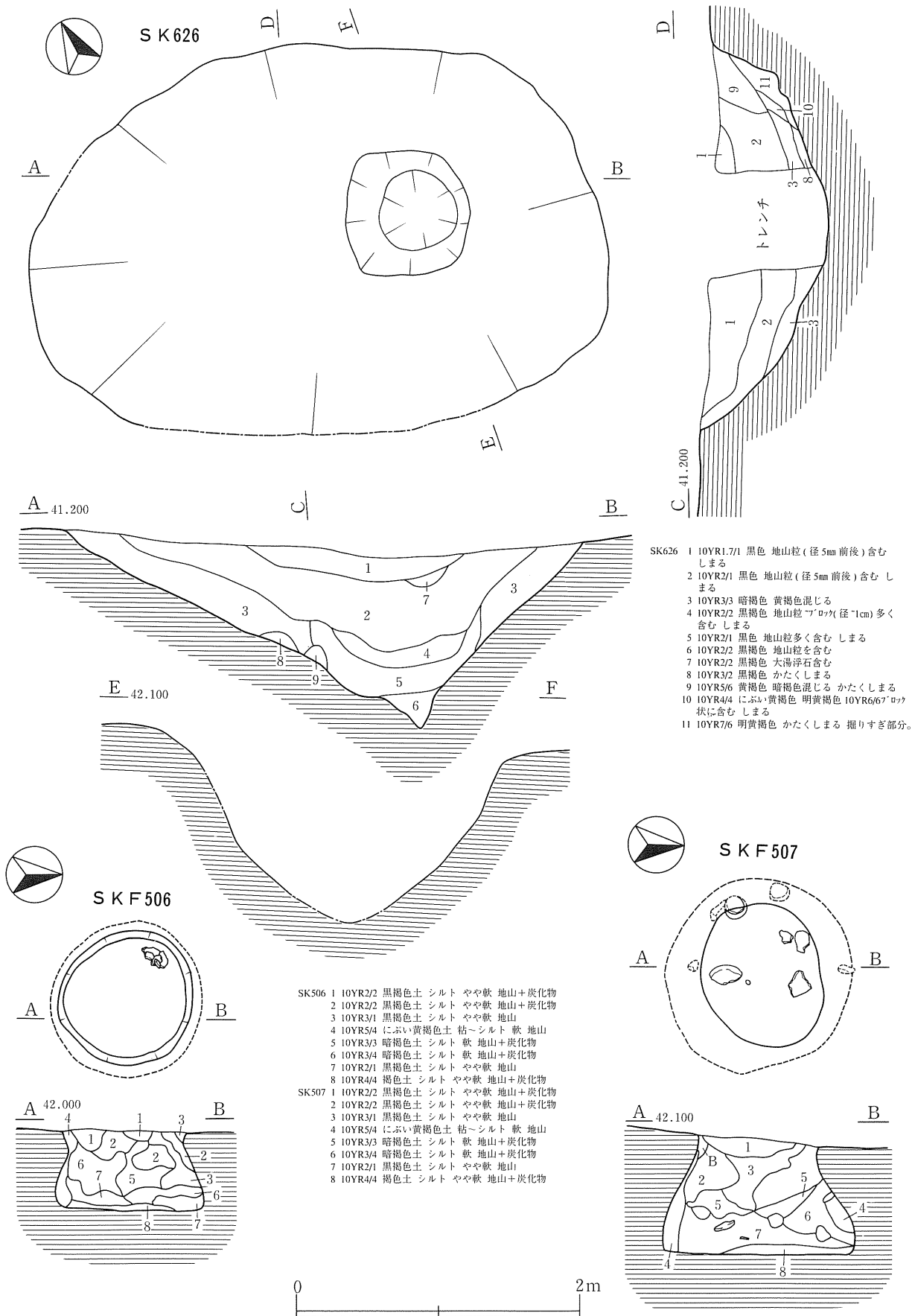
第56図 検出遺構(9)



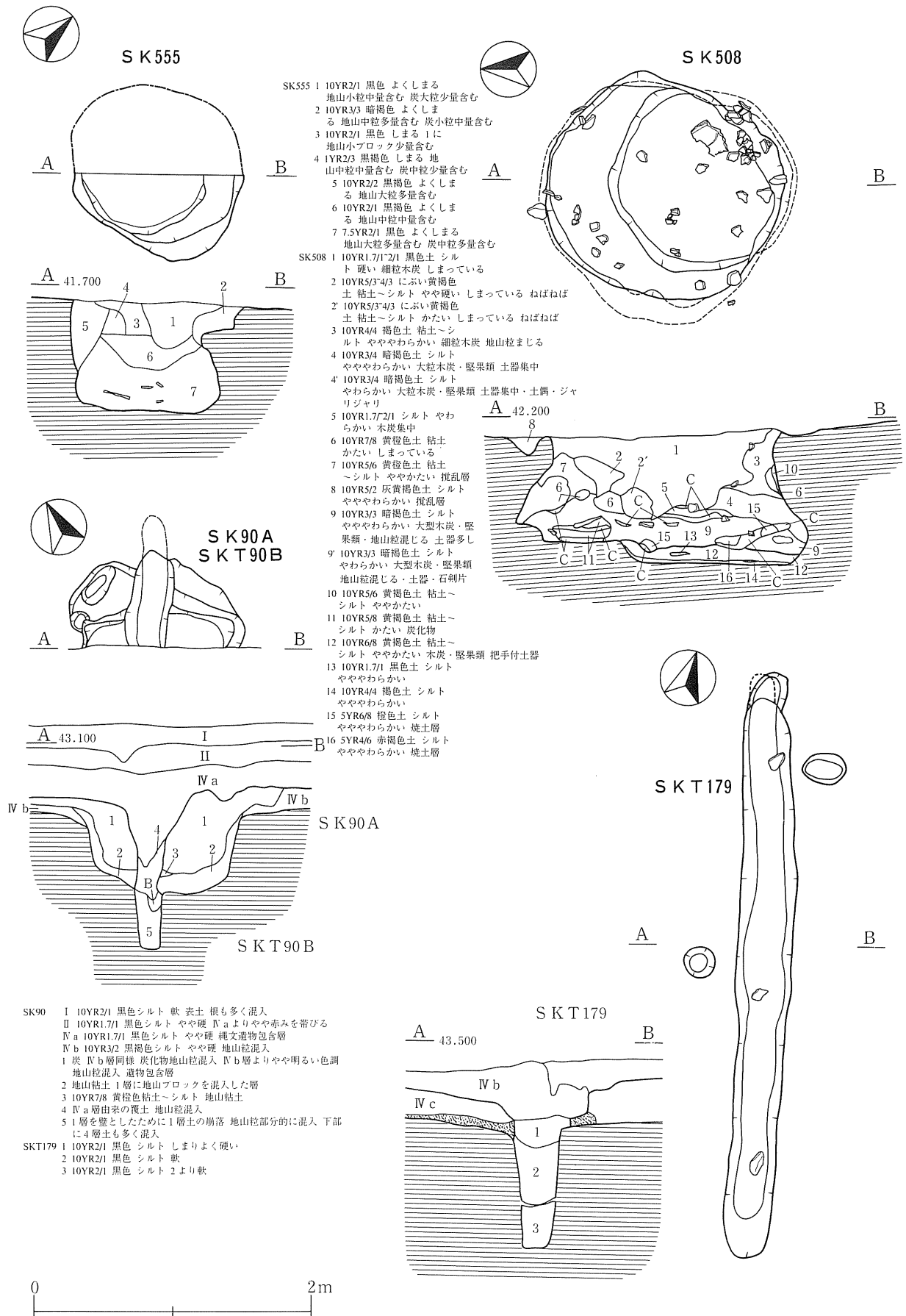
第57図 検出遺構(10)



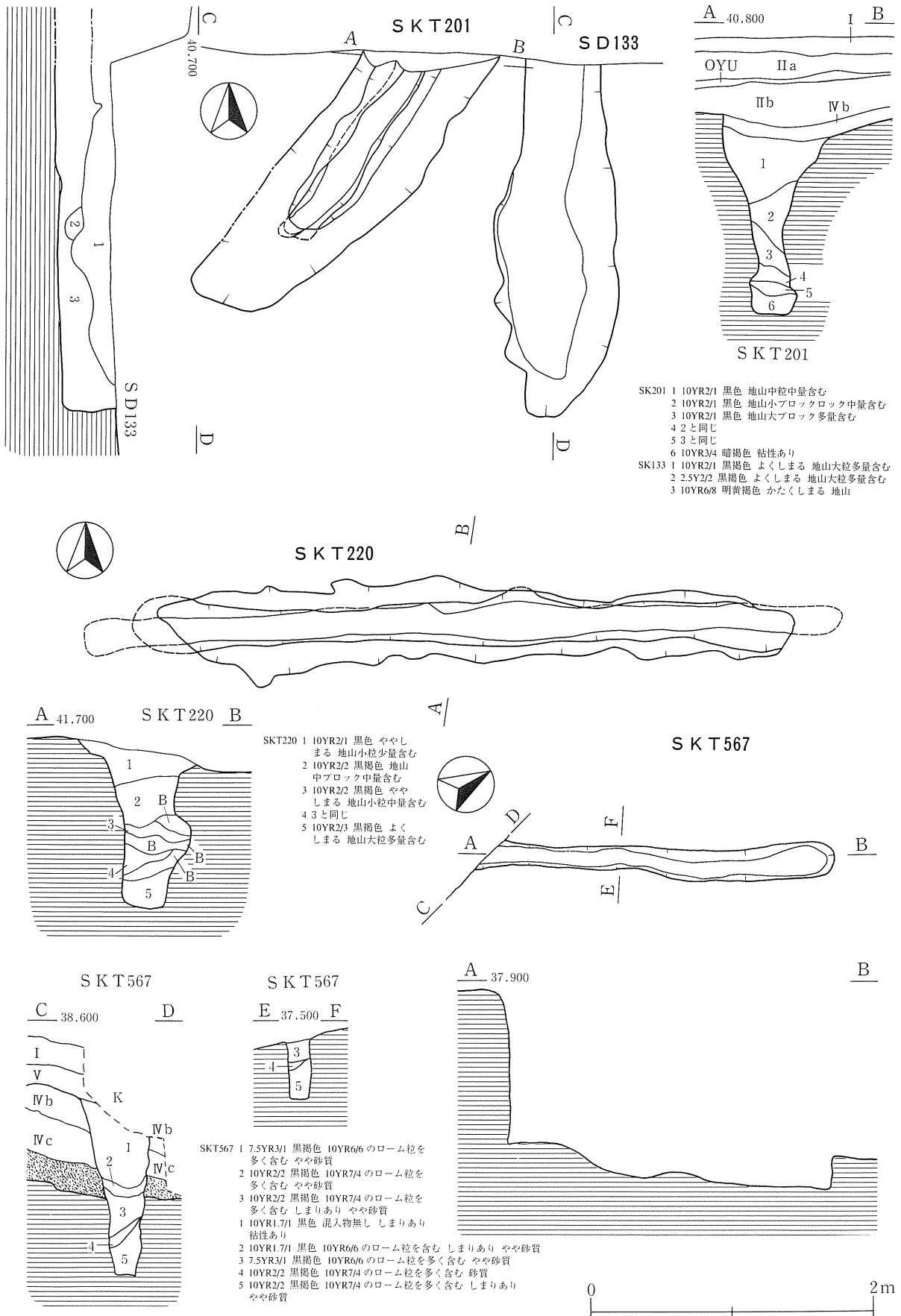
第58図 検出遺構(11)



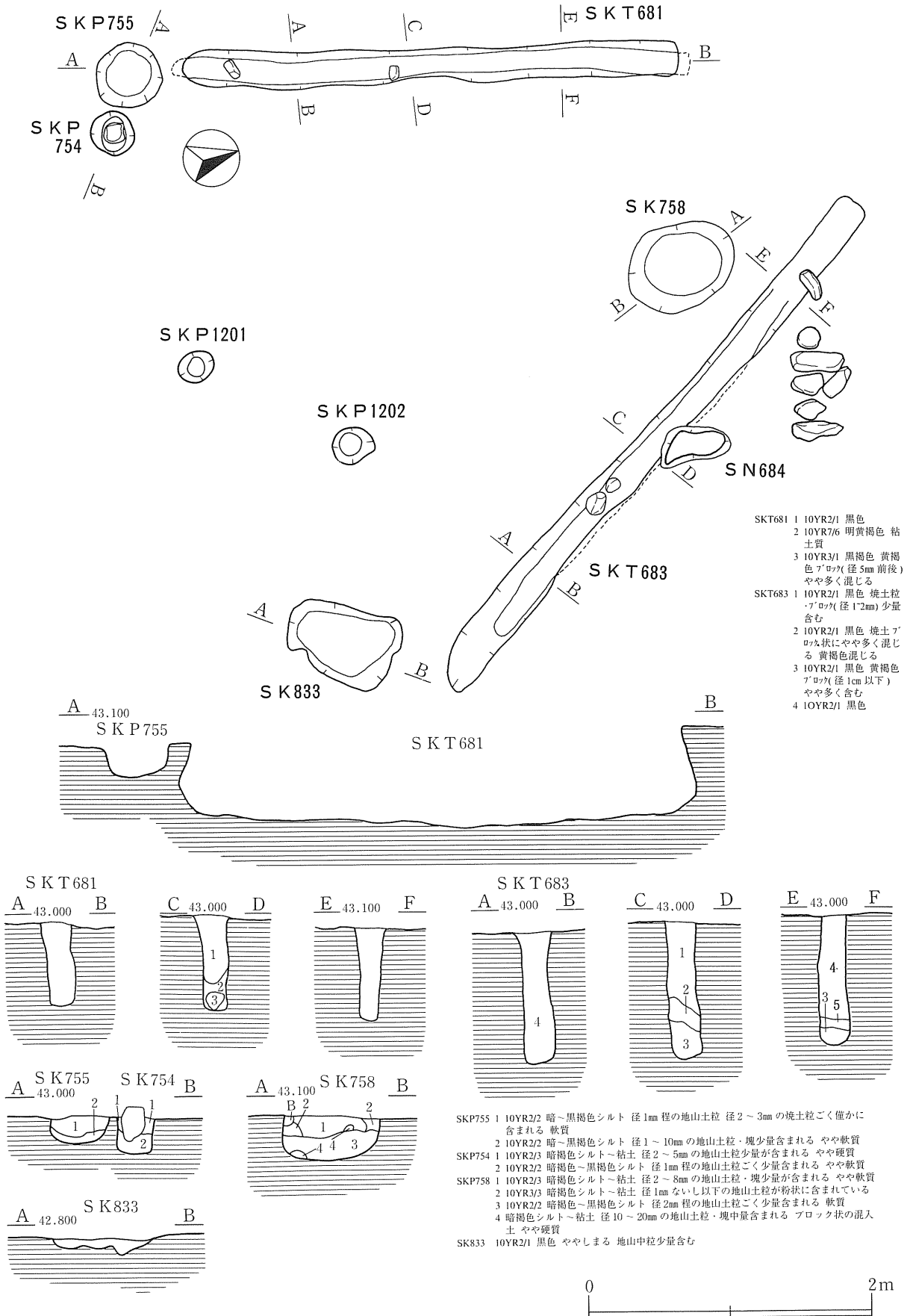
第59図 検出遺構 (12)



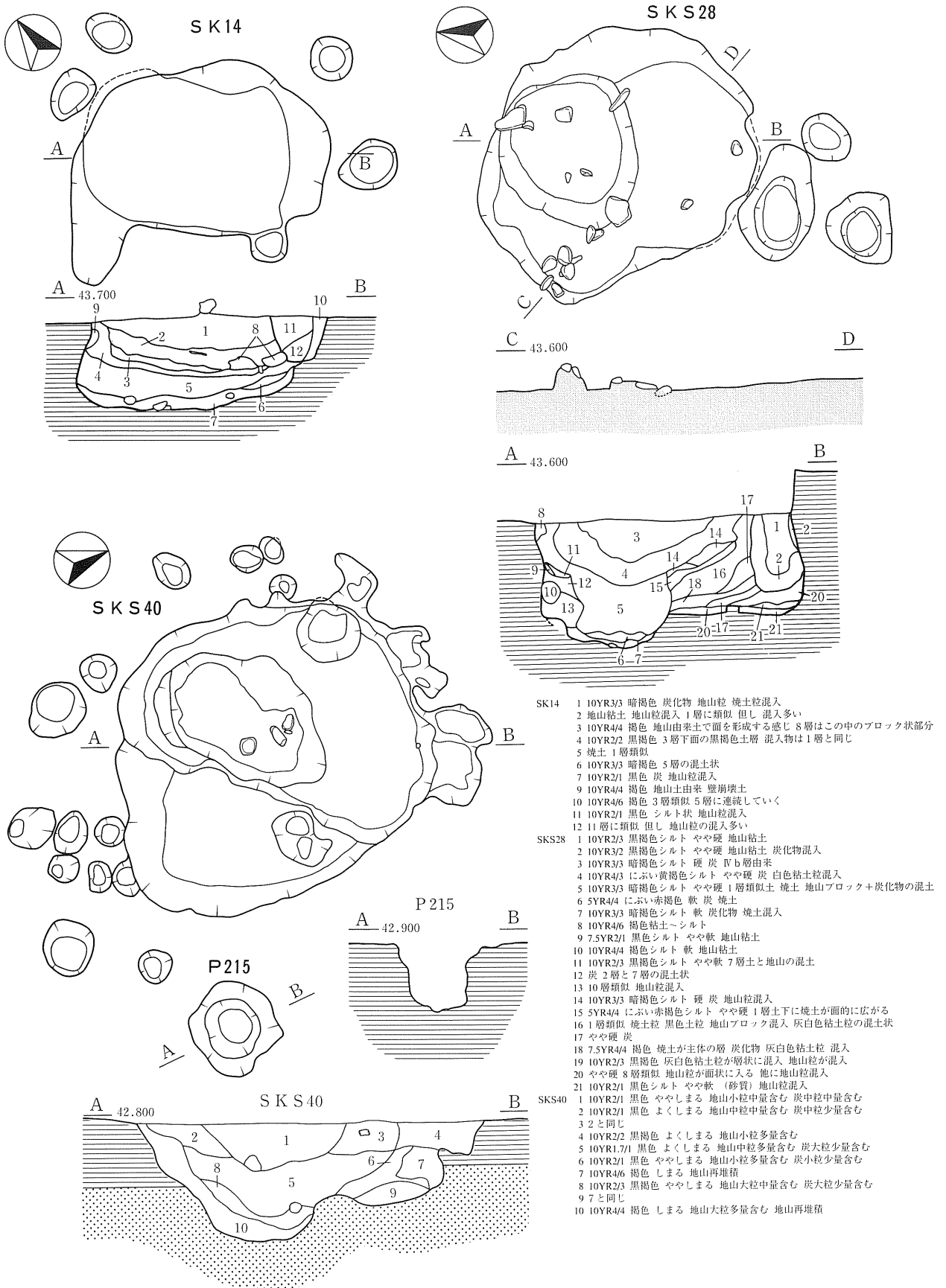
第60図 検出遺構 (13)



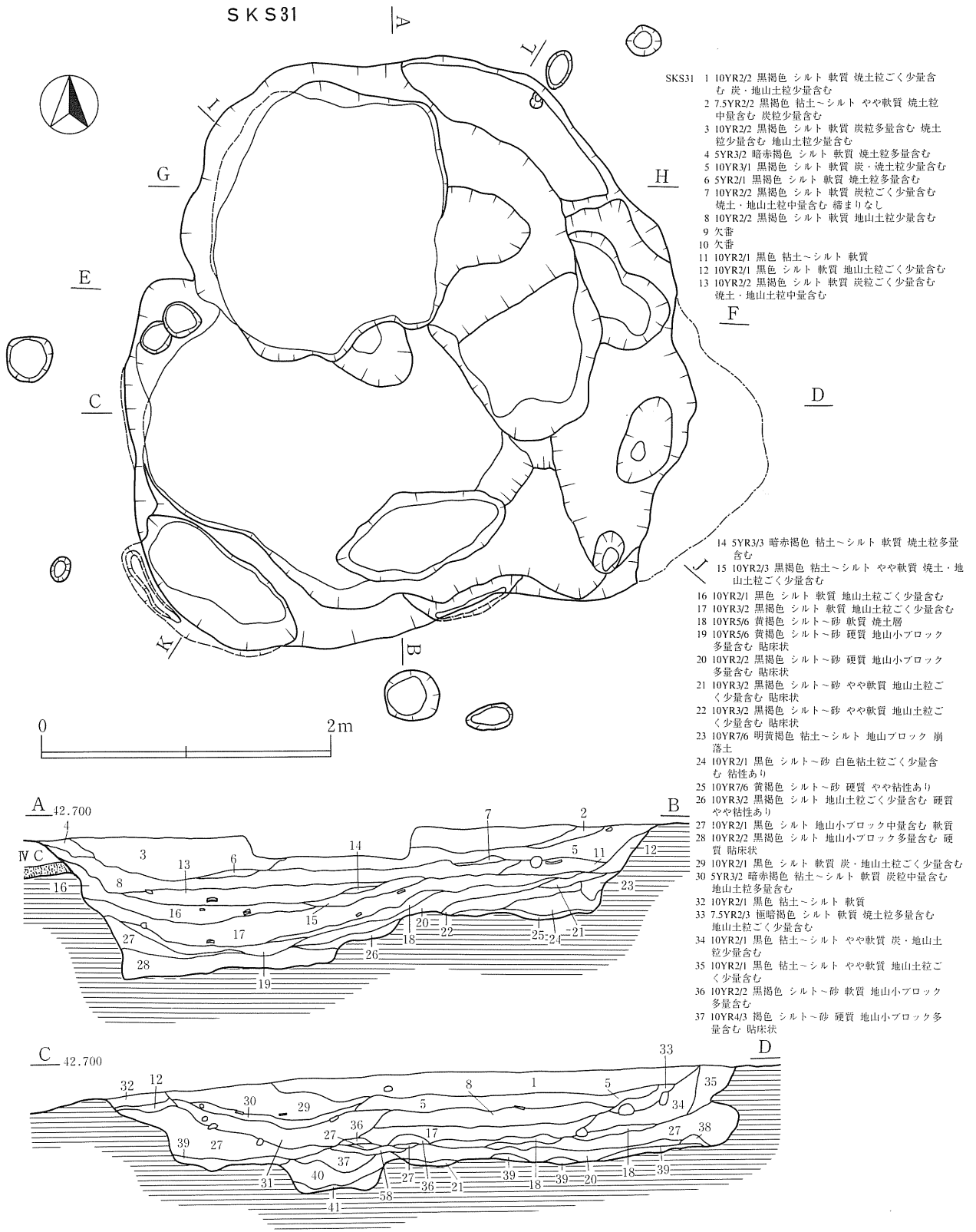
第 61 図 検出遺構 (14)



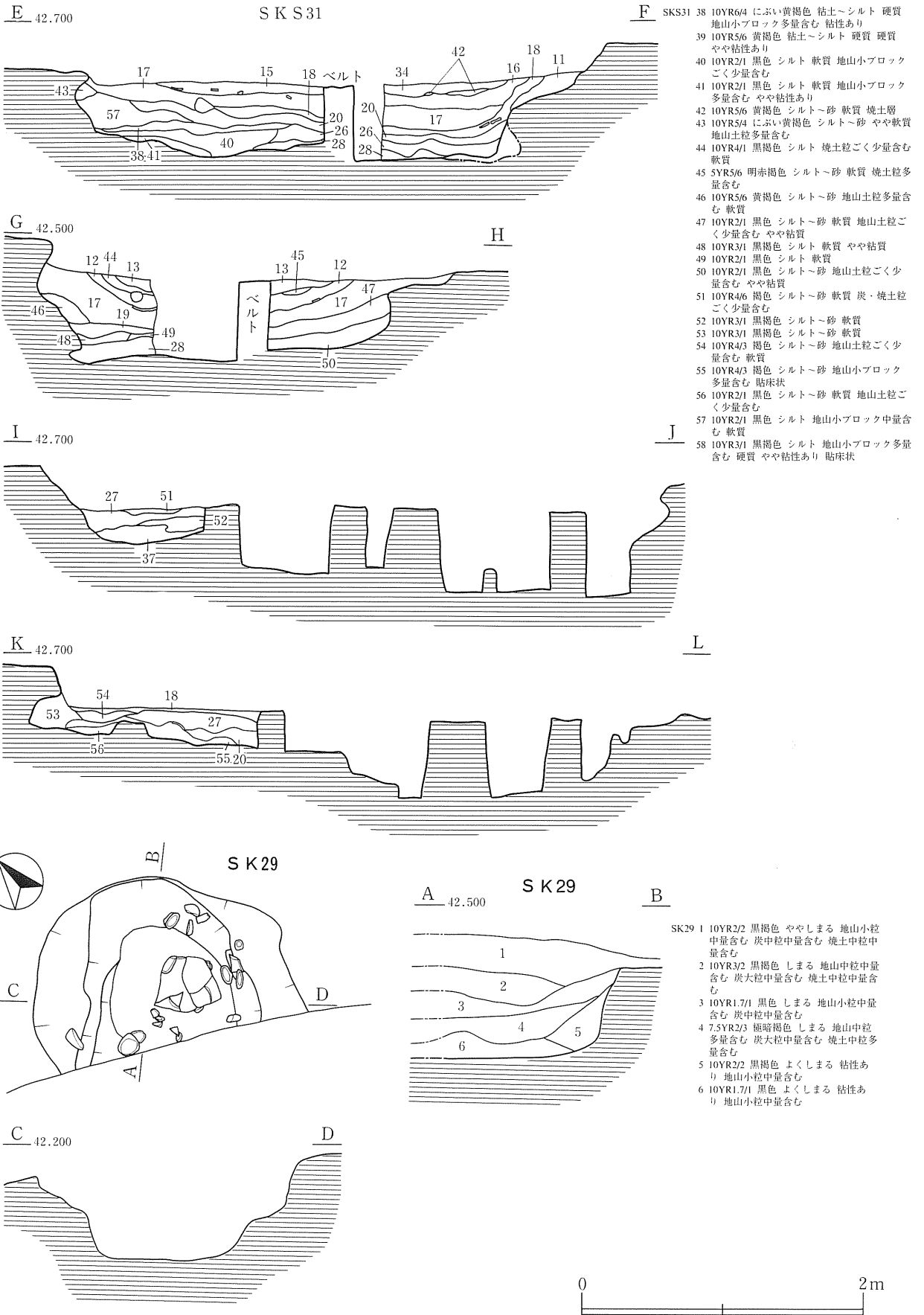
第62図 検出遺構 (15)



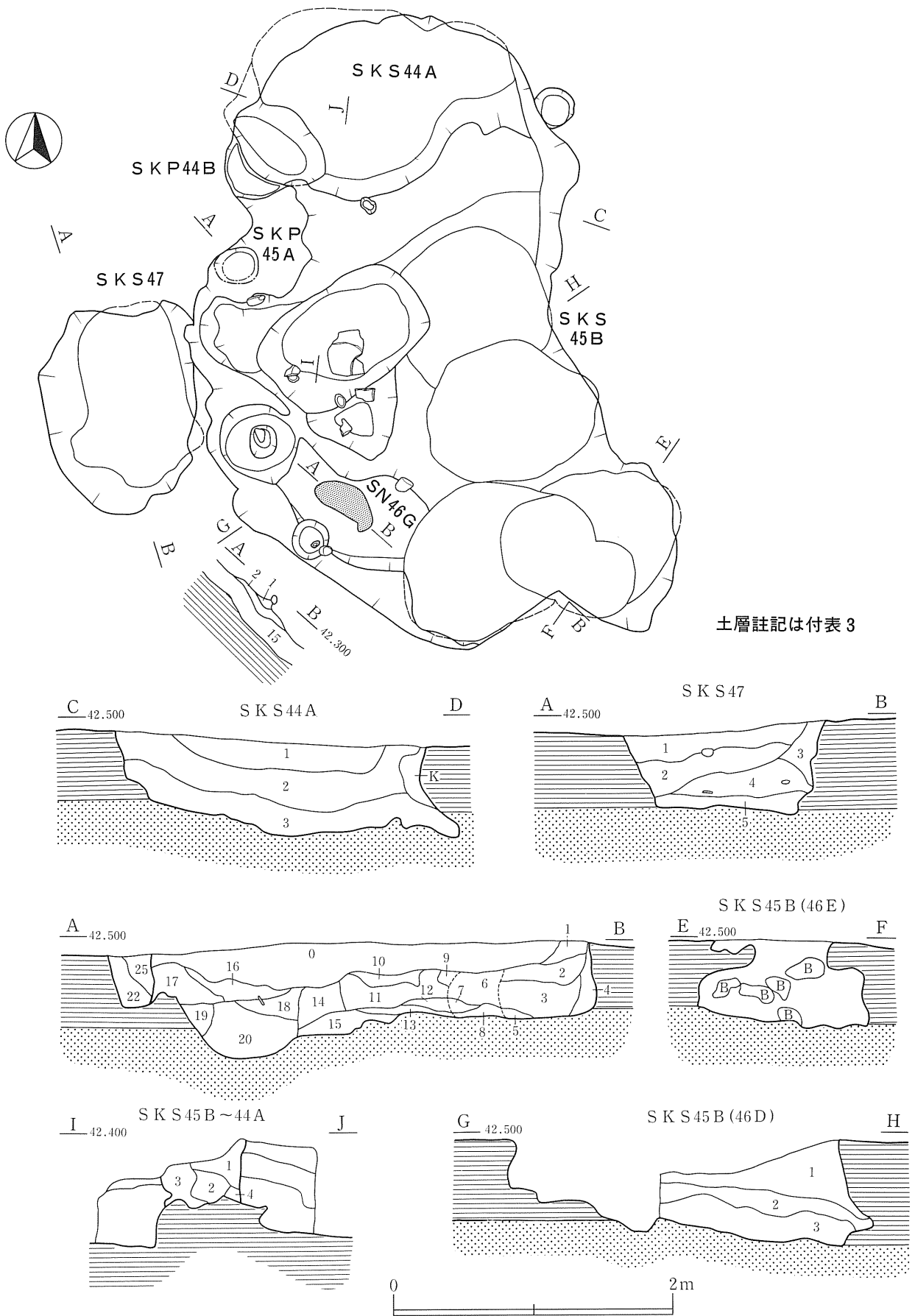
第63図 検出遺構 (16)

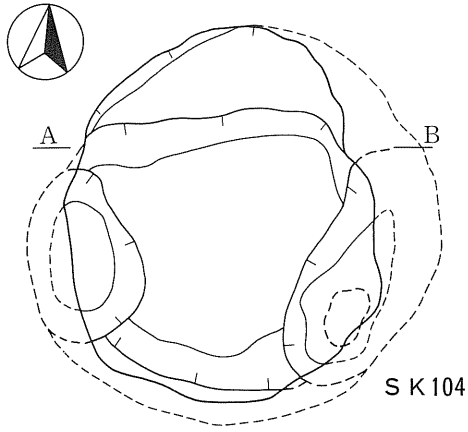


第64図 検出遺構 (17)



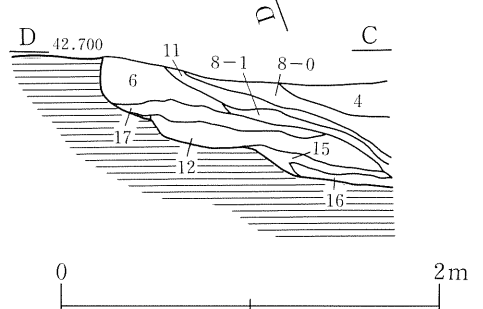
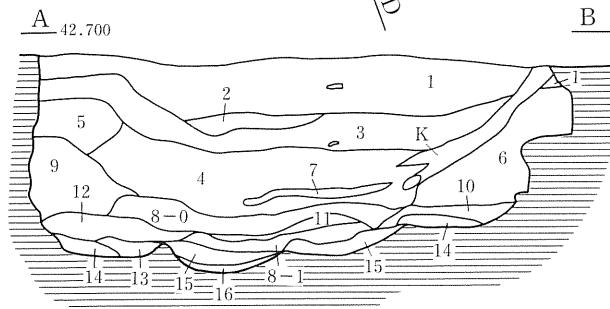
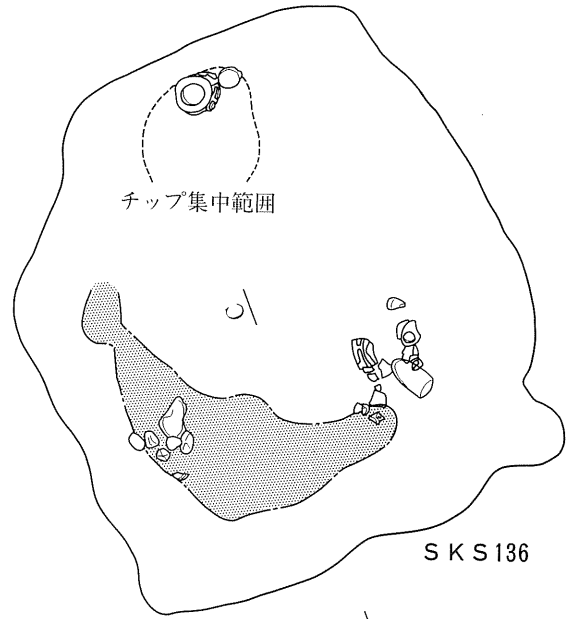
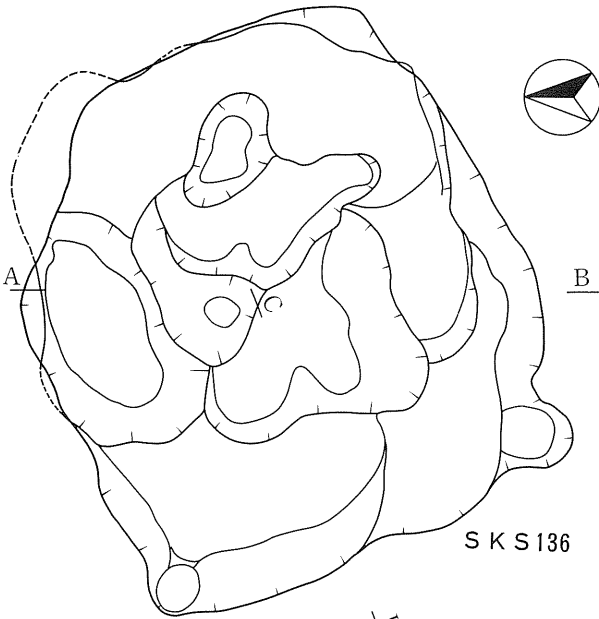
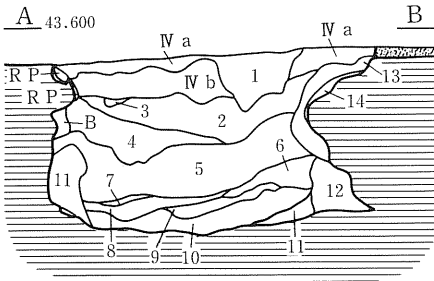
第65図 検出遺構 (18)



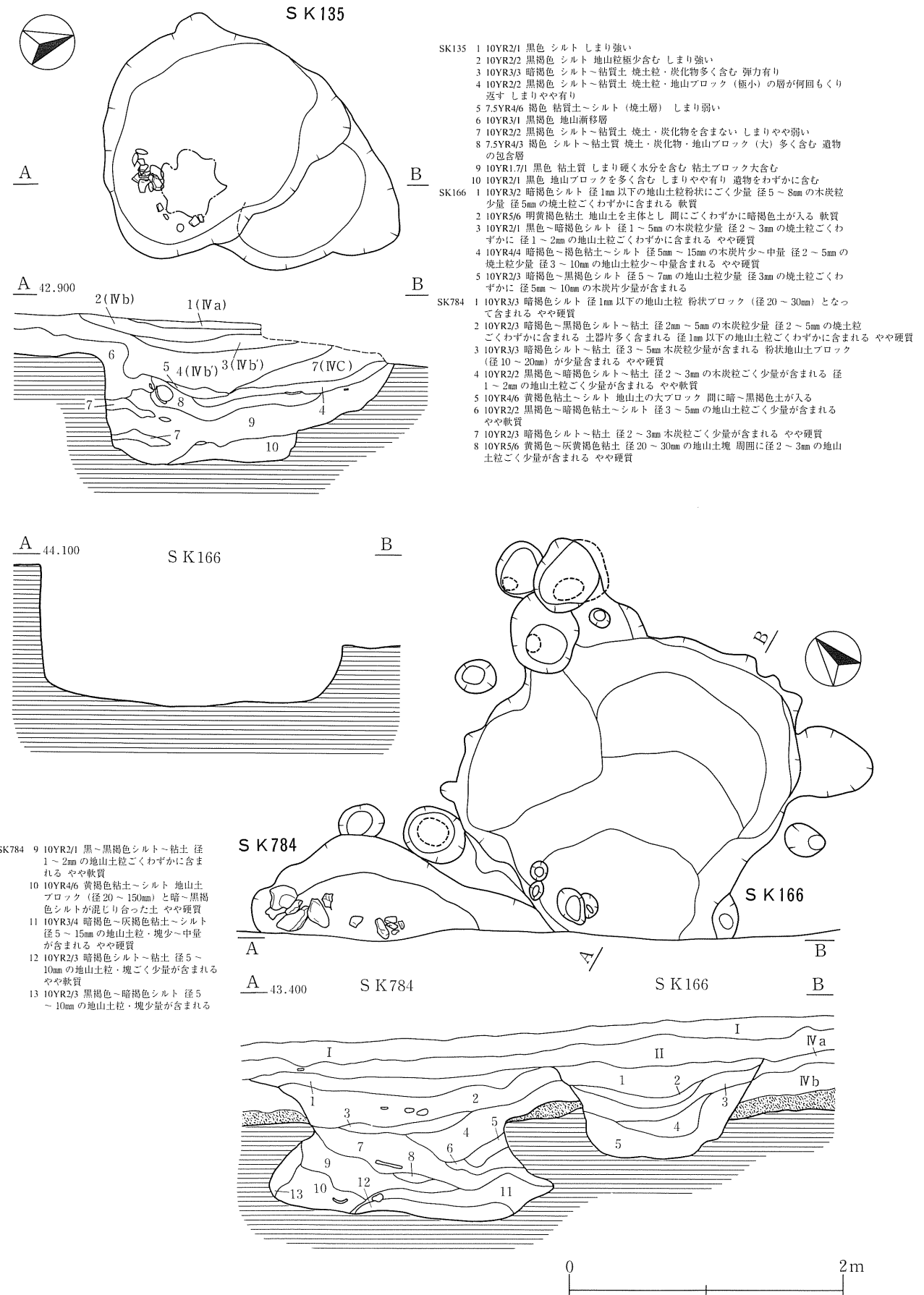


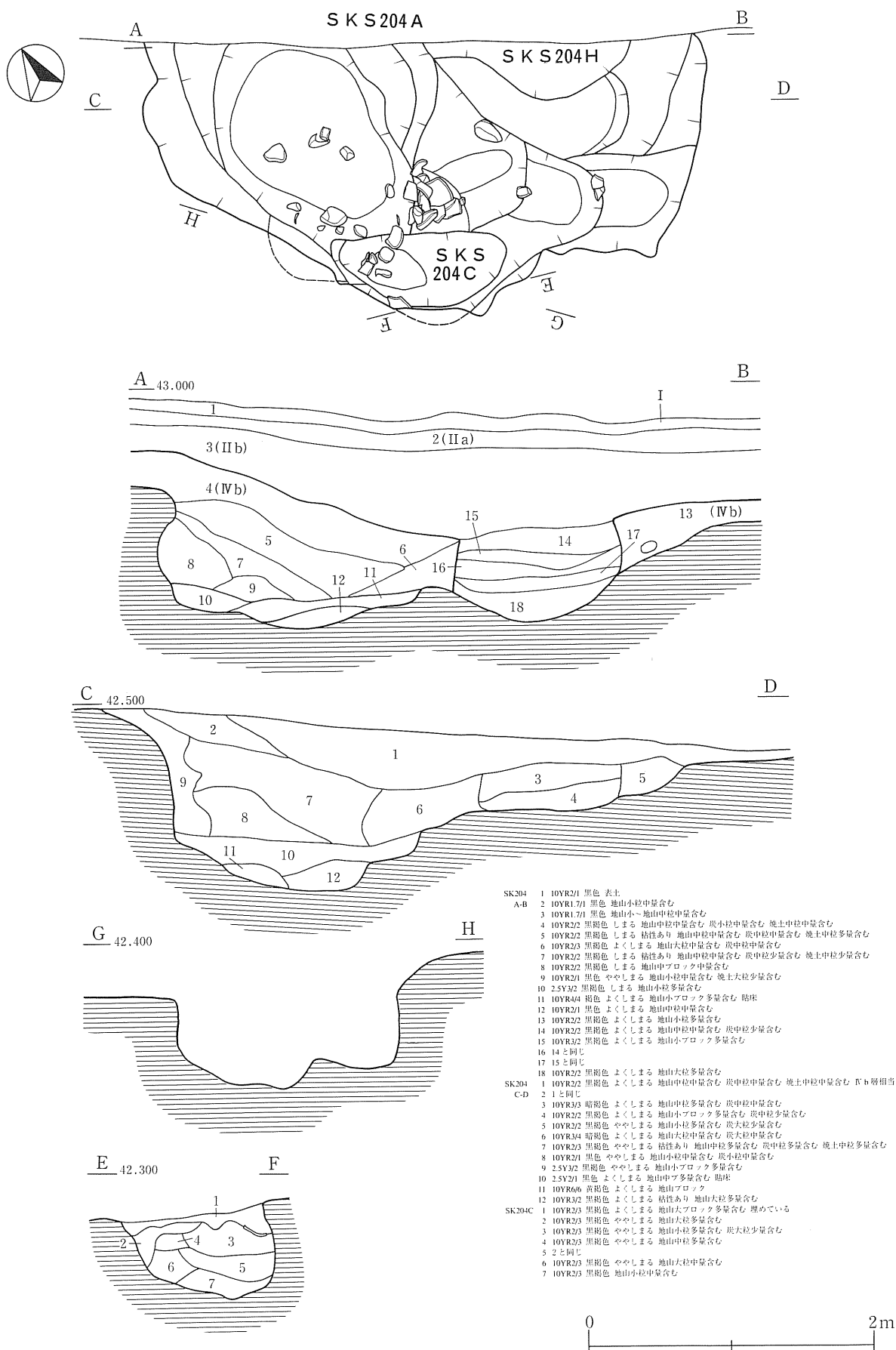
- SK104
- 1 10YR2/1 黒色シルト やや硬 地山粒混入
 - 2 10YR3/3 暗褐色シルト やや硬 地山粒 焼土粒 炭化物混入
 - 3 10YR3/2 黒褐色シルト 軟 根による影響?
 - 4 2層類似 但し 地山粒 焼土粒の混入有り
 - 5 2層と地山粒が混土 互層状になる 炭化物 焼土粒も混入 遺物多く混入
 - 8 10YR2/2 黒褐色シルト 硬 炭
 - 7 5YR4/8 赤褐色 焼土面
 - 6 5層と同様だが褐色土やや少ない
 - 9 7.5YR2/2 黒褐色 炭化物 焼土粒混入
 - 10 10YR3/4 暗褐色 22+地山粒で地山粒が多く混入
 - 11 10YR2/2 黒褐色 炭 地山粒混入
 - 12 10層類似2層
 - 13 10YR3/2 黒褐色シルト やや硬 炭 地山粒混入
 - 14 10YR4/6 褐色シルト やや硬 漸移層的
 - IV a 10YR2/1 黒色シルト やや硬 地山粒混入
 - IV b 10YR3/2 黒褐色シルト 炭 地山粒混入

- SK136
- 1 7.5YR3/2 黒褐色 炭化物 焼土ブロック (小) 多い しまり有り
 - 2 10YR5/6 黄褐色 地山ブロック層で間に焼土・炭化物少し混じる しまり強い
 - 3 10YR4/3 に近い黄褐色 焼土・炭化物少シルト しまり強い
 - 4 10YR2/3 黒褐色 焼土 炭化物少 しまりやや有り 下層に焼土多くなる
 - 5 10YR2/3 黒褐色 焼土塊・地山ブロック (小) やや多い しまり強い
 - 6 10YR3/1 黒褐色
 - 7 7.5YR4/6 褐色 焼土層 粘り少ない しまり強い
 - 8-0 7.5YR4/3 褐色 焼土層 炭化物やや多い 粘土ブロック (小) 少ない 粘り無し しまりやや弱い
 - 8-1 7.5YR5/6 明褐色 炭化物・焼土ブロック (中) 多い しまり有り 粘り少し有り
 - 9 10YR2/3 黒褐色 地山ブロック (中) やや多い 焼土ブロック (中) 少し 粘りやや有り しまりやや弱い
 - 10 10YR6/8 明黄褐色 地山ブロック層 しまり有り
 - 11 10YR3/3 暗褐色 焼土粒少し しまりやや弱い
 - 12 10YR1/7/1 黒色 焼土・炭化物などの混じりが無い しまりやや有り
 - 13 10YR2/2 黒色 地山粒多い 粘り有り しまりやや有り
 - 14 10YR4/2 灰黄褐色 地山粒多い 水分多い 粘り強い しまり強い
 - 15 10YR6/6 明黄褐色 地山ブロック層 しまり強い
 - 16 10YR3/1 黒褐色 水分多い 地山ブロック大 しまり強い
 - 17 10YR6/8 明黄褐色 地山ブロック (中) しまり強い 粘り無し

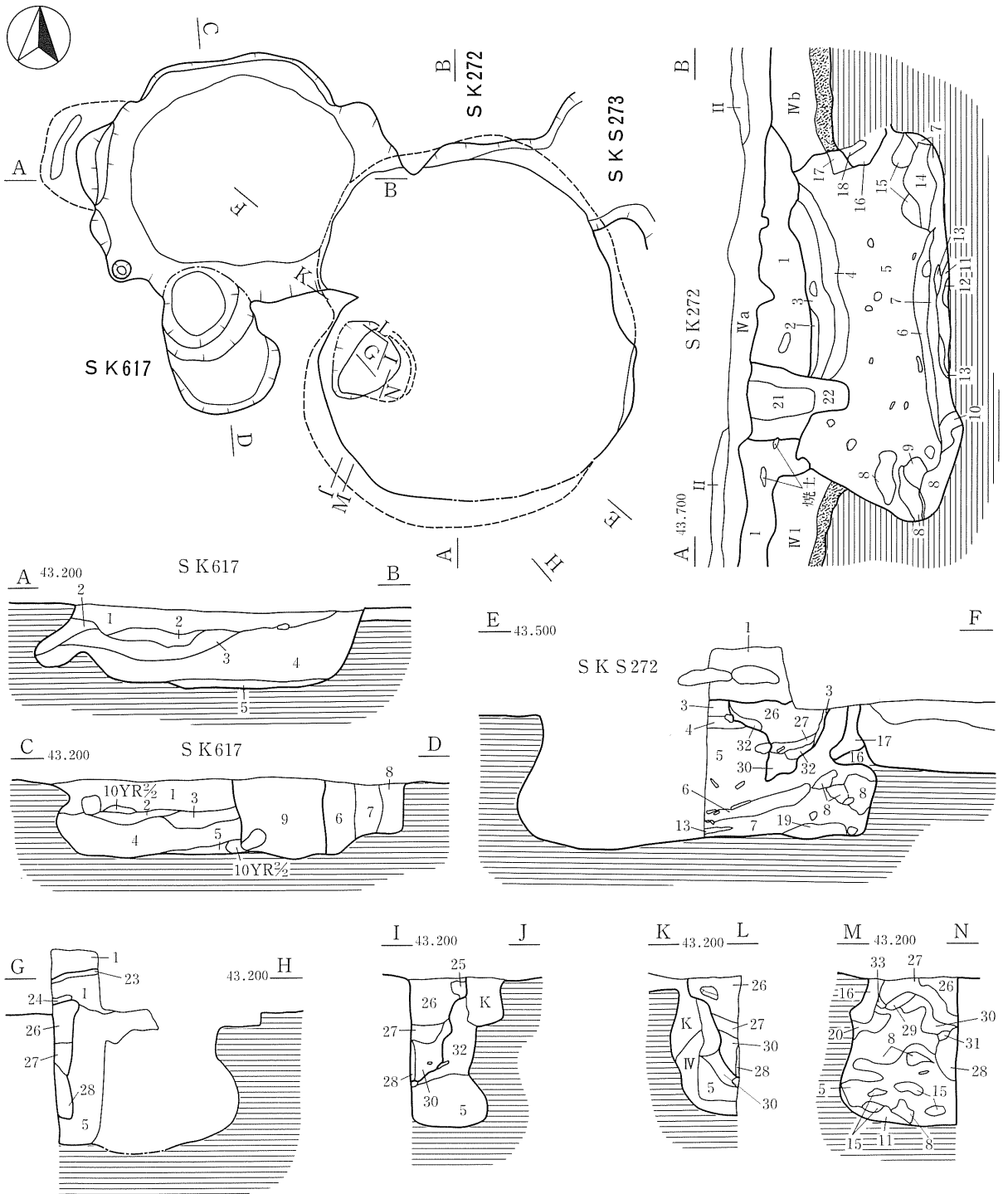


第67図 検出遺構 (20)

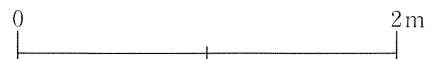




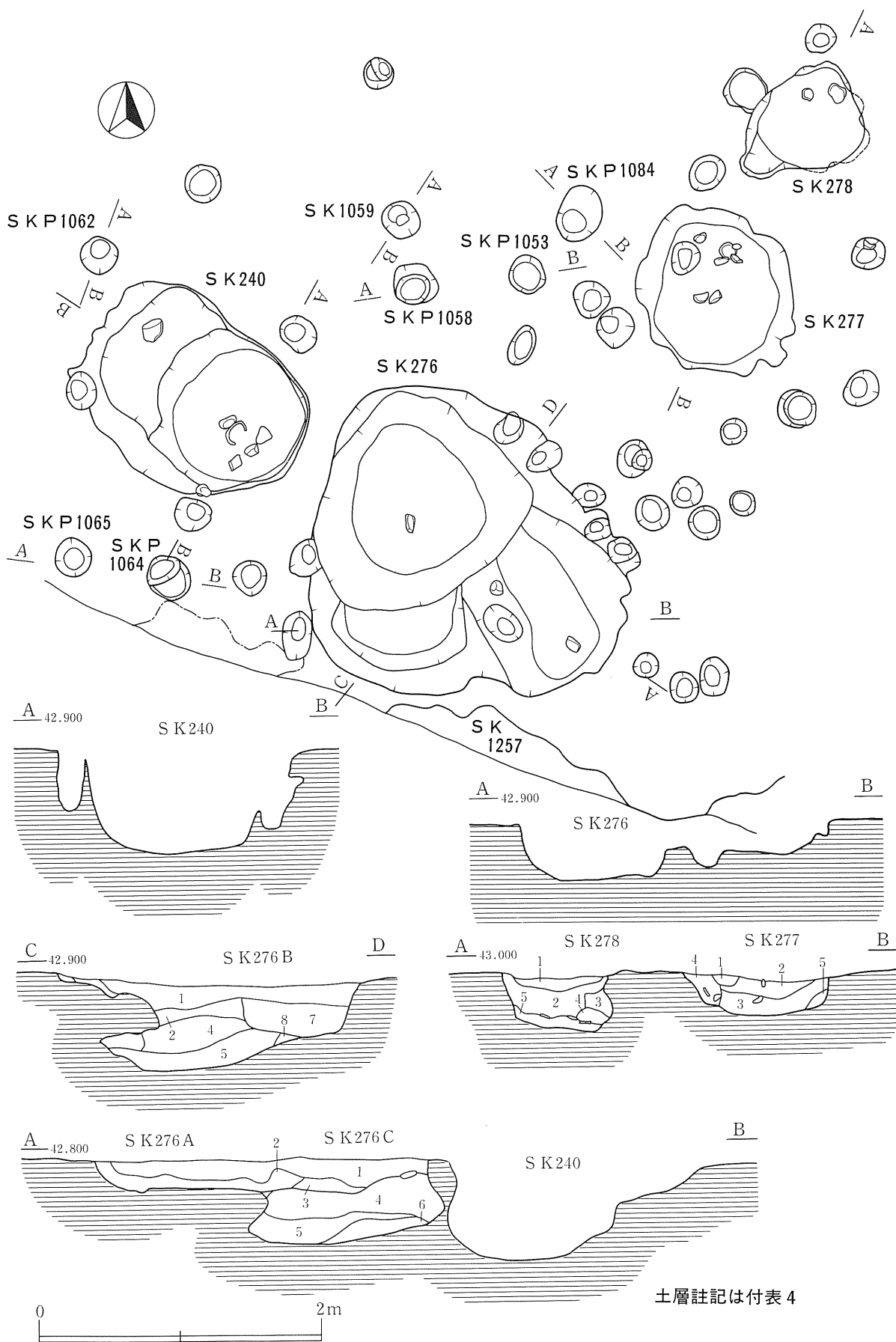
第69図 検出遺構 (22)



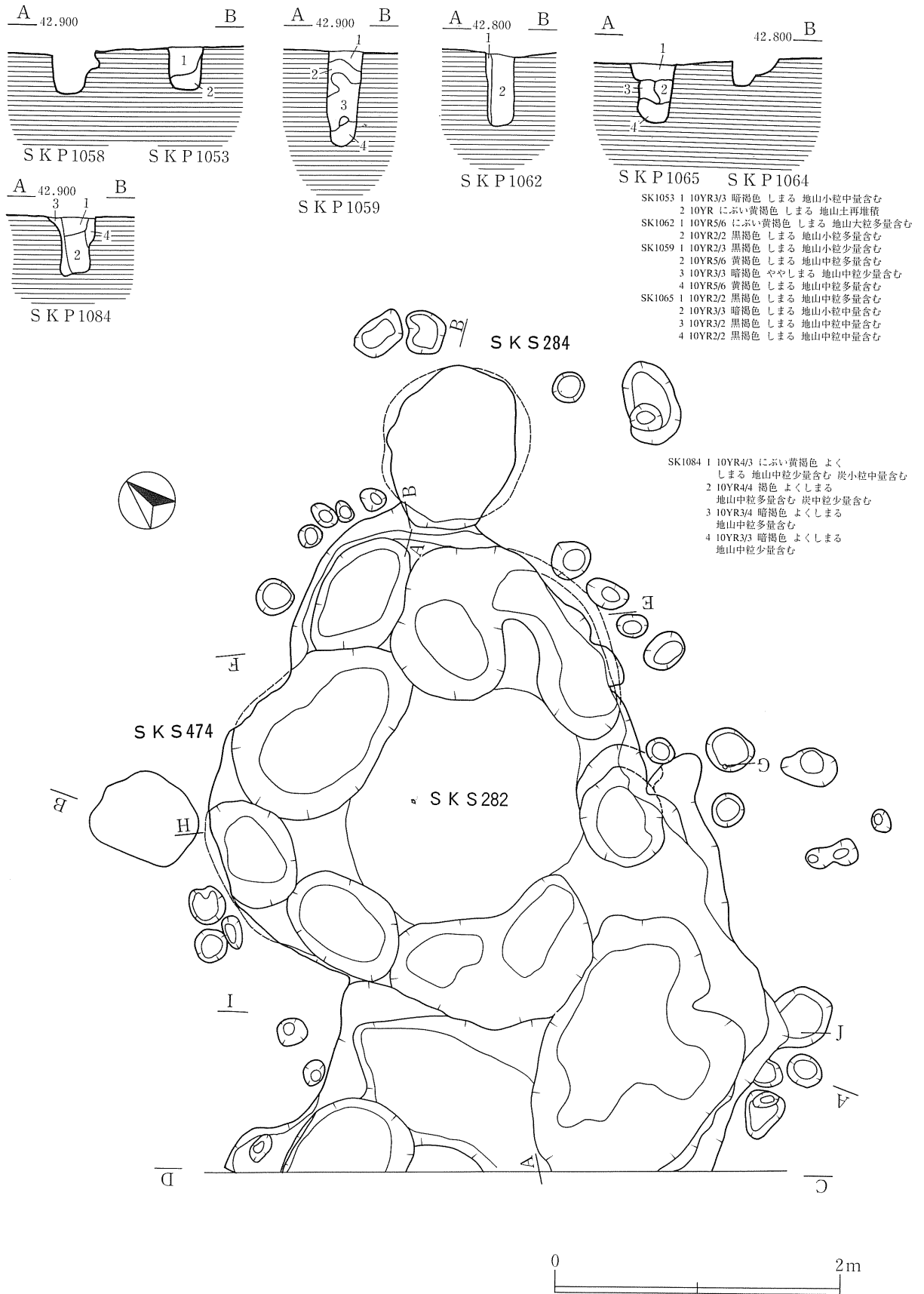
土層註記は付表3・4



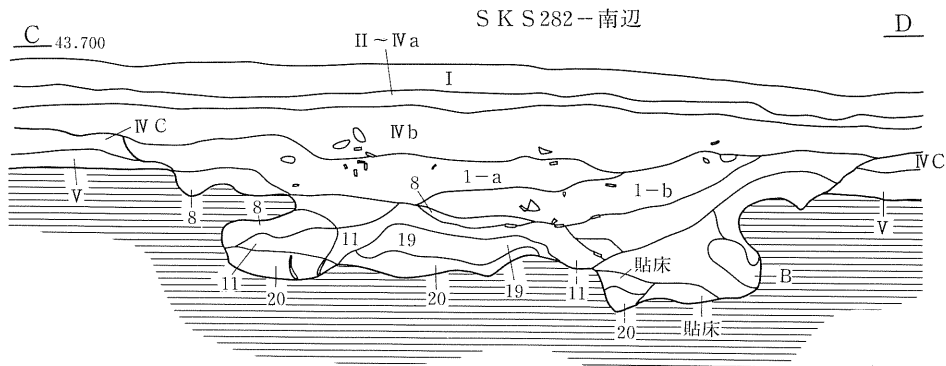
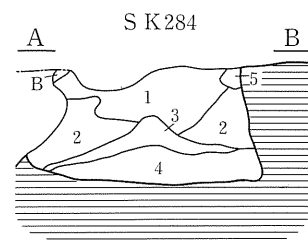
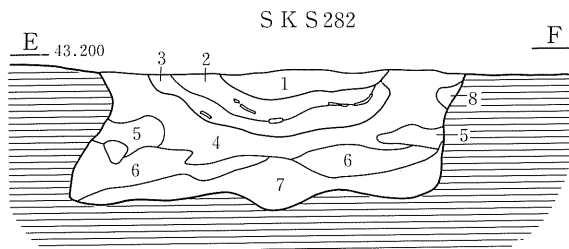
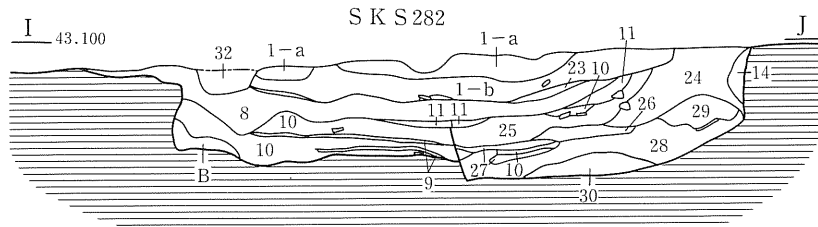
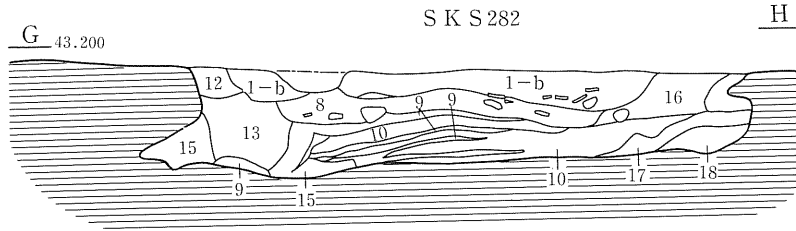
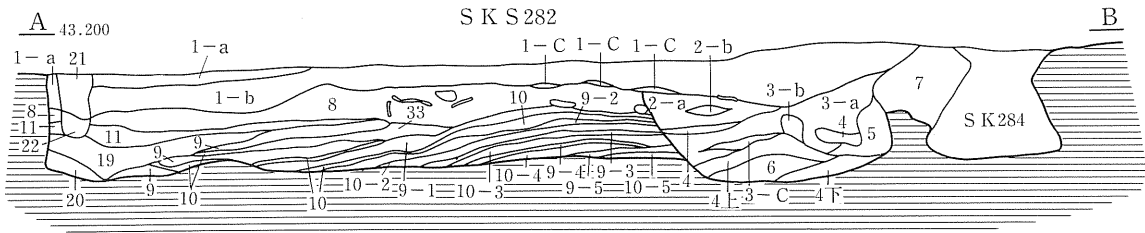
第70図 検出遺構(23)



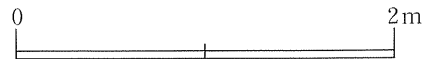
第71図 検出遺構 (24)



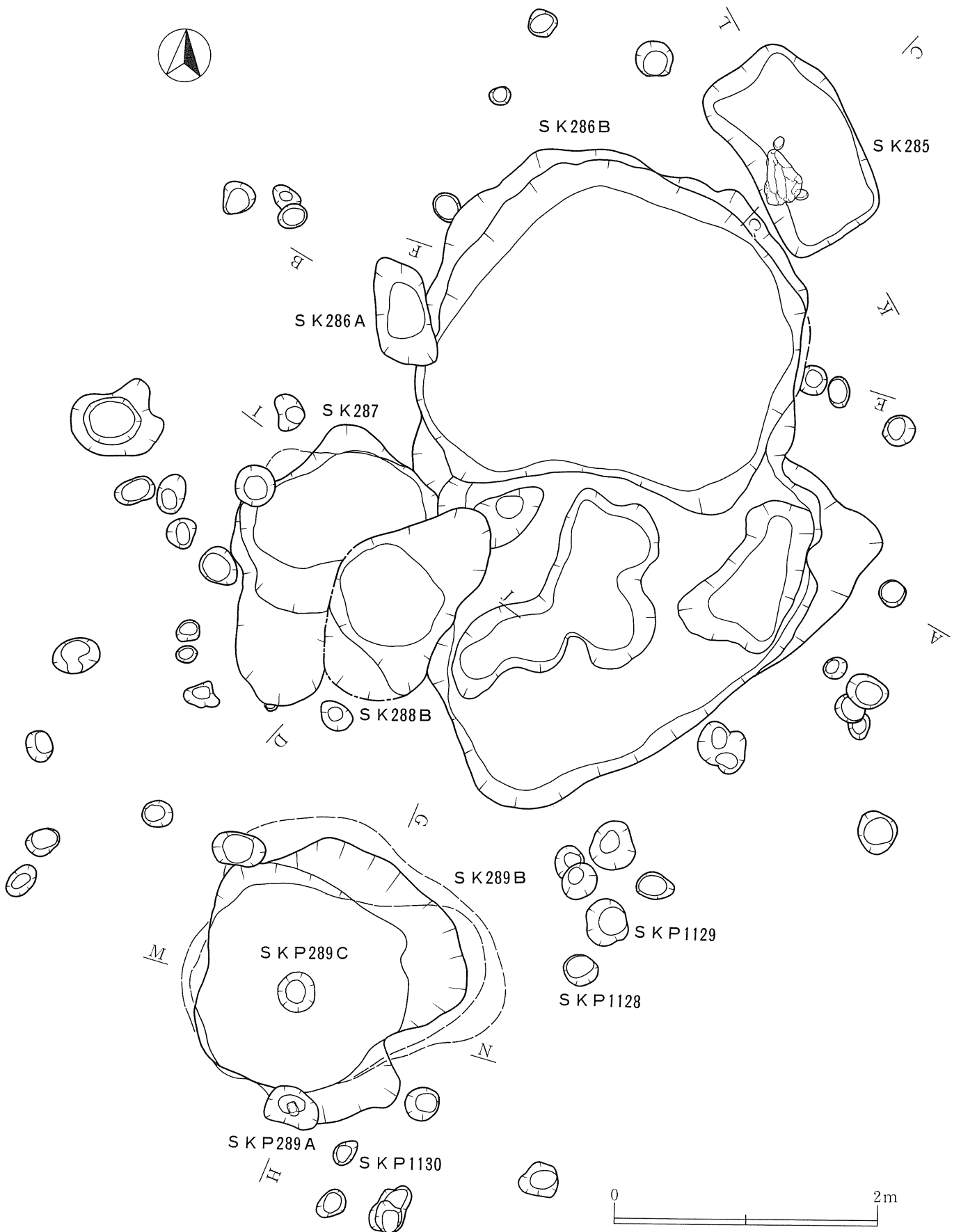
第72図 検出遺構 (25)



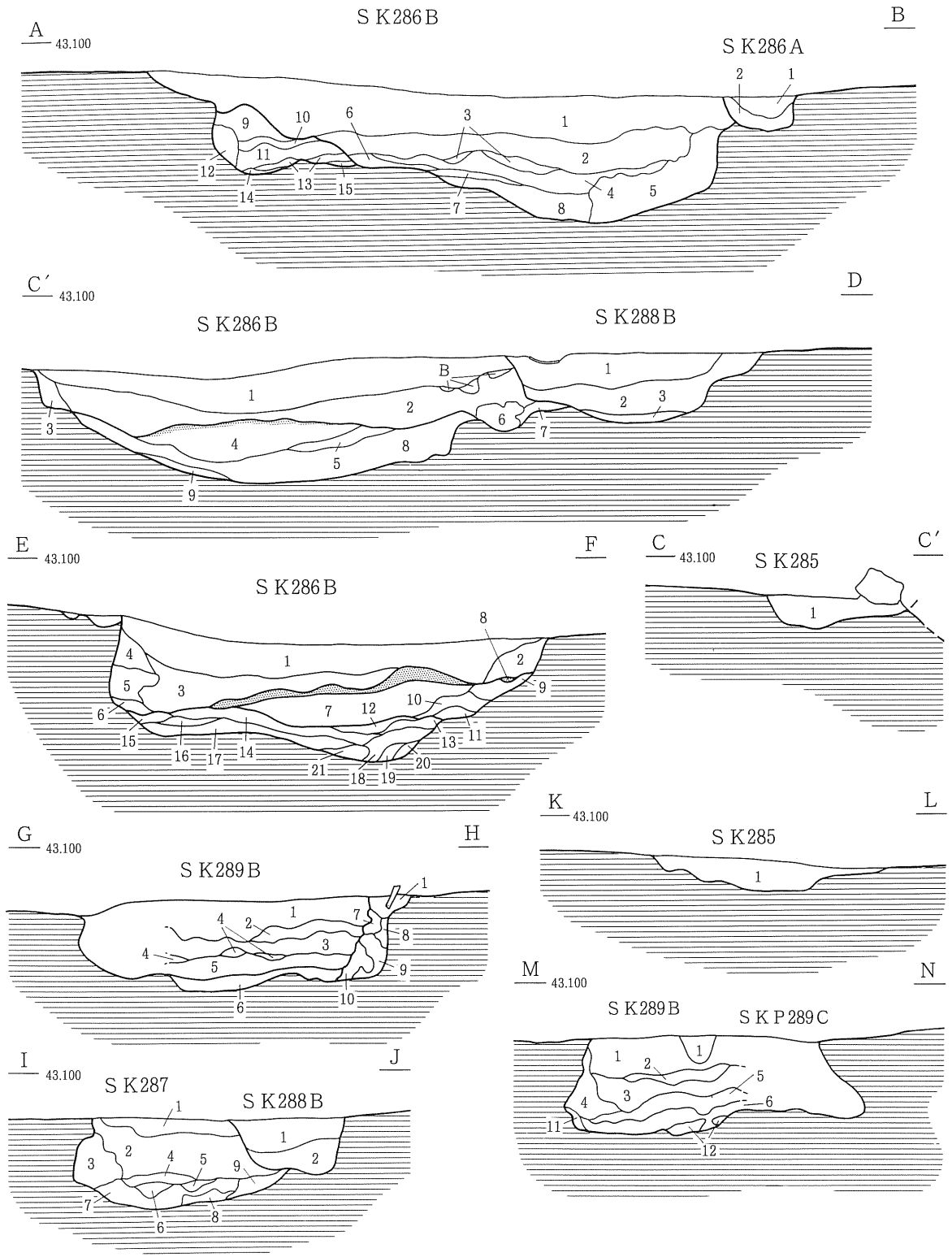
土層註記は付表 4



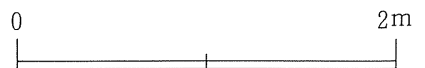
第73図 検出遺構 (26)



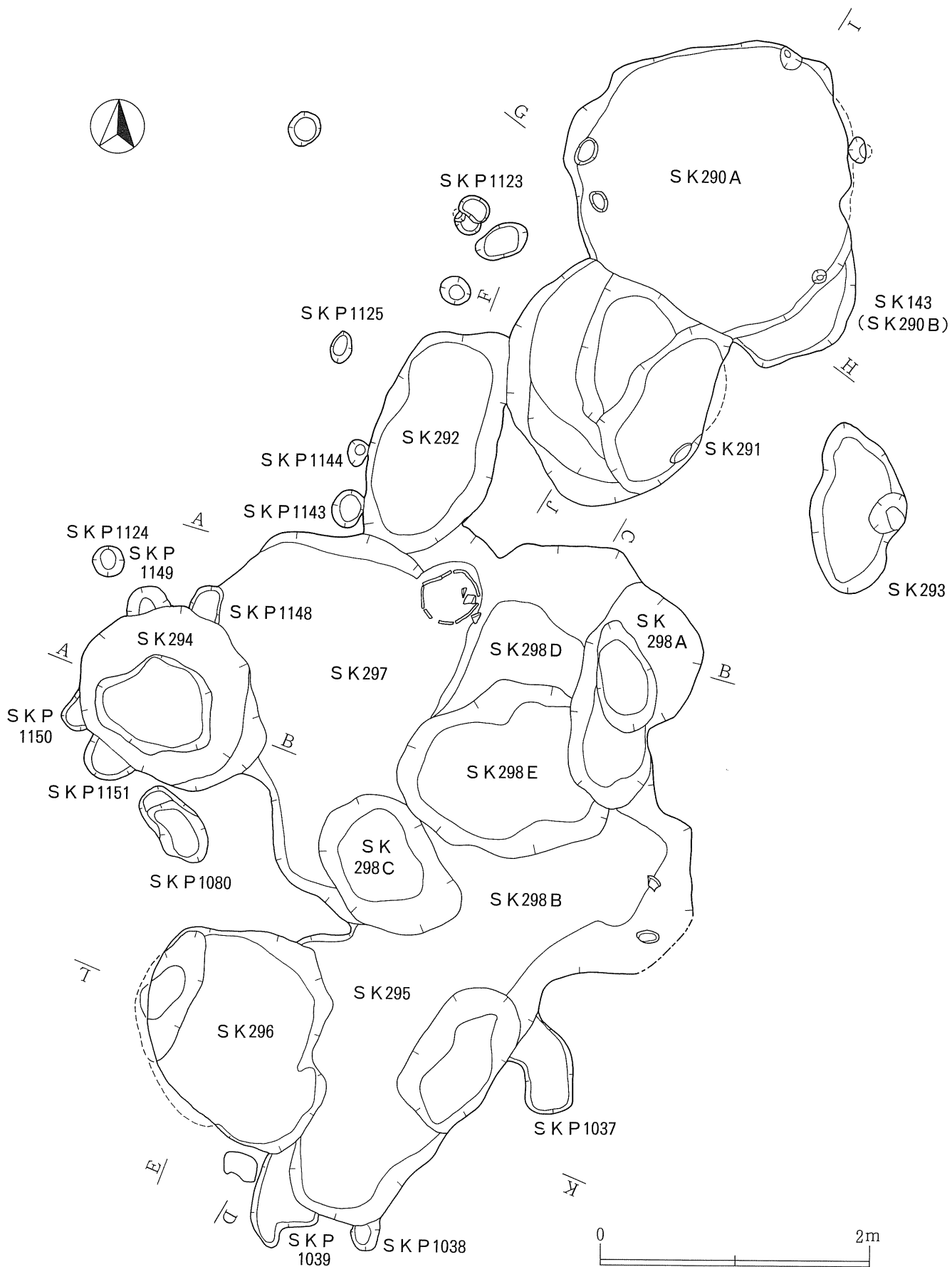
第74図 検出遺構(27)



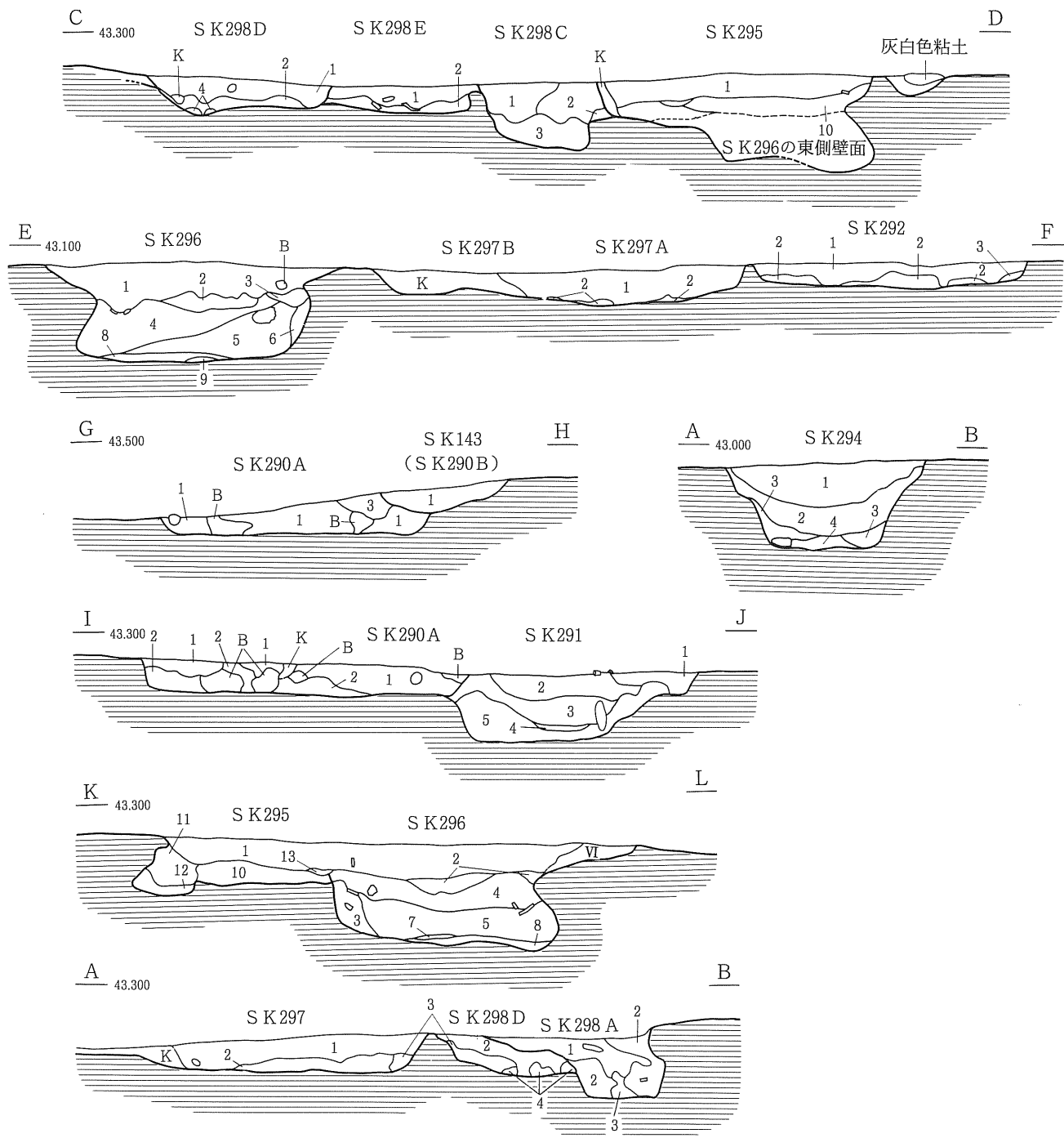
土層註記は付表4



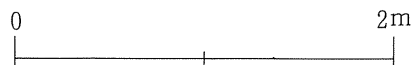
第75図 検出遺構 (28)



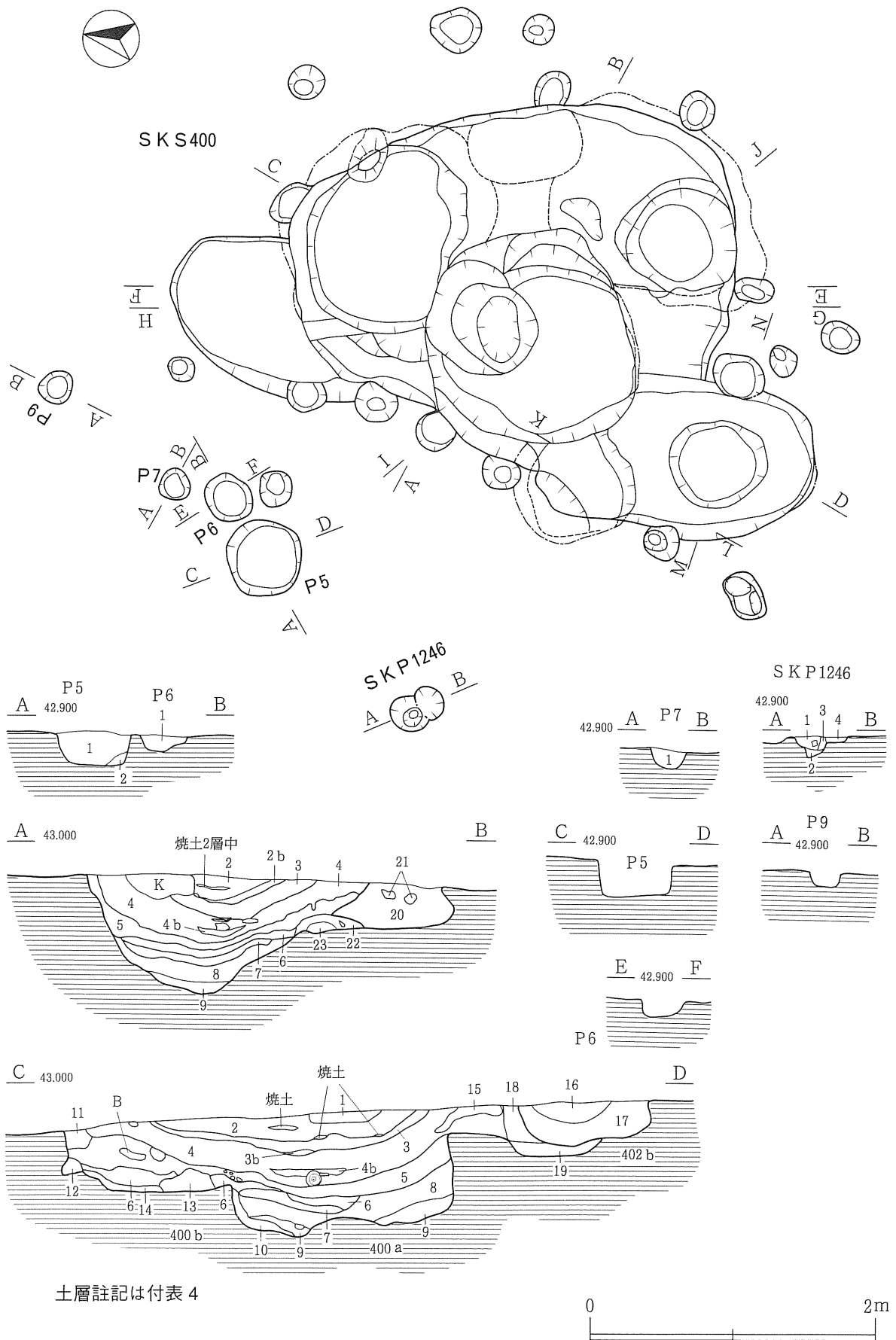
第76図 検出遺構 (29)



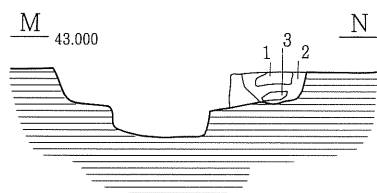
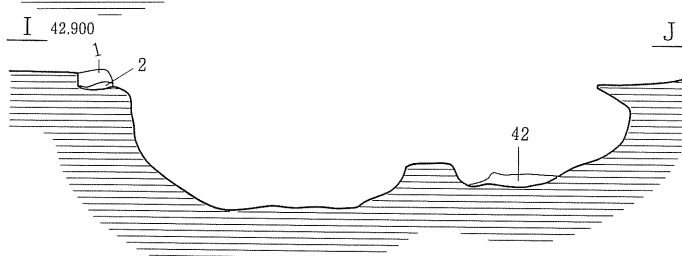
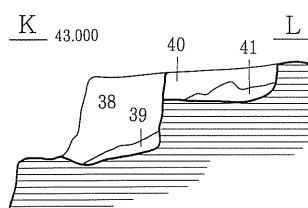
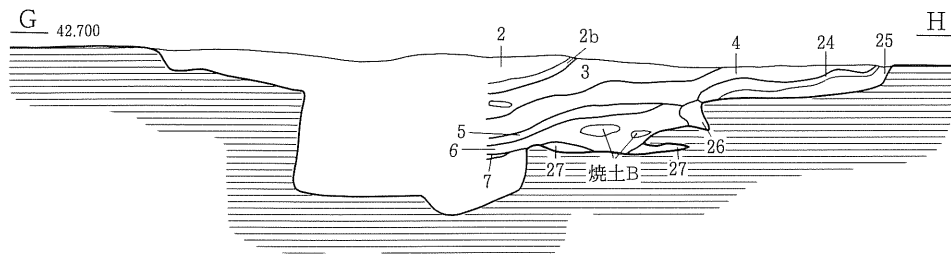
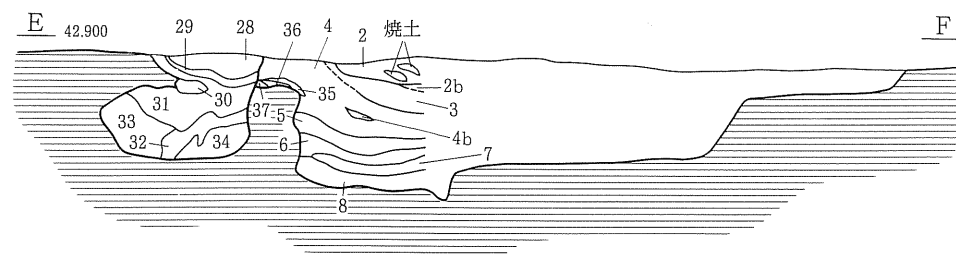
土層註記は付表 4



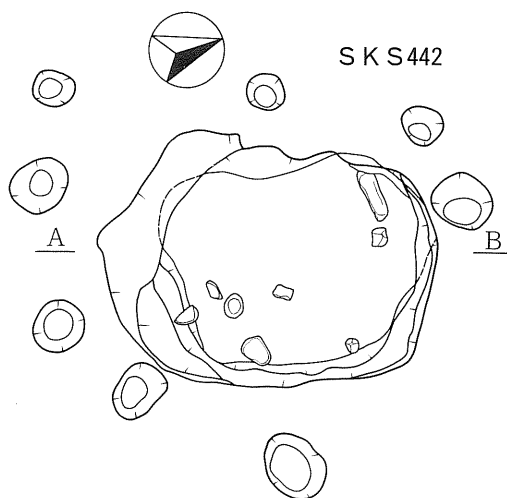
第 77 図 検出遺構 (30)



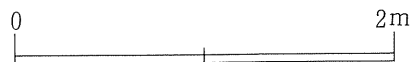
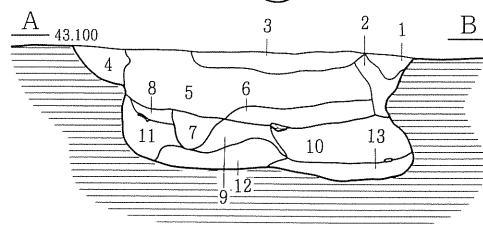
第78図 検出遺構 (31)



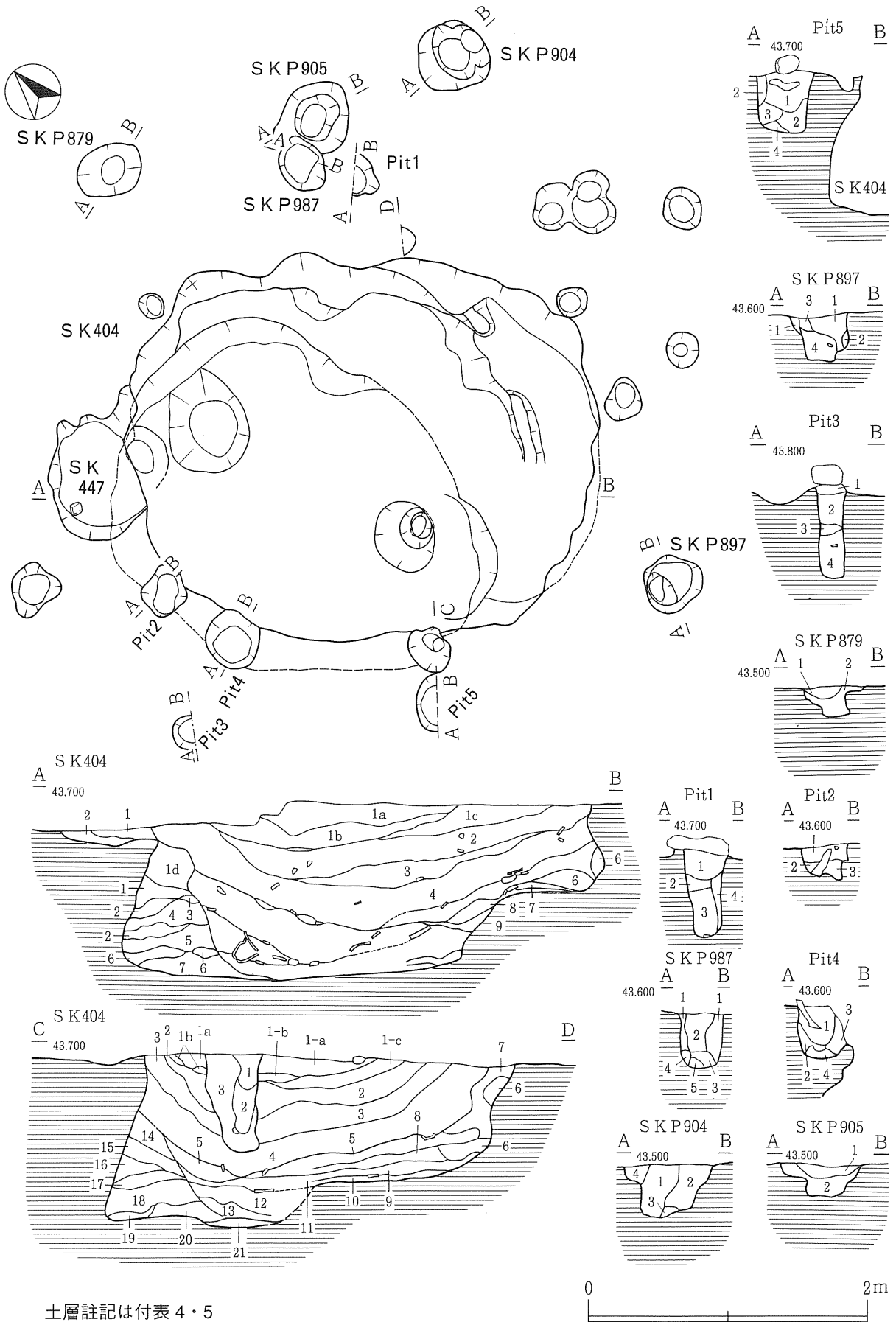
土層註記は付表4



- SK442
- 1 10YR2/2 黒褐色 ややしまる 地山大粒中量含む
 - 2 10YR5/8 黄褐色 よくしまる 地山土
 - 3 10YR2/1 ややしまる 地山中粒少量含む
 - 4 10YR2/2 黒色 ややしまる 地山小粒中量含む
 - 5 10YR2/2 黒褐色 よくしまる 地山大粒少量含む 炭中粒中量含む
 - 6 10YR2/3 黒褐色 しまる 地山中粒中量含む 炭中粒少量含む
 - 7 10YR3/2 黒褐色 よくしまる 地山中粒少量含む 炭大粒少量含む 焼土大粒中量含む
 - 8 10YR3/4 暗褐色 よくしまる 地山中粒多量含む 炭中粒中量含む 焼土中粒中量含む
 - 9 10YR2/1 黒色 ややしまる 地山中粒多量含む 炭大粒多量含む 焼土大粒少量含む
 - 10 10YR2/1 黒色 ややしまる 地山大粒中量含む 炭大粒多量含む
 - 11 10YR2/1 黒色 ややしまる 地山小粒多量含む 炭大粒中量含む 焼土中粒少量含む
 - 12 10YR2/2 黒褐色 しまる 地山大粒多量含む 炭中粒多量含む 焼土大粒中量含む
 - 13 10YR2/3 黒褐色 地山小粒多量含む 炭中粒多量含む

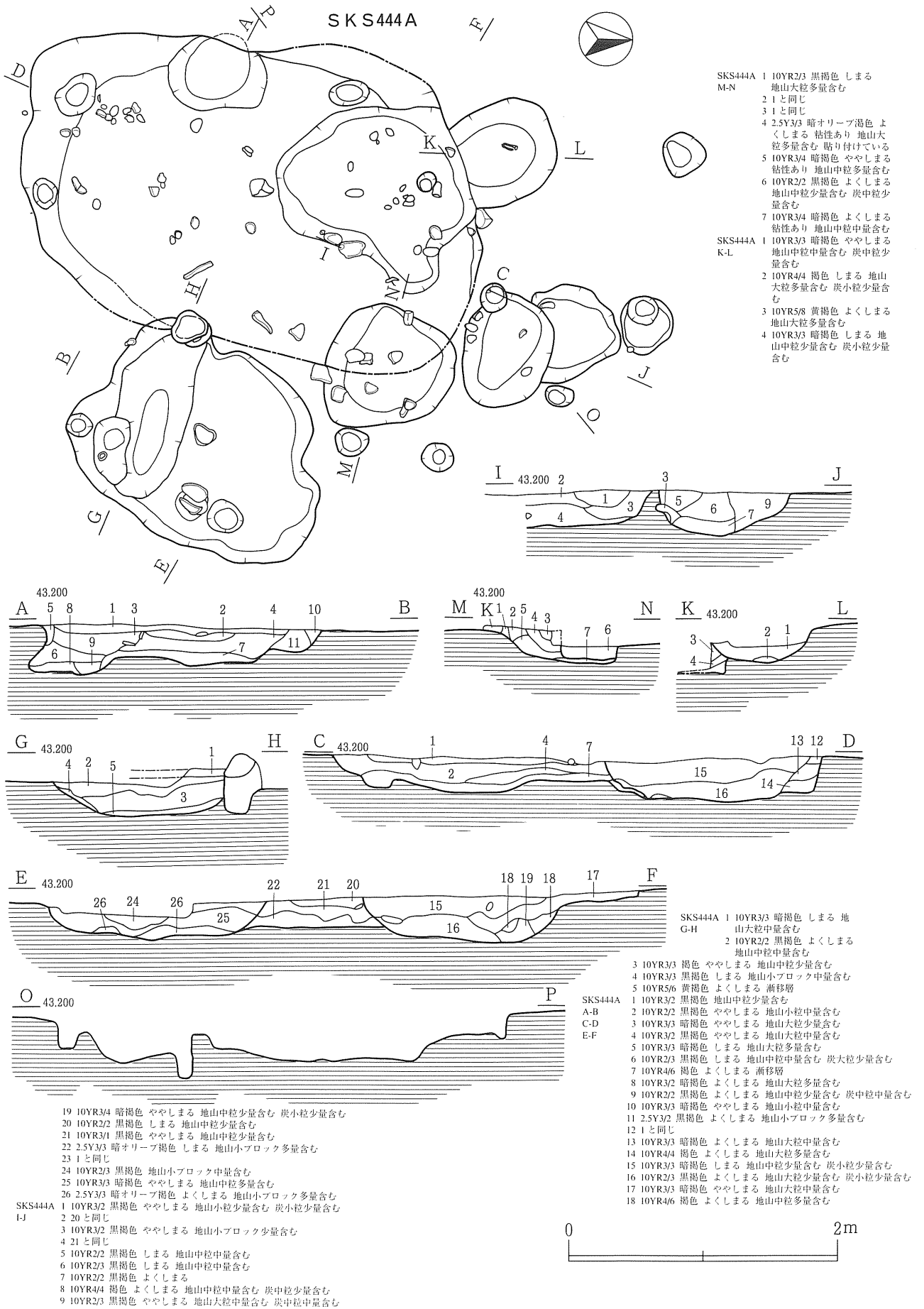


第79図 検出遺構 (32)

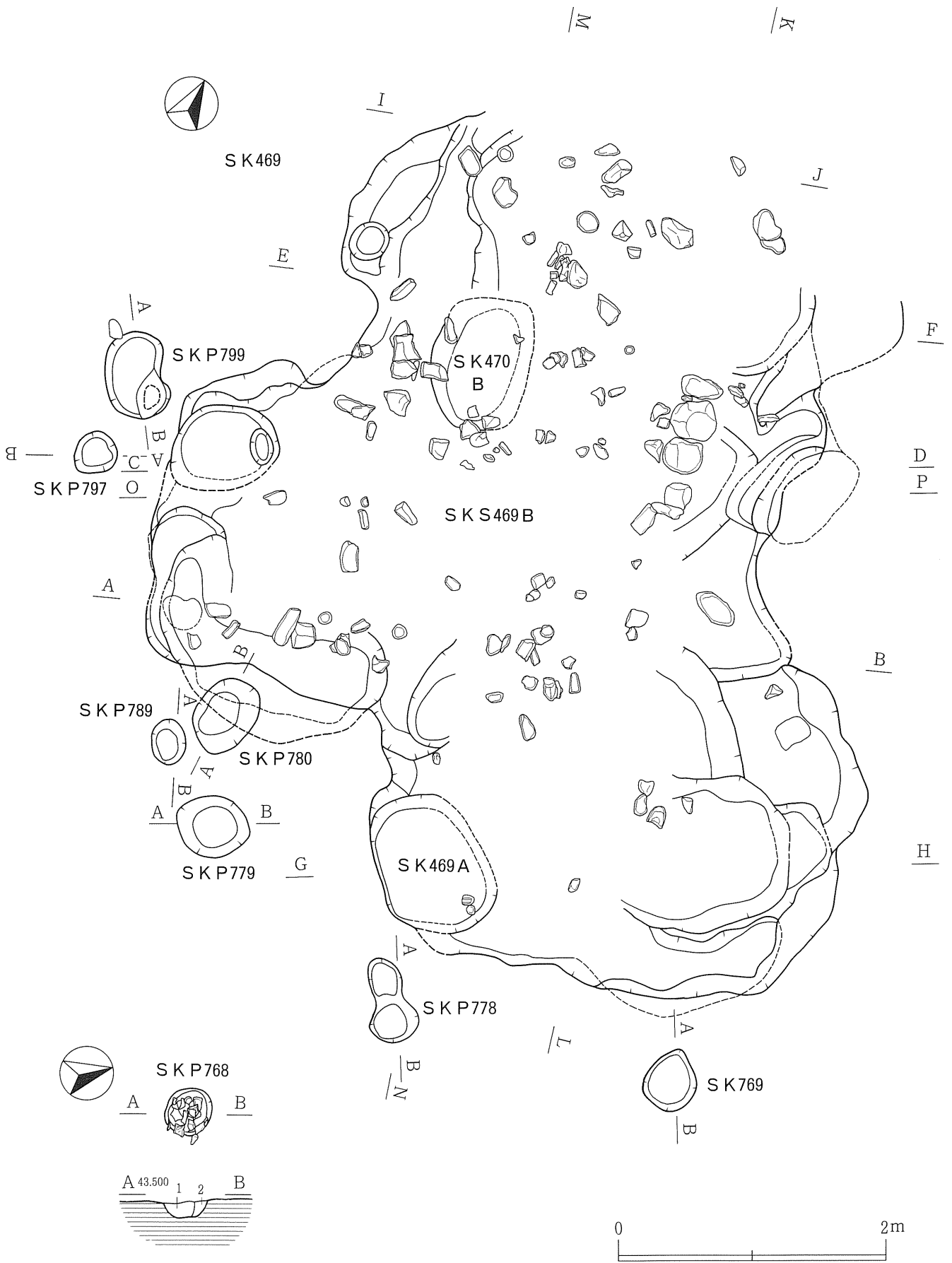


土層註記は付表4・5

第80図 検出遺構(33)

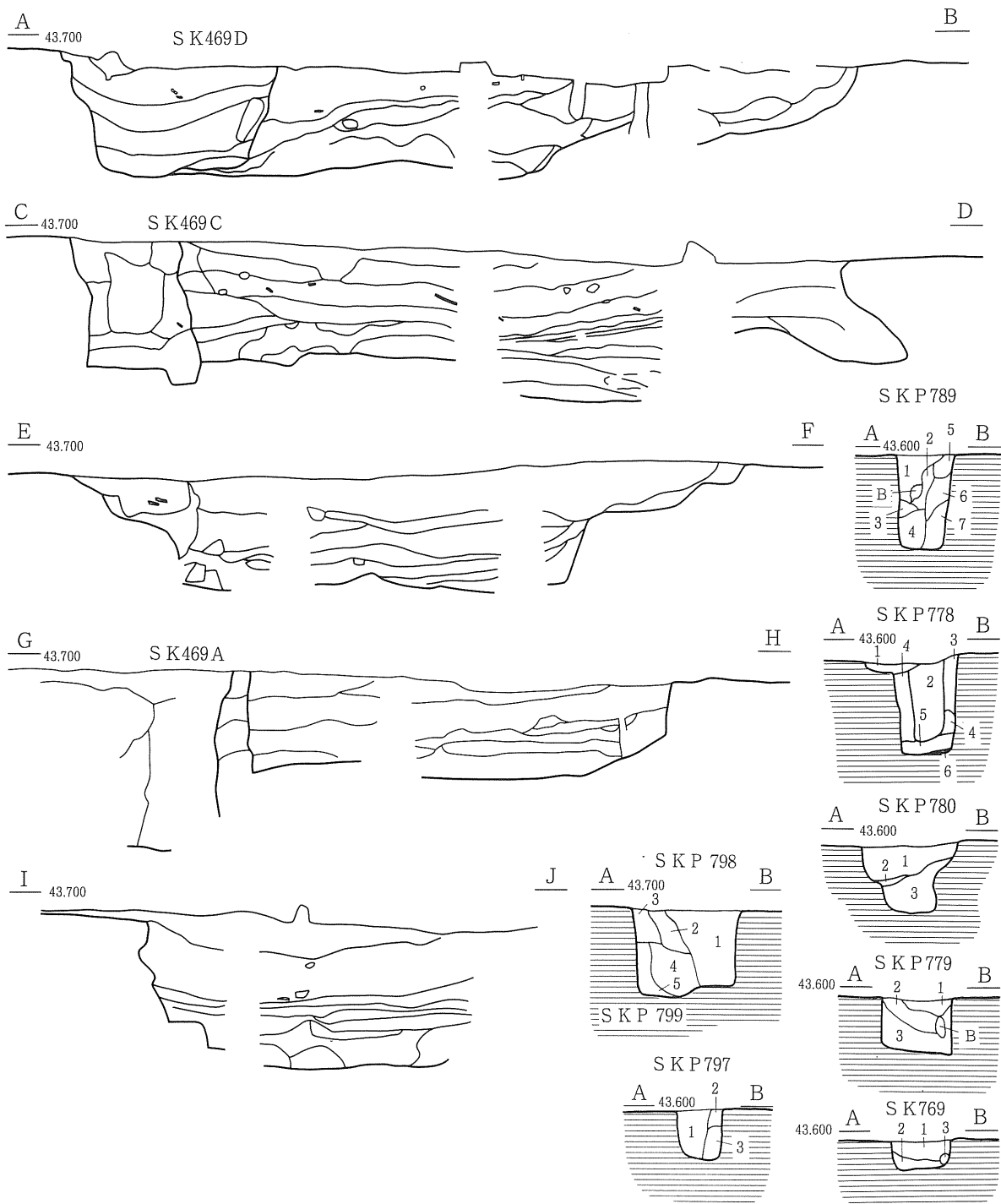


第81図 検出遺構 (34)

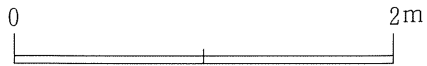


SKP768 1 10YR3/2 黒褐色～暗褐色粘土 径5～10mmの地山土粒・塊少量が含まれる やや硬質
 2 10YR2/1 黒～黒褐色シルト・粘土 ほとんど混入物無し

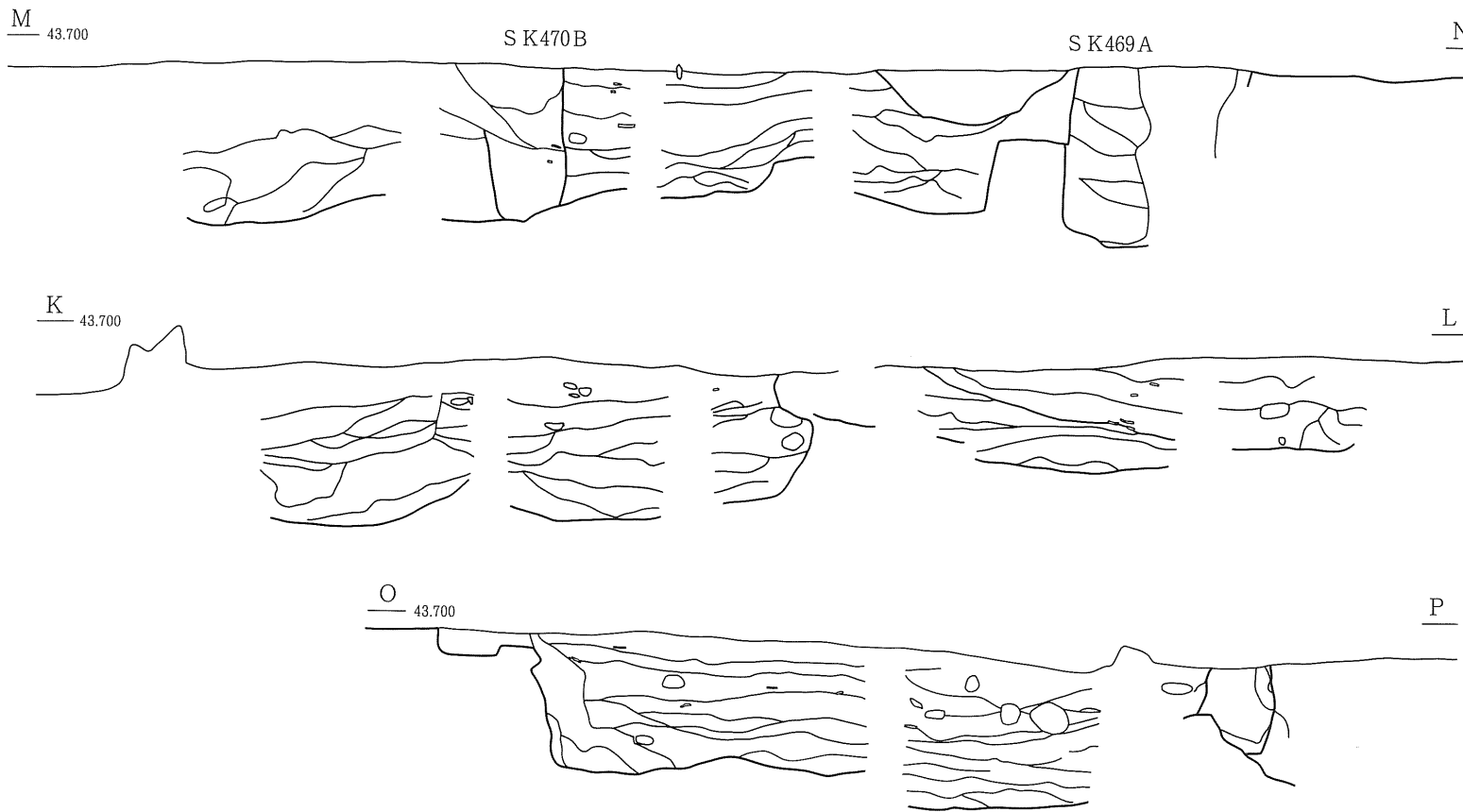
第82図 検出遺構 (35)



- SKP789 1 10YR3/2 暗褐色～褐色粘土～シルト 径1～2mmの地山土粒ごく少量が含まれる やや軟質
 2 10YR2/3 暗褐色粘土～シルト 径1～2mmの地山土粒少量が含まれる やや硬質
 3 10YR4/6 褐色～黄褐色粘土 地山土塊(径10～20mm)からなる間に暗褐色土がわずかに混じる やや軟質
 4 10YR2/2 黒褐色～暗褐色シルト～粘土 径5～10mmの地山土塊少量含まれる 硬質
 5 10YR3/4 暗褐色～褐色粘土～シルト 径5～10mmの地山土粒・塊少～中量含まれる やや硬質
 6 10YR3/3 暗褐色～褐色粘土～シルト 径5～10mmの地山土粒・塊少～中量含まれる やや硬質
 7 10YR3/2 黒褐色～暗褐色粘土～シルト 径5～8mmの地山土粒・塊少量含まれる やや硬質
- SKP769 1 10YR2/2 黒褐色～暗褐色シルト～粘土 径1～5mmの地山土粒少量 径3～5mmの木炭粒ごくわずかに含まれる やや硬質
 2 10YR3/3 暗褐色粘土～シルト 粉状地山土粒少～中量含まれる やや硬質
 3 10YR4/4 褐色～黄褐色粘土 径1～3mmの地山土粒多量に含まれる やや軟質
- SKP778 1 10YR2/3 暗褐色粘土～シルト 径1～10mmの地山土塊少量含まれる やや軟質
 2 10YR2/3 暗褐色粘土～シルト 径2～15mmの地山土塊少量含まれる やや軟質
 3 10YR4/6 黄褐色粘土 径10～15mmの地山土塊の間に褐色土が埋める 硬質
 4 10YR4/4 暗褐色～褐色シルト 径10mmの地山土塊少～中量含まれる やや硬質
 5 10YR4/6 黄褐色粘土 径20～30mmの地山土粒 間を暗褐色土が埋める 硬質
 6 10YR2/3 暗褐色シルト～粘土 軟質



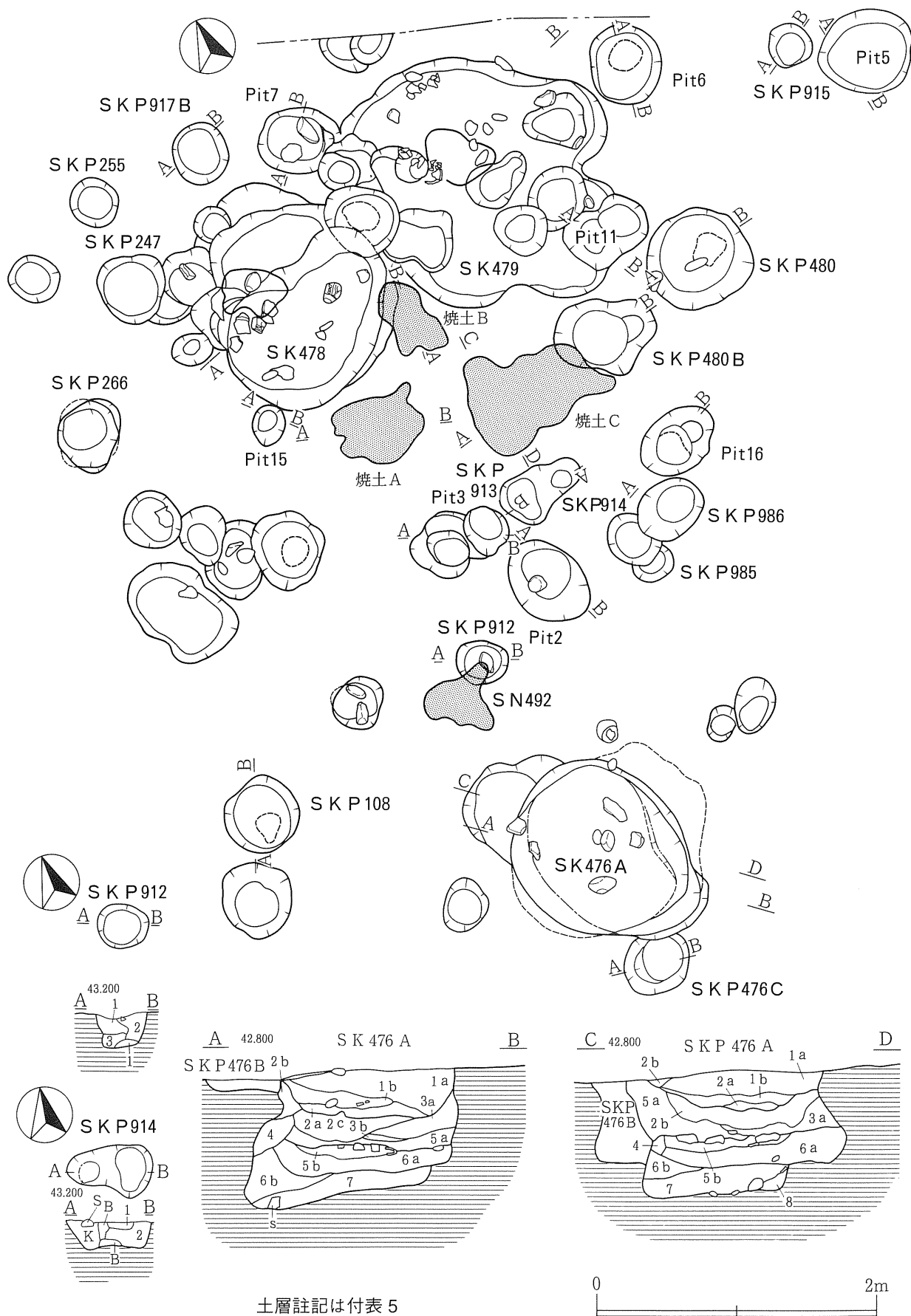
第83図 検出遺構 (36)



第83図 検出遺構(36) 土層註記続き

- SKP780 1 10YR2/3 黒褐色～暗褐色粘土～シルト 径3～10mmの地山土粒・塊ごく少量 径1～2mmの木炭粒ごく少量が含まれる やや軟質
 2 10YR4/6 黄褐色粘土・地山土を主体とする わずかに暗褐色土が入り込む 軟質
 3 10YR2/3 暗褐色粘土～シルト 径1～2mmの地山土粒・塊ごく少量が含まれる 軟質
- SKP779 1 10YR2/3 暗褐色～褐色シルト～粘土 径1～5mmの地山土粒少量 径1～2mmの木炭粒ごくわずかに含まれる やや軟質
 2 10YR2/2 黒褐色～暗褐色シルト～粘土 径1～3mmの地山土粒ごくわずかに含まれる やや硬質
 3 10YR3/2 黒褐色～暗褐色粘土～シルト 径3～15mmの地山土粒・塊少～中量含まれる やや軟質
- SKP798-SKP799 1 10YR3/4 暗褐色～褐色シルト～粘土 径2～5mmの地山土粒ごく少量 径1～2mmの木炭粒ごくわずかに含まれる やや硬質
 2 10YR4/4 暗褐色～褐色シルト～粘土 全体に粉状の地山土粒が含まれる やや軟質
 3 10YR2/3 黒褐色～暗褐色シルト 径2～10mmの地山土粒・塊ごく少量含まれる やや硬質
 4 10YR4/6 黄褐色粘土 地山土塊からなる 間にごくわずかに暗褐色土が入る やや硬質
 5 10YR4/6 褐色～黄褐色粘土 径1～20mmの地山土粒・塊からなる 間に暗褐色土が入り その中にも径1mm程の地山土粒が少量含まれる やや軟質
- SKP797 1 10YR3/3 暗褐色シルト 径1～2mmの地山土粒・径1mmの木炭粒ごく少量が含まれる やや軟質
 2 10YR3/2 黒褐色～暗褐色シルト～粘土 径1～2mmの地山土粒ごくわずかに含まれる 軟質
 3 10YR3/3 暗褐色シルト 径1～2mmの地山土粒・径1mmの木炭粒ごく少量が含まれる やや軟質

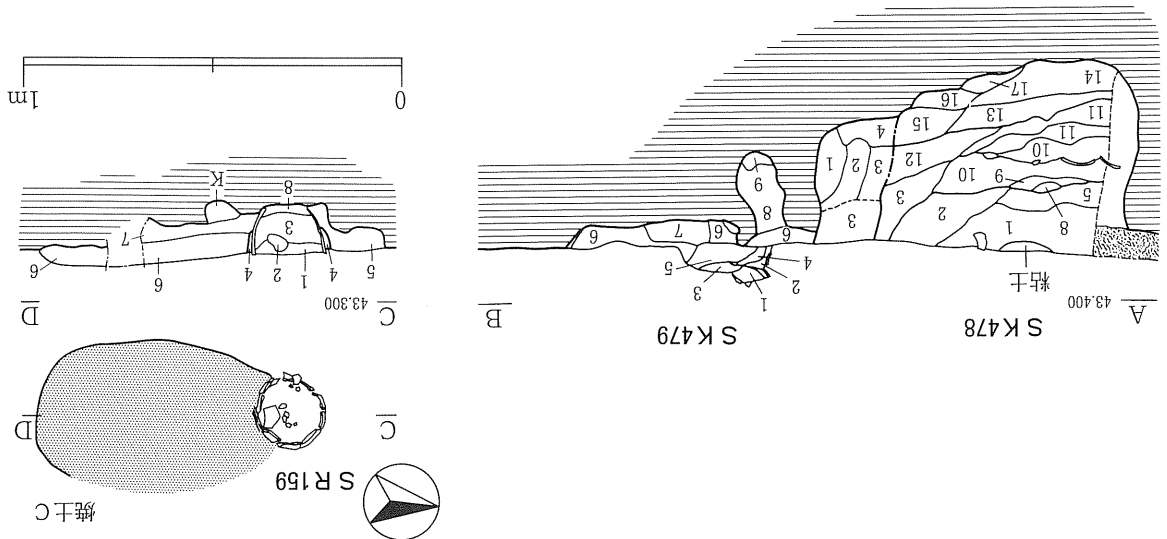
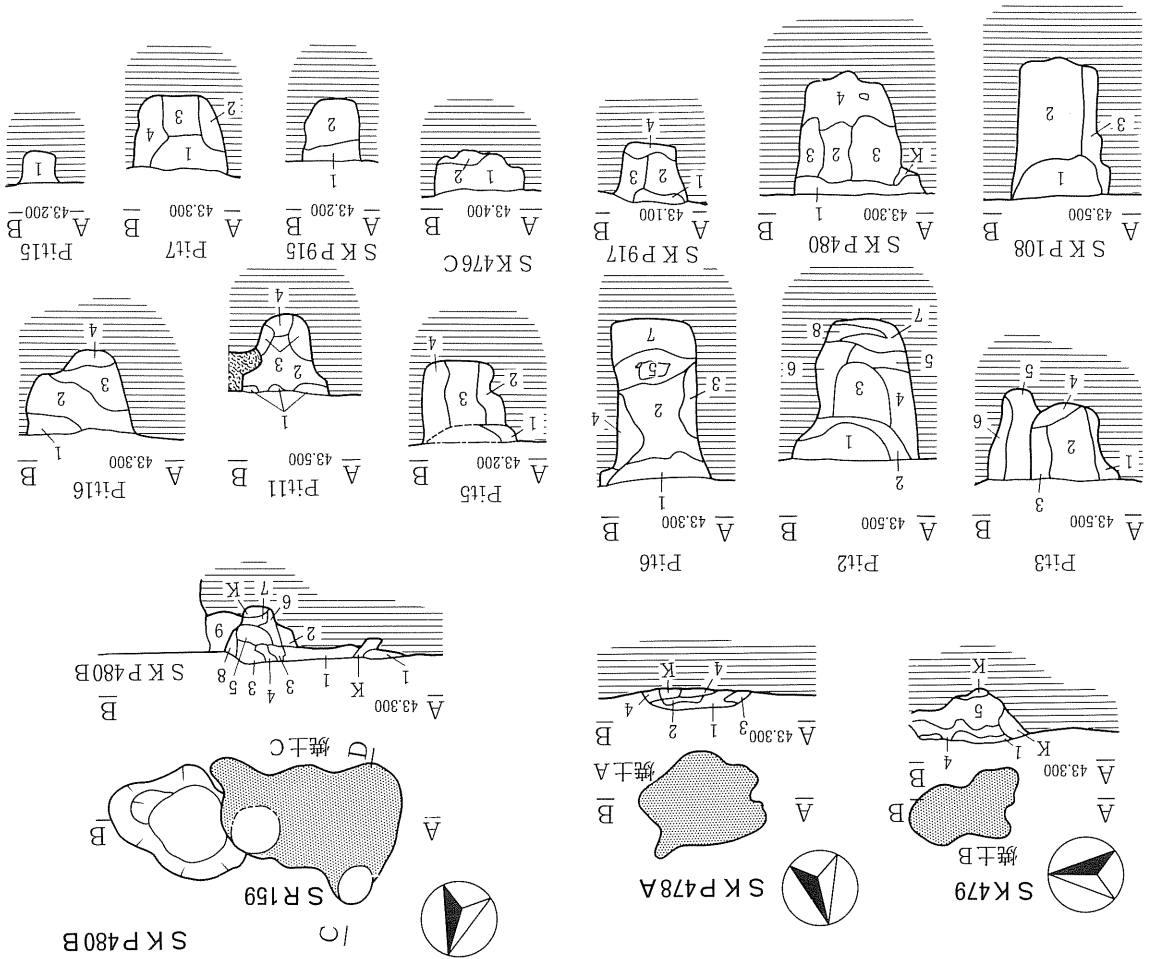
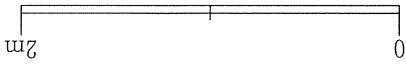
第84図 検出遺構(37)

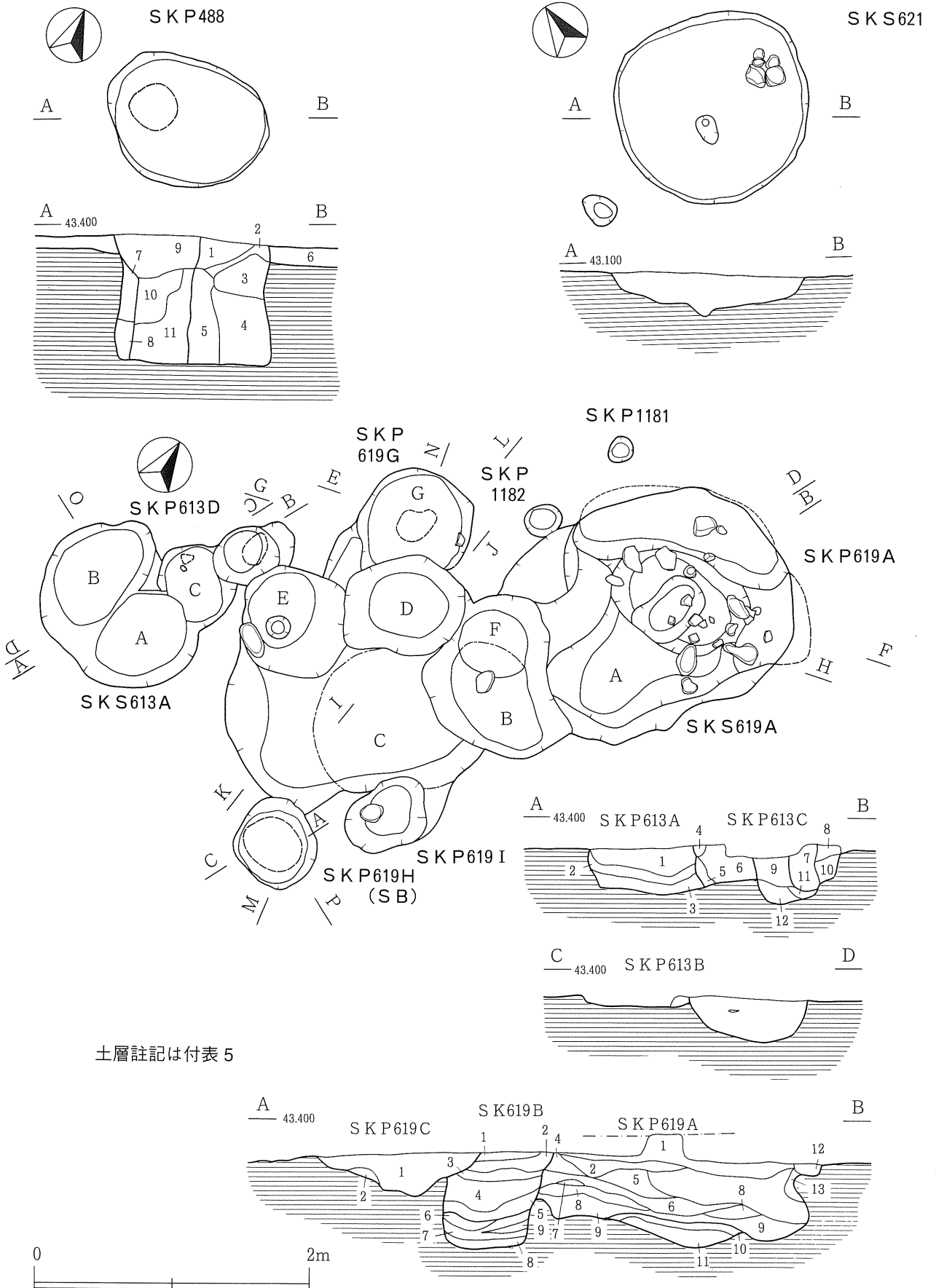


第85図 検出遺構 (38)

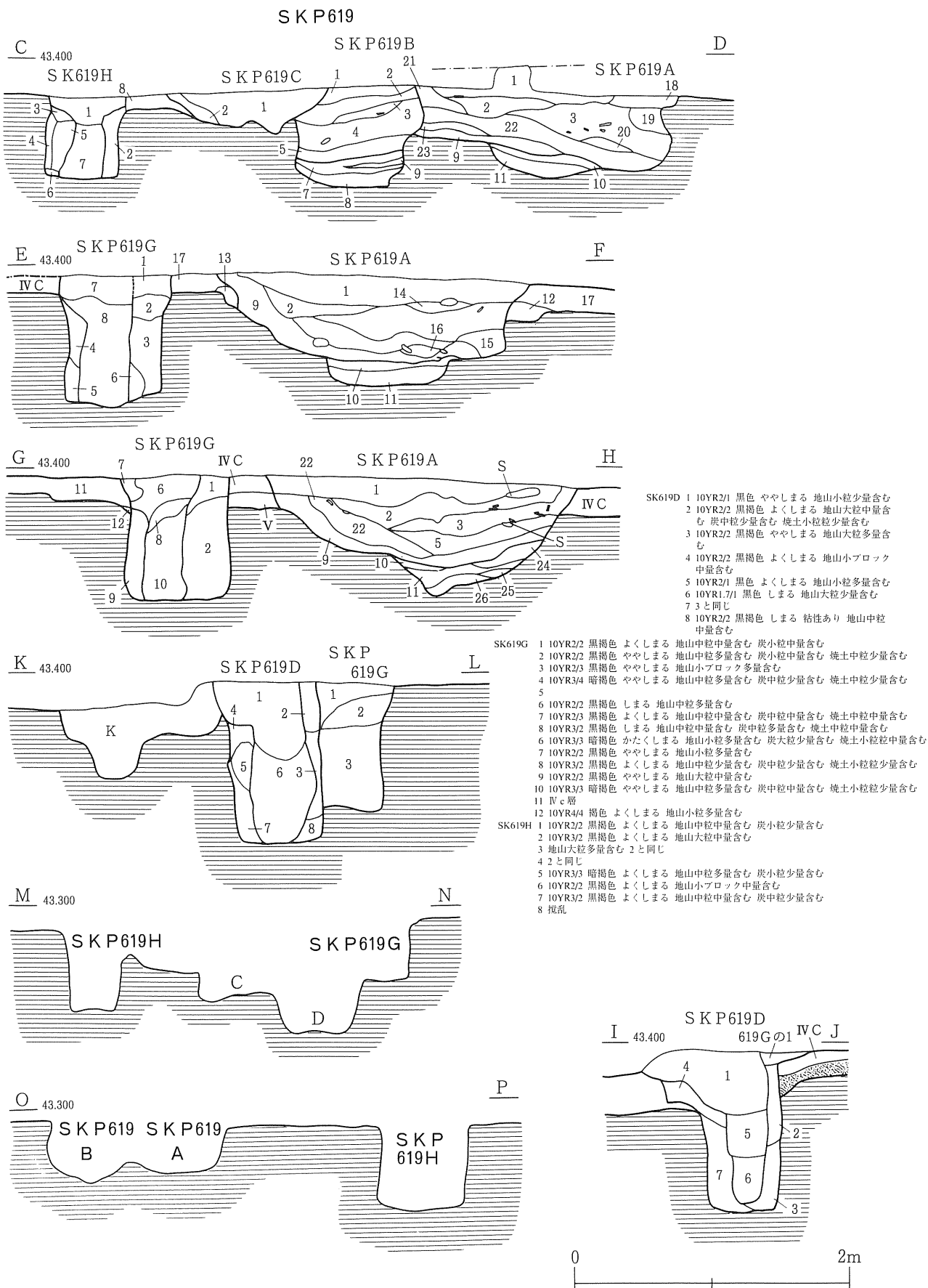
第 86 図 検出遺構 (39)

土層註記付表 5

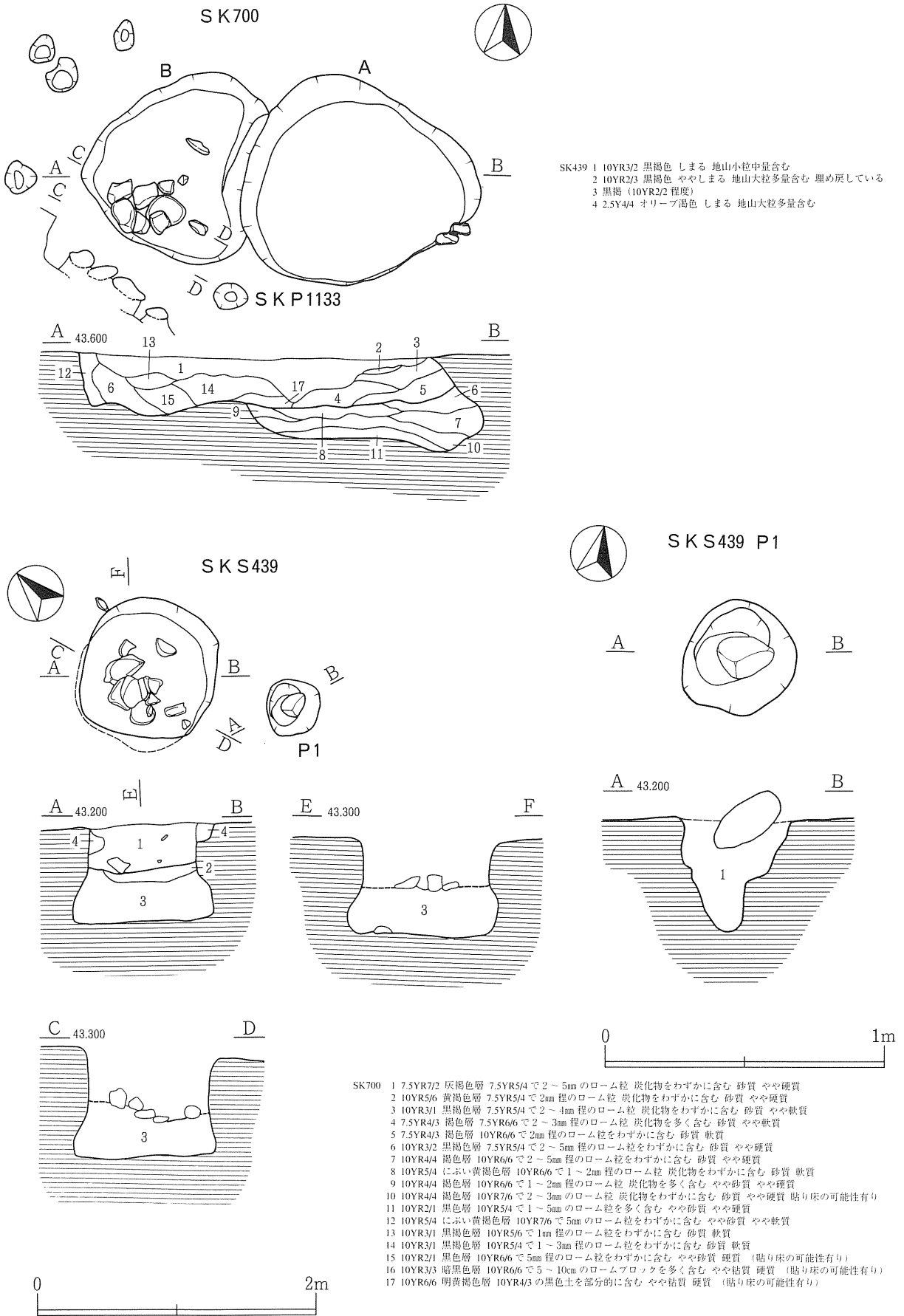




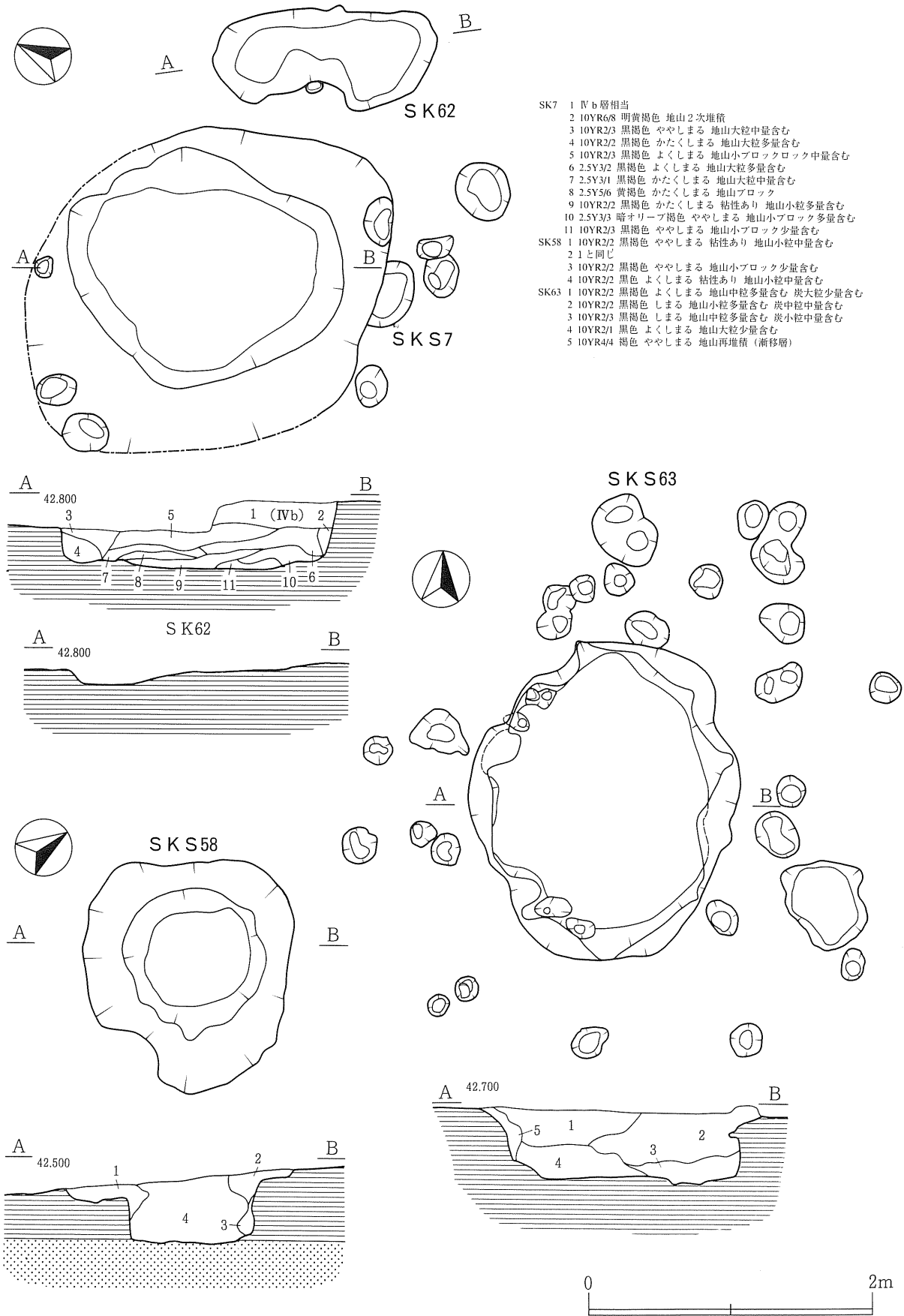
第 87 図 検出遺構 (40)



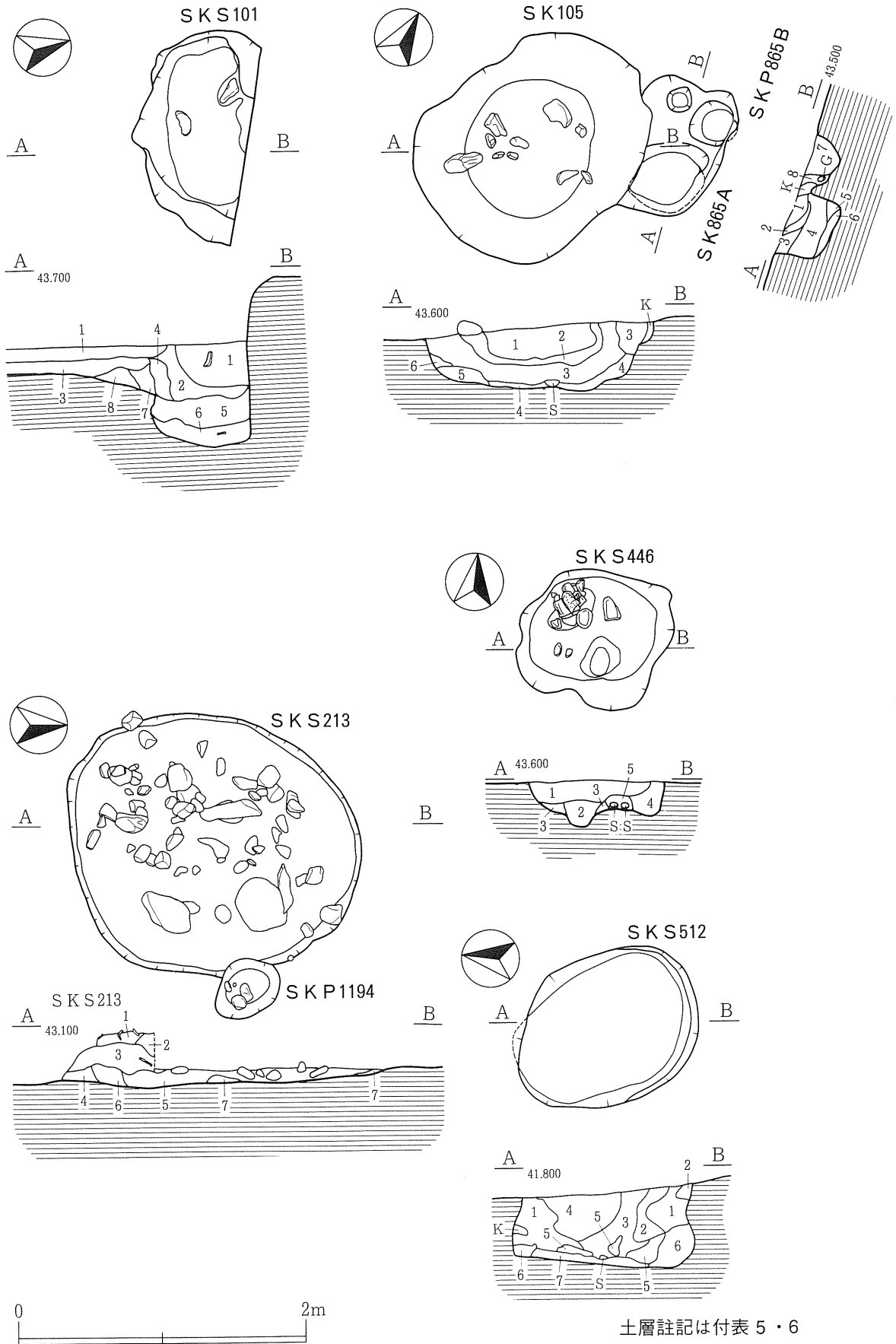
第88図 検出遺構 (41)



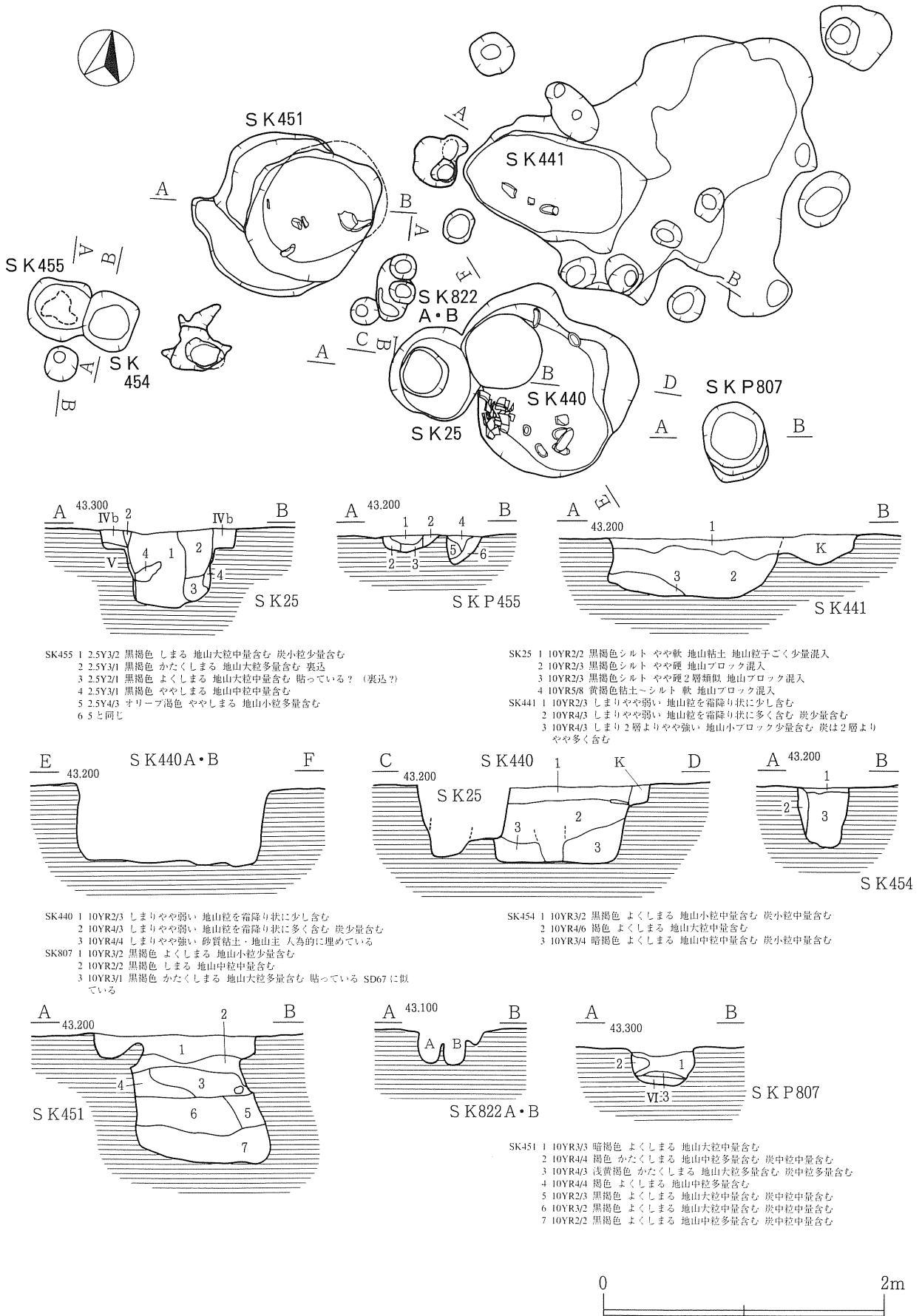
第 89 図 検出遺構 (42)



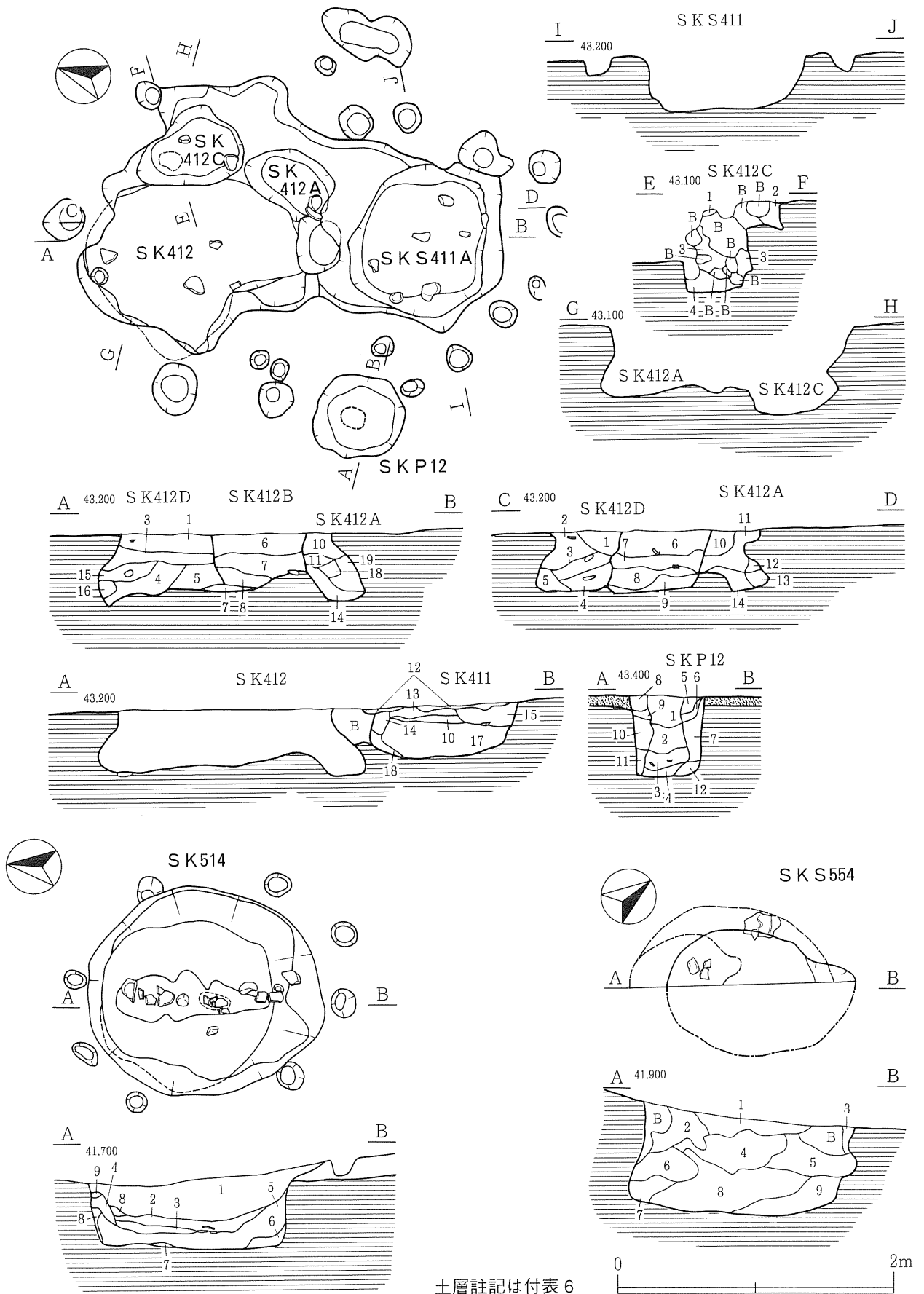
第90図 検出遺構 (43)



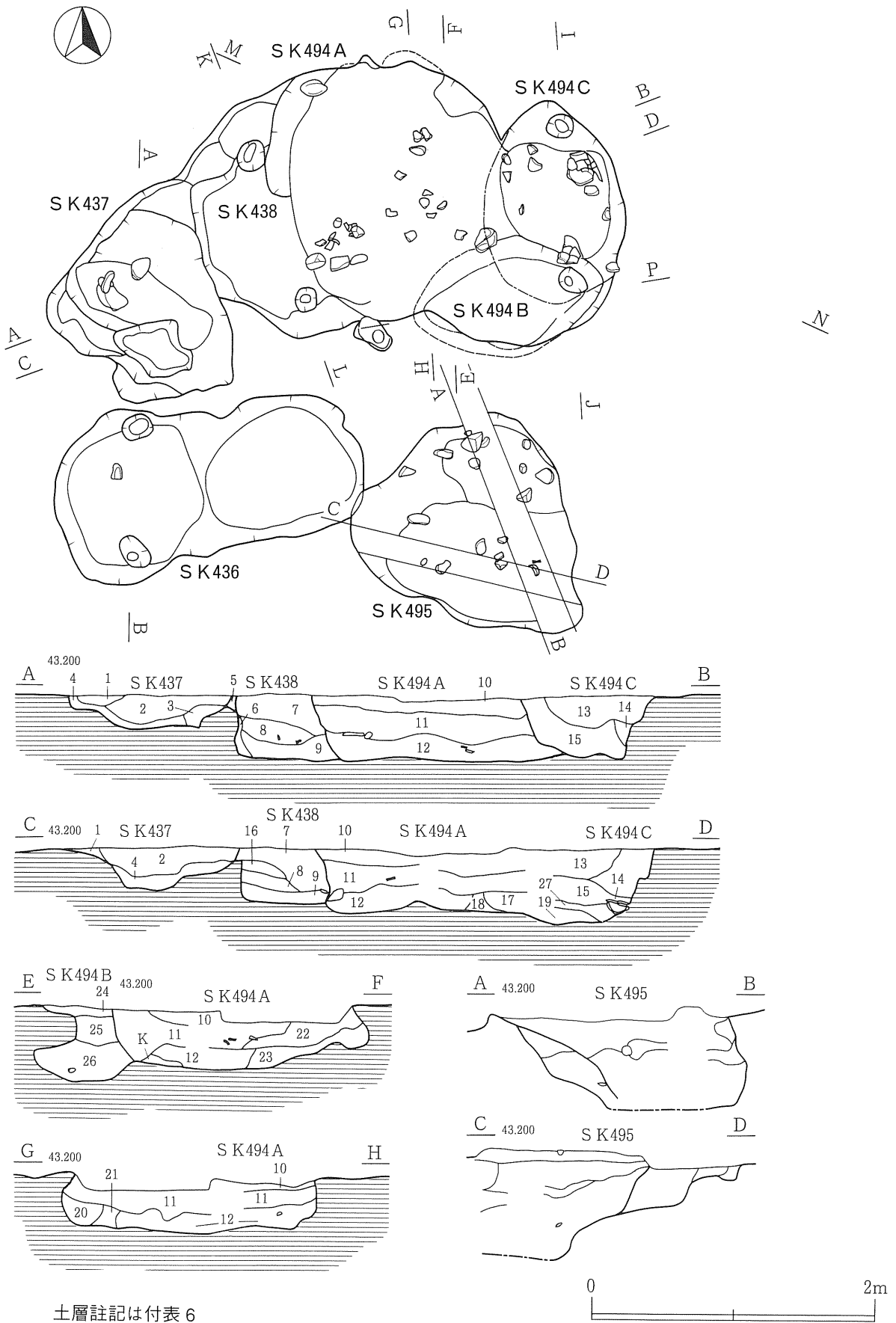
第91図 検出遺構 (44)



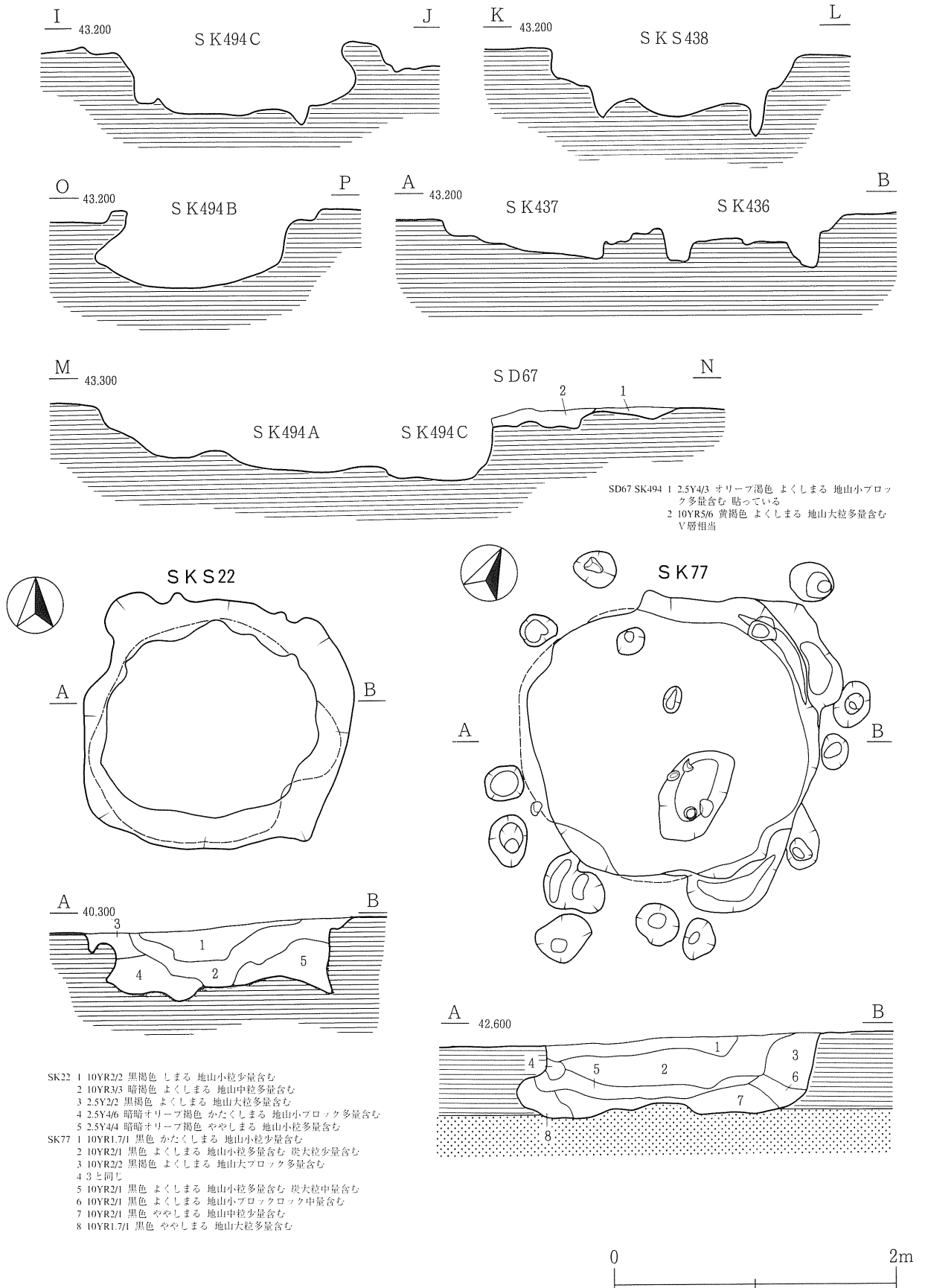
第92図 検出遺構 (45)



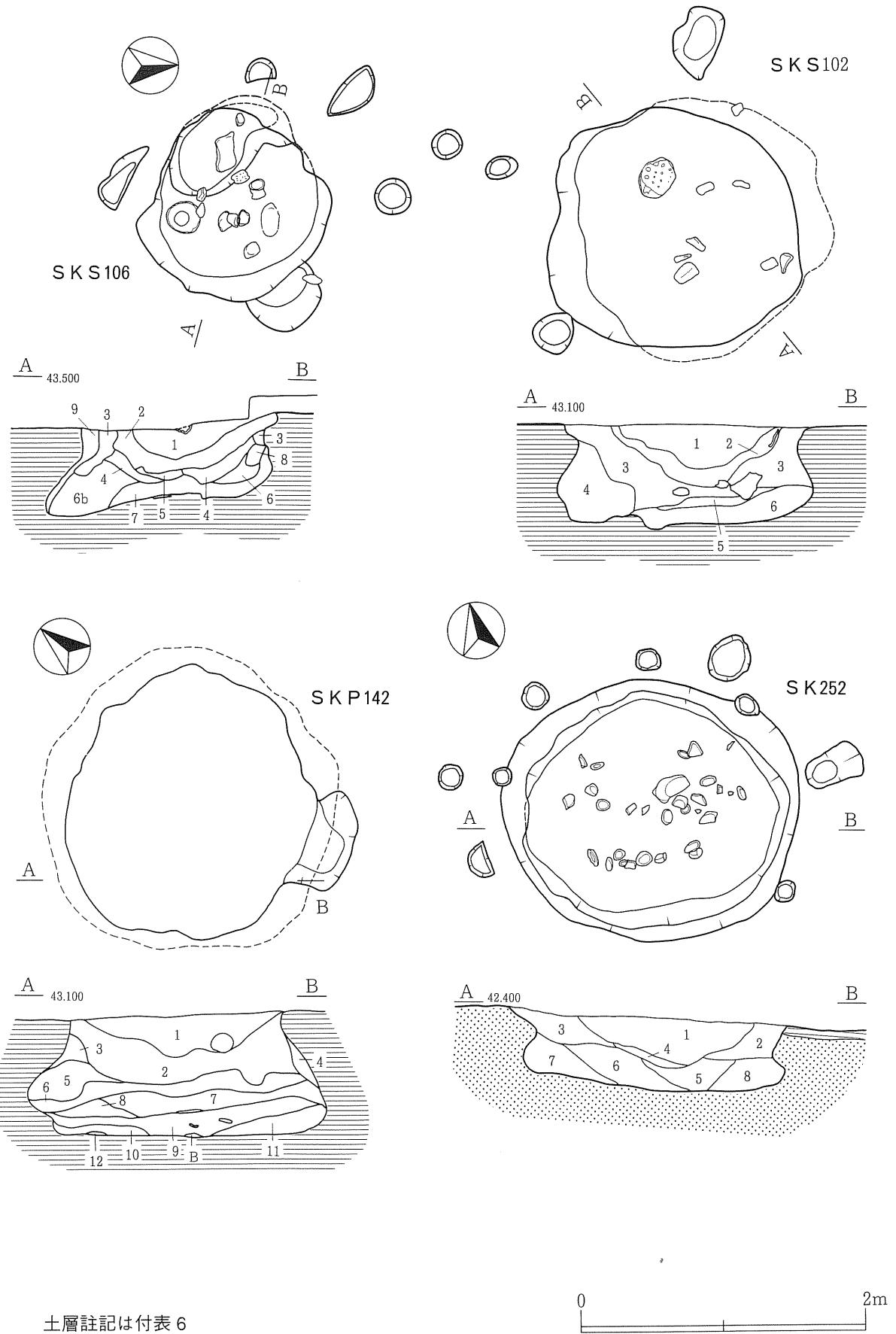
第93図 検出遺構 (46)



第94図 検出遺構 (47)

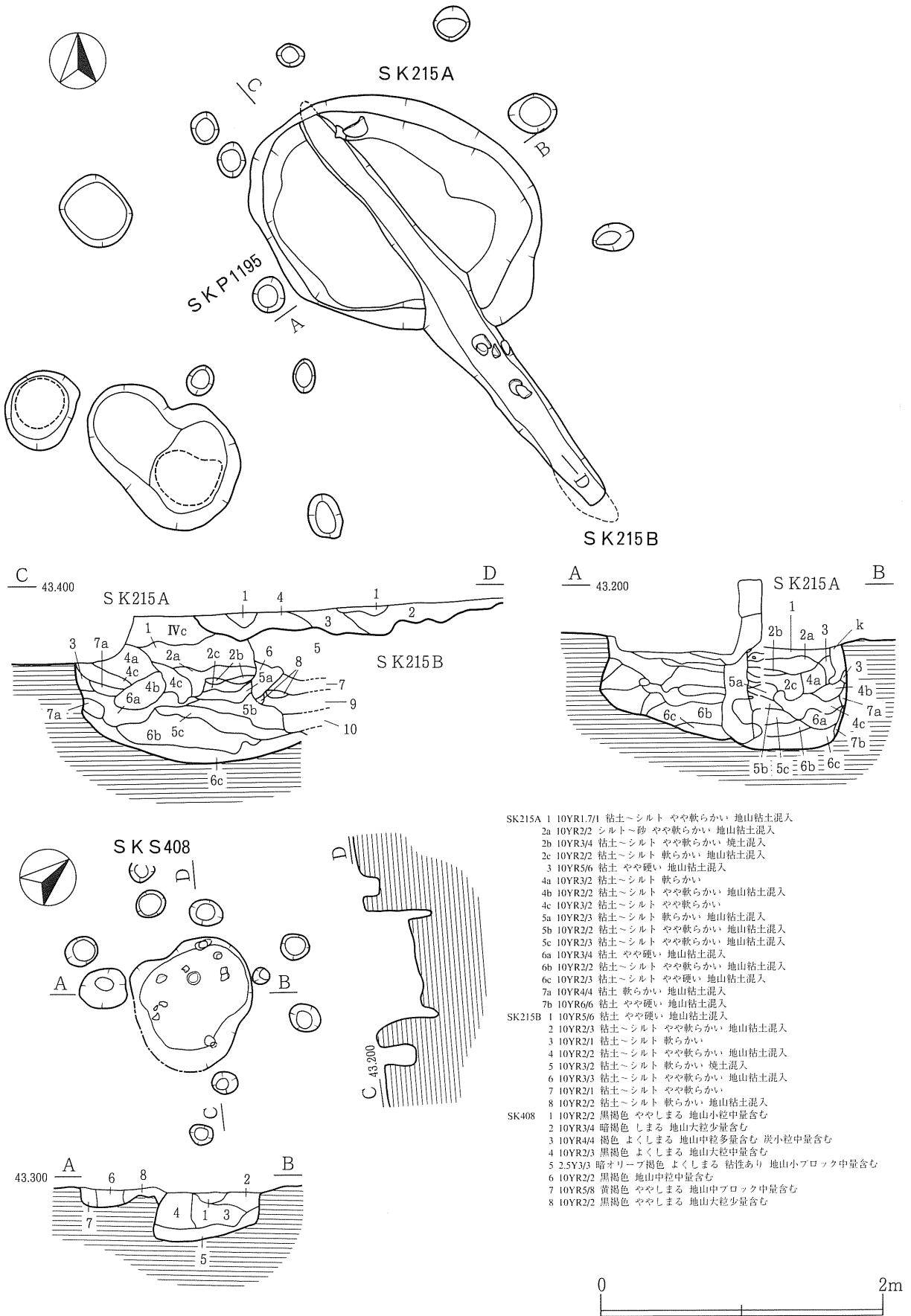


第95図 検出遺構 (48)

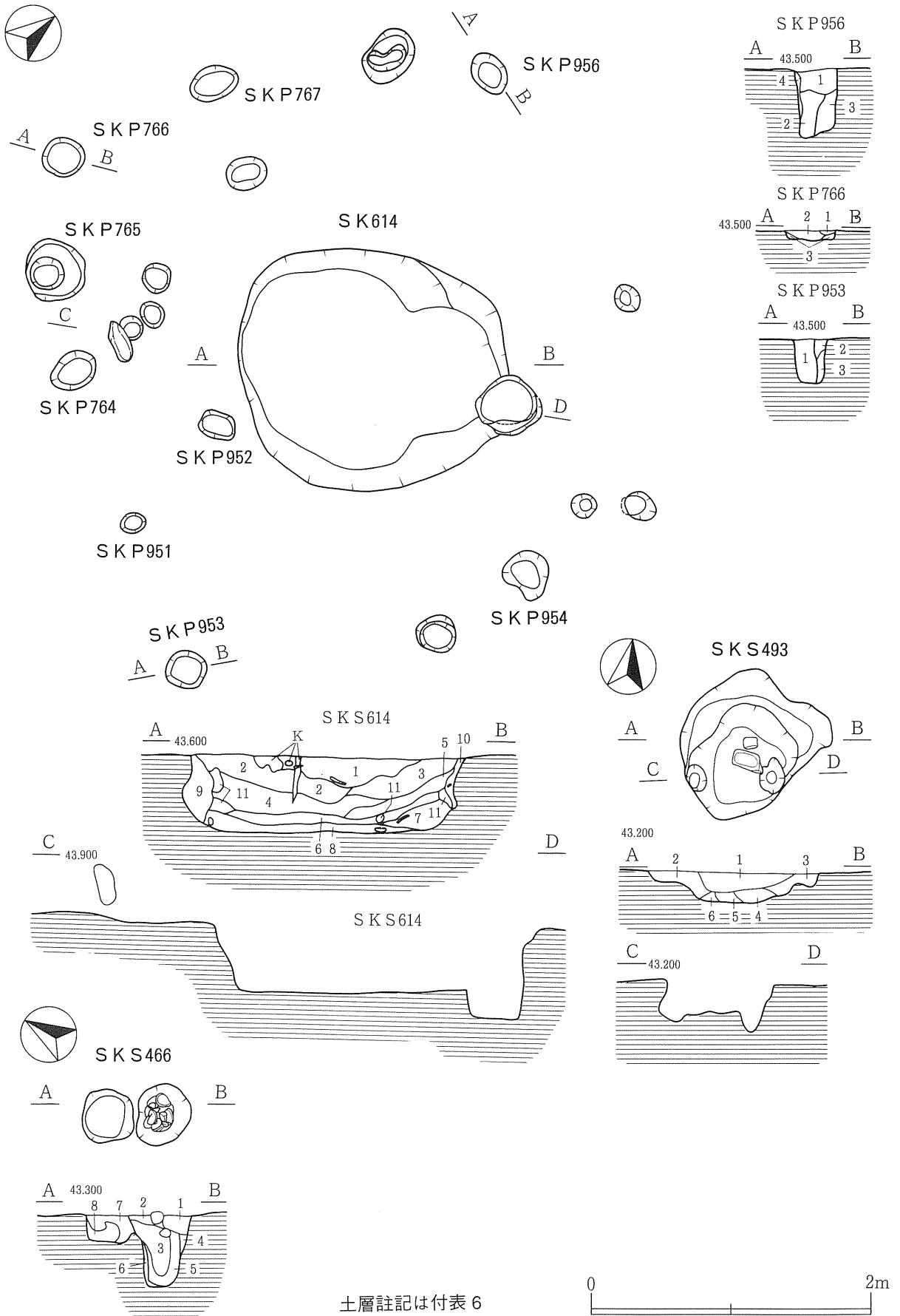


土層註記は付表 6

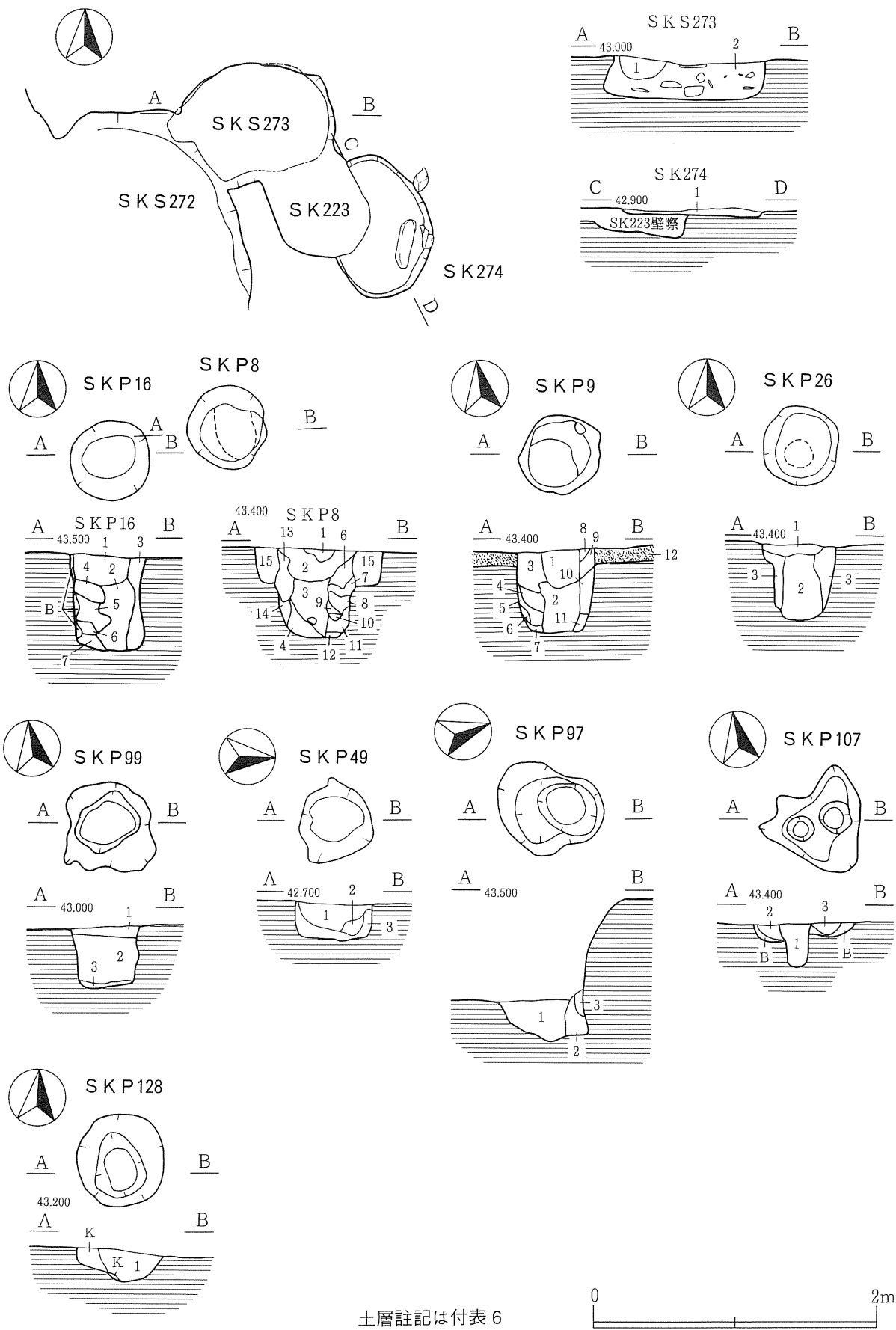
第96図 検出遺構(49)



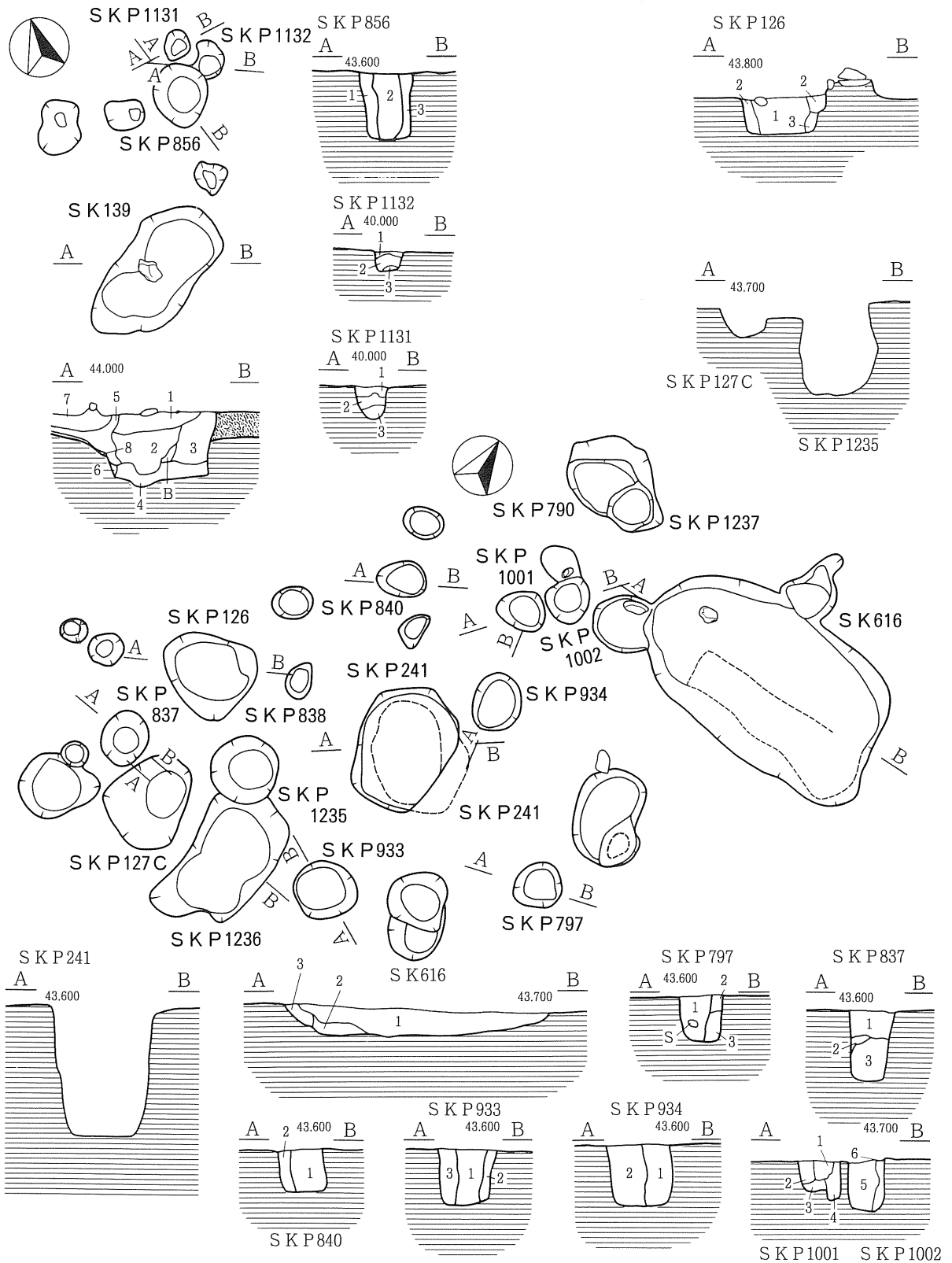
第97図 検出遺構 (50)



第98図 検出遺構 (51)

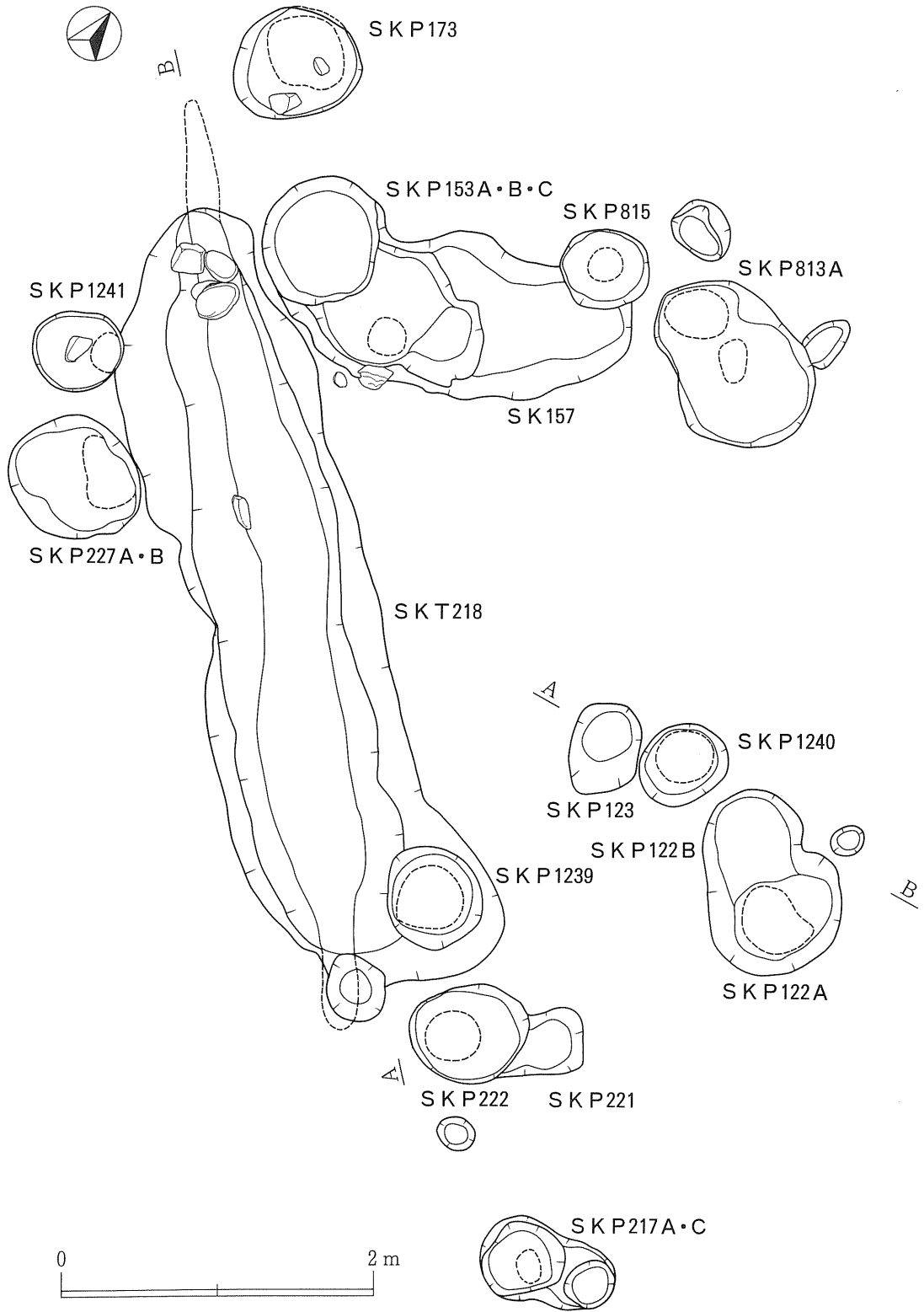


第99図 検出遺構 (52)

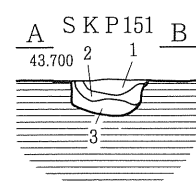
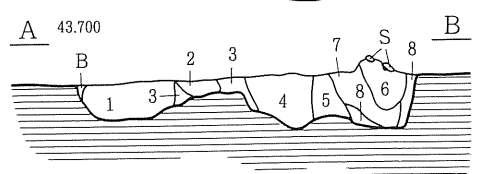
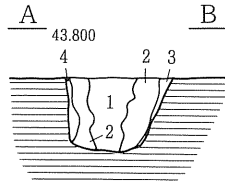
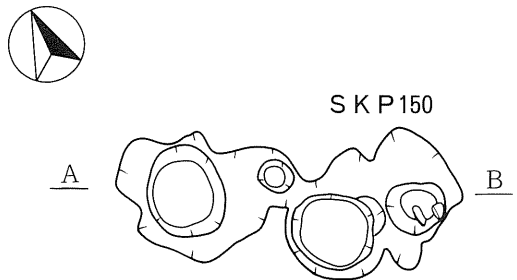
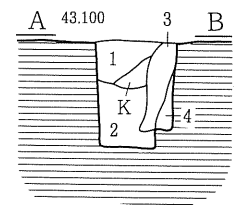
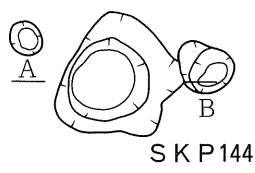
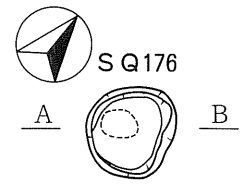
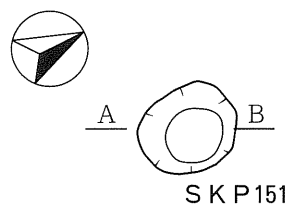
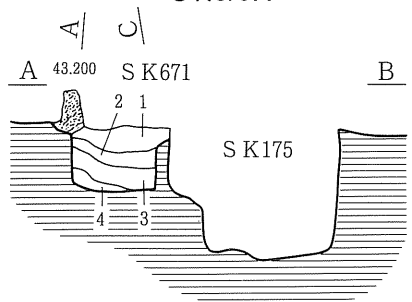
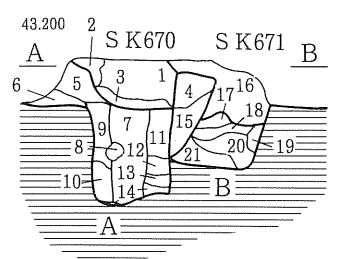
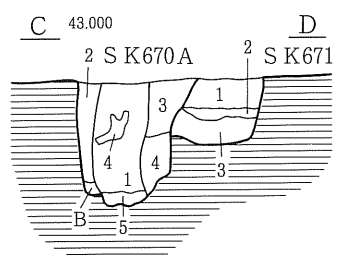
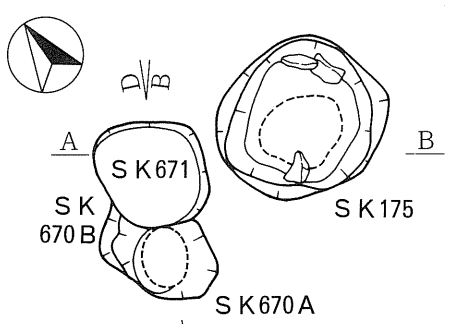
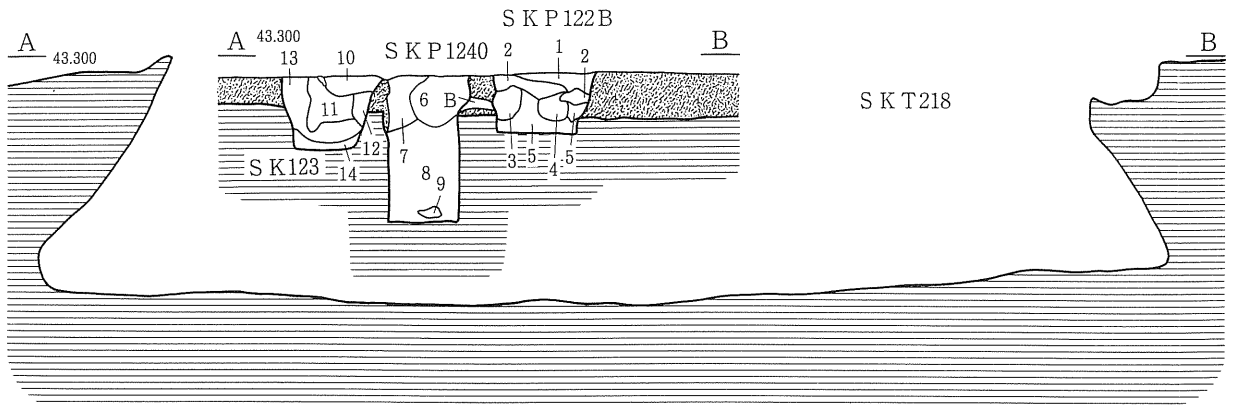


土層註記は付表6

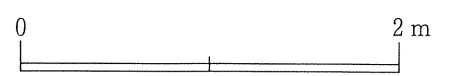
第100図 検出遺構 (53)



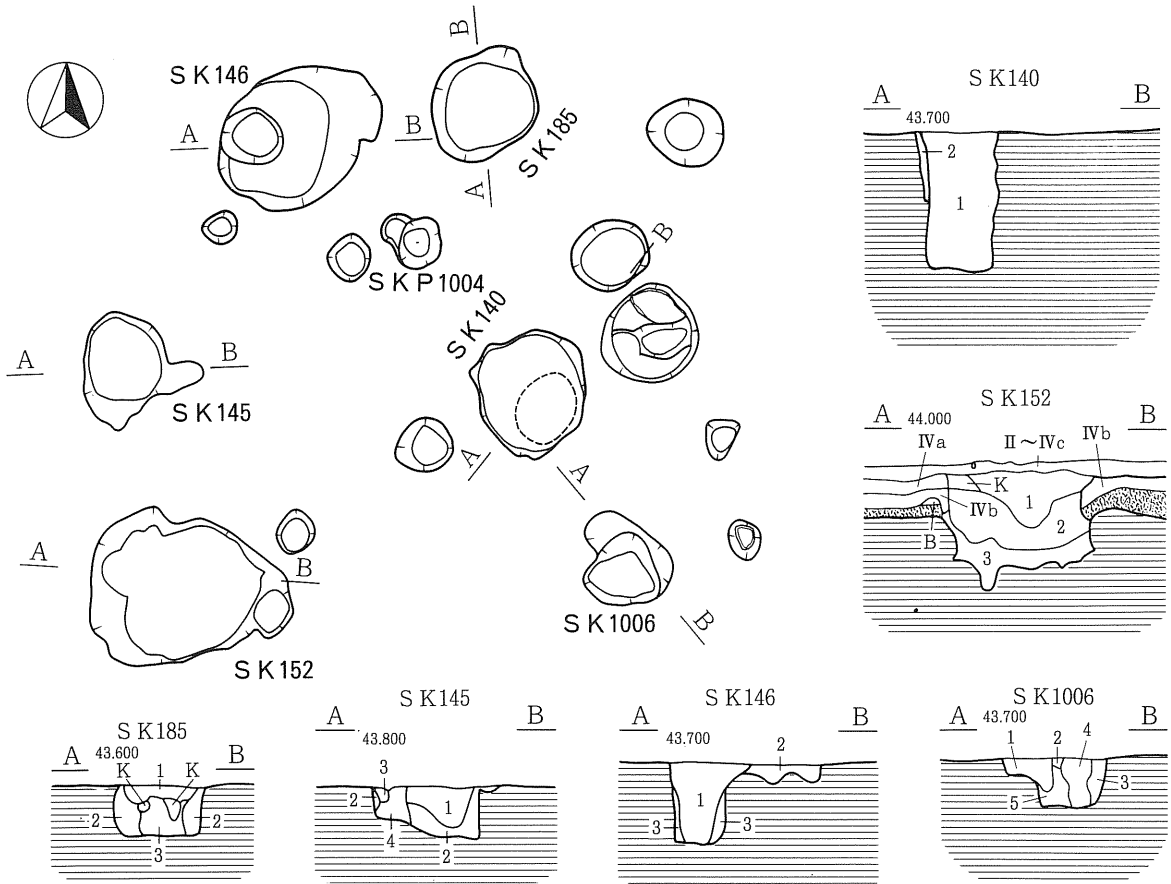
第101図 検出遺構 (54)



土層註記は付表7

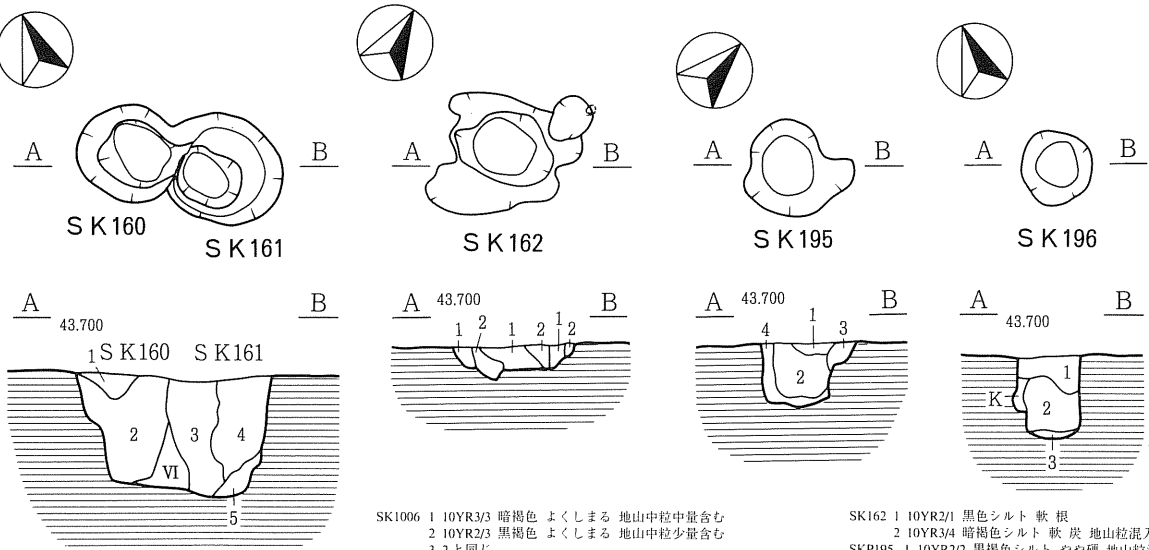


第102図 検出遺構 (55)



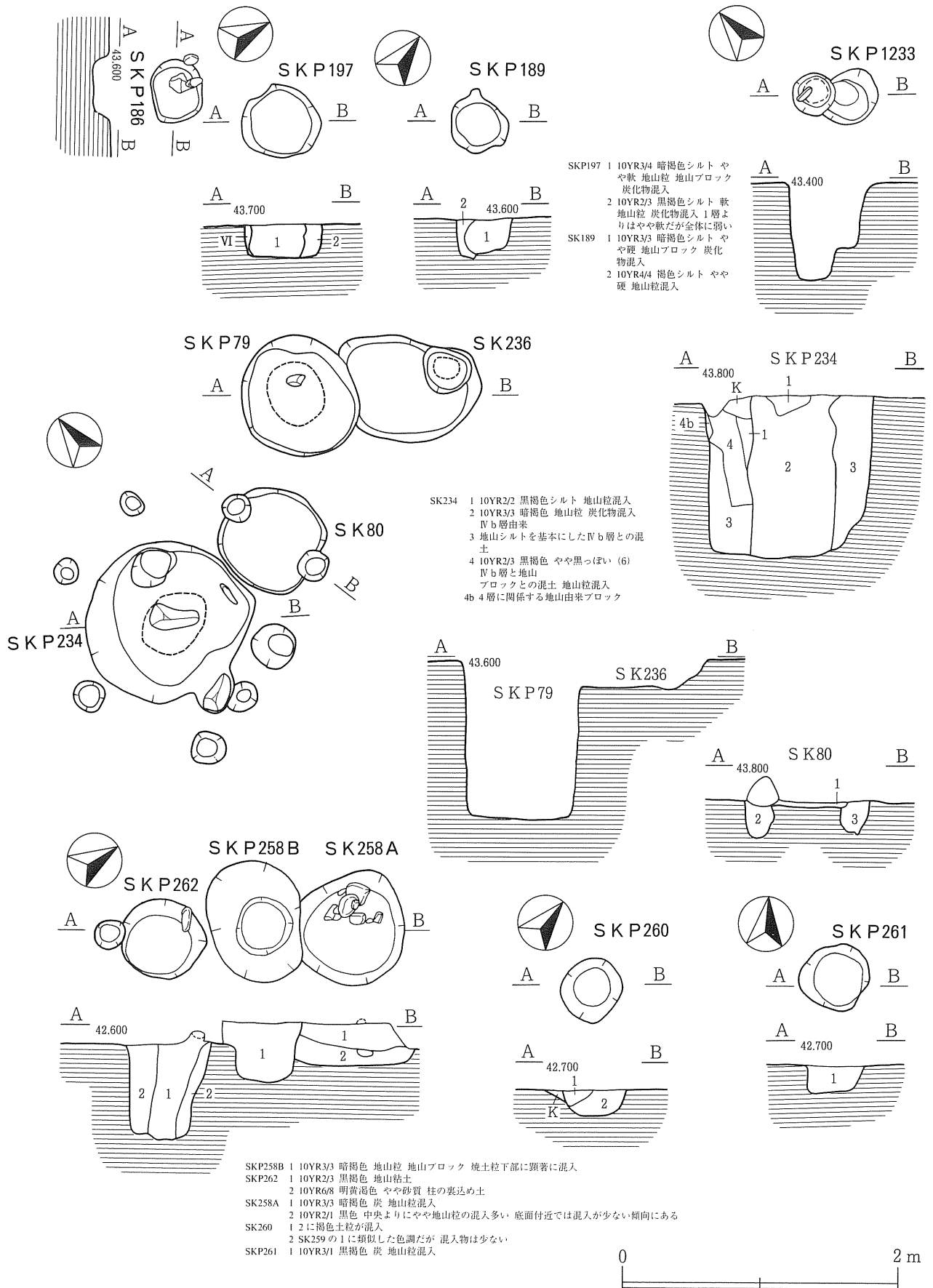
- SKP140 1 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト 硬 炭
- 2 10YR3/4 暗褐色シルト 硬 炭 地山粒混入
- SK152 1 10YR3/2 黒褐色シルト やや硬 一般に混入物少ない
- 2 10YR2/1 黒色シルト やや硬 一般に混入物少ない
- 3 10YR2/3 黒褐色シルト やや硬 一般に混入物少ない
- SKP146 1 10YR2/3 黒褐色シルト やや軟 炭 地山粒混入
- 2 10YR2/2 黒褐色シルト 軟 地山粒混入
- 3 10YR3/3 暗褐色シルト 軟

- SKP145 1 10YR2/2 黒褐色シルト やや硬
- 2 10YR3/3 暗褐色シルト 軟 根痕
- 3 地山掘りすぎ
- 4 10YR3/4 暗褐色シルト やや硬
- SKP185 1 10YR3/3 暗褐色シルト やや硬 炭化物 焼土粒混入
- 2 10YR2/3 黒褐色シルト やや硬 地山ブロック 炭化物混入
- 3 10YR4/4 褐色粘土～シルト 硬 地山粘土

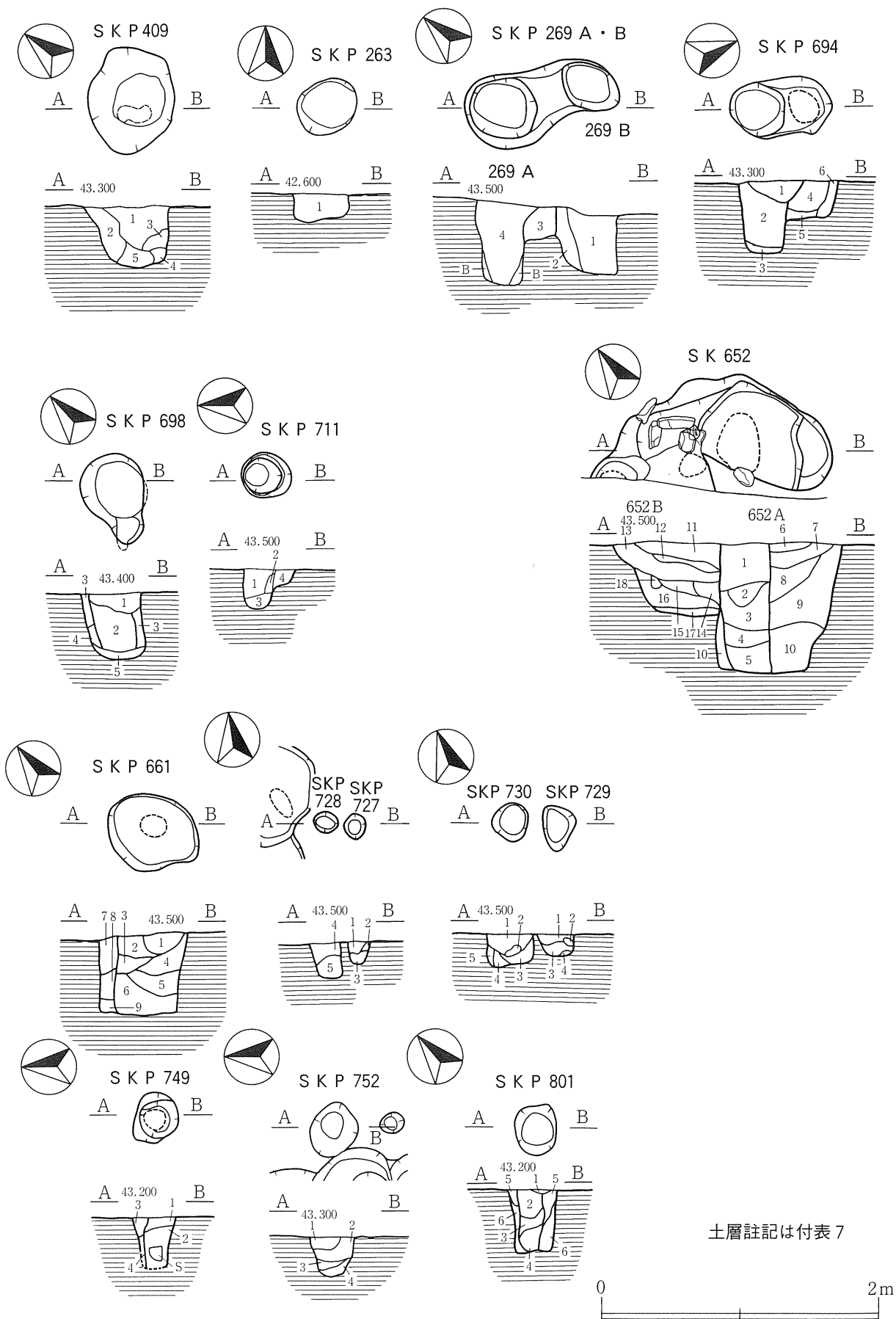


- SK1006 1 10YR3/3 暗褐色 よくしまる 地山中粒中量含む
- 2 10YR2/3 黒褐色 よくしまる 地山中粒少量含む
- 3 2と同じ
- 4 10YR3/3 暗褐色 よくしまる 地山小粒多量含む
- 5 10YR3/2 黒褐色 よくしまる 地山小粒中量含む
- SKP160-161 1 10YR2/1 黒色粘土～シルト 地山粘土
- 2 10YR1.7/1 黒色粘土～シルト 地山粘土 混土状
- 3 10YR3/2 黒褐色粘土～シルト 柱アタリ 地山粒混入
- 4 10YR1.7/1 黒色粘土～シルト 地山粘土
- 5 10YR5/6 黄褐色粘土～シルト 地山粒混入
- SK162 1 10YR2/1 黒色シルト 軟 根
- 2 10YR3/4 暗褐色シルト 軟 炭 地山粒混入
- SKP195 1 10YR2/2 黒褐色シルト やや硬 地山粒混入
- 2 10YR3/3 暗褐色シルト 地山粒混入
- 3 10YR2/3 黒褐色シルト やや軟 地山粒混入
- 4 10YR2/3 黒褐色シルト やや軟 地山粒混入
- SKP196 1 10YR3/3 暗褐色シルト 軟 地山粒混入
- 2 10YR3/4 暗褐色シルト やや硬 地山粘土
- 3 10YR2/2 黒褐色シルト 硬

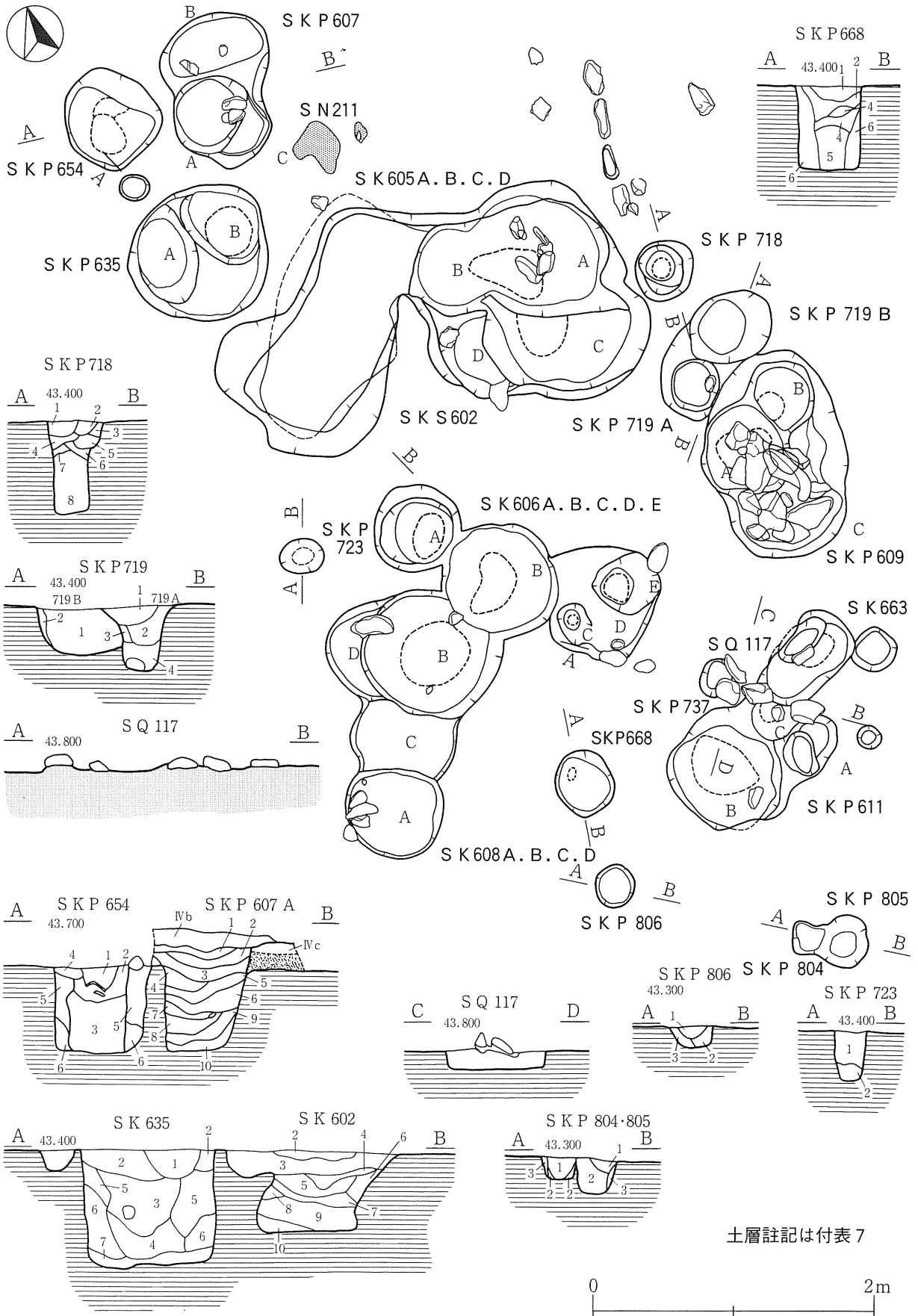
第103図 検出遺構 (56)



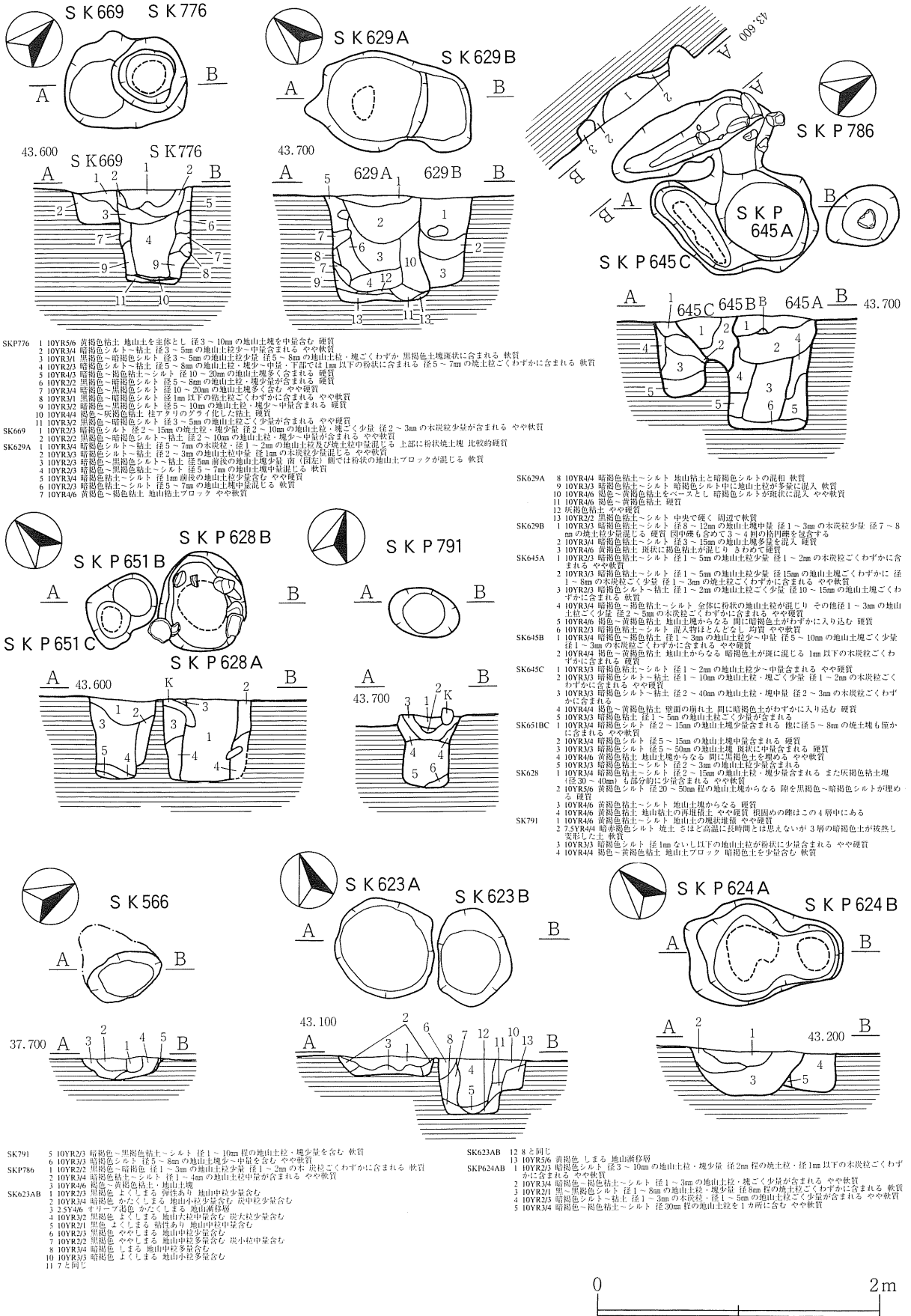
第104図 検出遺構 (57)



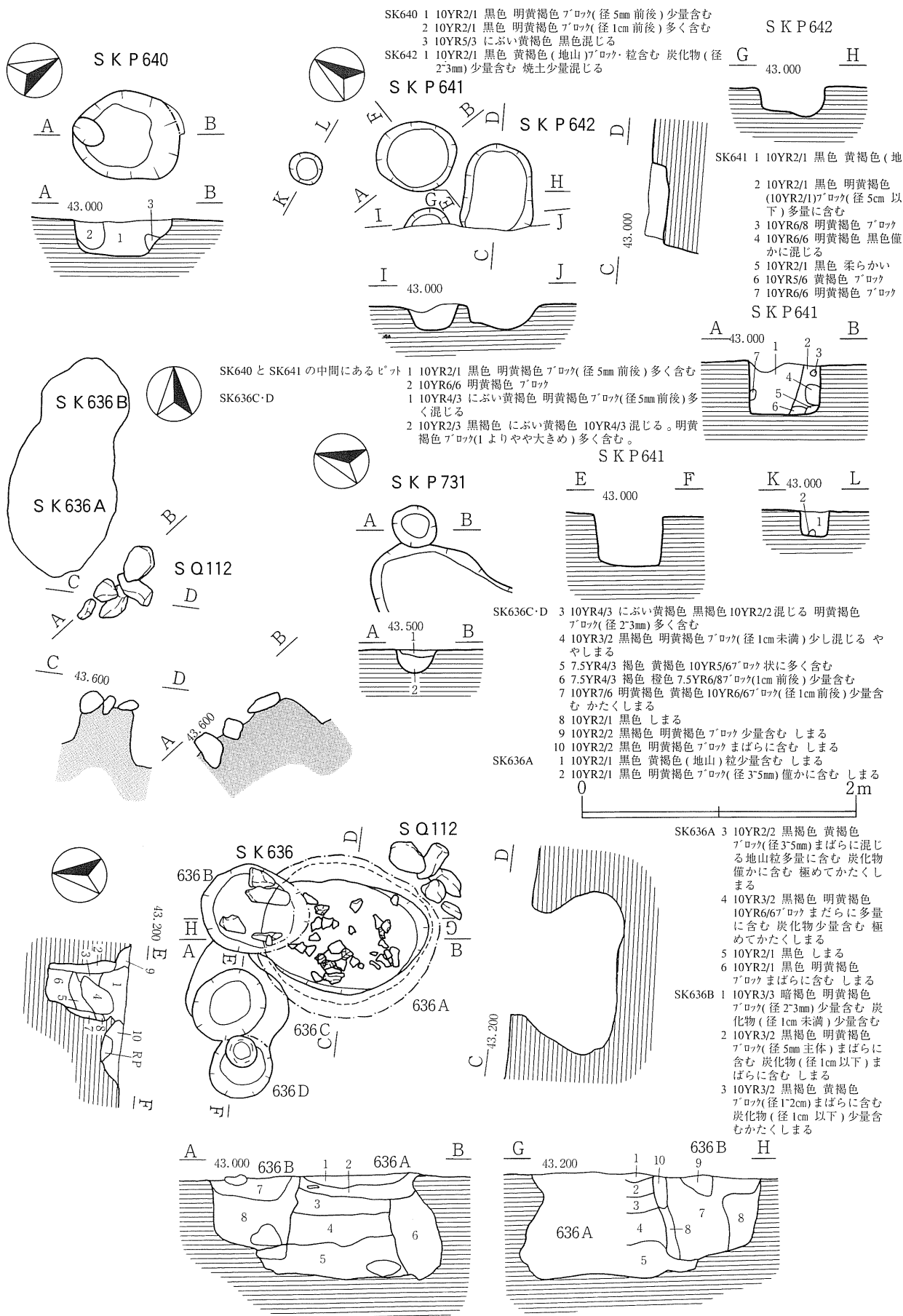
第105図 検出遺構 (58)



第106図 検出遺構 (59)



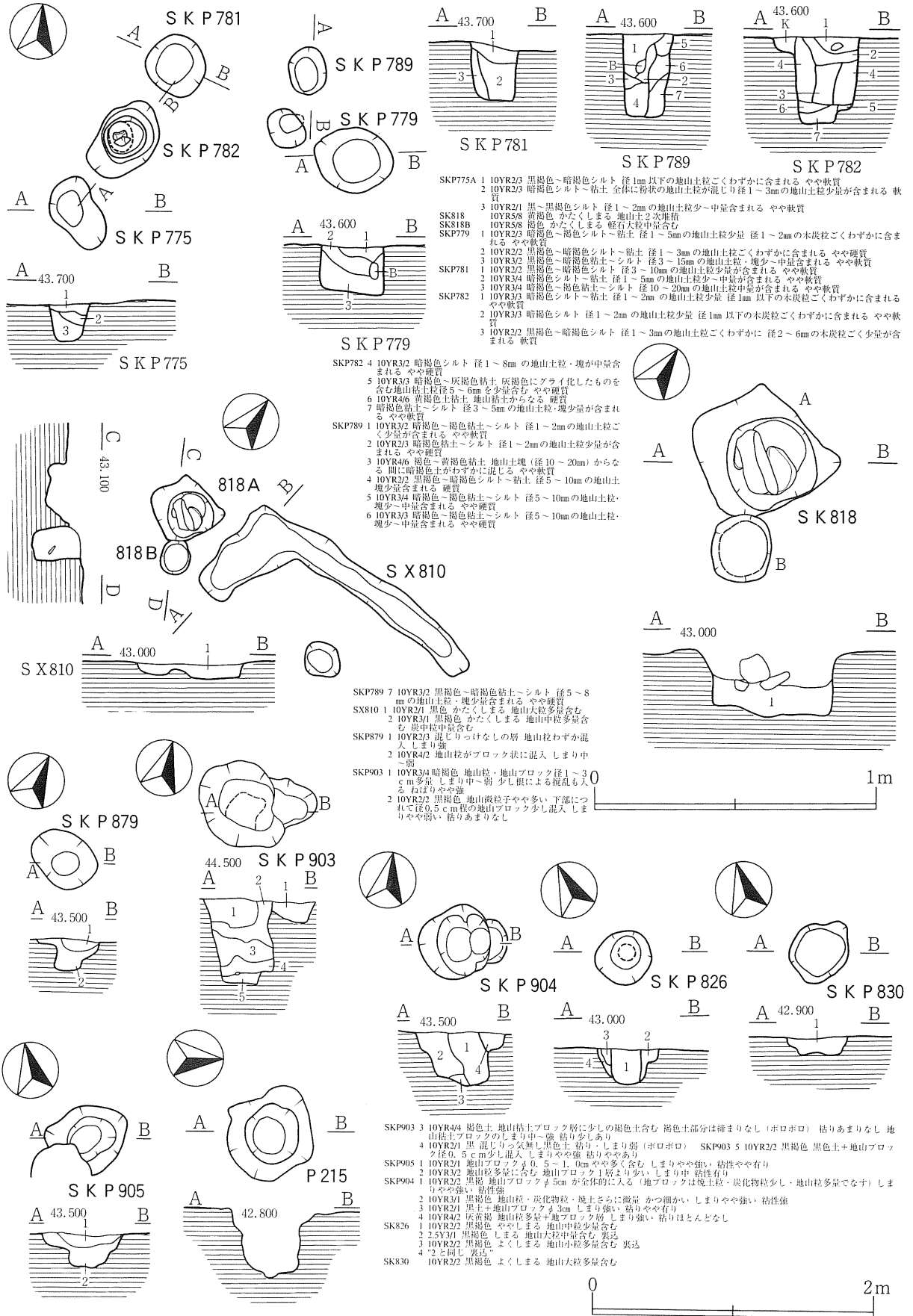
第107図 検出遺構(60)



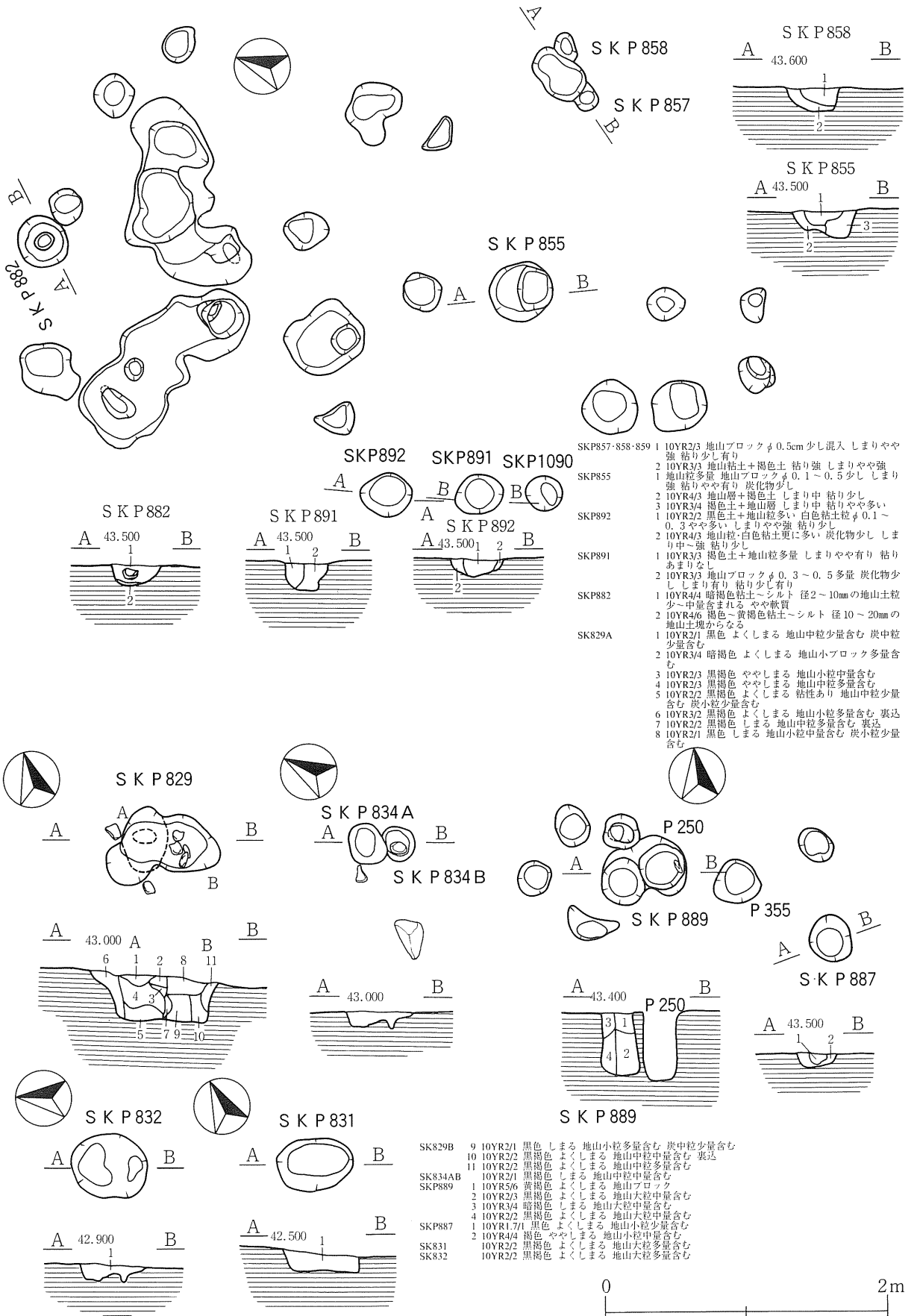
第108図 検出遺構(61)



第109図 検出遺構 (62)

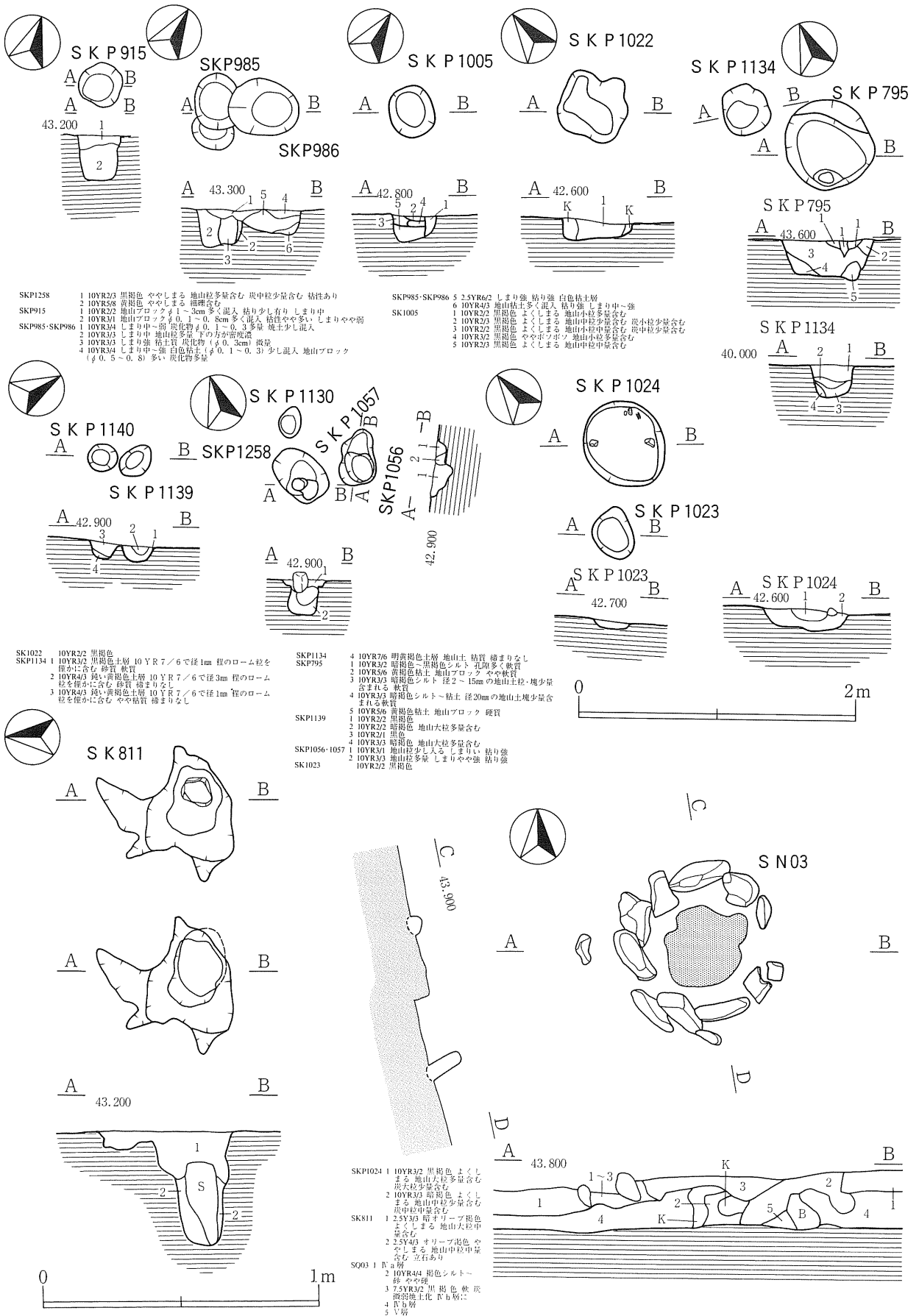


第110図 検出遺構(63)

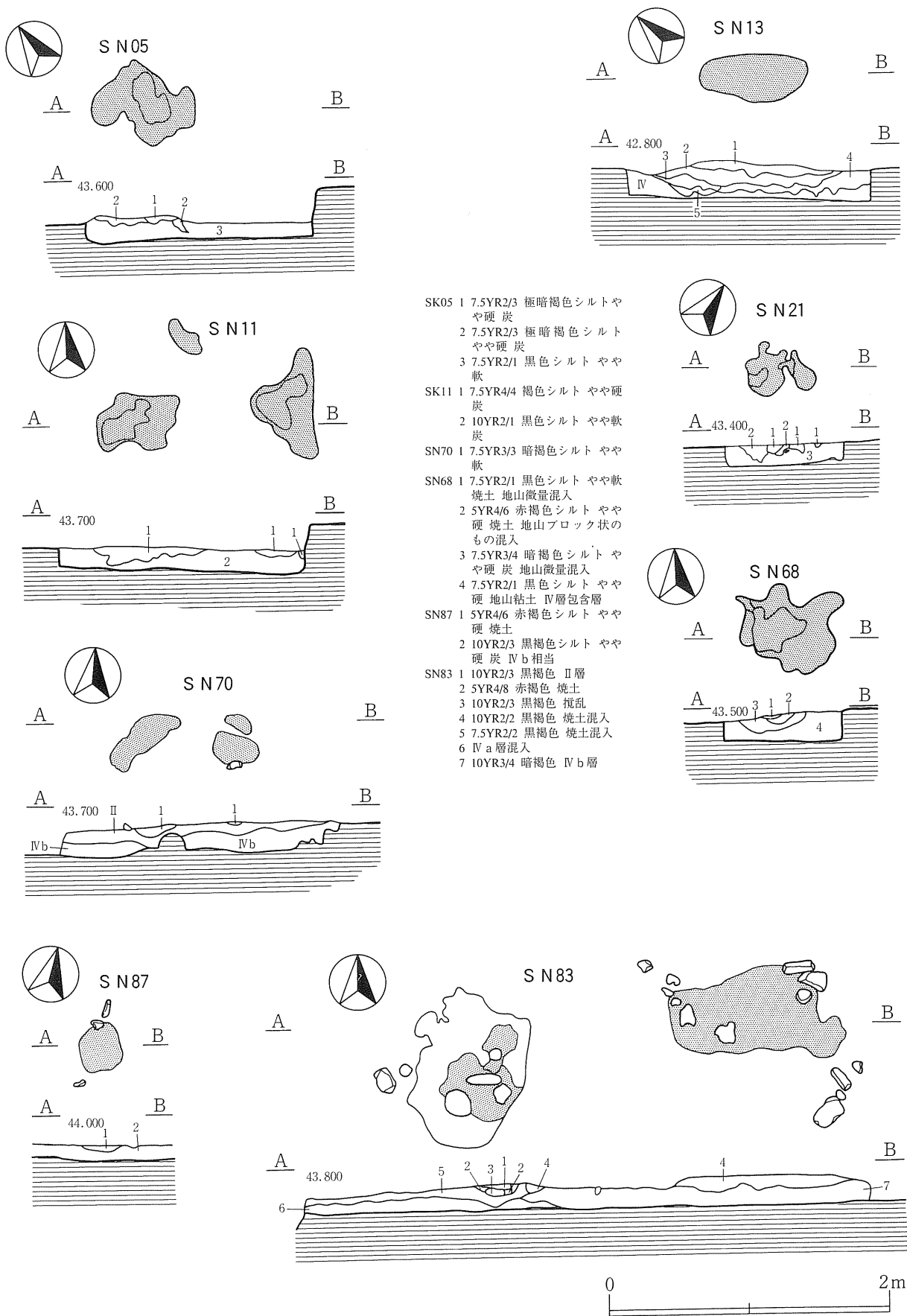


第111図 検出遺構 (64)

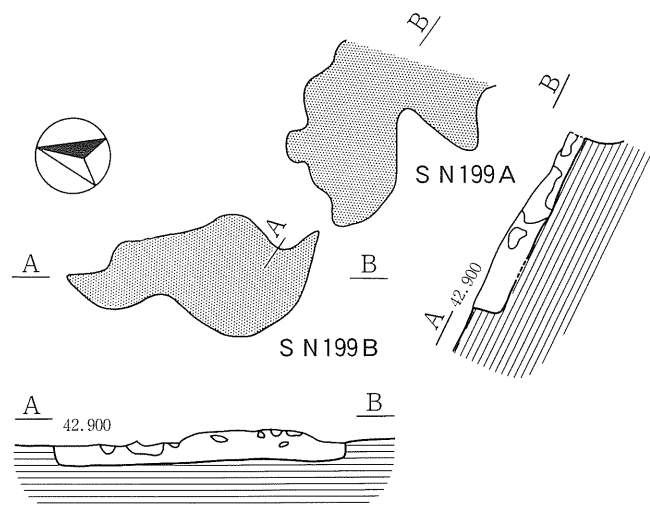
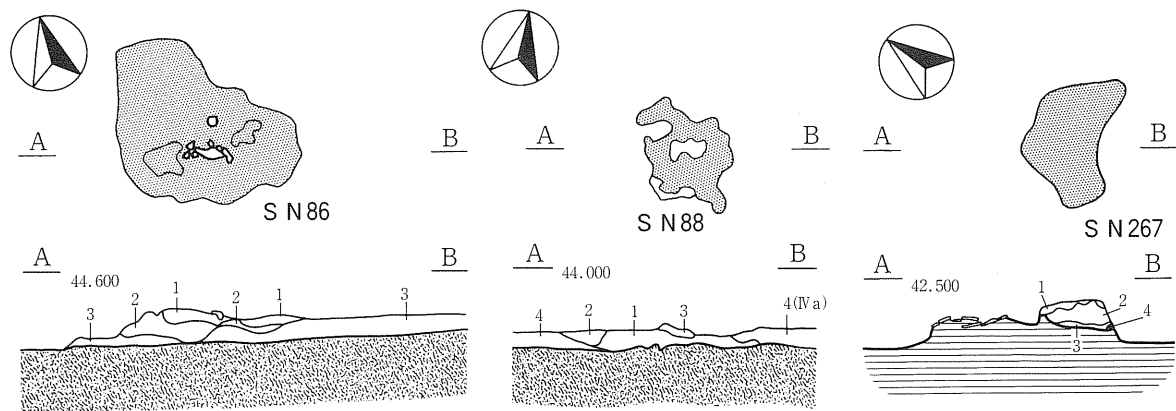
第4章 調査の記録



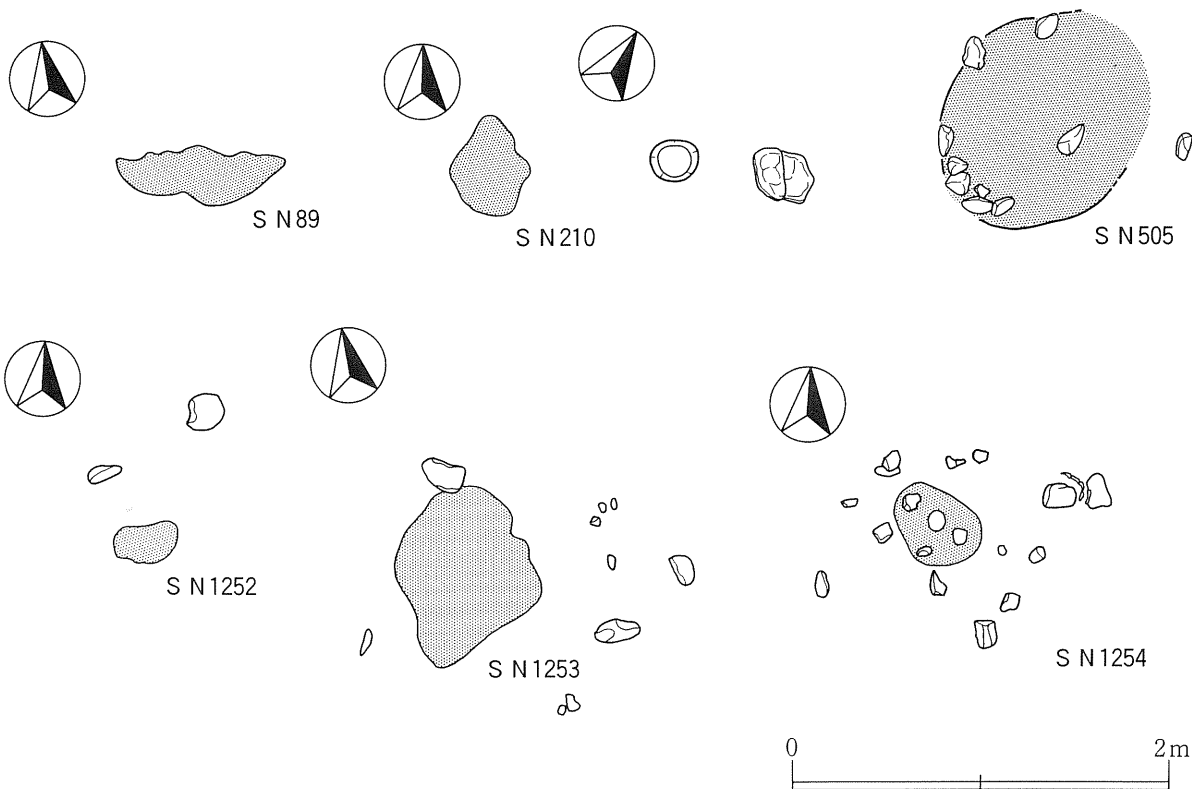
第112図 検出遺構 (65)



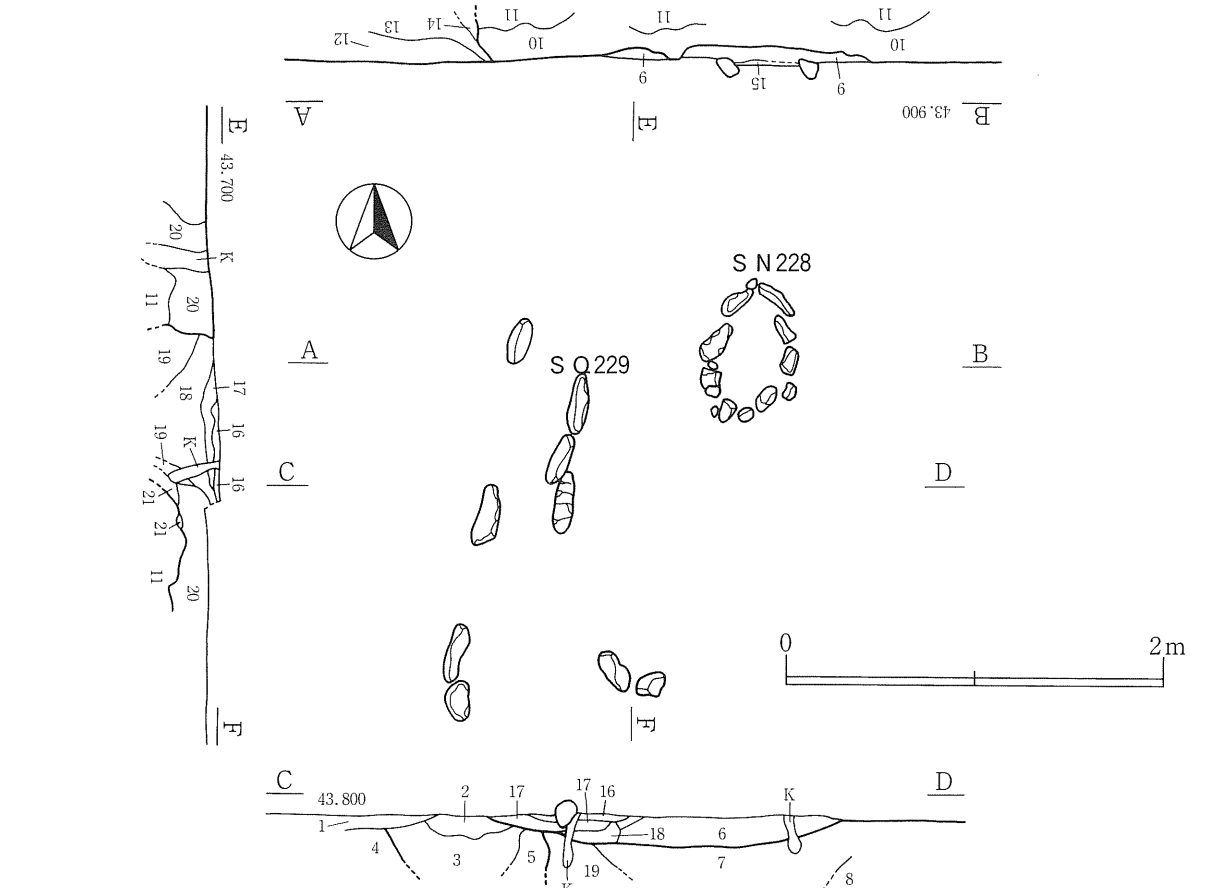
第113図 検出遺構 (66)



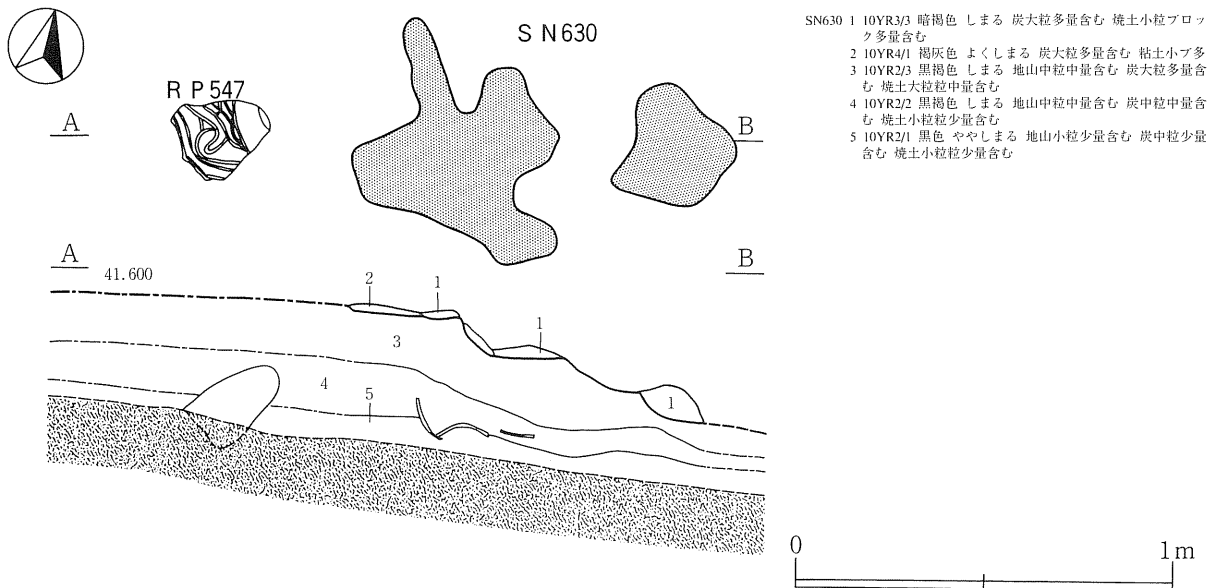
- SN86 1 5YR4/6 赤褐色シルト やや硬
- 2 5YR3/4 暗赤褐色シルト やや硬 炭
- 3 10YR2/3 黒褐色 IV b 相当
- SN88 1 5YR4/6 赤褐色シルト やや硬 焼土 下面に土器片出土
- 2 10YR2/1 黒色シルト やや軟 根による影響か?
- 3 10YR2/1 黒色シルト やや軟 根による影響か?
- 4 7.5YR2/2 黒褐色シルト やや軟 地山粘土 IV b 層混入
- SN267 1 10YR3/3 粘土～シルト やや軟らかい 焼土混入
- 2 10YR2/3 シルト 軟らかい 炭混入
- 3 10YR3/3 粘土～シルト やや硬い 地山粘土混入
- 4 10YR6/4 粘土 やや硬い 白色粘土塊
- SN199A・B 1a 5YR5/6 明赤褐色シルト やや硬
- 1b 10YR1.7/1 黒色シルト やや硬 IV c 層対応



第114図 検出遺構 (67)

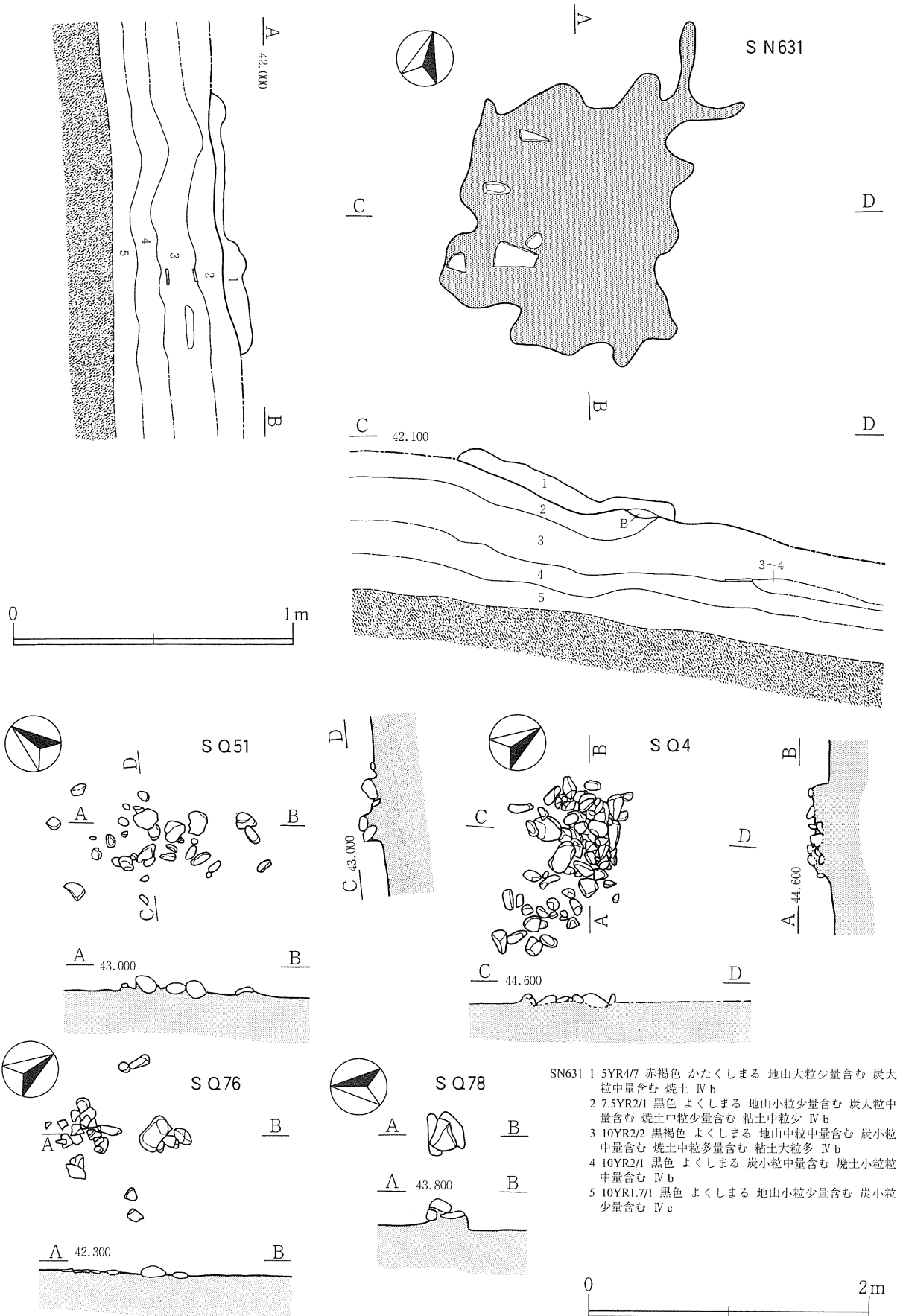


- | | |
|---|--|
| <p>SN228-SQ229</p> <ul style="list-style-type: none"> 1 10YR2/3 暗褐色シルト 径3mm程の焼土粒ごく僅か混じる やや硬質 2 10YR4/3 灰褐色シルト～粘土 灰褐色粘土が粉状に暗褐色土に混じった土 やや軟質 3 10YR3/3 暗褐色シルト～粘土 径3～5mmの焼土粒・径1mmの木炭粒混じる 軟質 4 10YR2/3 暗褐色粘土～シルト 径1～2mmの地山土粒ごく少量混じる やや硬質 5 10YR3/4 暗褐色粘土～シルト 径1mmの地山土粒少量混じる やや軟質 6 10YR3/3 暗褐色シルト 径5～8mmの木炭粒 径1mmの焼土粒少量混じる 硬質 7 10YR2/3 暗褐色シルト 径1mm前後の焼土粒・径2mmの焼土粒・径2～3mmの地山土粒少量混じる やや軟質 8 10YR2/3 暗褐色シルト 径1mm程の地山土粒ごく少量混じる 軟質 9 10YR3/2 暗褐色シルト～粘土 いくぶん被熱した土 軟質 10 10YR2/2 暗褐色シルト 径1mmの地山土粒少量混じる 軟質 11 10YR4/6 黄褐色～褐色粘土 地山漸移層 12 10YR3/3 暗褐色粘土～シルト 径2～3mmの木炭粒 径1mmの焼土粒わずかに混じる やや軟質 | <p>SN228-SQ229</p> <ul style="list-style-type: none"> 13 10YR3/4 暗褐色シルト 径10～15mmの木炭粒少量が混じる 粉状の地山土粒少量混じる 軟質 14 10YR2/2 黒褐色シルト 径2～3mmの木炭粒ごくわずかに混じる 軟質 15 5YR4/4 暗赤褐色シルト 焼土層 軟質 16 5YR4/4 暗赤褐色シルト 焼土層 軟質 17 10YR4/4 暗褐色～褐色シルト 径2～5mmの地山土粒・径1mmの焼土粒・径1mmの木炭粒少量混じる やや被熱した土 18 10YR5/8 黄褐色粘土 暗褐色粘土が粉状に混じる 19 10YR4/4 褐色粘土～シルト 黄褐色粘土と暗褐色シルトが混じり合った土 軟質 20 10YR2/2 黒褐色シルト 径1mmの地山土粒ごく少量混じる 軟質 21 10YR2/3 暗褐色シルト 径1～3mmの地山土粒が中量混じる ブロック状に混在する土 |
|---|--|

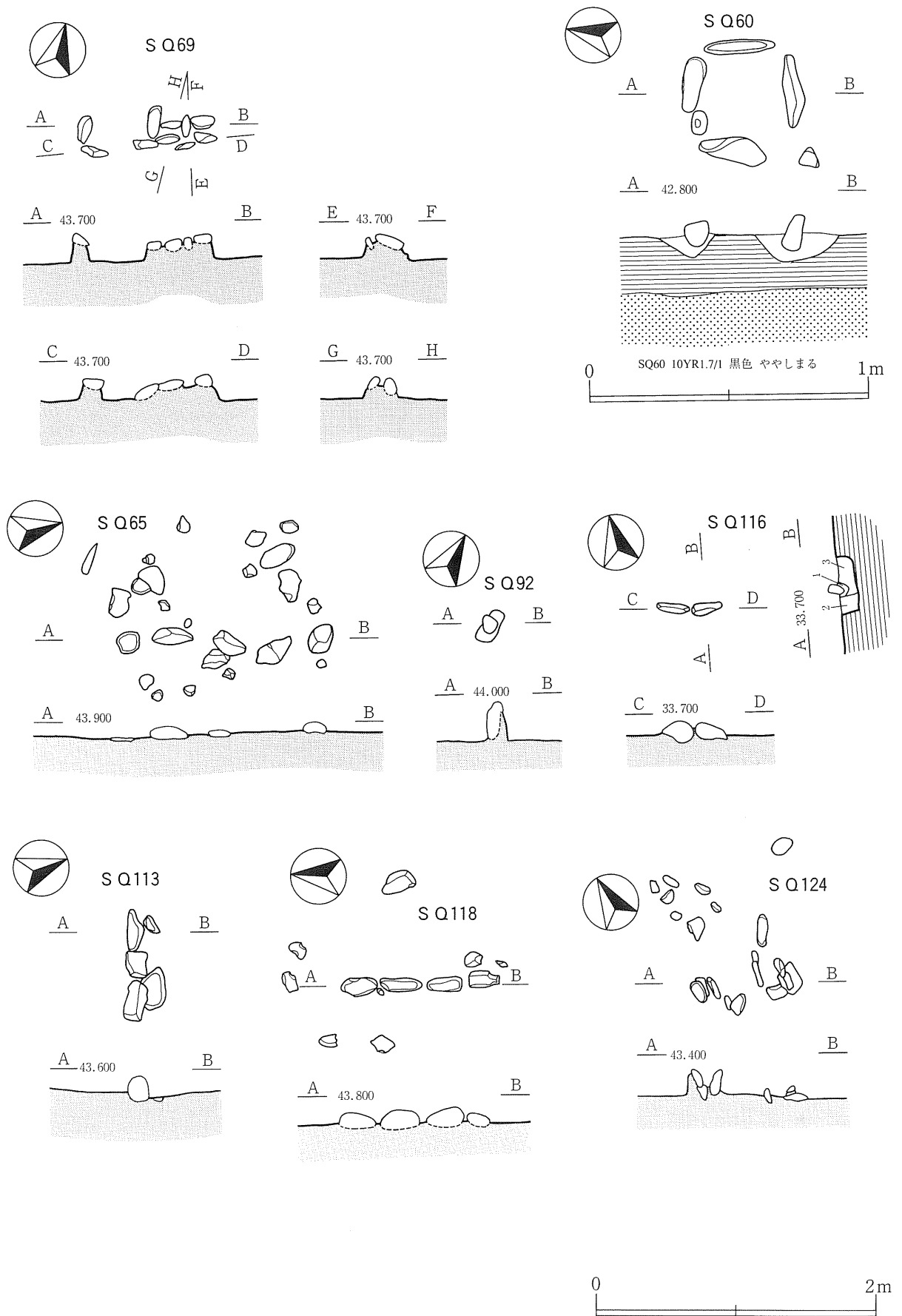


- SN630
- 1 10YR3/3 暗褐色 しまる 炭大粒多量含む 焼土小粒ブロック多量含む
 - 2 10YR4/1 褐灰色 よくしまる 炭大粒多量含む 粘土小ブ多
 - 3 10YR2/3 黒褐色 しまる 地山中粒中量含む 炭大粒多量含む 焼土大粒粒中量含む
 - 4 10YR2/2 黒褐色 しまる 地山中粒中量含む 炭中粒中量含む 焼土小粒粒少量含む
 - 5 10YR2/1 黒色 ややしまる 地山小粒少量含む 炭中粒少量含む 焼土小粒粒少量含む

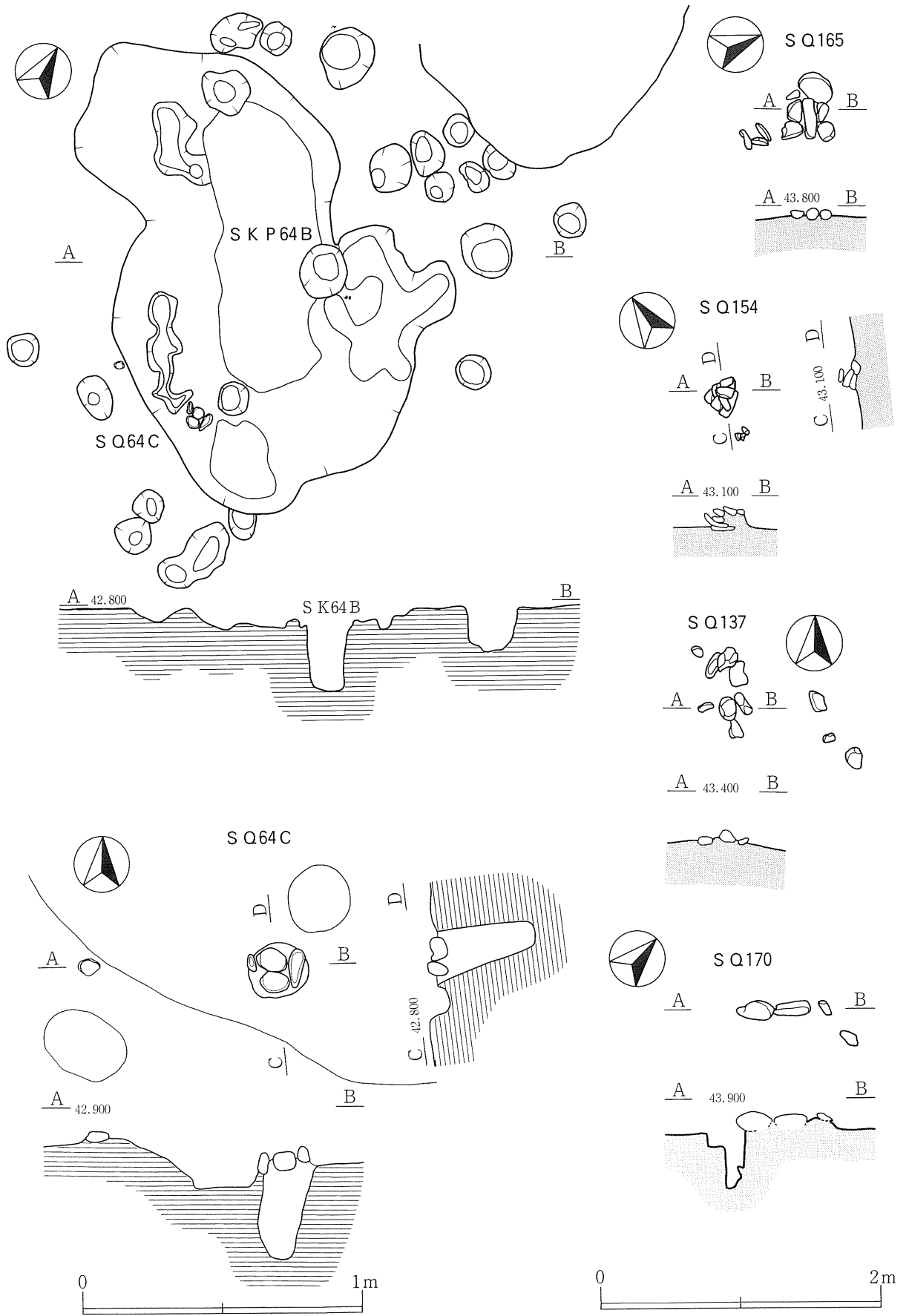
第115図 検出遺構 (68)



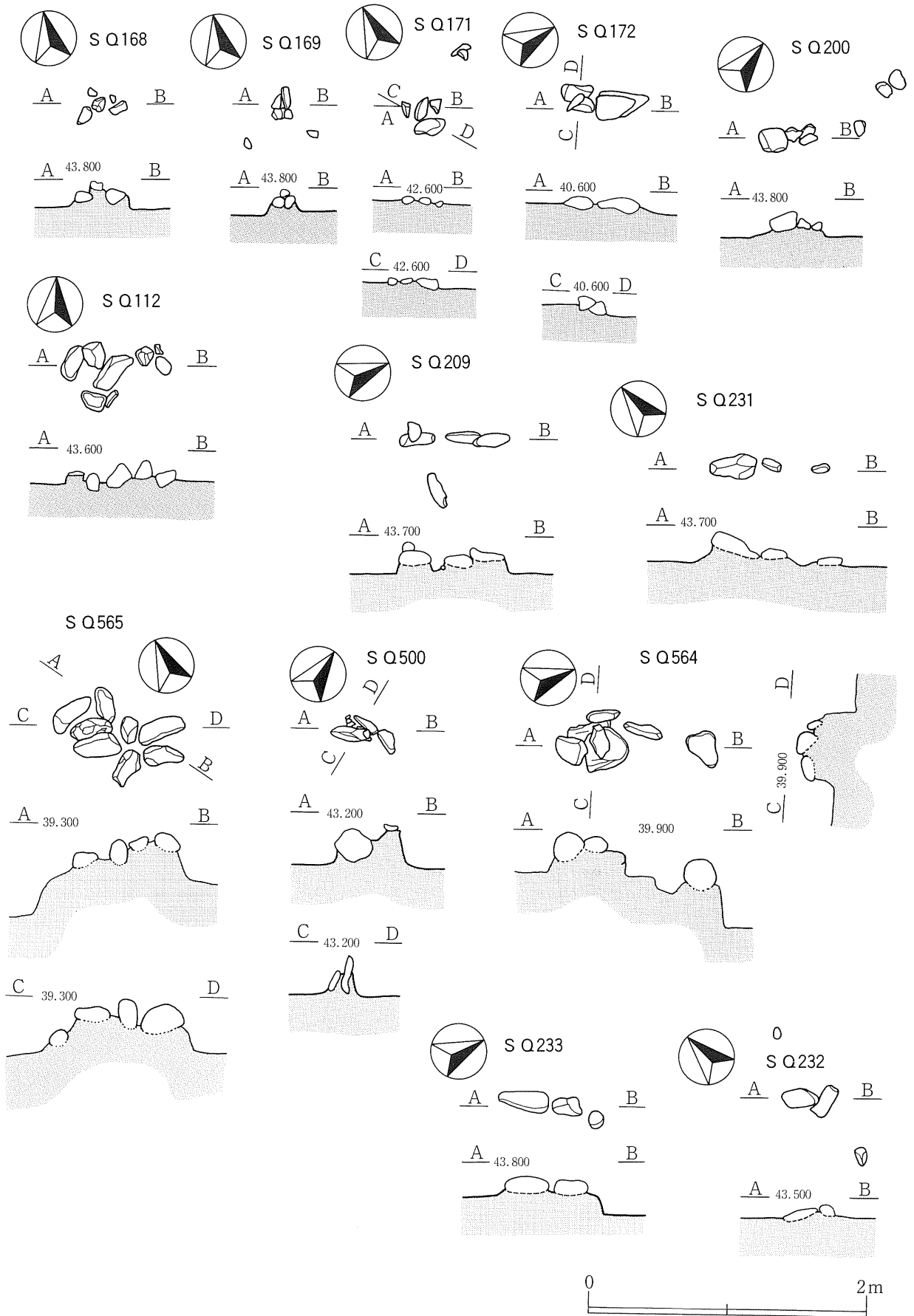
第116図 検出遺構 (69)



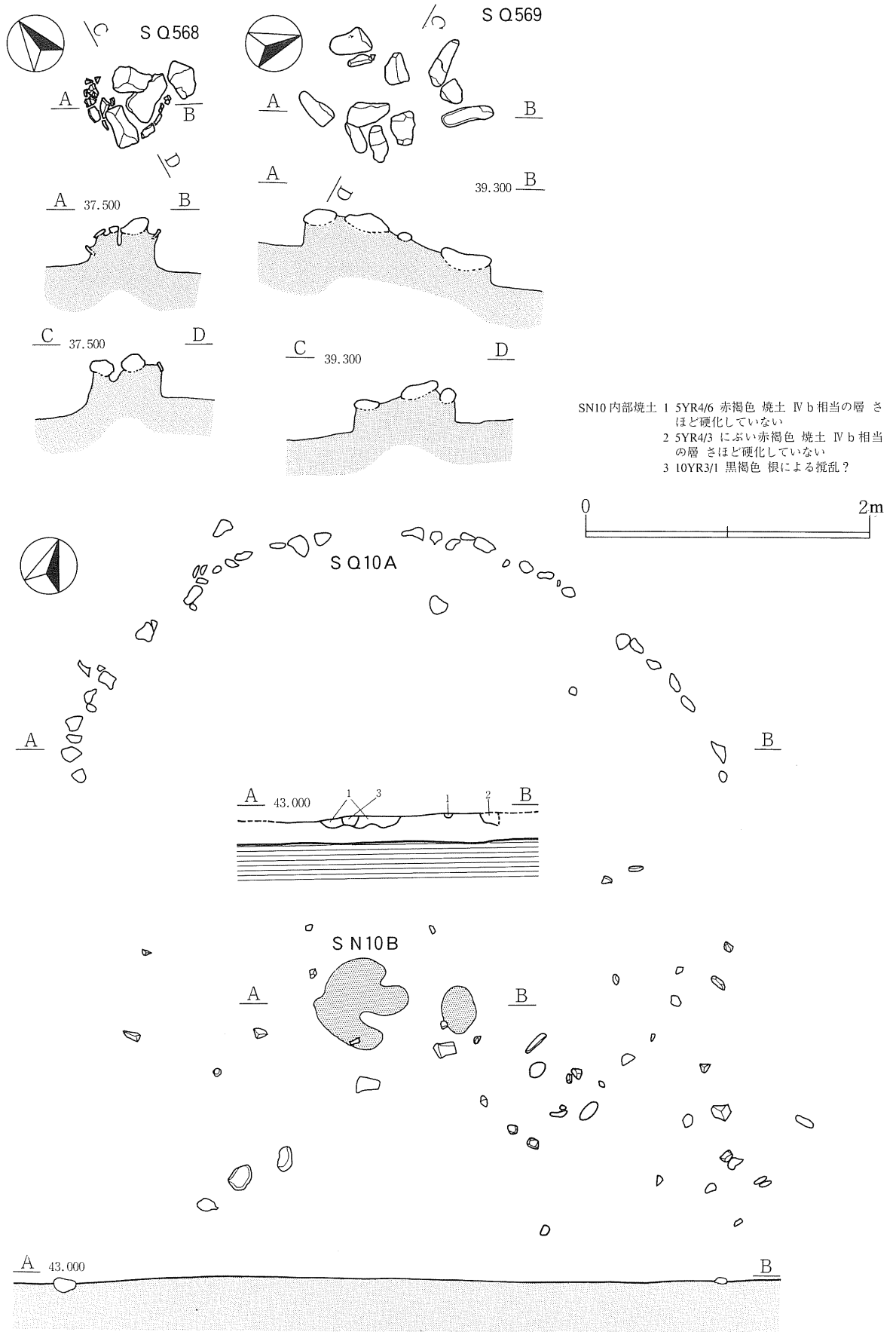
第117図 検出遺構(70)



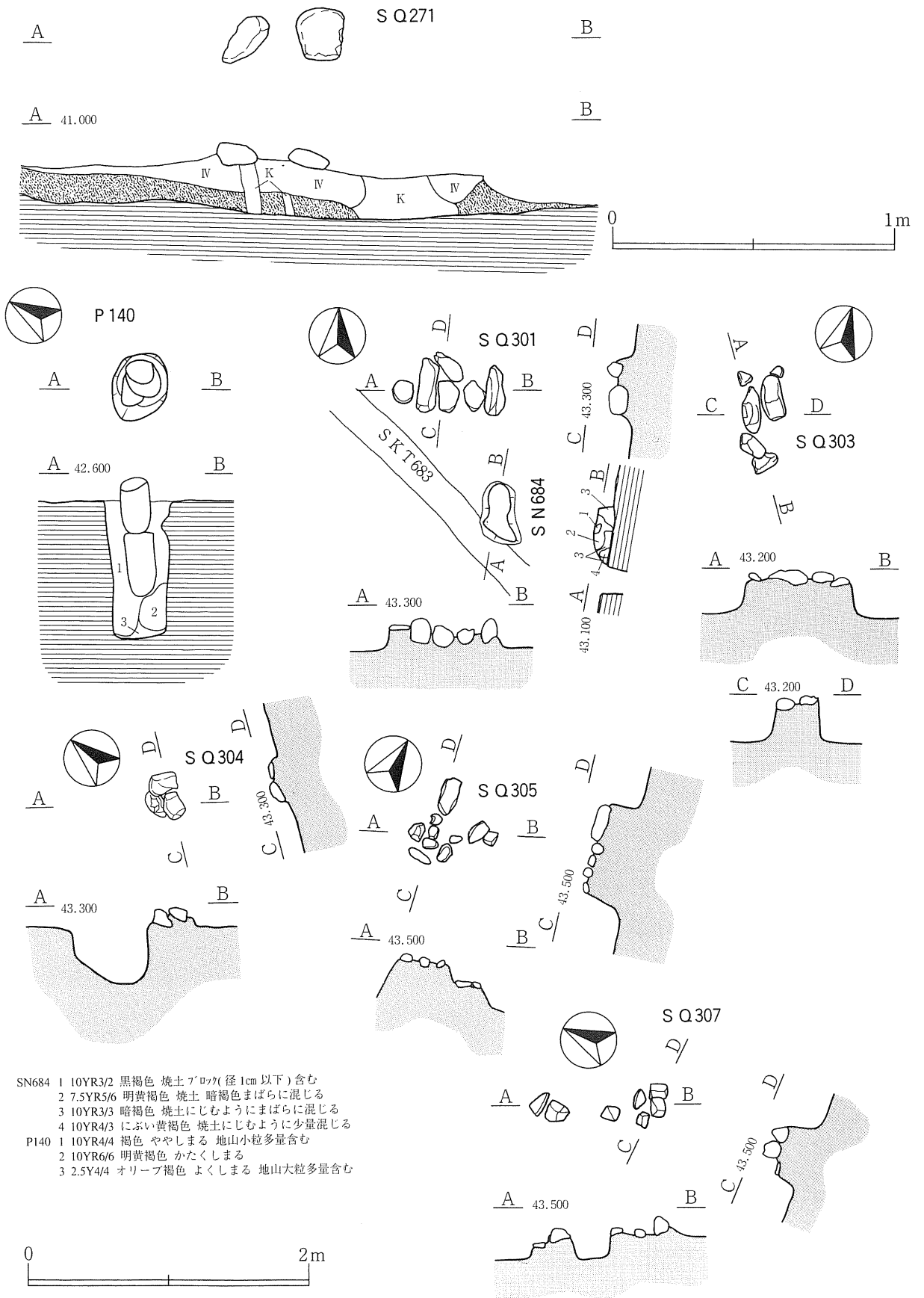
第118図 検出遺構(71)



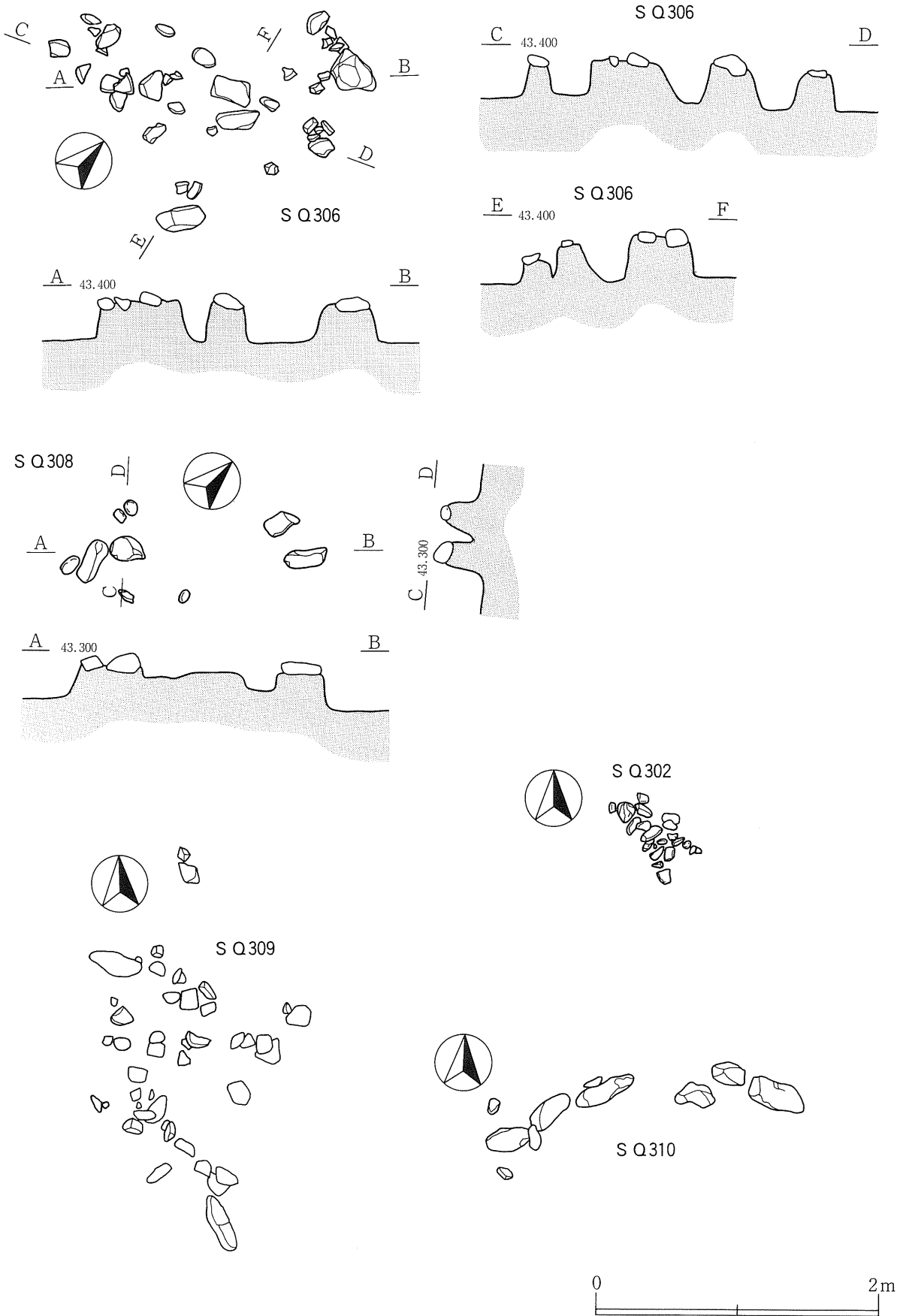
第119図 検出遺構 (72)



第120図 検出遺構 (73)



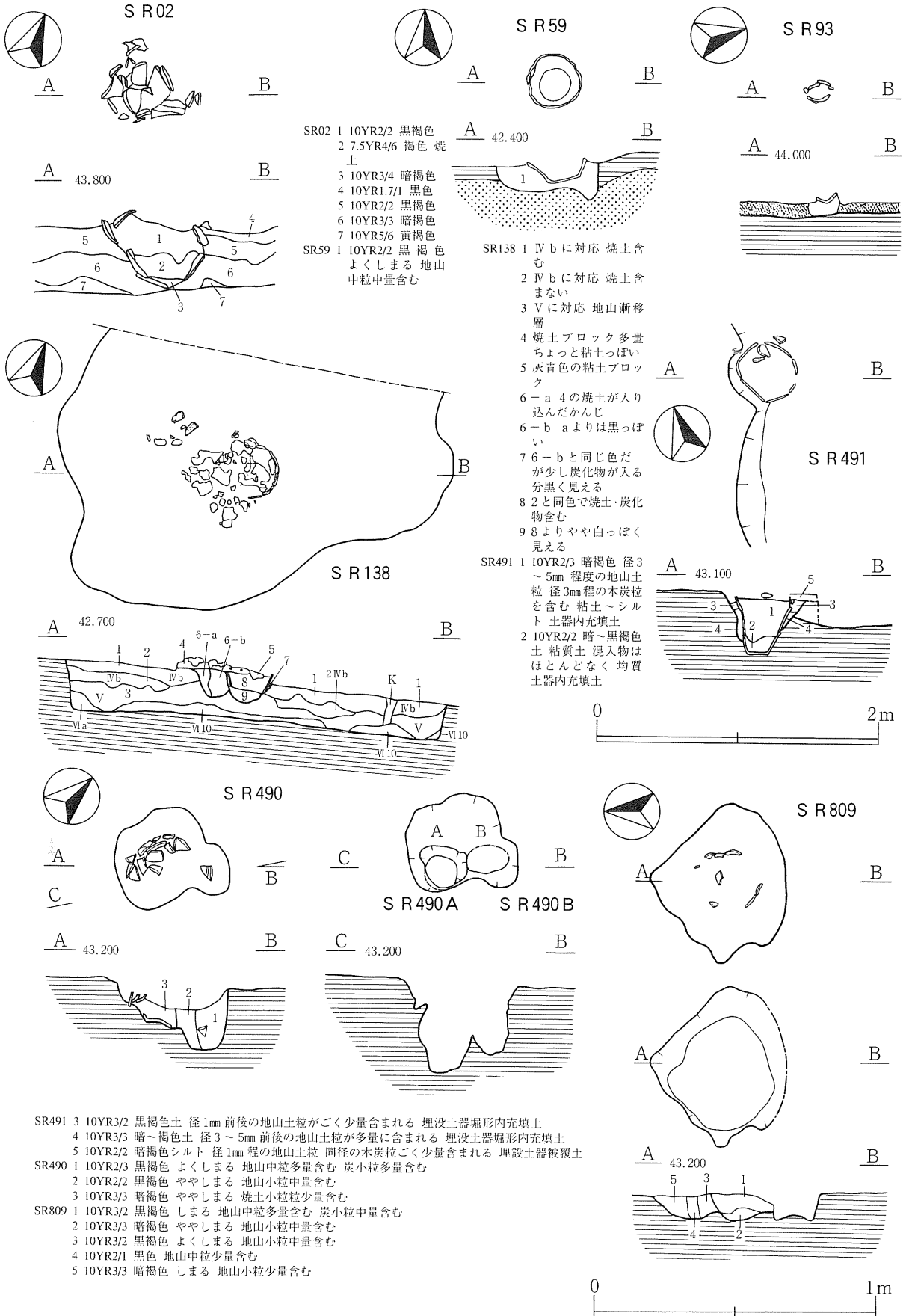
第121図 検出遺構(74)



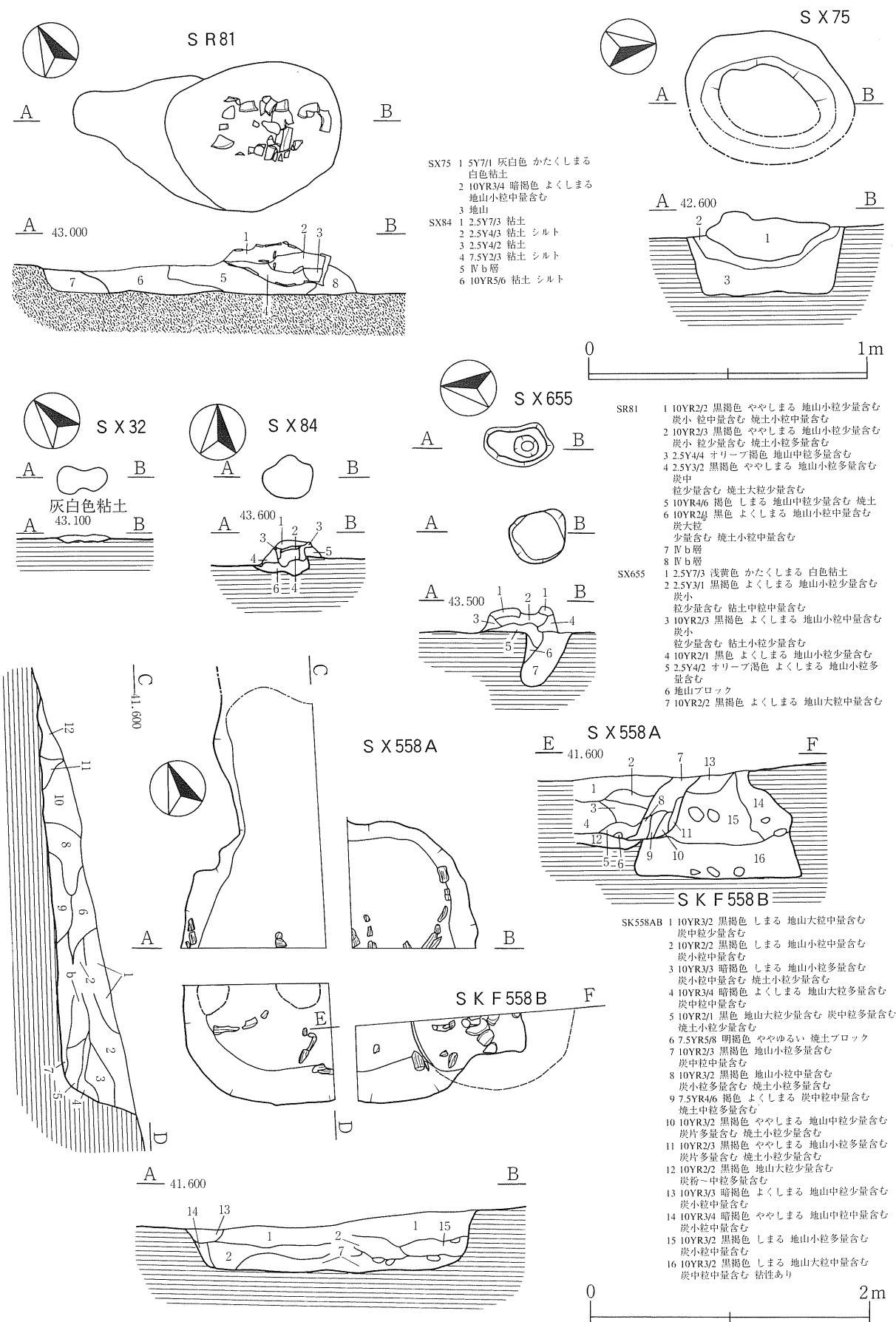
第 122 図 検出遺構 (75)



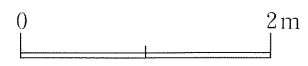
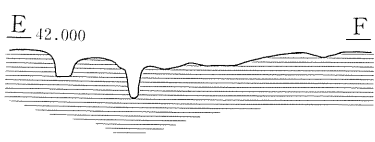
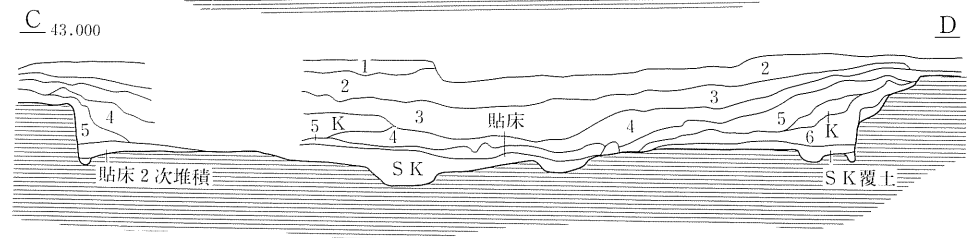
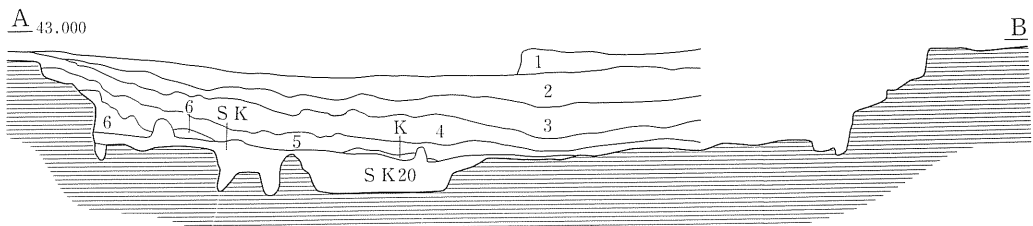
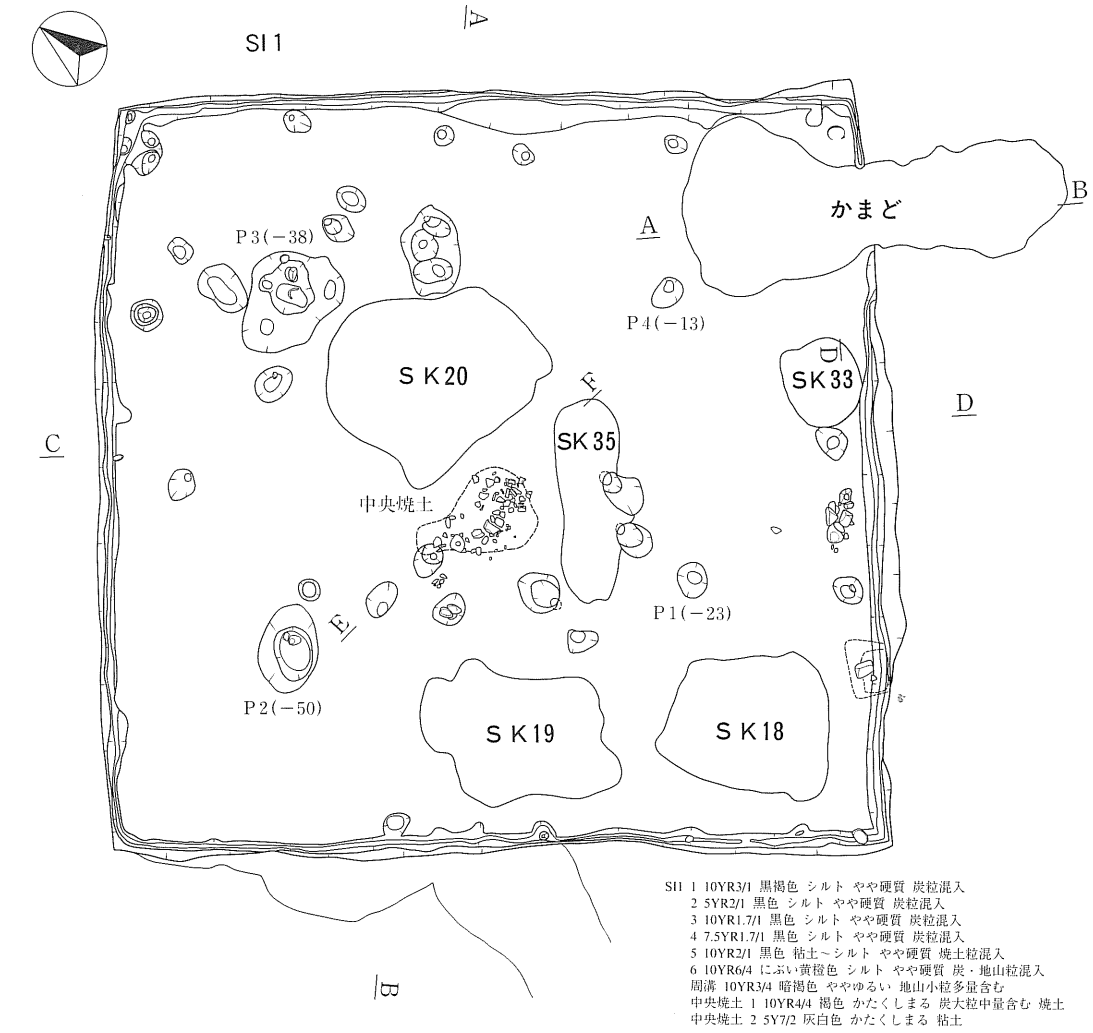
第123図 検出遺構(76)



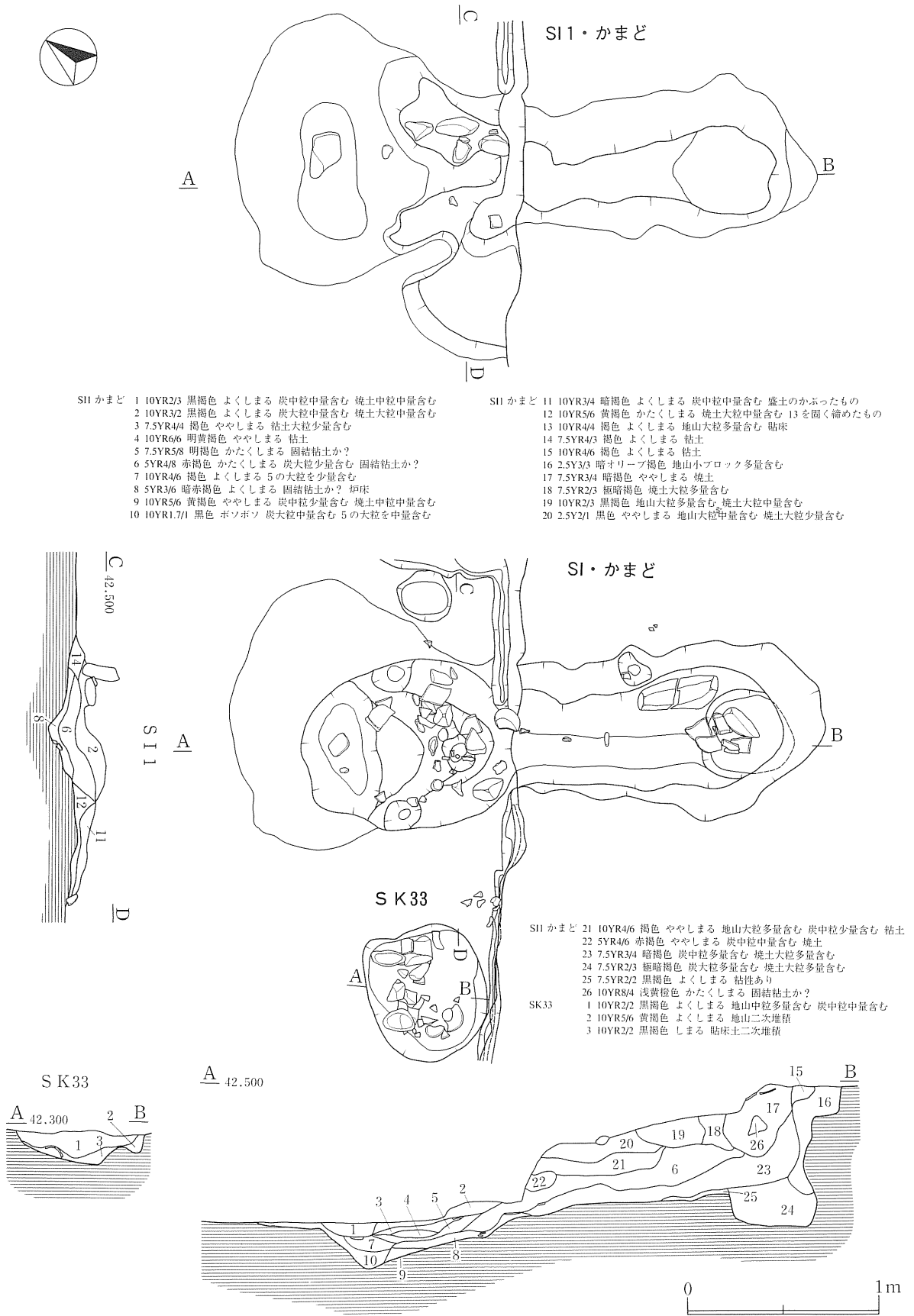
第124図 検出遺構 (77)



第125図 検出遺構 (78)



第126図 検出遺構(79)

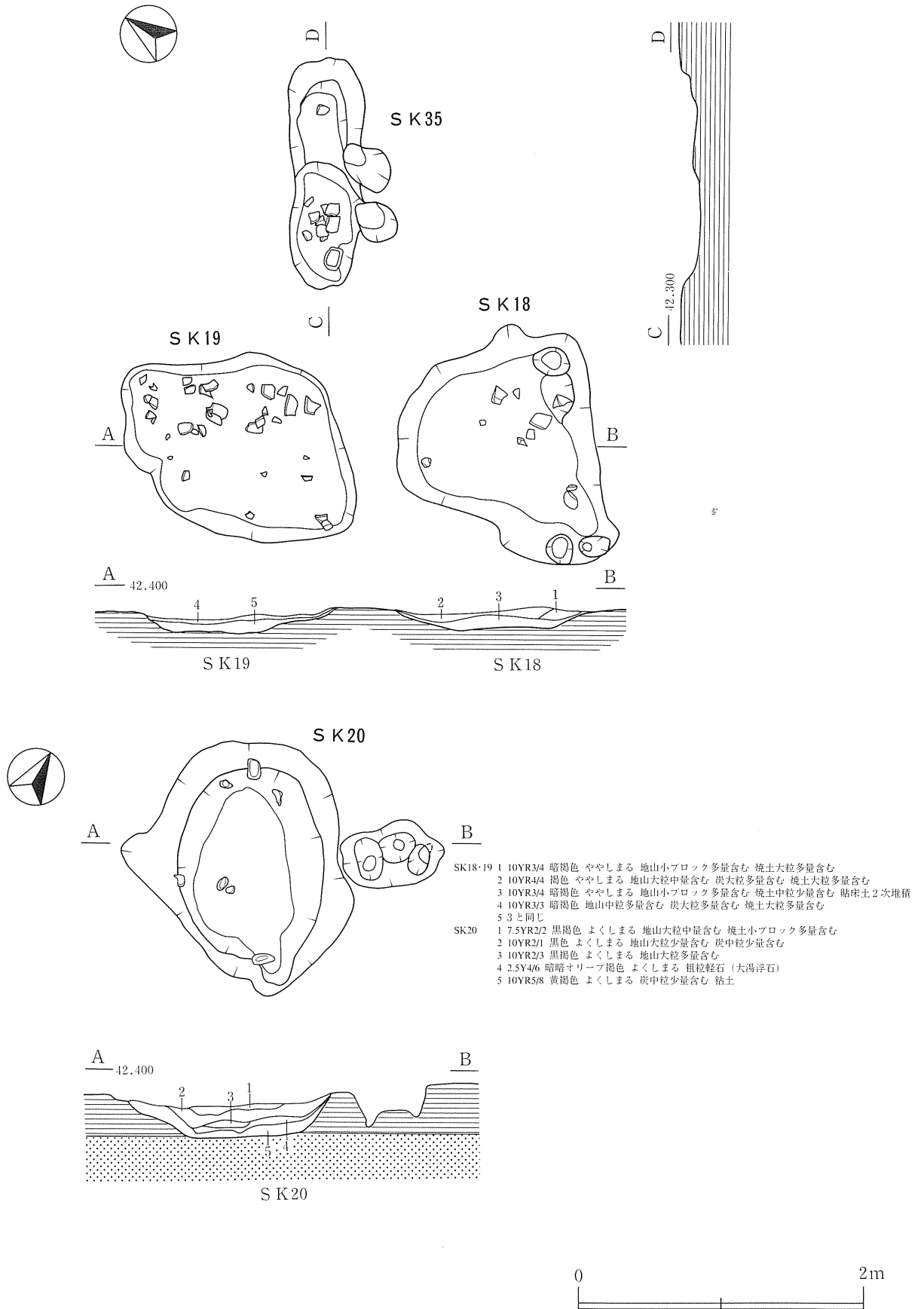


- SI1 かまど
- 1 10YR2/3 黒褐色 よくしまる 炭中粒中量含む 焼土中粒中量含む
 - 2 10YR3/2 黒褐色 よくしまる 炭大粒中量含む 焼土大粒中量含む
 - 3 7.5YR4/4 褐色 ややしまる 粘土大粒少量含む
 - 4 10YR6/6 明黄褐色 ややしまる 粘土
 - 5 7.5YR5/8 明褐色 かたくしまる 固結粘土か？
 - 6 5YR4/8 赤褐色 かたくしまる 炭大粒少量含む 固結粘土か？
 - 7 10YR4/6 褐色 よくしまる 5の大粒を少量含む
 - 8 5YR3/6 暗赤褐色 よくしまる 固結粘土か？ 灰床
 - 9 10YR5/6 黄褐色 ややしまる 炭中粒少量含む 焼土中粒中量含む
 - 10 10YR1.7/1 黒色 ポソポソ 炭大粒中量含む 5の大粒を中量含む

- SI1 かまど
- 11 10YR3/4 暗褐色 よくしまる 炭中粒中量含む 盛土のかぶったもの
 - 12 10YR5/6 黄褐色 かたくしまる 焼土大粒中量含む 13を固く締めたもの
 - 13 10YR4/4 褐色 よくしまる 地山大粒多量含む 貼床
 - 14 7.5YR4/3 褐色 よくしまる 粘土
 - 15 10YR4/6 褐色 よくしまる 粘土
 - 16 2.5Y3/3 暗オリーブ褐色 地山小ブロック多量含む
 - 17 7.5YR3/4 暗褐色 ややしまる 焼土
 - 18 7.5YR2/3 極暗褐色 焼土大粒多量含む
 - 19 10YR2/3 黒褐色 地山大粒多量含む 焼土大粒中量含む
 - 20 2.5Y2/1 黒色 ややしまる 地山大粒中量含む 焼土大粒少量含む

- SI1 かまど
- 21 10YR4/6 褐色 ややしまる 地山大粒多量含む 炭中粒少量含む 粘土
 - 22 5YR4/6 赤褐色 ややしまる 炭中粒中量含む 焼土
 - 23 7.5YR3/4 暗褐色 炭中粒多量含む 焼土大粒多量含む
 - 24 7.5YR2/3 極暗褐色 炭大粒多量含む 焼土大粒多量含む
 - 25 7.5YR2/2 黒褐色 よくしまる 粘性あり
 - 26 10YR8/4 浅黄褐色 かたくしまる 固結粘土か？
- SK33
- 1 10YR2/2 黒褐色 よくしまる 地山中粒多量含む 炭中粒中量含む
 - 2 10YR5/6 黄褐色 よくしまる 地山二次堆積
 - 3 10YR2/2 黒褐色 しまる 貼床土二次堆積

第127図 検出遺構 (80)



第128図 検出遺構(81)

掲載遺物一覧表（縄文時代土器）

挿入No	遺物No	遺構番号	層	序	分類	施文技法	接合破片	備考
129	1	SR 2		RP3	Ⅲ-2	RL縄文→沈線	SR2 RP0, 6, 7, 8, 10, 11, 12, 13, 14, 15, 16	
129	2	SR 6	Ⅳ, ゼンイ層		Ⅲ-4b	ミガキ→沈線		
129	3	SK 14		1012	Ⅲ-4b	沈線	SK14 1096, 1101	
129	4	SK 14		852	Ⅲ-4b	沈線	SK14 877, 1010, 1076, 1087, 1088, 1307, 1312, 1326	
130	1	SX 27		RP5	Ⅲ-4b	沈線	SX27 RP6, 15	
130	2	SX 27			Ⅲ-4b	沈線		
130	3	SK 28	中央下部		Ⅲ-4	沈線		
130	4	SK 28		RP40	Ⅲ-4	沈線		
130	5	SI 31		RP36, 3-3	Ⅲ-4	沈線	SI31C, 埋土	
130	6	SI 31		RP37	Ⅲ-5	R捻糸		
131	1	SK 28		RP45	Ⅲ-4a	貼付→沈線		外朱
131	2	SK 28	一括箇体, 北側上部		Ⅲ-5	ミガキ		
131	3	SI 31		RP38	Ⅲ-4b	沈線→LR縄文充填		
131	4	SK 31		C区	Ⅲ-4	沈線		
132	1	SK 28		RP40	Ⅲ-4	沈線		
132	2	SI 31		RP28	Ⅲ-5	ミガキ		
133	1	SK 29		RPS	Ⅲ-4	沈線		
133	2	SI 31		RP36	Ⅲ-1	沈線→LR縄文→磨消		
134	1	SK 46B		埋土	Ⅲ-5	L縄文	SK46 埋土, SK45~46 埋土Ⅱ層中	
134	2	SK 46A		埋土	Ⅲ-5	LR縄文	SK46D 埋土	
134	3	SK 46		埋土	Ⅲ-5	LR縄文		
134	4	SR 59			Ⅲ-4	沈線		
134	5	SR 61			Ⅲ-4b	沈線		
134	6	SR 63		RP8	Ⅲ-5	沈線		
134	7	SK 77		埋土	Ⅲ-4			
134	8	SR 81		シュウイ	Ⅲ-2	縦L縄文→沈線		
135	1	SN 87		ショウド中シタブ	Ⅲ-5			
135	2	SR 93		本体	Ⅲ-2	縦LR縄文→沈線	NK47 Ⅳ	
135	3	SK 104		RP5	Ⅲ-4	貼付→沈線		
135	4	SK 106		RP12	Ⅲ-5	ミガキ		
135	5	SK 106		フク土	Ⅲ-4b	沈線→櫛状工具	SK106 2層下部	
136	1	SX 116		RP10	Ⅲ-4	沈線		
136	2	SK 106		S5	Ⅲ-5	ミガキ	SK116 1200, 1201, 1202, 1203, 1211, 1215, 1216	
136	3	SK 130		フク土, 上フ	Ⅲ-4	網目状R捻糸	SK130 NK73 RP	
136	4	SK 135		RP119	Ⅲ-4b	LR縄文→沈線→磨消		
136	5	SK 135		94	Ⅲ-4b			内外朱
137	1	SK 136		RP85	Ⅲ-4	沈線→LR縄文充填→磨消		
137	2	SK 136		163	Ⅲ-5	沈線→LR縄文充填		
137	3	SKP 141		北側	Ⅲ-4b			内漆
137	4	SK 142		RP141	Ⅲ-4	沈線		
138	1	SK 142		RP35, 36	Ⅲ-5	ミガキ		
138	2	SK 142		RP5	Ⅲ-4	沈線		
138	3	SK 142		RP2	Ⅲ-4	沈線		
138	4	SK 142		RP8	Ⅲ-4	沈線		
138	5	SK 142		RP31	Ⅲ-4a	貼付→沈線		
139	1	SK 142		RP27	Ⅲ-4		SK142 中下部, RP141, 142	
139	2	SK 142		RP30	Ⅲ-5	ミガキ		
139	3	SR 159		NJ78, Ⅳ	Ⅲ-4	LR縄文→沈線→磨消		
139	4	SX 166		RP16	Ⅲ-4	網目状R捻糸		
140	1	SK 204		RP11	Ⅲ-2	縦LR縄文→沈線→磨消→刺突		
141	1	SK 204		RP21	Ⅲ-5	ミガキ	SK204 RP22, 30	
141	2	SK 272		ND70, 埋土	Ⅲ-5	LR縄文		
141	3	SK 272		ND70, 埋土	Ⅲ-5	(口)RL縄文, (側)縦L縄文		
142	1	SR 174		本体	Ⅲ-4a	貼付→沈線		
142	2	SR 182		RP	Ⅲ-4	縦RL縄文→沈線	NK73 RP SR182	
142	3	SK 249			Ⅲ-4a	貼付→沈線	SK254 南側, フク土, 北側, NO79 Ⅲ タテ穴モリ土下, ノ74 RP3, NQ79 RP39, 上部, NO74 RP36	
142	4	SK 250		RP1	Ⅲ-4	沈線	NJ71 RP1	外朱
142	5	SK 252		RP3, 埋土	Ⅲ-4	沈線	SK252 RP15	
142	6	SK 272		ND70, 埋土	Ⅲ-4			外朱
143	1	SK 272		埋土	Ⅲ-1	沈線→LR縄文充填	SK272 Ⅲ層 RP16, 18, 19, 21, 22, 23, 24, 25, 26, 27, 30, 31, 32, 33, 34, 35, 36	
143	2	SK 279		RP16	Ⅲ-4b	RL縄文→沈線→磨消	SK279 RP5, 15	
143	3	SK 282		ベルト8層, 116	Ⅲ-4	沈線	SK282C, B, 123, JK, SK404 埋土 区画A	
144	1	SK 282			Ⅲ-4	貼付→沈線	NN73D Nb層 950922	
144	2	SK 282		74	Ⅲ-4b	沈線		
144	3	SK 282		73	Ⅲ-4a	貼付→沈線		
144	4	SK 282		96	Ⅲ-4b	櫛状工具	SK282 39, IIベルト, ベルト8層 167	
144	5	SK 282		107	Ⅲ-4	沈線	SK282 73, SK279 RP16, SK282 JK	
145	1	SK 282		125	Ⅲ-4b	LR縄文→沈線→磨消		
145	2	SK 282		JK 116	Ⅲ-5	L縄文		
145	3	SK 282			Ⅲ-5	ミガキ		
145	4	SK 282		GHベルト ベルトⅡa ベルト (1-b)層 RP172	Ⅲ-5	ミガキ		
145	5	SK 282		Dベルト	Ⅲ-4	貼付→沈線		
146	1	SK 284			Ⅲ-5	縦LR縄文		
146	2	SK 286		287, B	Ⅲ-4	沈線	SK286 RP10, 105, NC76 Ⅳ下	
146	3	SK 286		RP5	Ⅲ-5	ミガキ		内朱
146	4	SK 287		D-上層	Ⅲ-4	沈線		
146	5	SK 288		A, RP6	Ⅲ-4b	沈線	SK288 C上層	
146	6	SK 296		埋土, I, II	Ⅲ-4	沈線		
146	7	SK 400		NC70, RP76	Ⅲ-5			
146	8	SK 400		f, 埋土78, 79	Ⅲ-4	貼付→沈線		内外朱
146	9	SK 400		NC70, 9	Ⅲ-4a	沈線		外朱
147	1	SK 400		f, 埋土	Ⅲ-4	沈線	SK400 NC71 G 埋土44	
147	2	SK 404		RP26	Ⅲ-1	沈線→RL縄文充填		
147	3	SK 404		139	Ⅲ-1	沈線	SK404 埋土 区画A, B, RP1, 4	
147	4	SK 404		134	Ⅲ-5	LR縄文		

第4章 調査の記録

押図No	遺物No	遺構番号	層	序	分類	施工技法	接合破片	備考
147	5	SK 404		RP34	Ⅲ-4	沈線		
147	6	SK 404		I21	Ⅲ-1	沈線→LR縄文→磨消		
148	1	SK 404		RP30	Ⅲ-4b	沈線		
148	2	SK 406		RP6	Ⅲ-4b	沈線		内外朱
148	3	SK 440		RP10	Ⅲ-4b	LR縄文→沈線	NE76C IV下	
148	4	SK 446		RP1, A	Ⅲ-5	LR縄文		
149	1	SK 404		埋土	Ⅲ-2	LR縄文→沈線		
149	2	SK 459		上面	Ⅲ-4	沈線		
149	3	SK 469		RPS	Ⅲ-5	R捻糸		
149	4	SK 469		F	Ⅲ-4	沈線		
149	5	SK 470		RPS, C埋土	Ⅲ-1	貼付→沈線	SK470 C, D SK469 RPS	内外朱
149	6	SK 476		RP9	Ⅲ-5	縦LR縄文		
150	1	SK 478		2, RP17	Ⅲ-4	沈線	SK478 RP21, NK78 IV	
150	2	SI 478		ASR ^o	Ⅲ-5	RL縄文	SH77(SR02)	
150	3	SR 490			Ⅲ-5	ミガキ		
150	4	SK 490			Ⅲ-5	ミガキ		
150	5	SK 494		RP6	Ⅲ-5	縦L縄文	SK494B RPS	
151	1	SR 491			Ⅲ-5	LR縄文		
151	2	SK 494		RP23	Ⅲ-4b	LR縄文→沈線→刺突		アスファルト
152	1	SK 494		埋土	Ⅲ-4b	LR沈線→沈線→磨消	SK494B RP4, 5	
152	2	SK 506		SK506 KN46 RP4 埋土, KN45 埋土中, RP16	Ⅲ-4	沈線		
152	3	SK 507		RP16	Ⅲ-4	沈線		
152	4	SK 508		RP29, 37, 41	Ⅲ-4	貼付→沈線	SK508 KN44 フク土中へ下位, 埋土下位	
152	5	SK 514		RP60	Ⅲ-4b	Ⅲ-4b	RP48, 66	
153	1	SK 506		KN46 RP1, 2 埋土	Ⅲ-4b	沈線		
153	2	SK 508		RP35	Ⅲ-4	Ⅲ-4		
153	3	SK 510		KN47, 上面	Ⅲ-4	Ⅲ-4	KN46 Ⅱ, KM45 Ⅱ	
153	4	SK 514		RP63	Ⅲ-4	沈線	SK514 KL45 埋土中イ, RP31, 埋セツ土, KM45 RP15	
153	5	SK 516		KM44, RP28	Ⅲ-4a	沈線	KM44 RP25 I, KM45 Ⅱ	
154	1	SQ 517		LOSS, RP1	Ⅲ-4	網目状R捻糸→沈線		
154	2	SK 619A		RP57	Ⅲ-4	網目状R捻糸	SK619 RP23, 埋土上面, 埋土	
154	3	SN 630		RP1	Ⅲ-4	沈線		内外朱
154	4	SK 632		RP11	Ⅲ-4b	Ⅲ-4b		
154	5	SKP 665		RP1	Ⅲ-4a	沈線		
154	6	SKP 780		RP1	Ⅲ-4b	沈線		
154	7	SK 784			Ⅲ-5	ミガキ		
155	1	SK 636		RP25埋土	Ⅲ-1	貼付→沈線	MT71 RP565	文28-1と同一
156	1	SK 636		RP25埋土	Ⅲ-1	貼付→沈線	MT71 RP565	文27-1の展開断面
156	2	SK 636		埋土	Ⅲ-1	貼付→沈線		外朱
157	1	P 36		RP2	Ⅲ-4	沈線		外朱
157	2	P 334			Ⅲ-5	RL縄文		
157	3	SK 674		RP1	Ⅲ-4b	LR縄文→沈線→磨消		
157	4	SKP 871			Ⅲ-4a	沈線		
158	1	NB 74		IVb	Ⅱ	縦LR縄文→沈線→磨消		
158	2	LM 55		RP1	Ⅱ	LR縄文→沈線→磨消		内外朱, 切断土器
158	3	NA 71B		IVa,b,c	Ⅲ-3	ミガキ→縦R捻糸	NA71D IVa,b,c	
159	1	MR 69		IV, RP17	Ⅲ-3	LR縄文→LR押圧縄文	MR69 IV RP18	
159	2	NC 74		IVb, RP82	Ⅲ-3	縦L縄文		
159	3	NA 72		NA72ベルト IVb ③-3 RP531	Ⅲ-2	LR縄文→沈線→磨消		
159	4	--		--	Ⅲ-2	LR縄文→沈線	註記ナシ	内外朱
160	1	MT 72		ベルトIVb 6-2 RP620	Ⅲ-2	LR縄文→沈線		
160	2	NN 73		RP100	Ⅲ-2	L縄文→沈線		
160	3	NA 73		RP116	Ⅲ-2	ケズリ→縦RL縄文→沈線→刺突	MT72D IVb	
161	1	MS 73		IVc	Ⅲ-4a	沈線		
161	2	KL 44		Ⅱ	Ⅲ-4a	縦L捻糸→沈線/ミガキ	KL44 RP7 I層	
162	1	MT 72		RP130	Ⅲ-4a	ミガキ→沈線		
162	2	MT 72		RP568	Ⅲ-4a	沈線		
162	3	MQ 67		RP21	Ⅲ-4a	沈線		
162	4	MS 73C		IVb層, RP93	Ⅲ-4a	沈線		
162	5	MT 67B		IVb層, RP93	Ⅲ-4a	貼付→沈線→刺突		外朱
162	6	MT 72		RP542	Ⅲ-4a	ミガキ→沈線	RP543, 545, 549, 550	
163	1	NA 71		RP175	Ⅲ-4a	貼付→沈線	NA71B IVb, IVb中, MT71D IVb, NA72C IVb	
163	2	MS 73C		IVb層	Ⅲ-4a	ミガキ→沈線		
163	3	SK 510		RP13	Ⅲ-4a	沈線	SK510 RP14, 15, KN47 Ⅱ	彩文
163	4	MT 72		RP561	Ⅲ-4a	沈線		
163	5	NC 72A		IVc	Ⅲ-4a	貼付→沈線	NC71 5トレ拵土, 3AD Ⅲ	彩文
163	6	MT 72		IVb層, RP93	Ⅲ-4a	貼付→沈線		
163	7	SK 508		KN44, 埋土中	Ⅲ-4a	貼付→沈線	KM44.45 Ⅱ, KN45 Ⅱ, KL47 Ⅱ	
163	8	MT 72		IVb, RP75	Ⅲ-4a	ミガキ→沈線		
164	1	MS 67C		RP27	Ⅲ-4a	L縄文→沈線→磨消	MT67 0914, MT67c IVa, MS67B IVb, MT67A IVa	
164	2	MS 72		RP56	Ⅲ-4	沈線		
164	3	KB 48		IV層	Ⅲ-4a	沈線	KB48(出土地不明)	彩文
165	1	MR 66		RP37, Ⅱ, Ⅲ	Ⅲ-4a	櫛状工具→沈線		
165	2	NA 70C		IVb	Ⅲ-4a	貼付→沈線		彩文
166	1	KM 44		I	Ⅲ-4a	貼付→沈線	KM44 RP25, 26	彩文
166	2	MT 71B		IVb	Ⅲ-4a	LR縄文→沈線→磨消	MT71D IVb, RP601	内外朱, 彩文?
166	3	MT 72A		IVb層	Ⅲ-4	沈線	MT72C 72ベルト IVb層 6-2 RP621	内外朱
166	4	SK 423		NH74, 地山面	Ⅲ-4	彩文	2H74 IV, IVb, NH73D IVb	彩文
166	5	NB 72C		IVa	Ⅲ-4	貼付→沈線	NB71D IVb層	彩文
166	6	MS 73A		IVb	Ⅲ-4a	沈線	MS73C IV層	
166	7	NA 72		ベルトIVb層③-3 RP547	Ⅲ-4	ミガキ→沈線		
166	8	NA 70A		IVb	Ⅲ-4	貼付→沈線	NA70B IVc	
167	1	MB 68		RP2	Ⅲ-4	貼付→沈線		
167	2	MT 71		RP10, IVb	Ⅲ-4	沈線		
167	3	MT 71		RP600	Ⅲ-4	ミガキ→把手→沈線		
167	4	MT 72		RP517	Ⅲ-4	沈線		
168	1	NA 70		RP119	Ⅲ-4	沈線		内外朱

第2節 検出遺構と出土遺物

検出No	遺物No	遺構番号	層 序	分 類	施 文 技 法	接 合 破 片	備 考
168	2	MS 72	沢8ベルト IVb②-2 RP619	Ⅲ-4b	ミガキ→沈線		
168	3	NG 80	RP522	Ⅲ-4	沈線		
168	4	NA 70C		Ⅲ-4b	沈線		
168	5	MS 71	RP91, IVb	Ⅲ-4	沈線		
169	1	SN 630	埋土IVb	Ⅲ-4a	沈線→L捻糸	MS72 RP57, MT71 RP2 IVb, MS72 RP64, MS71 RP78	
170	1	MP 67	RP2	Ⅲ-4	ミガキ→沈線→RL縄文充填	MP67 IV トレンチ	彩文
170	2	MJ 70	B, IV層口	Ⅲ-4b	沈線		双口注口
170	3	MT 71	RP121	Ⅲ-4b	沈線		
170	4	MT 69	RP1	Ⅲ-4b	沈線	MT69A I, MT69C IVa	
170	5	NN 73	RP126	Ⅲ-4b	ミガキ→沈線		
171	1	NA 71	S173	Ⅲ-4b	ミガキ→沈線→LR縄文充填→刺突		
171	2	NN 73	RP124	Ⅲ-4b	ミガキ→沈線		
171	3	NB 71	ベルトIVC RP503	Ⅲ-4b	沈線		外朱, 切断土器
171	4	MS 71	RP29	Ⅲ-4b	ミガキ→沈線	MS71B IVb層	
171	5	MT 71	RP600	Ⅲ-4b	ミガキ→沈線	MT71 RP608, MT71 2-2 RP600 IV層	内外朱, 底部穿孔
171	6	NH 78	IVa	Ⅲ-4b	L縄文→沈線		高台
171	7	MT 68C	IVb層, RP93	Ⅲ-4b	L縄文→沈線	MT68A IVb	
171	8	MT 70	RP88	Ⅲ-4b	LR縄文→沈線→磨消		
172	1	NA 70	RP80(C)	Ⅲ-4b	沈線		
172	2	MT 68A	RP88	Ⅲ-4b	沈線	MT68B IVイ	
172	3	MB 73A	IVa	Ⅲ-4b	沈線→L縄文充填		
172	4	MT 69B	IVb	Ⅲ-4b	櫛状工具	MT72 RP110, NOO 905	外朱
172	5	NA 70	P80(A)	Ⅲ-4b	沈線		
172	6	MT 72	ベルトIVb, 5-4	Ⅲ-4b	沈線	MT72 6-1	
172	7	NB 70B	IVベルト	Ⅲ-4b	ミガキ→沈線	NB70B IVb, NB69AB IVe	
172	8	NN 73	RP123	Ⅲ-4b	沈線		
173	1	NA 70A	IVb	Ⅲ-4b	沈線→LR縄文充填→磨消		
174	1	MT 69	RP3	Ⅲ-4b	縦LR縄文→沈線	MT69 IVb	
174	2	NF 74A	IV	Ⅲ-4b	(口)櫛状工具, (胴)RL縄文→沈線→磨消→刺突	NF74B IV	
174	3	KN 46	RP9	Ⅲ-4b	沈線		
174	4	NA 72A	IVa	Ⅲ-4b	LR縄文→沈線→磨消		
174	5	MS 72	ベルトIVb 7-2 RP536	Ⅲ-4b	櫛状工具→沈線→磨消	MS72 ベルトIVb 7-2 RP527, 528, 529, 530, 538, 542, 585	
175	1	NG 74	RP1	Ⅲ-4b	(口)櫛状工具, (胴)L縄文→沈線→磨消	NB74 RP1, NG73 IVb, NS74 RP1	
175	2	NA 71	IVb	Ⅲ-5	ミガキ		
175	3	MR 73	ベルトIVb層(砂層) RP514	Ⅲ-5	ミガキ		底部穿孔
175	4	KN 44	II	Ⅲ-4b	LR縄文→沈線		
175	5	MS 67B	IVb	Ⅲ-4b	沈線		
175	6	NE 68D	IVa	Ⅲ-5	ミガキ		
175	7	MS 73	IVb	Ⅲ-5	ミガキ		
176	1	NB 71	RP96	Ⅲ-5	縦RL縄文/ミガキ	NB71A IVb, NB71C IVb下部	
176	2	MT 69	RP3	Ⅲ-5	ミガキ		
176	3	NF 71	IVb	Ⅲ-5	ミガキ	NF73.74 IVb	
176	4	MT 71	RP123	Ⅲ-5	ミガキ		
177	1	MR 67	IV, RP3	Ⅲ-4	網目状R捻糸	MR68B IV	
177	2	MT 70D	IVb	Ⅲ-4	ケズリ→網目状R捻糸	MT71 RP615, NA71 S174, NA72 RP82, NA72 RP89, MT71B IVb中	
178	1	NA 71	S174	Ⅲ-4	網目状R捻糸→沈線/ミガキ		
178	2	MT 72	ベルトIVb 5-5	Ⅲ-4b	沈線→網目状R捻糸	MT72 ベルト IVb ⑥-1 RP648	
179	1	MT 72	RP138	Ⅲ-4b	網目状R捻糸→沈線	MT72 IVb	
179	2	MS 72	ベルトIVb 7-2 RP575	Ⅲ-4b	沈線→網目状R捻糸/ミガキ	MS72 ベルトIVb 7-2 RP548, 549, 574, 590, MR72 ベルトIVb 7-2 埋土	
180	1	NQ 74	RP20	Ⅲ-4b	ミガキ→沈線	NQ74 IV, IVF	
180	2	NA 68	RP52	Ⅲ-4b	ミガキ→沈線		
181	1	MS 72	IVb, RP1	Ⅲ-4b	ミガキ→沈線	MS72C IVb	
181	2	MS 73	ベルトIIb	Ⅲ-4b	沈線→櫛状工具	MS74 IIb, IVb, RP11	
182	1	NA 71B	IVb	Ⅲ-4b	櫛状工具	NA72ベルト IVb 3-1 RP555, 556, 557, 558, 560, NT72 IVb, NA71 RP175, NR 64IVb 3-2, MT72 IV, NA72 ベルトIVb 3-4	
182	2	MS 72	IVb, RP6	Ⅲ-4b	沈線(縦→斜)/ミガキ	MS72 IVb RP27, MS72B, C, MS72 IVb RP13, MS72B ベルト IV	
204	1	SK 554	RP9	Ⅲ-5			厚手土器
204	2	SK 554	RP3	Ⅲ-5		SK554 RP5	厚手土器
204	3	KO 47	I層	Ⅲ-5			厚手土器
204	4	KP 47	RP5	Ⅲ-5			厚手土器
204	5	KL 48	II	Ⅲ-5			厚手土器
204	6	9F	II	Ⅲ-5			厚手土器

第4章 調査の記録

掲載遺物一覧表（縄文時代土器破片）

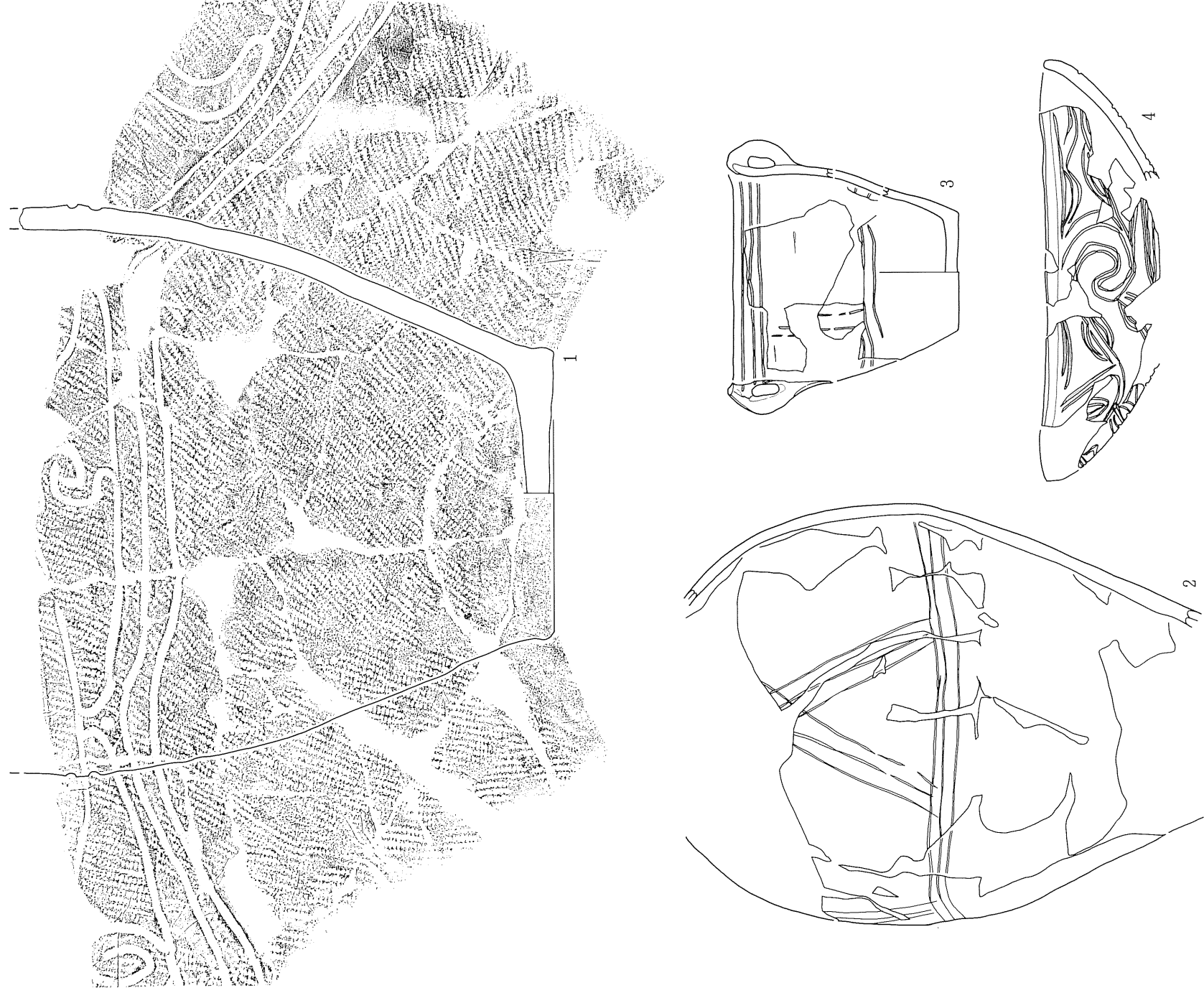
挿図No	遺物No	遺構番号	層	序	分類	備考
183	1	環状列石 A	RP140		Ⅲ-5	KJA
183	2	環状列石 A	RP133		Ⅲ-4b	KJA, 拓311と同一?
183	3	環状列石 A	RP19		Ⅲ-4	KJA
183	4	環状列石 A	RP133		Ⅲ-4	KJA, 拓316と同一?
183	5	環状列石 A	RP108		Ⅲ-4b	KJA
183	6	環状列石 A	RP110		Ⅲ-4	KJA
183	7	環状列石 A	RP156		Ⅲ-4	KJC
183	8	環状列石 A	RP165		Ⅲ-4	KJC
183	9	環状列石 A	RP181		Ⅲ-4b	KJC
183	10	環状列石 A	RP160		Ⅲ-4b	KJC
183	11	環状列石 B	RP319		Ⅲ-5	B
183	12	環状列石 B	RP319		Ⅲ-4	B
183	13	環状列石 B	RP319		Ⅲ-4	B
183	14	環状列石 B	RP319		Ⅲ-5	B
183	15	環状列石 B	RP319		Ⅲ-4	B
183	16	環状列石 B	RP324		Ⅲ-4b	B
184	1	LJ 55	RP1・IVb		Ⅱ	
184	2	KK 47	地山面	I-1		具股復緑圧痕文
184	3	NN 79	2トレ	I-2		表裏縄文
184	4	MM 66	RP IV	I-2		表裏縄文
185	1	SI 1	P6 RP2		Ⅲ-4	
185	2	SI 1	P6 RP2		Ⅲ-4	
185	3	SI 1	4ヘリ部		Ⅲ-4	切断土器?
185	4	SR 17	本体		Ⅲ-5	
185	5	SR 17	本体		Ⅲ-5	
185	6	SR 17	本体		Ⅲ-5	
185	7	SX 27	NM79 RP8		Ⅲ-4	
185	8	SK 28	2層		Ⅲ-5	
185	9	SK 28	上 I-Ⅲ-覆土		Ⅲ-5	
185	10	SK 28	北側下部		Ⅲ-5	
185	11	SK 28	北側下部		Ⅲ-5	
185	12	SK 29	RP1		Ⅲ-4	
185	13	SK 29	RP11		Ⅲ-4	
186	1	SI 31	A区		Ⅲ-2	
186	2	SI 31	D		Ⅲ-4b	
186	3	SI 31	RP27		Ⅲ-4	
186	4	SI 31	C埋土		Ⅲ-4b	
186	5	SI 31	A焼土 RP71		Ⅲ-4a	
186	6	SI 31	A区		Ⅲ-4b	
186	7	SI 31	C区		Ⅲ-4b	
186	8	SI 31	C埋土		Ⅲ-5	
186	9	SI 31	D		Ⅲ-4	
186	10	SI 31	C区		Ⅲ-4b	
186	11	SI 31	B区		Ⅲ-4b	
186	12	SI 31	D		Ⅲ-4b	
186	13	SI 31	A区		Ⅲ-4b	
187	1	SR 30	MQ67RP22		Ⅲ-5	
187	2	SK 34	A埋土		Ⅲ-4	拓26と同一?
187	3	SK 34	A埋土		Ⅲ-4	拓25と同一?
187	4	SI 38	埋土		Ⅲ-4a	
187	5	SI 38	埋土		Ⅲ-4a	
187	6	SK 39	RP13		Ⅲ-4	拓28と同一?
187	7	SK 39	埋土		Ⅲ-4	
187	8	SK 39	RP19		Ⅲ-4	拓27と同一?
187	9	SK 40	B埋土		Ⅲ-4b	
187	10	SK 40	R埋土		Ⅲ-4b	
187	11	SK 41	上部覆土		Ⅲ-4	
187	12	SK 42	覆土		Ⅲ-5	
187	13	SK 44	AB埋土		Ⅲ-4	
187	14	SK 45	埋土		Ⅲ-4a	
187	15	SK 46	B埋土		Ⅲ-4	
187	16	SK 47	埋土		Ⅲ-5	
187	17	SK 47	埋土		Ⅲ-4b	
187	18	SK 47	埋土		Ⅲ-4	
187	19	SK 47	埋土		Ⅲ-4b	
187	20	SK 58	埋土		Ⅲ-4b	
188	1	SK 63	埋土		Ⅲ-4	
188	2	SK 63	埋土		Ⅲ-4	
188	3	SK 63	埋土		Ⅲ-4	
188	4	SD 64	A埋土		Ⅲ-4	
188	5	SK 66	埋土		Ⅲ-4	
188	6	SK 66	埋土		Ⅲ-4	
188	7	SKP 71	覆土		Ⅲ-4	
188	8	SK 72	覆土		Ⅲ-4	
188	9	SK 77	埋土		Ⅲ-4	底部
188	10	SK 77	埋土		Ⅲ-4a	
188	11	SN 83	S15		Ⅲ-4	
188	12	SN 83	S15		Ⅲ-4	
188	13	SK 90	土坑側		Ⅲ-4	
188	14	SK 90	覆土		Ⅲ-4	
188	15	SKP 96	覆土		Ⅲ-4	
188	16	SK 101	上2層黒土覆土		Ⅲ-4	
188	17	SK 102			Ⅲ-4a	
188	18	SK 102			Ⅲ-5	
188	19	SK 104			Ⅲ-4b	
188	20	SK 104	981		Ⅲ-5	1409
188	21	SK 106	2層干		Ⅲ-4	

挿図No	遺物No	遺構番号	層	序	分類	備考
188	22	SK 106	覆土		Ⅲ-4	
188	23	SKP 108	覆土		Ⅲ-5	
188	24	SK 116	南東部		Ⅲ-4b	
188	25	SK 116	南東部		Ⅲ-5	
189	1	SK 125B	Tビッド		Ⅲ-4a	
189	2	SK 135			Ⅲ-4b	
189	3	SK 135			Ⅲ-4	
189	4	SK 135			Ⅲ-4	
189	5	SK 136	152		Ⅲ-4	
189	6	SK 136	160		Ⅲ-4	
189	7	SK 136	M769 N'b		Ⅲ-4b	
189	8	SK 136	8層		Ⅲ-4a	
189	9	SK 136	25		Ⅲ-4	
189	10	SK 136	断面2		Ⅲ-4b	
189	11	SK 136	焼土158		Ⅲ-4	
189	12	SR 138			Ⅲ-4	
189	13	SK 143	上部		Ⅲ-4	
189	14	SX 166	覆土中央部		Ⅲ-5	
189	15	SQ 176	下部		Ⅲ-5	
190	1	SK 142	RP4覆土		Ⅲ-4	
190	2	SK 142	RP9		Ⅲ-4	
190	3	SK 142	2R1		Ⅲ-4	
190	4	SK 142	RP27		Ⅲ-4	
190	5	SK 204	埋土		Ⅲ-4	
190	6	SK 204	埋土		Ⅲ-4	
190	7	SK 204	埋土		Ⅲ-4b	
190	8	SK 213	S58		Ⅲ-4	
190	9	SK 213	周辺IVb-IVc		Ⅲ-4	
190	10	SK 213	埋土内		Ⅲ-4	
190	11	SK 213	埋土内		Ⅲ-4b	
190	12	SK 215	埋土内		Ⅲ-4	
190	13	SN 228	SQ229		Ⅲ-4	
190	14	SN 228	SQ229		Ⅲ-4	
190	15	SK 236	覆土		Ⅲ-4	
191	1	SK 240	北半東側下部		Ⅲ-4	
191	2	SK 240	北半東側下部		Ⅲ-4	
191	3	SK 252	埋土		Ⅲ-4	
191	4	SK 252	埋土		Ⅲ-4	
191	5	SK 252	埋土		Ⅲ-4	
191	6	SK 254	南側		Ⅲ-4b	
191	7	SK 255	上部		Ⅲ-4	
191	8	SK 272	MD70埋土		Ⅲ-4	
191	9	SK 272	ND70覆土		Ⅲ-4	
191	10	SK 272	層位5		Ⅲ-4	
191	11	SK 272	ND70埋土		Ⅲ-4	
191	12	SK 272	RP2		Ⅲ-5	
191	13	SK 272	V層		Ⅲ-4	
192	1	SK 273	ND70-71埋土		Ⅲ-2	
192	2	SK 273	ND41		Ⅲ-2	
192	3	SK 275	区画B埋土		Ⅲ-4b	拓127と同一?
192	4	SK 275	区画B埋土		Ⅲ-4b	拓126と同一?
192	5	SK 275	区画A埋土		Ⅲ-4a	
192	6	SK 276			Ⅲ-4	
192	7	SK 276			Ⅲ-4	
192	8	SK 276			Ⅲ-4	
192	9	SK 277			Ⅲ-4	
192	10	SK 278			Ⅲ-5	
192	11	SK 280	RP30		Ⅲ-4	
192	12	SK 281			Ⅲ-4	
193	1	SK 279	RP3		Ⅲ-4b	
193	2	SK 279			Ⅲ-4	
193	3	SK 279			Ⅲ-4	
193	4	SK 279			Ⅲ-4	
193	5	SK 282	D		Ⅲ-4b	
193	6	SK 282	F		Ⅲ-4	
193	7	SK 282			Ⅲ-4b	
193	8	SK 282	RP112		Ⅲ-4b	
193	9	SK 282	J		Ⅲ-4	
193	10	SK 282	90		Ⅲ-4b	
193	11	SK 282	RP77-1		Ⅲ-4b	
193	12	SK 282	RP77-1		Ⅲ-4	
193	13	SK 282			Ⅲ-5	
193	14	SK 282			Ⅲ-2	
194	1	SK 282	へ4(1-b)154		Ⅲ-4	6-13
194	2	SK 286	RP30		Ⅲ-4b	
194	3	SK 286	B		Ⅲ-4b	
194	4	SK 286	A下層		Ⅲ-4	
194	5	SK 286	D上層		Ⅲ-4	
194	6	SK 286	南北バルト中層		Ⅲ-4	
194	7	SK 286	D		Ⅲ-4	
194	8	SK 286	I SK287-D上層		Ⅲ-4b	
194	9	SK 286	RP169		Ⅲ-4	
194	10	SK 286	RP35		Ⅲ-4b	
194	11	SK 286	B		Ⅲ-4b	
195	1	SK 287	RP1		Ⅲ-4	
195	2	SK 287	D上層		Ⅲ-4	
195	3	SK 287	D上層		Ⅲ-4b	

第2節 検出遺構と出土遺物

挿図No	遺物No	遺構番号	層序	分類	備考
195	4	SK 287	A上層	Ⅲ-4b	
195	5	SK 287	B上層	Ⅲ-2	
195	6	SK 287	D上層	Ⅲ-5	
195	7	SK 287・288		Ⅲ-4	
195	8	SK 287・288		Ⅲ-4	
195	9	SK 288	A-G	Ⅲ-4	
195	10	SK 288	A	Ⅲ-4b	
195	11	SK 288	A-G	Ⅲ-4	
195	12	SK 288	A・B	Ⅲ-4	
195	13	SK 288	A	Ⅲ-4	
195	14	SK 289	B	Ⅲ-4	RP5
195	15	SK 289	B	Ⅲ-4	RP9
195	16	SK 289	BベルトI層	Ⅲ-4	
195	17	SK 289	A・B	Ⅲ-5	
195	18	SK 289	B	Ⅲ-4	
195	19	SK 295	RP2	Ⅲ-2	
195	20	SK 296		Ⅲ-4	
195	21	SK 296	RP1	Ⅲ-4	
195	22	SK 298	A	Ⅲ-4	
195	23	SK 400	NC71	Ⅲ-4a	
195	24	SK 402	NC70埋土	Ⅲ-4	
196	1	SK 404	区画D	Ⅲ-1	
196	2	SK 404	埋土区画A	Ⅲ-1	
196	3	SK 404	埋土区画A	Ⅲ-4	
196	4	SK 404	区画D	Ⅲ-4	
196	5	SK 404	121	Ⅲ-4	
196	6	SK 404	埋土区画A	Ⅲ-4	
196	7	SK 405		Ⅲ-4	拓173と同一?
196	8	SK 405		Ⅲ-4	拓174と同一?
196	9	SK 410	埋土	Ⅲ-4	
196	10	SK 410	RP17	Ⅲ-4	
196	11	SK 412	RP3	Ⅲ-4	
196	12	SK 414	上面	Ⅲ-4b	
196	13	SK 422	上面	Ⅲ-4	
196	14	SK 424	上面	Ⅲ-4a	
196	15	SK 425	上面	Ⅲ-4	
196	16	SK 425	上面	Ⅲ-4	
196	17	SK 427	上面	Ⅲ-4b	
196	18	SK 435	上面	Ⅲ-5	
196	19	SK 438	埋土	Ⅲ-4	
197	1	SK 440	埋土	Ⅲ-4	
197	2	SK 441	埋土	Ⅲ-4	
197	3	SK 442	埋土	Ⅲ-4	
197	4	SK 442	埋土	Ⅲ-4	
197	5	SK 442	埋土	Ⅲ-4	
197	6	SK 442	埋土	Ⅲ-5	
197	7	SK 444	RP5 A	Ⅲ-4b	
197	8	SK 447		Ⅲ-4	
197	9	SK 449	RP	Ⅲ-4	
197	10	SK 451	埋土	Ⅲ-4	
197	11	SK 454	埋土	Ⅲ-4	
197	12	SK 463	上面	Ⅲ-4	
197	13	SK 463	上面	Ⅲ-4	
197	14	SK 463	上面	Ⅲ-4	
197	15	SK 469	RP2	Ⅲ-5	
197	16	SK 469	RP14	Ⅲ-4b	
197	17	SK 469	RP13	Ⅲ-4	
197	18	SK 469	RP23	Ⅲ-4	
198	1	SK 469	RP2	Ⅲ-5	
198	2	SK 469	G	Ⅲ-4	
198	3	SK 469	E	Ⅲ-4	
198	4	SK 470	C埋土	Ⅲ-5	
198	5	SK 470	B	Ⅲ-5	
198	6	SK 473	埋土	Ⅲ-4	
198	7	SK 473	NC71埋土	Ⅲ-4b	
198	8	SK 473	(NC71)埋土	Ⅲ-4	
198	9	SK 476	RP1-002	Ⅲ-4	
198	10	SK 476		Ⅲ-4	
198	11	SK 478		Ⅲ-4	
198	12	SK 478	XⅦ	Ⅲ-4b	
198	13	SK 478	RP	Ⅲ-4	
198	14	SK 478		Ⅲ-5	
199	1	SK 484	B	Ⅲ-4	
199	2	SK 485	RP4	Ⅲ-4b	
199	3	SK 492	3	Ⅲ-4	
199	4	SN 492	4	Ⅲ-4	
199	5	SK 494	埋土	Ⅲ-4	
199	6	SI 505	RP6	Ⅲ-4	
199	7	SK 506	RP7	Ⅲ-4	
199	8	SK 506	RP15	Ⅲ-4	
199	9	SK 506	RP9	Ⅲ-4	
199	10	SK 507	KN45	Ⅲ-4	
199	11	SK 507	KN45	Ⅲ-4	RP2
199	12	SK 507	KN46	Ⅲ-4	
199	13	SK 507	KN45埋土	Ⅲ-4	
199	14	SK 508	KN44上層	Ⅲ-4	
199	15	SK 508	KN44RP30	Ⅲ-4	

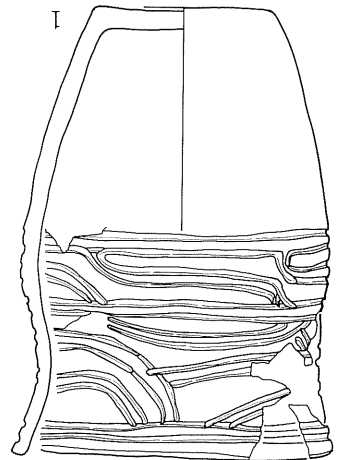
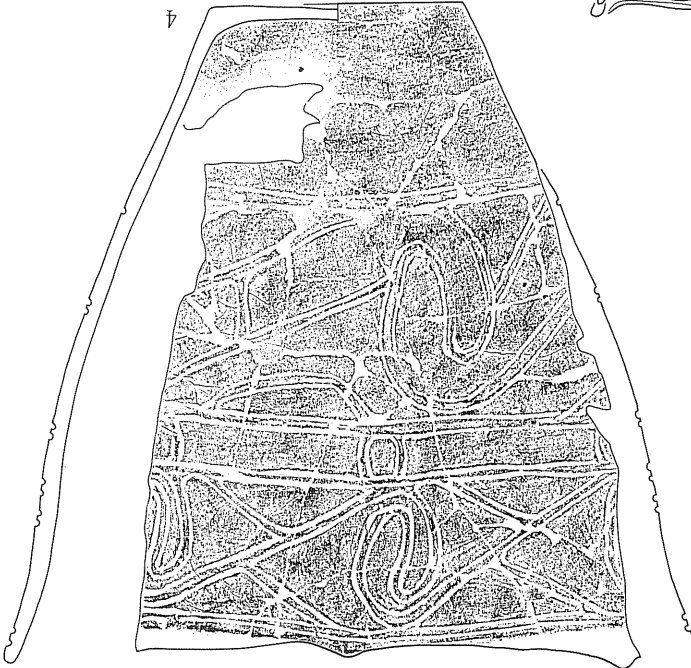
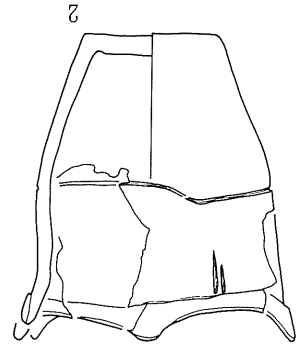
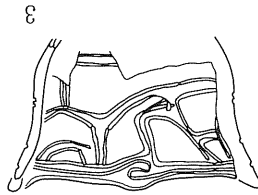
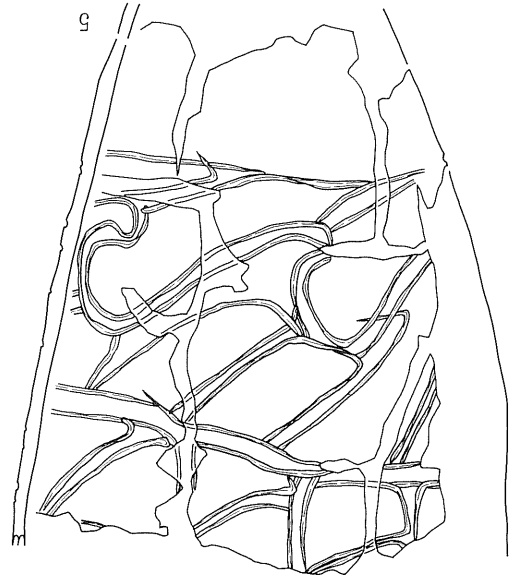
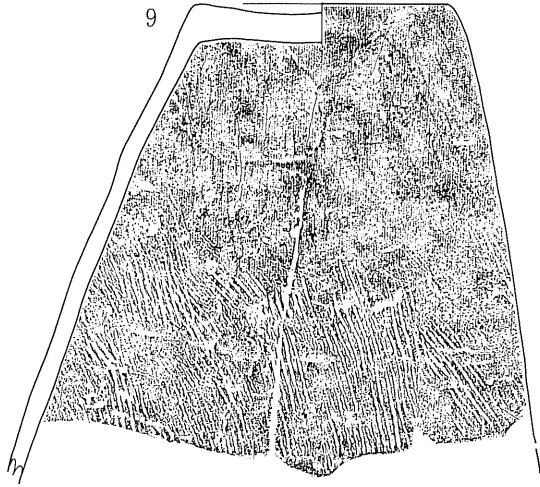
挿図No	遺物No	遺構番号	層序	分類	備考
199	16	SK 508	KN44RP	Ⅲ-4	
199	17	SK 508	KN44上層	Ⅲ-4	
200	1	SK 508	KN44RP20	Ⅲ-4b	
200	2	SK 512	KN46埋土上位	Ⅲ-4b	
200	3	SK 514	KN45RP15	Ⅲ-4	
200	4	SK 514	RP60	Ⅲ-4b	
200	5	SK 514	RP46	Ⅲ-4	
200	6	SK 514	RP25	Ⅲ-4b	
200	7	SK 514	RP48	Ⅲ-4	
200	8	SK 555	埋土	Ⅲ-4b	
200	9	SQ 568		Ⅲ-4	
201	1	SK 601		Ⅲ-5	
201	2	SK 602	A埋土中	Ⅲ-4	
201	3	SK 604	RPⅣ-b	Ⅲ-4	
201	4	SK 604	RPⅣ-b	Ⅲ-4	
201	5	SK 605		Ⅲ-4	
201	6	SK 605	A埋土	Ⅲ-4	
201	7	SK 607		Ⅲ-4	
201	8	SK 609		Ⅲ-4	
201	9	SK 609		Ⅲ-4b	
201	10	SK 610	埋土中	Ⅲ-4	
201	11	SK 610	埋土	Ⅲ-4	
201	12	SK 613	A埋土	Ⅲ-5	
201	13	SK 614	B	Ⅲ-4b	
201	14	SK 614	B	Ⅲ-5	
201	15	SK 616		Ⅲ-4	
201	16	SK 619	C埋土	Ⅲ-4	
201	17	SK 619	A埋土	Ⅲ-4	
201	18	SK 619	B埋土	Ⅲ-4b	
201	19	SK 619	A埋土	Ⅲ-4	
202	1	SN 631	埋土	Ⅲ-4b	
202	2	SN 631	埋土	Ⅲ-4	
202	3	SN 631	埋土	Ⅲ-4	
202	4	SK 639	A埋土	Ⅲ-4	
202	5	SK 644	埋土	Ⅲ-4	
202	6	SK 646	埋土	Ⅲ-4	
202	7	SK 646	埋土	Ⅲ-4	
202	8	SK 647	C埋土	Ⅲ-4	
202	9	SK 648	RPS	Ⅲ-4	
202	10	SK 648	上面	Ⅲ-5	
202	11	SK 648	RP・上層	Ⅲ-4	
202	12	SK 649	上面	Ⅲ-4b	
202	13	SK 649	上面	Ⅲ-4	
202	14	SK 649	埋土	Ⅲ-4	拓280と同一?
202	15	SK 649	埋土	Ⅲ-4	拓281と同一?
202	16	SK 660	A埋土	Ⅲ-4	拓283と同一?
202	17	SK 660	D埋土	Ⅲ-5	
202	18	SK 660	A埋土	Ⅲ-4	拓284と同一?
203	1	SK 700	ARP3・13	Ⅲ-4	
203	2	SK 784	RP2埋土	Ⅲ-4	
203	3	SK 784	埋土	Ⅲ-4	
203	4	SK 784	埋土	Ⅲ-4	
203	5	SK 813		Ⅲ-4	
203	6	SK 935		Ⅲ-4	
203	7	SK 961		Ⅲ-4	

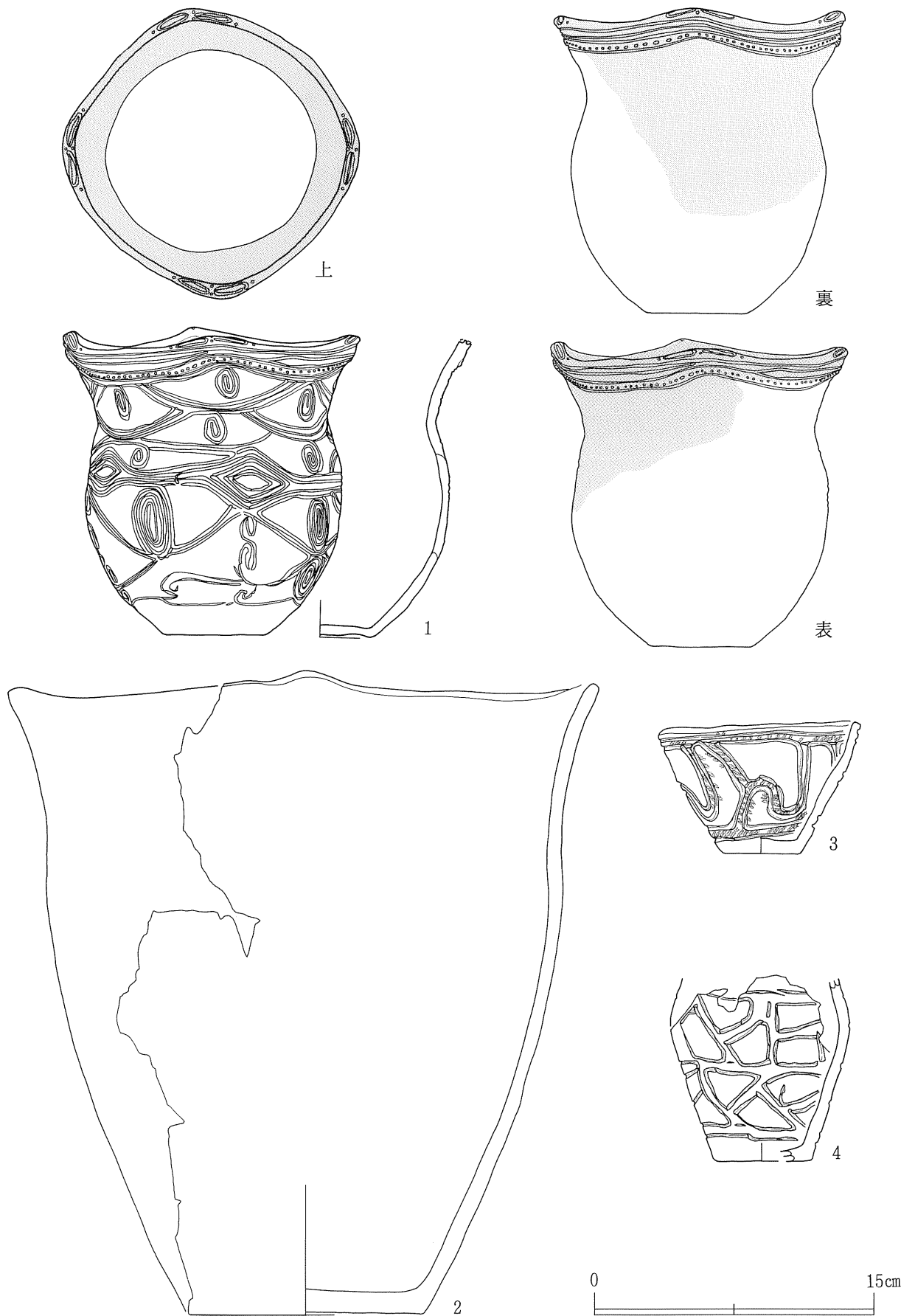


第129図 遺構内出土遺物 土器(1)

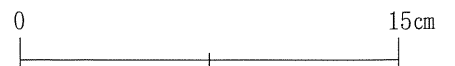
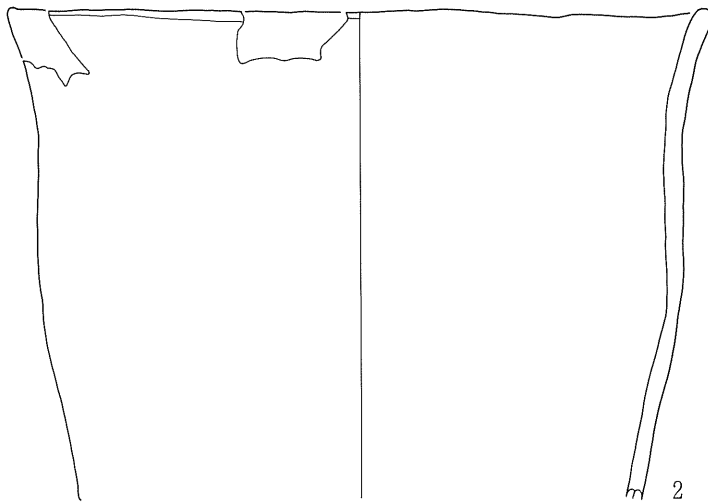
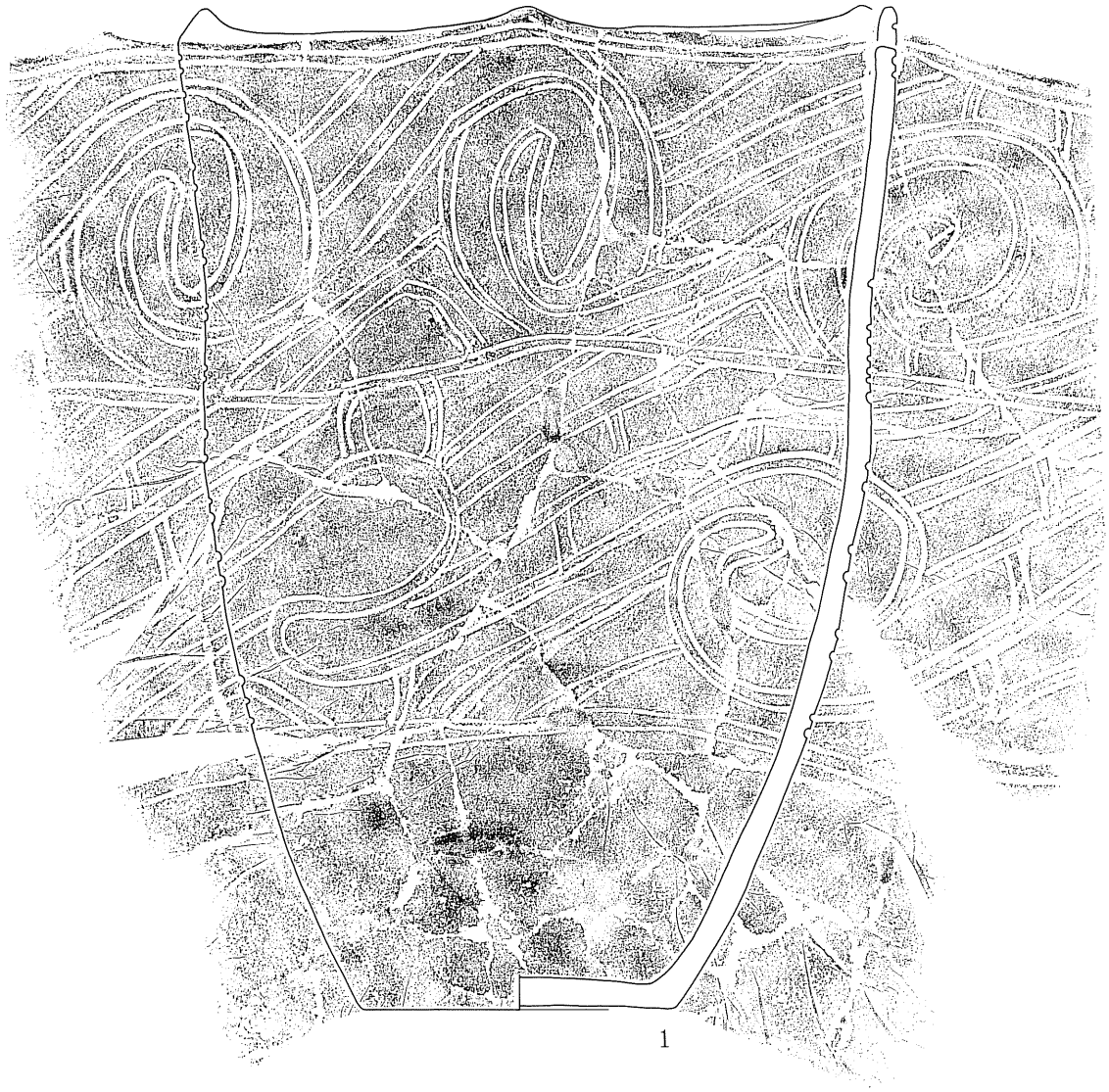
第 130 図 遺構内出土遺物 土器 (2)

15cm
0

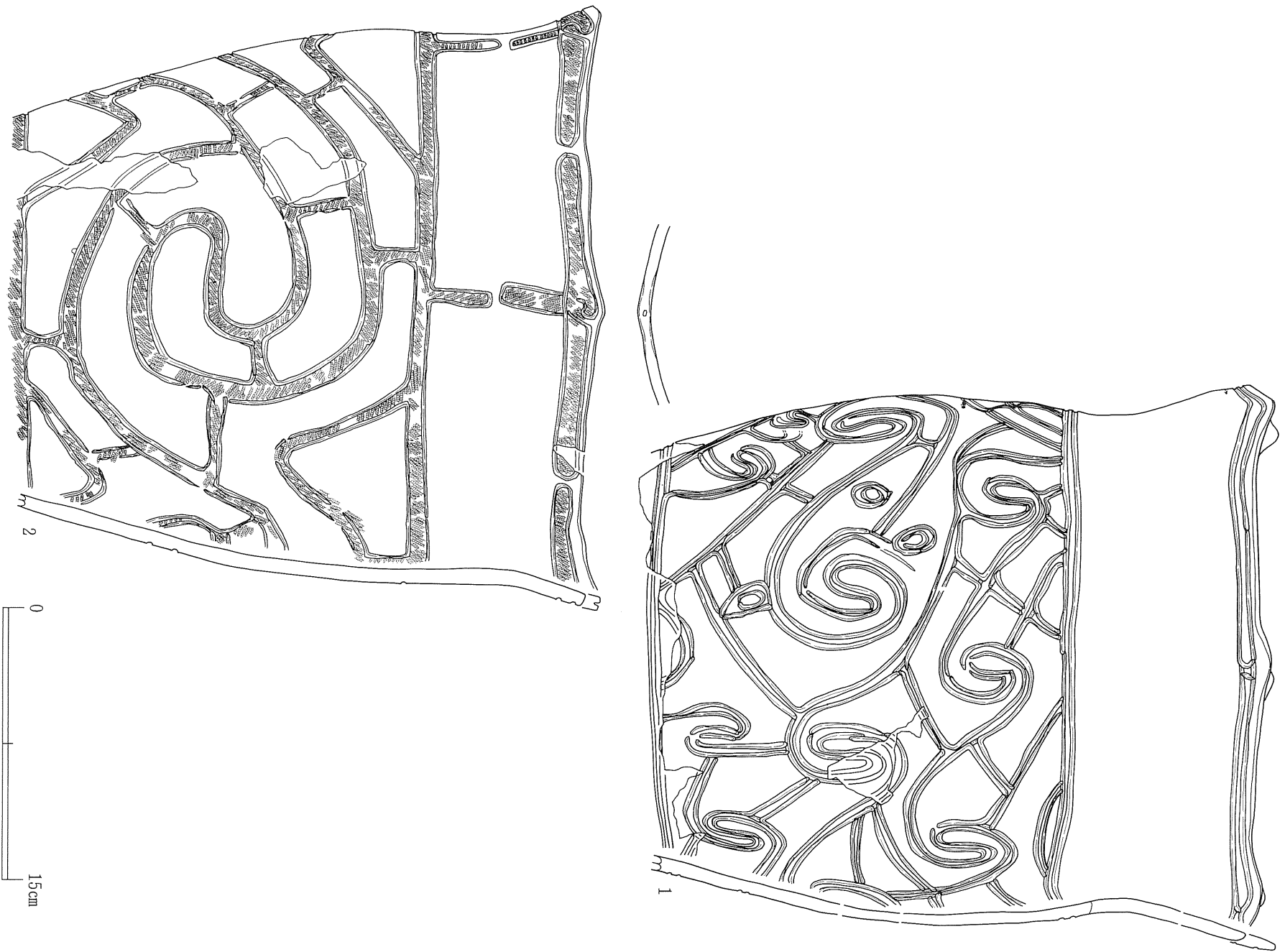




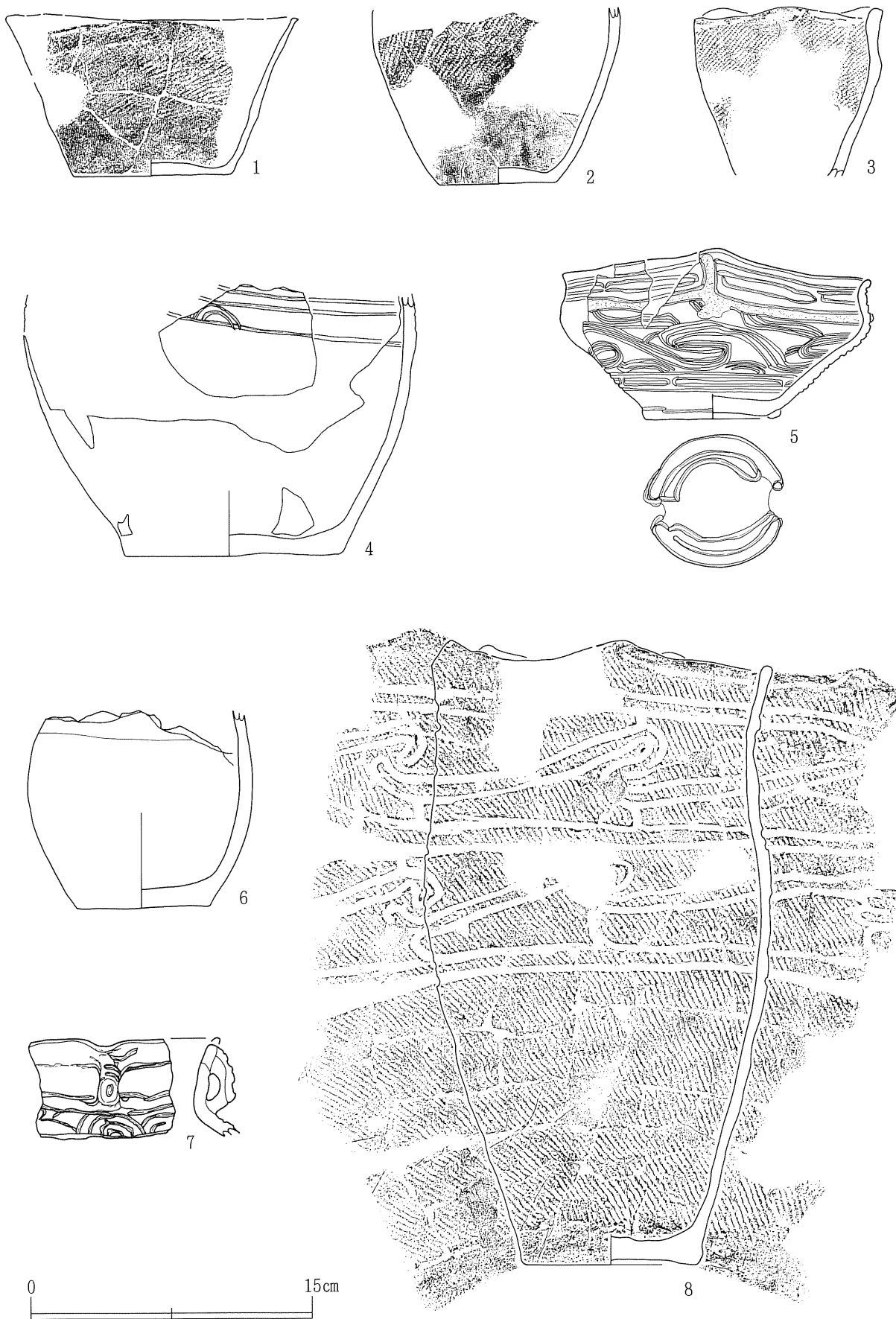
第131図 遺構内出土遺物 土器 (3)



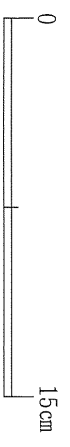
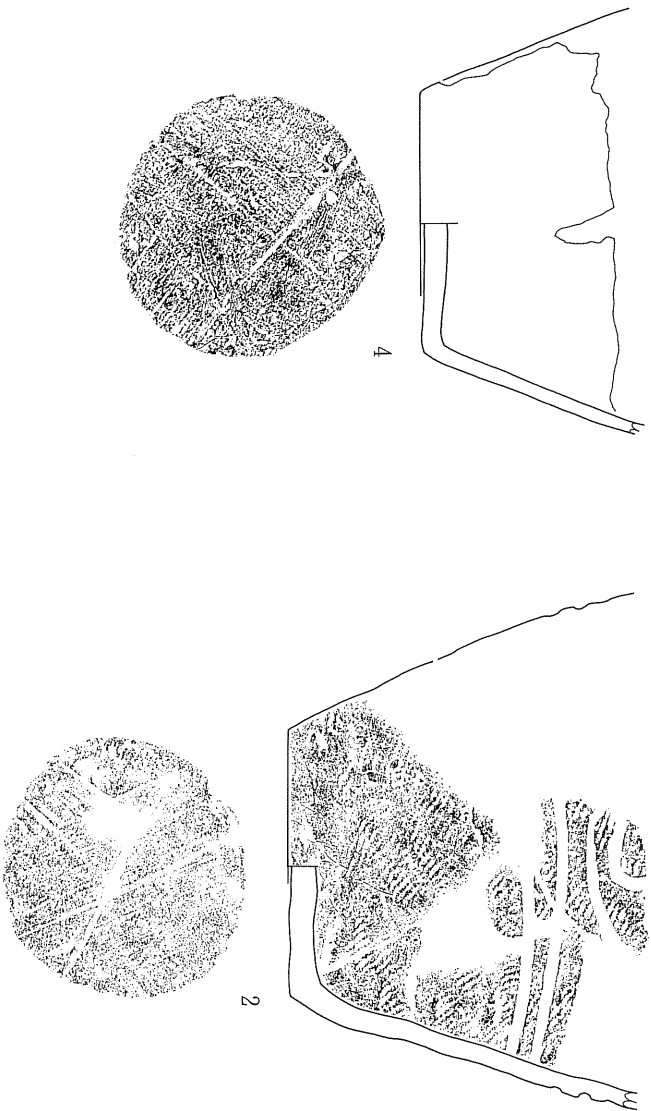
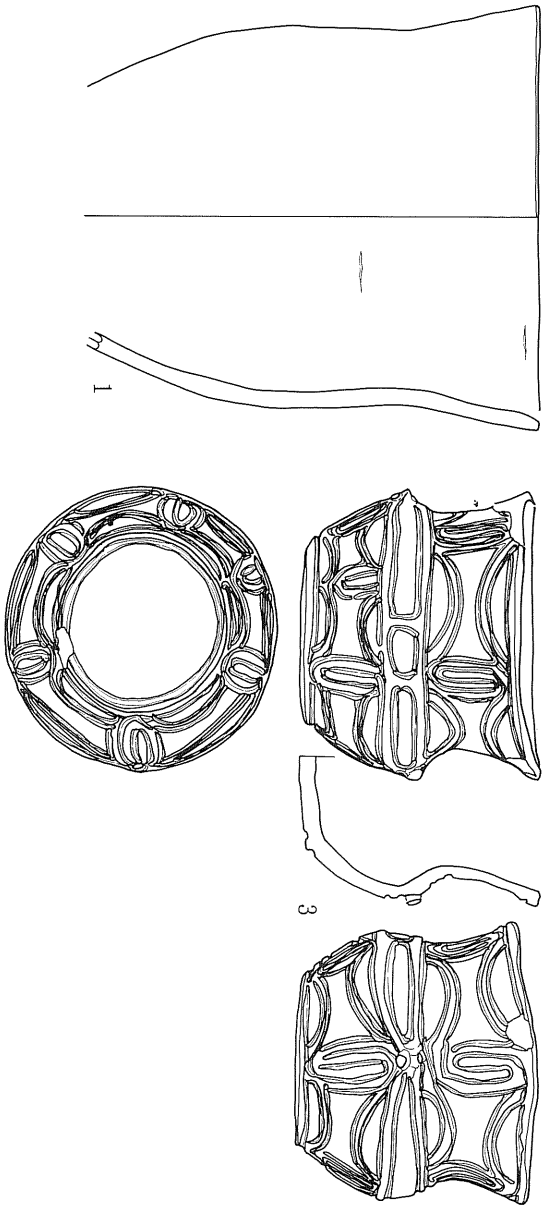
第132図 遺構内出土遺物 土器(4)



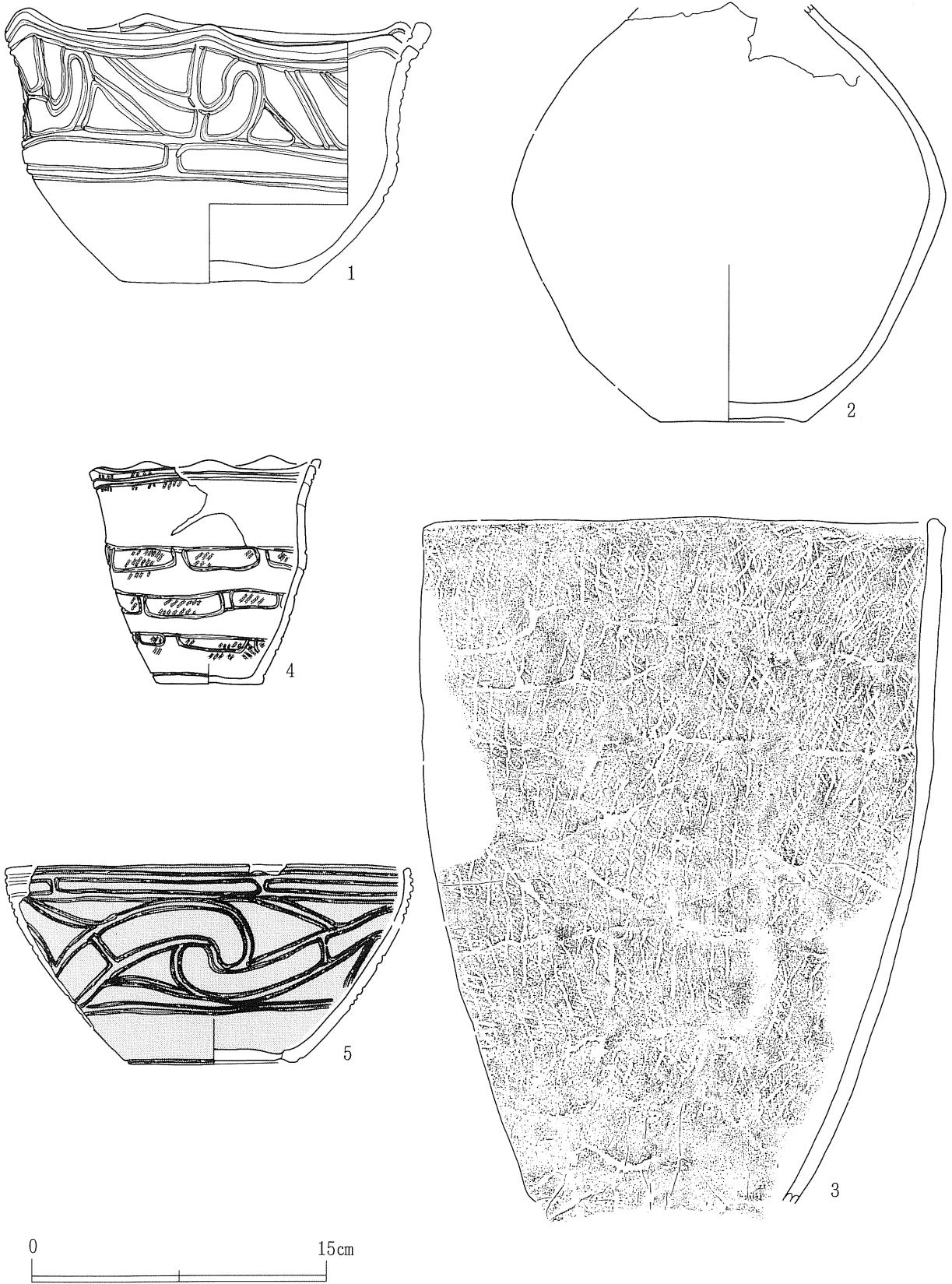
第133図 遺構内出土遺物 土器 (5)



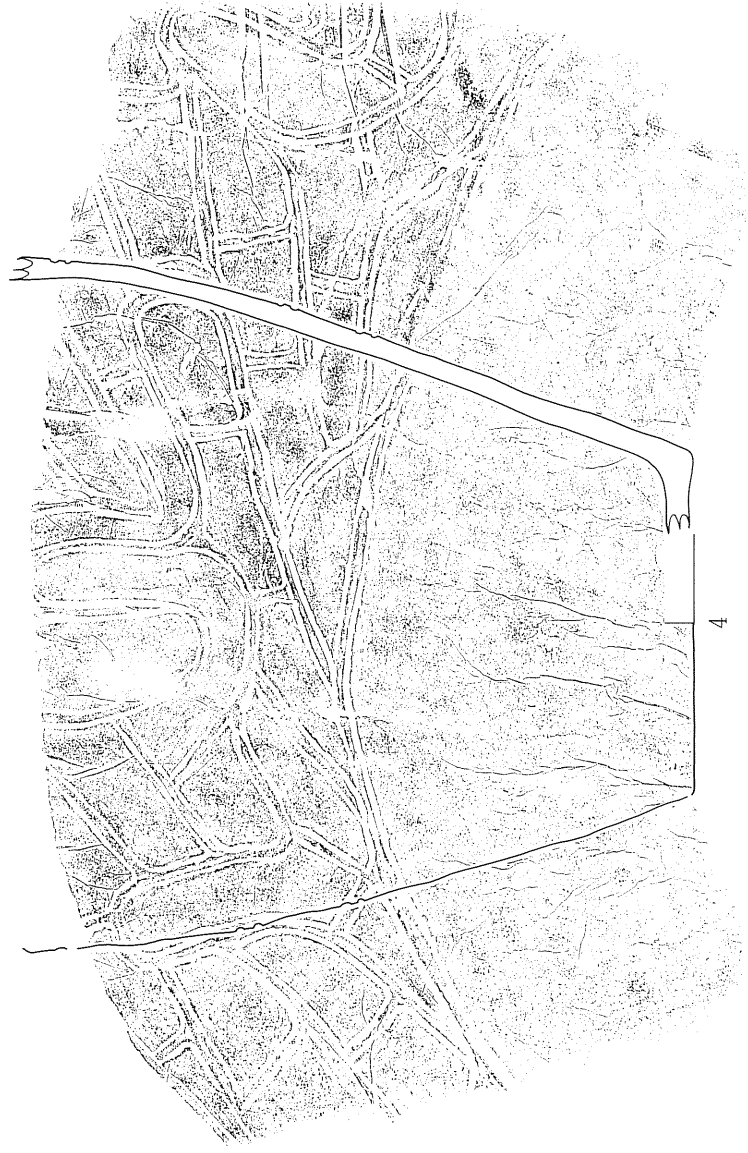
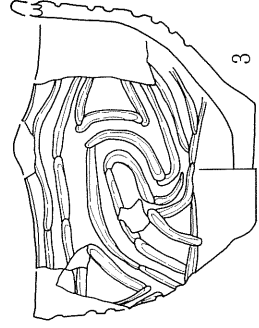
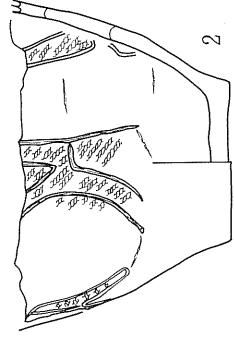
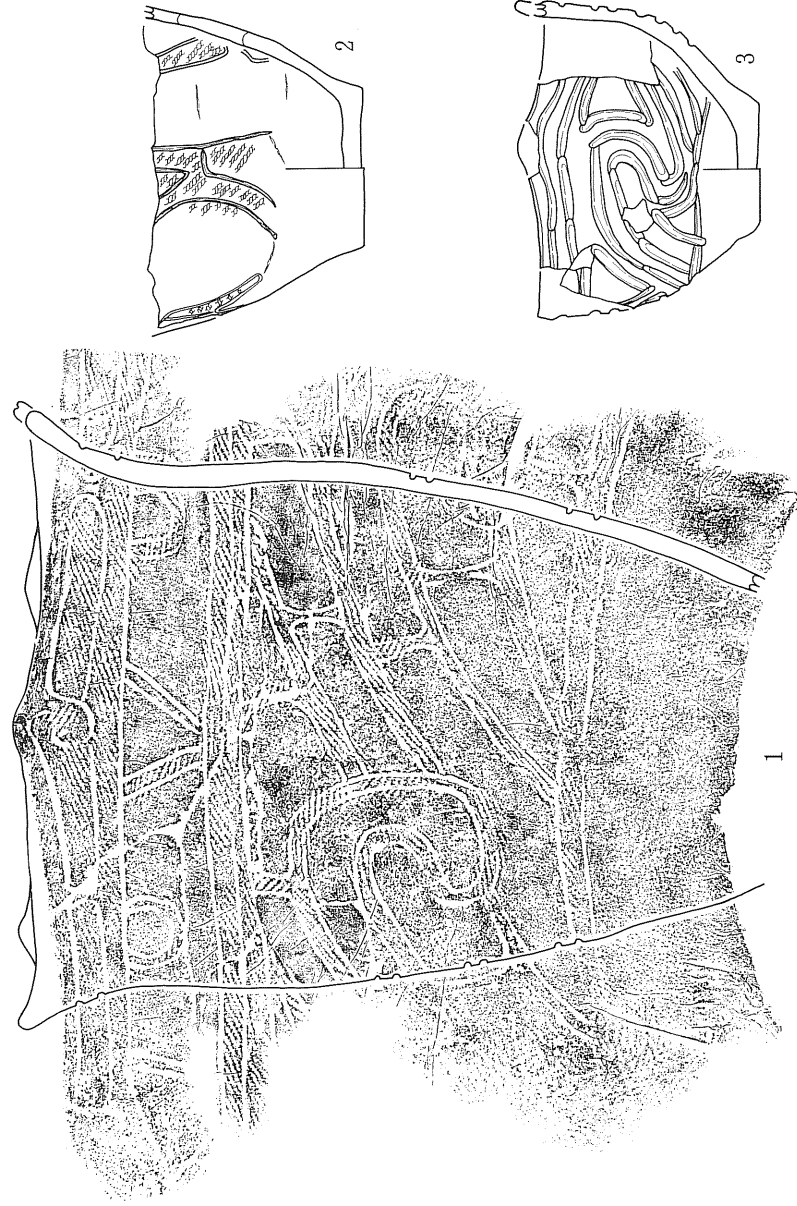
第134図 遺構内出土遺物 土器 (6)



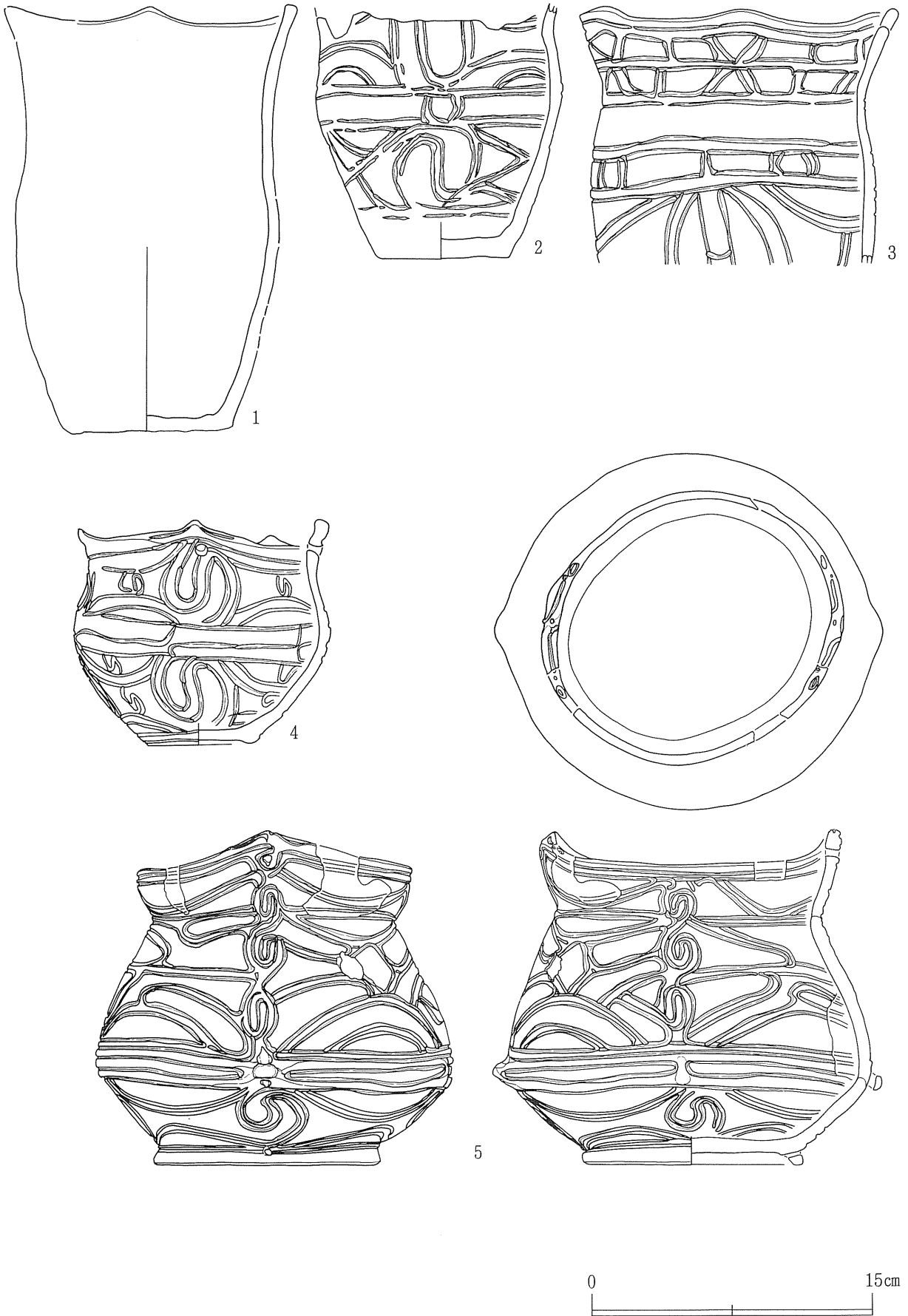
第135図 遺構内出土遺物 土器 (7)



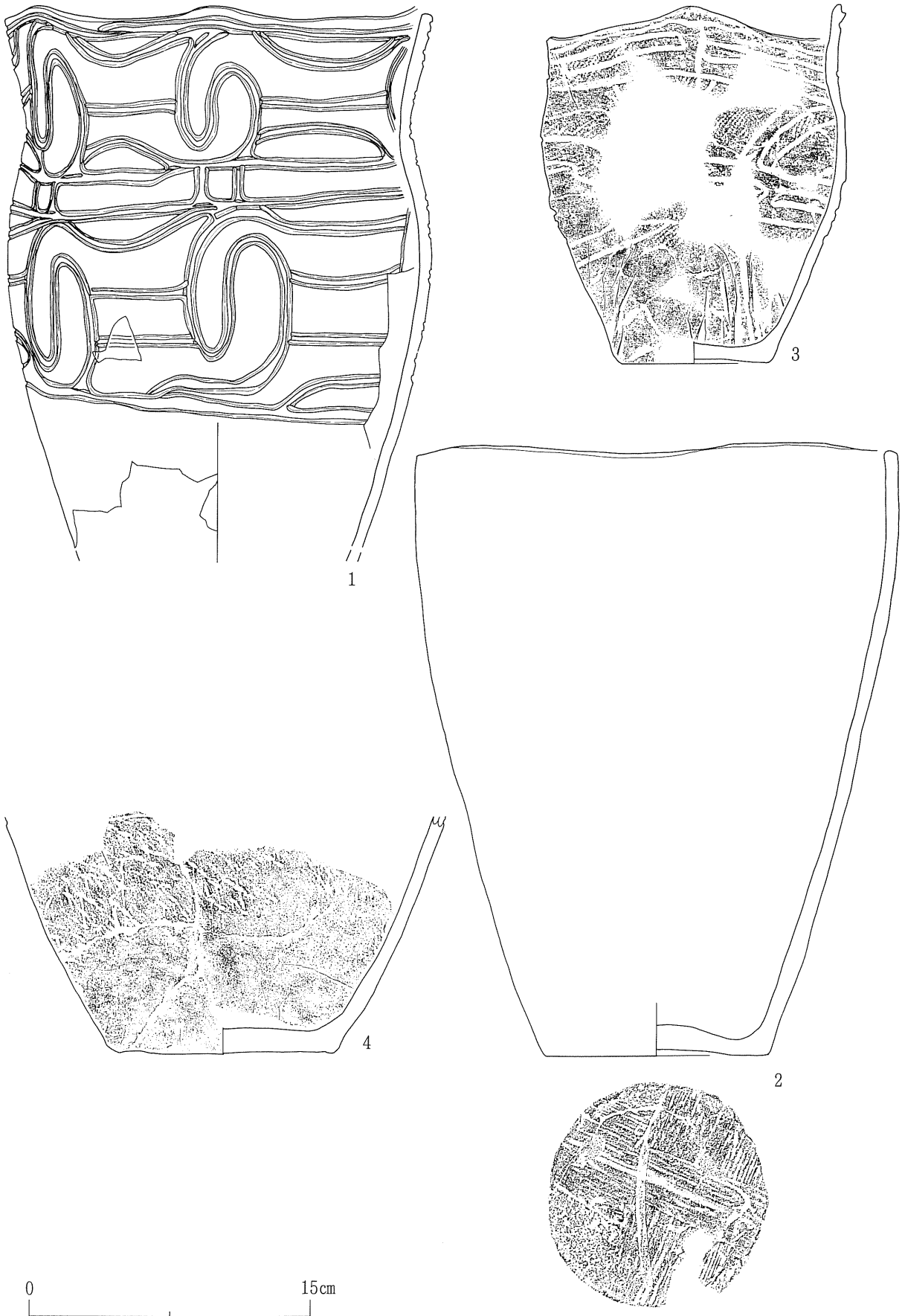
第136図 遺構内出土遺物 土器(8)



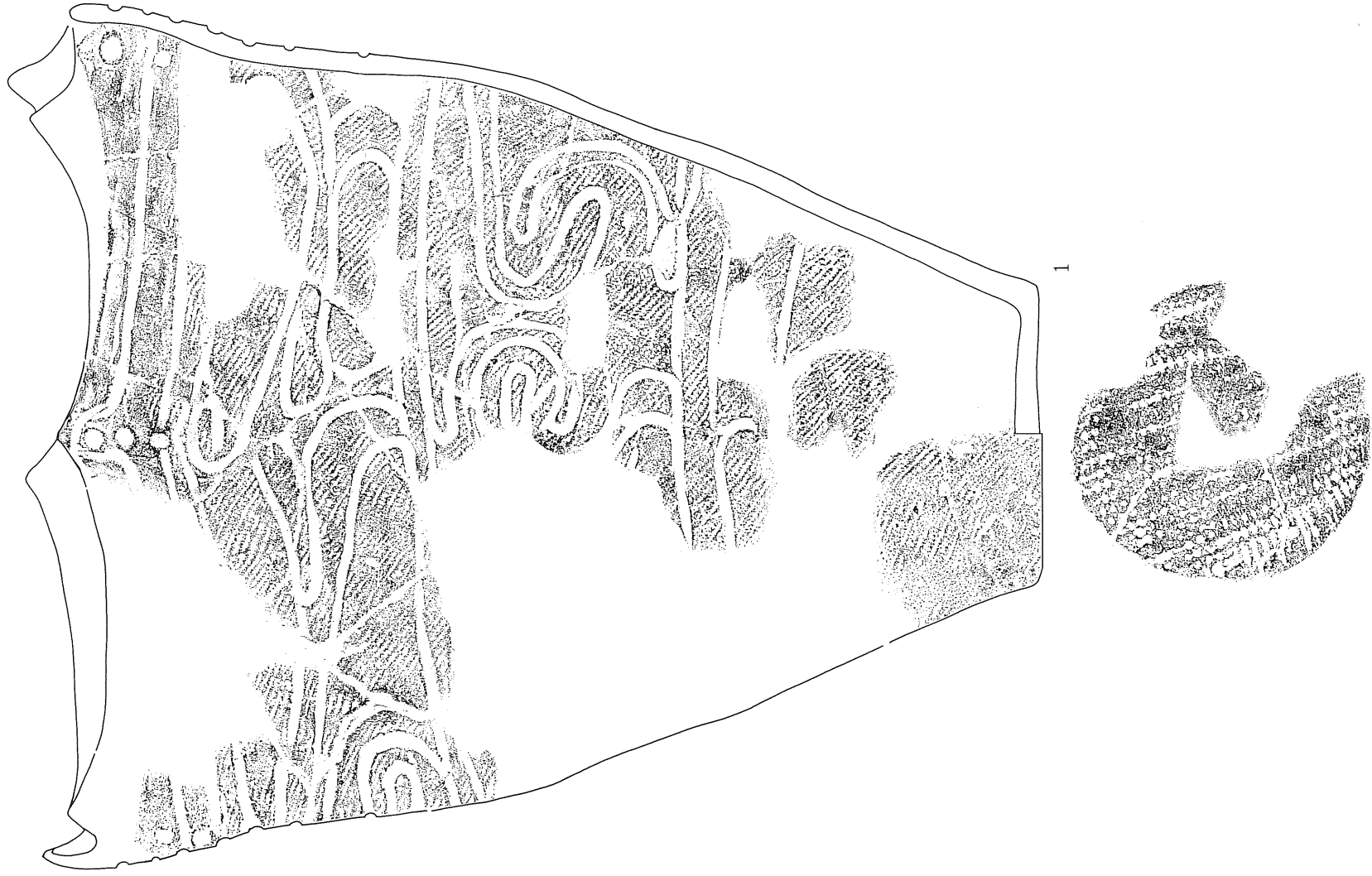
第137図 遺構内出土遺物 土器 (9)



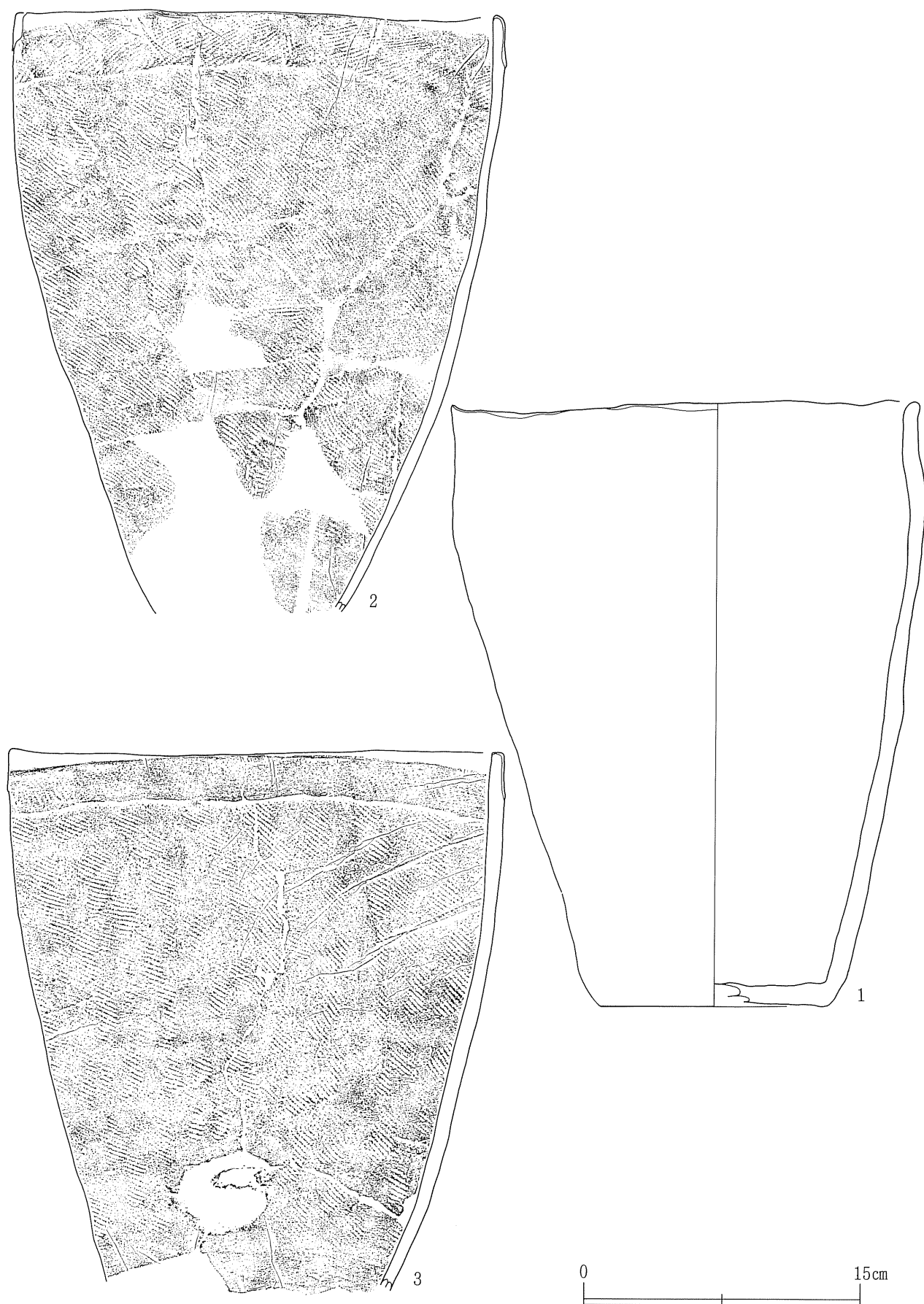
第138図 遺構内出土遺物 土器 (10)



第139図 遺構内出土遺物 土器(11)

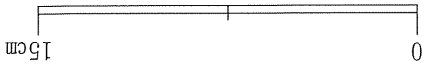


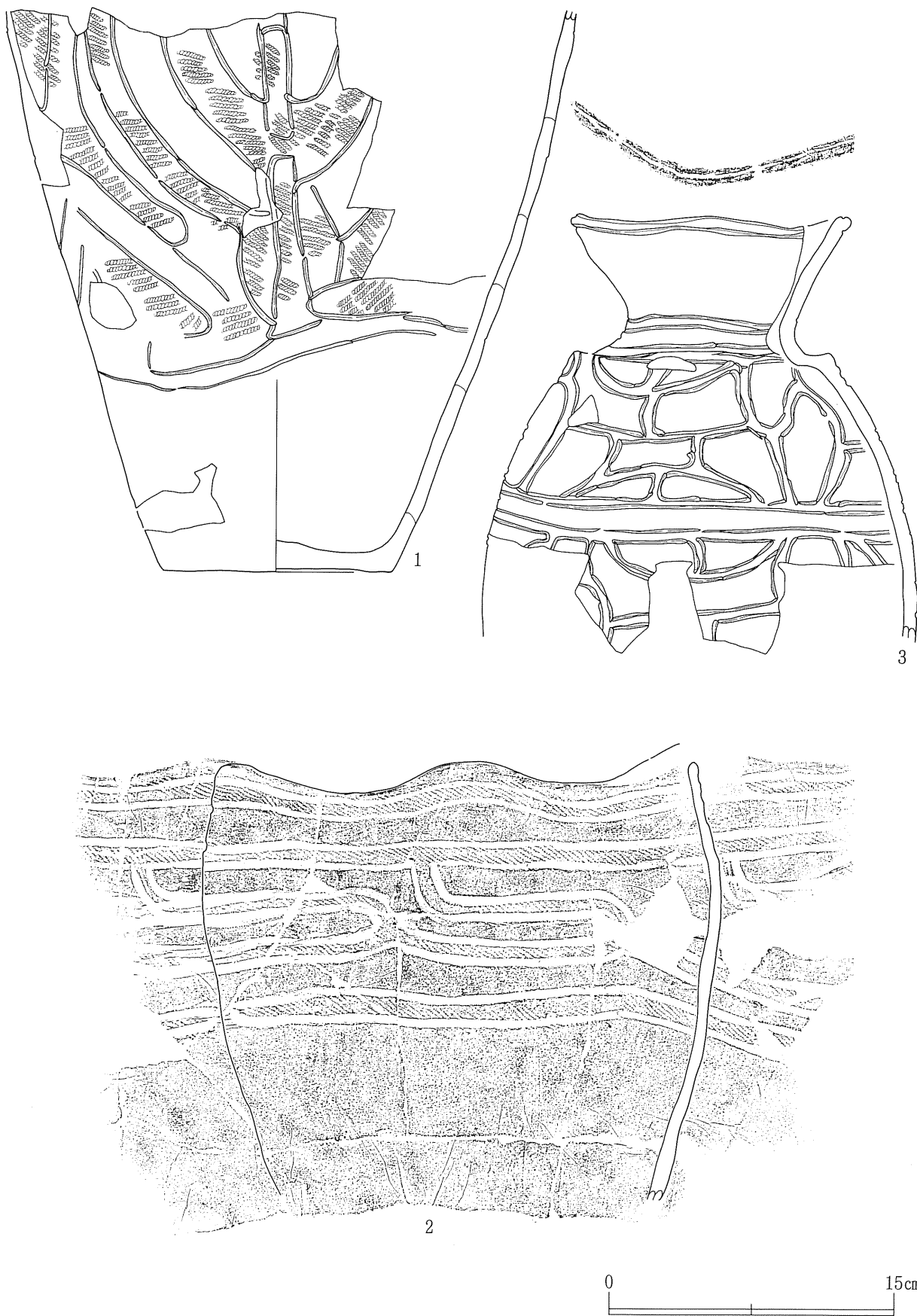
第140図 遺構内出土遺物 土器(12)



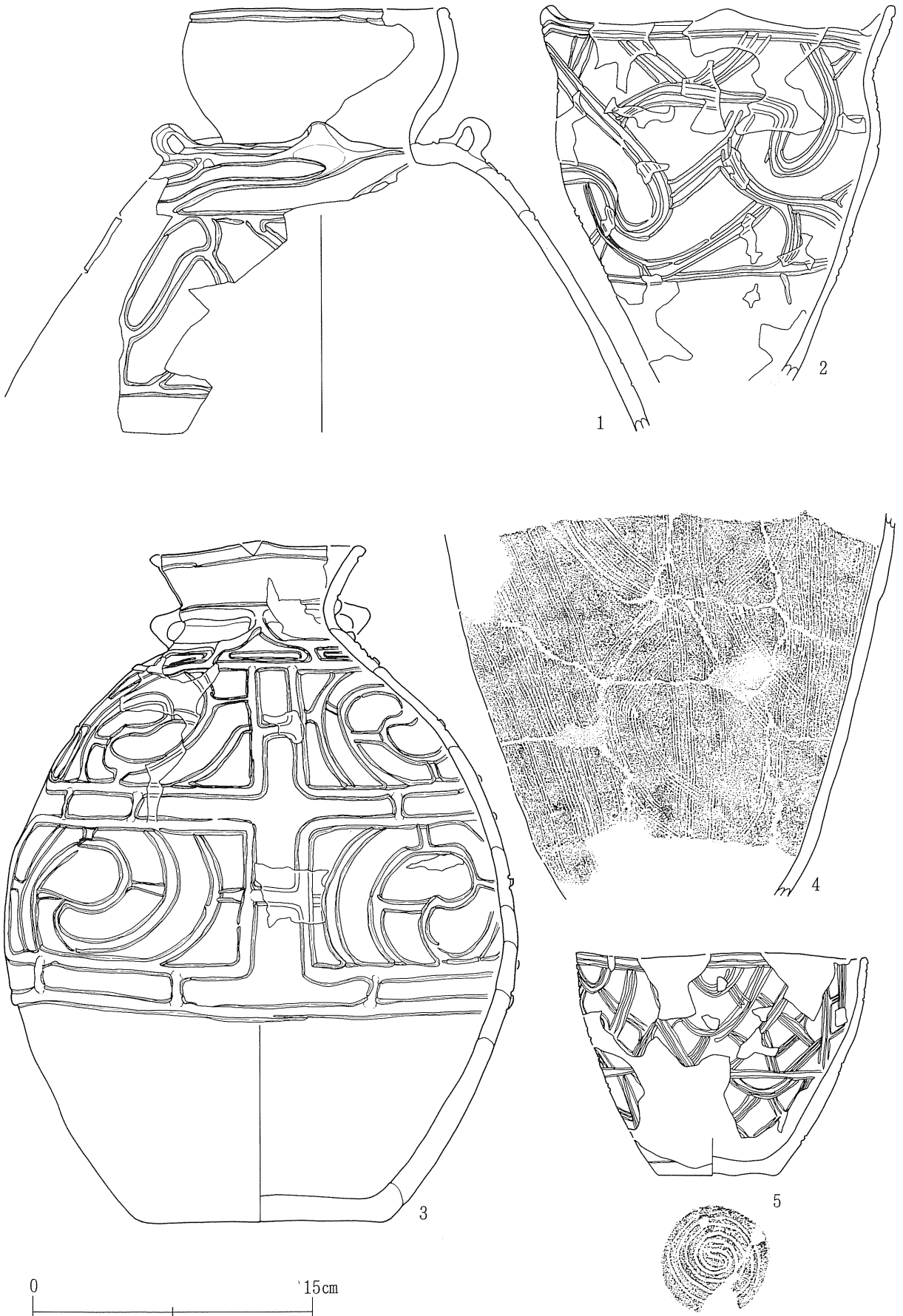
第141図 遺構内出土遺物 土器(13)

第 142 図 遺構内出土遺物 土器 (14)

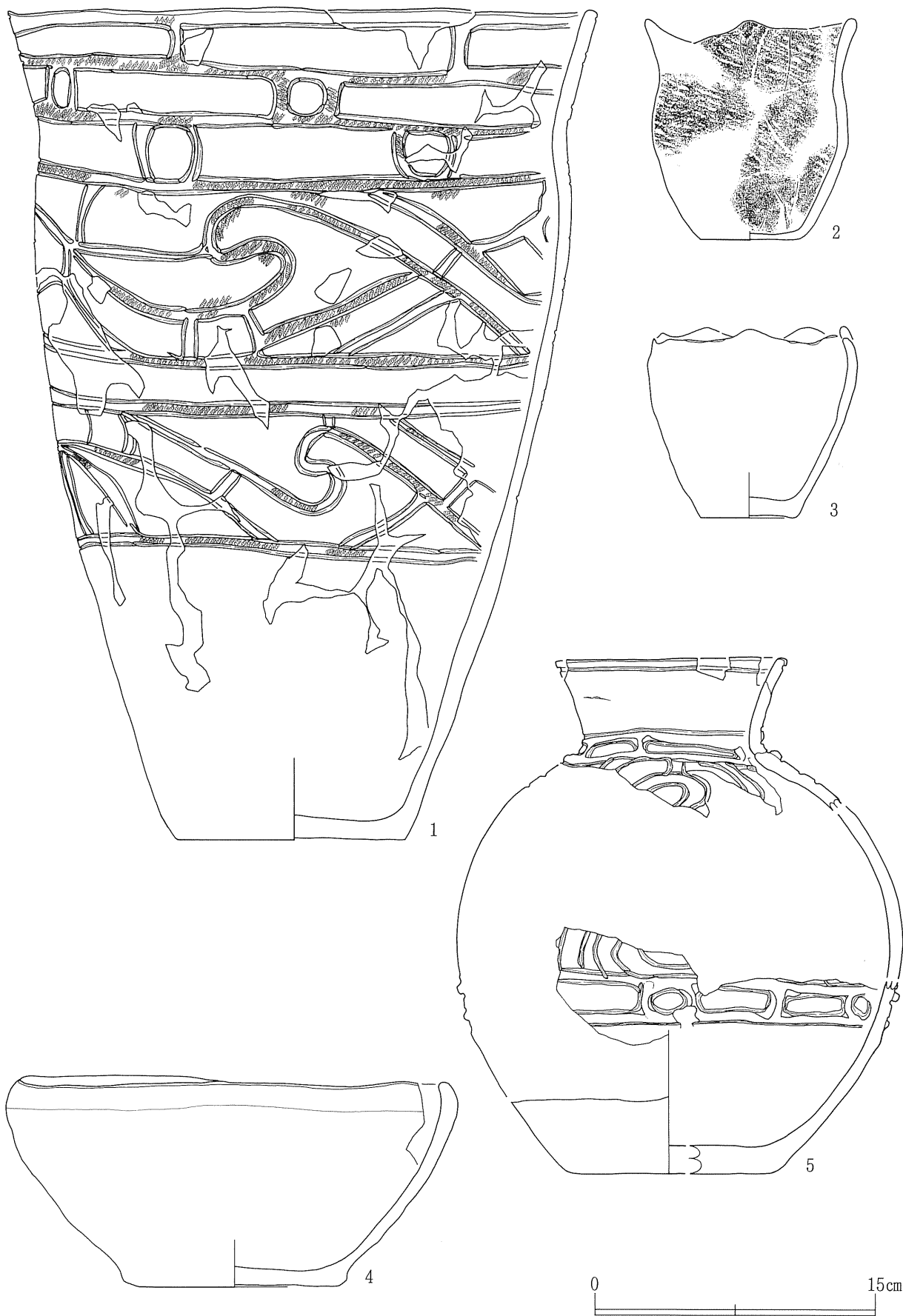




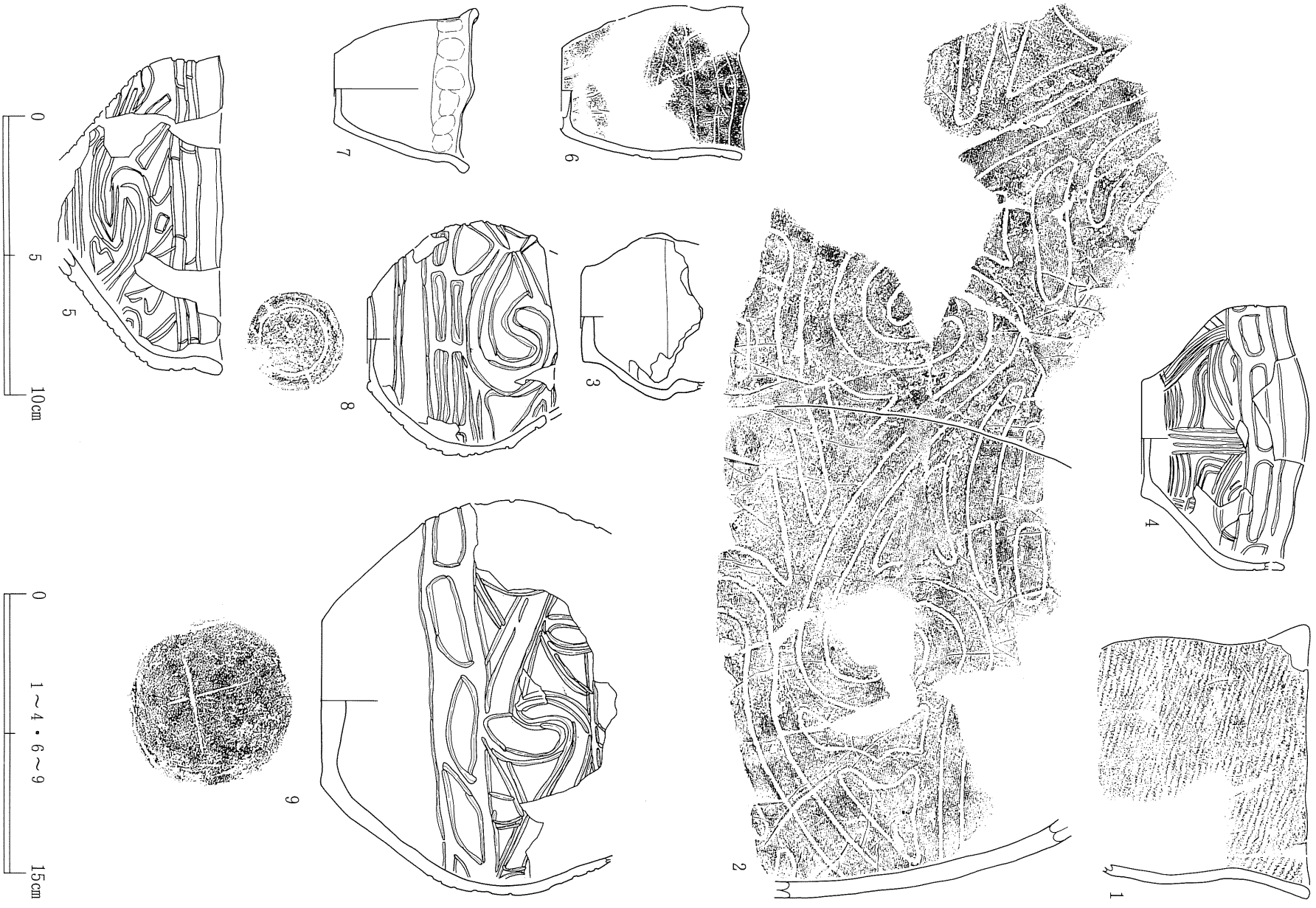
第143図 遺構内出土遺物 土器 (15)



第144図 遺構内出土遺物 土器(16)



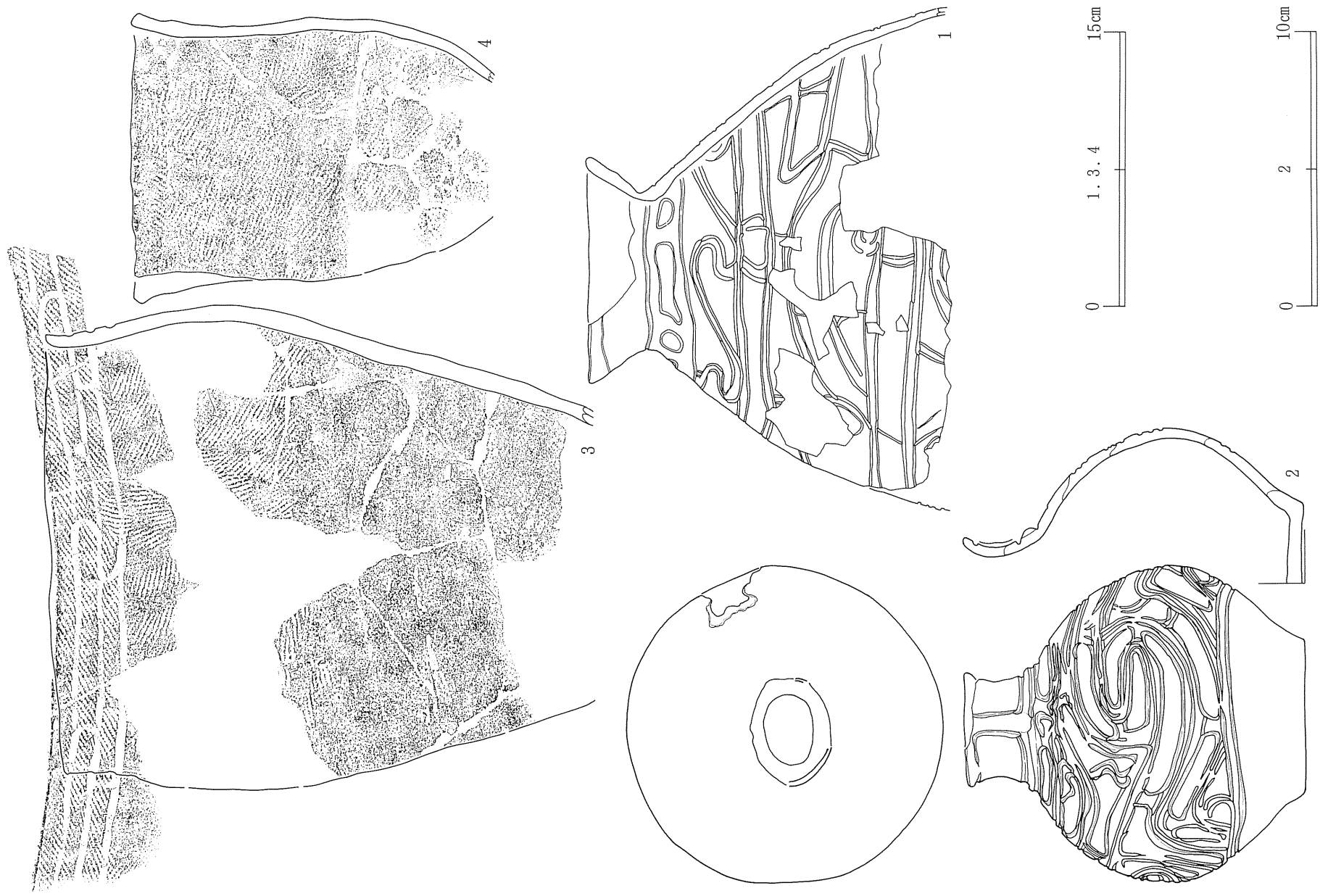
第145図 遺構内出土遺物 土器 (17)



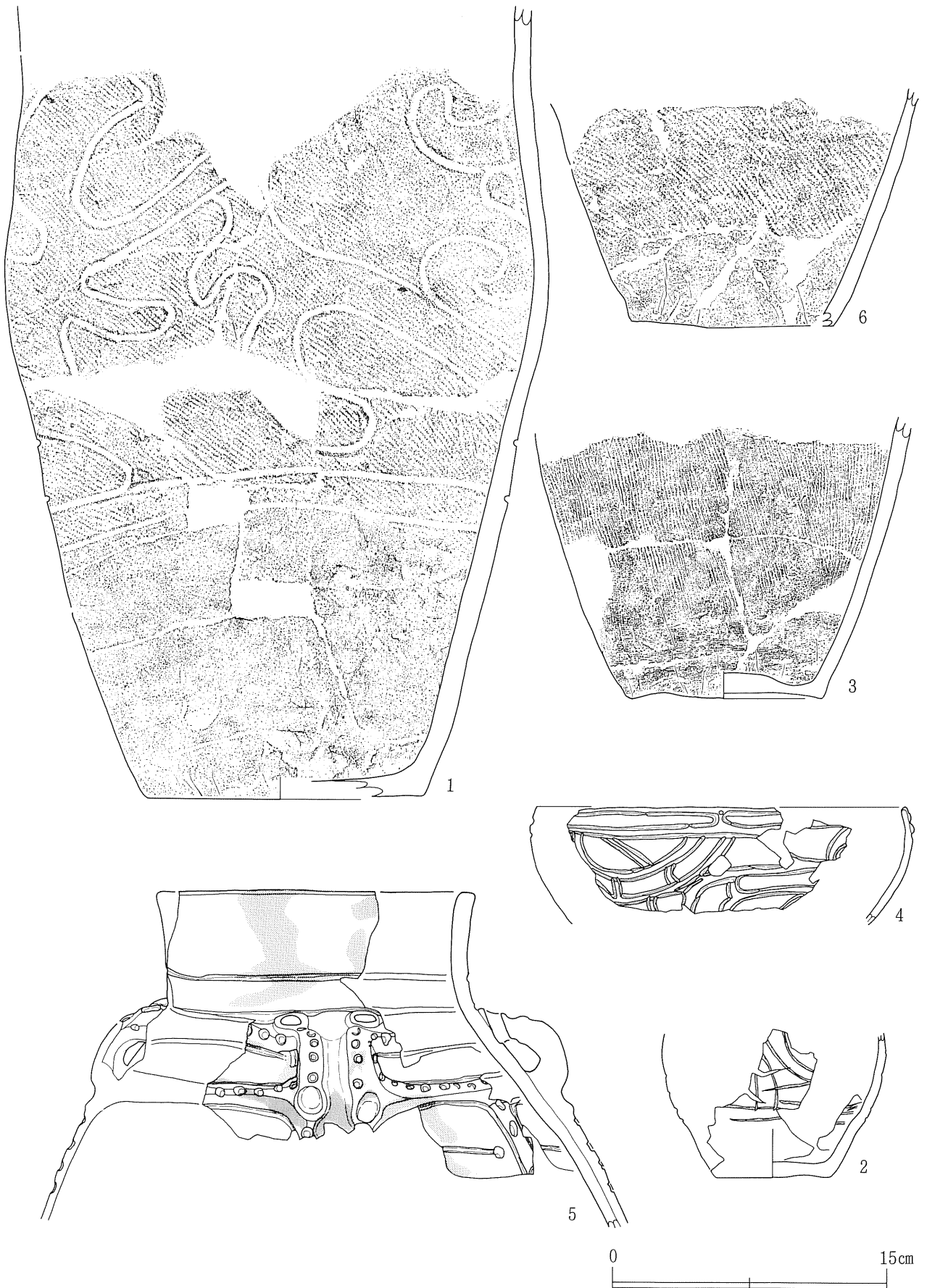
第146図 遺構内出土遺物 土器 (18)



第147図 遺構内出土遺物 土器 (19)

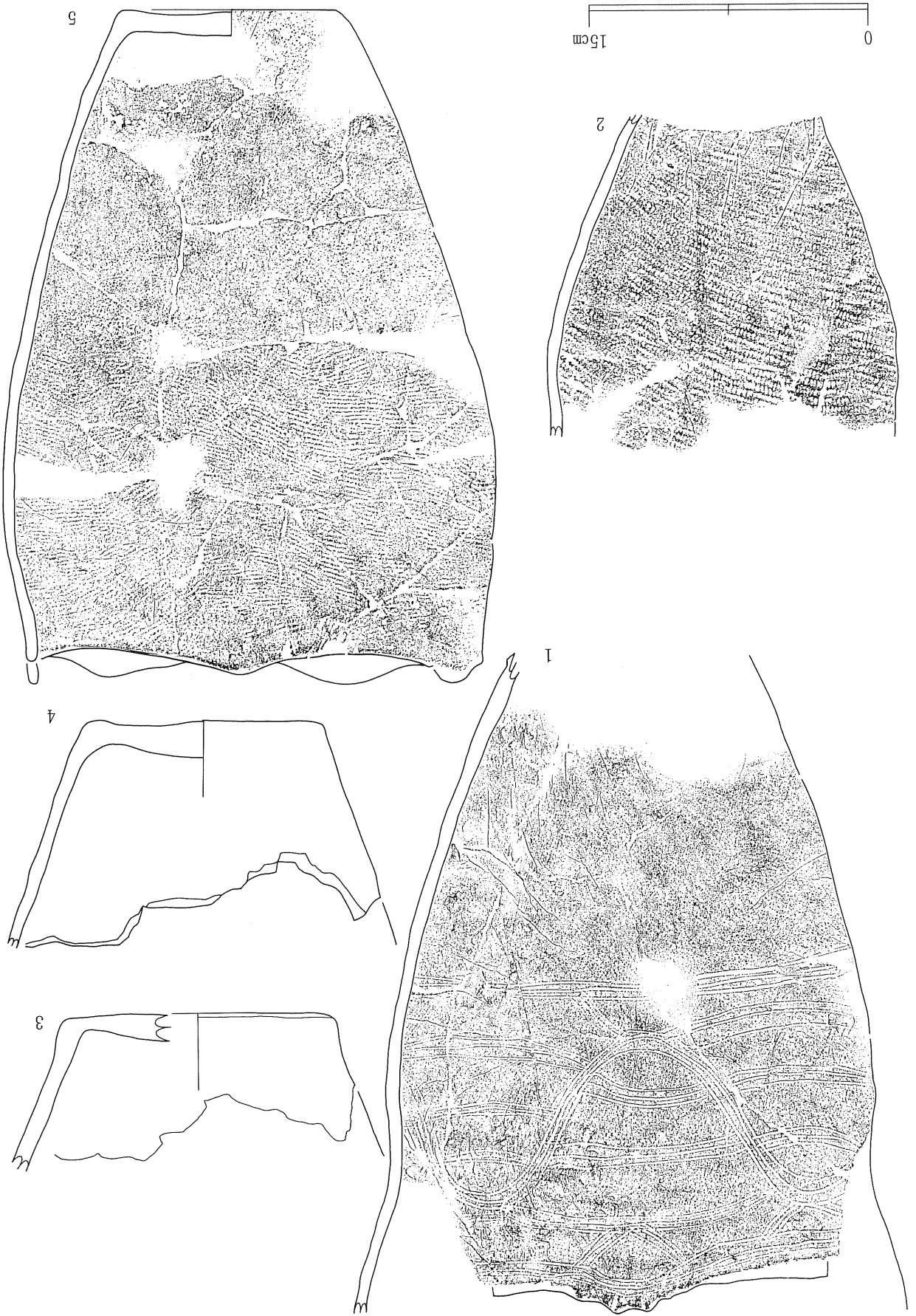


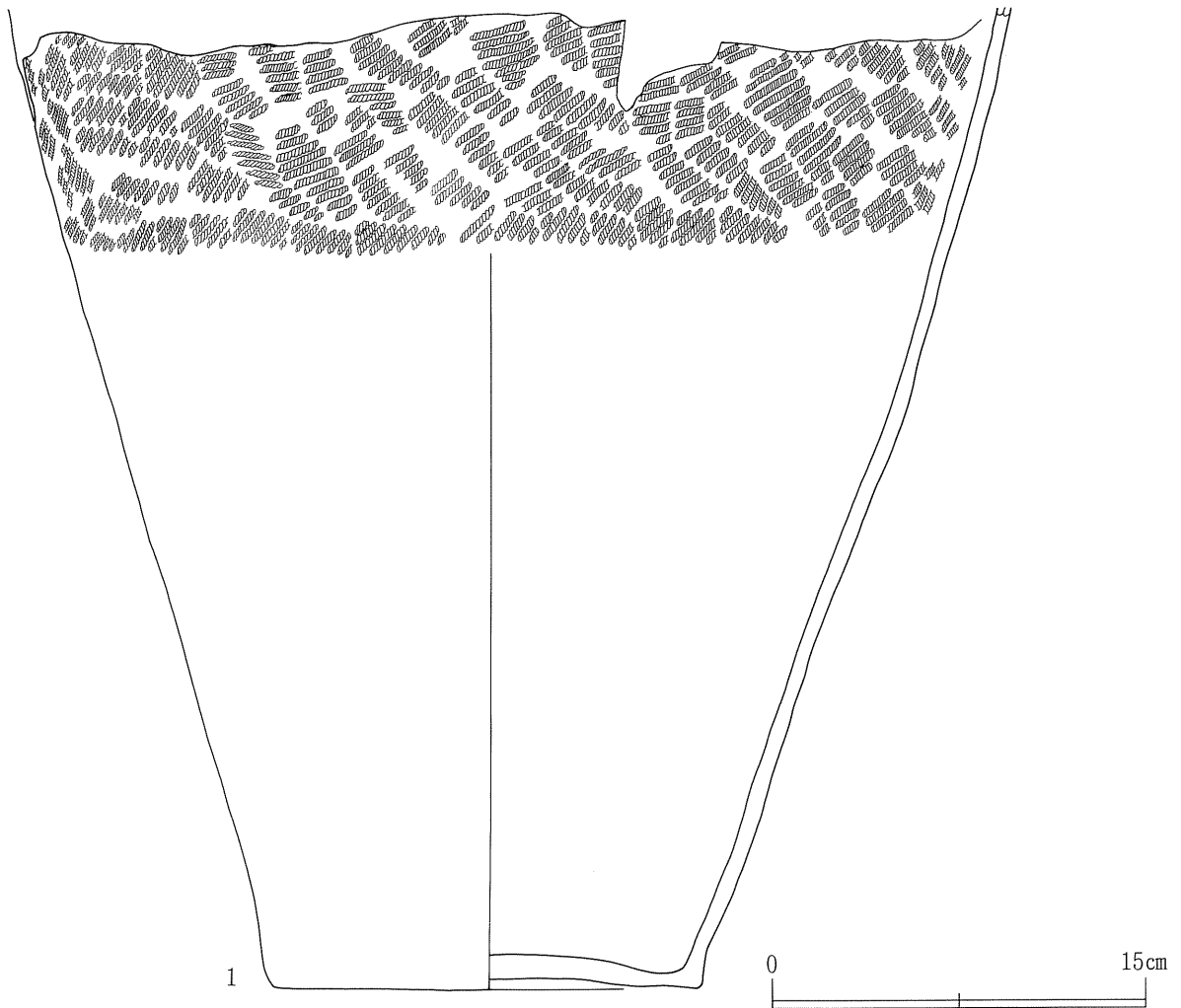
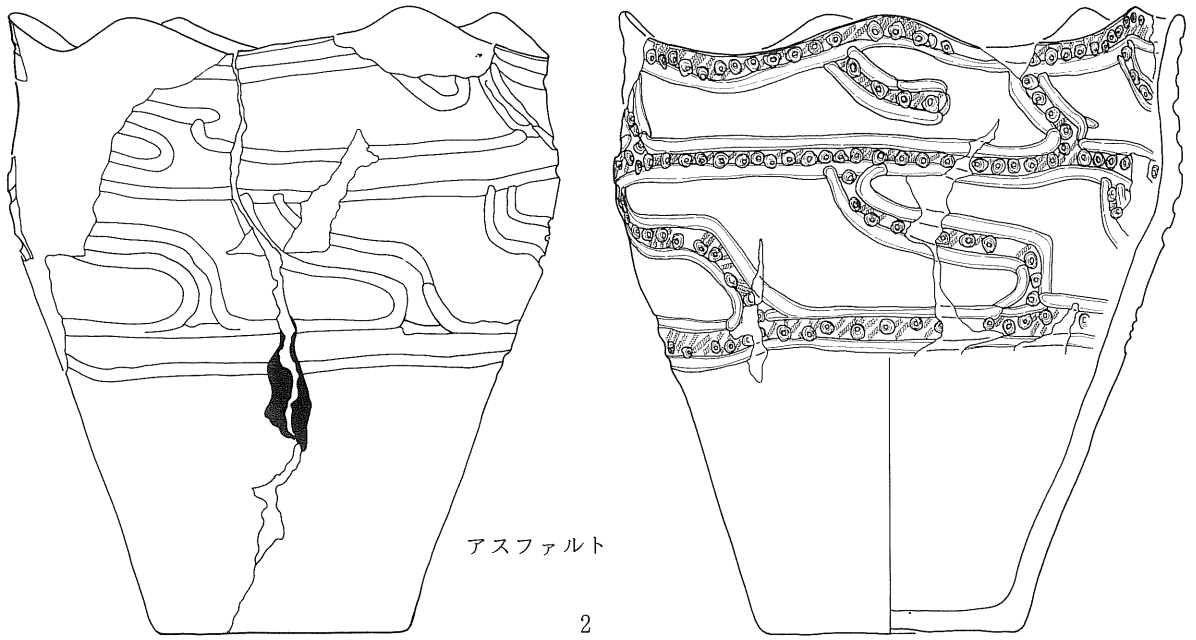
第148図 遺構内出土遺物 土器 (20)



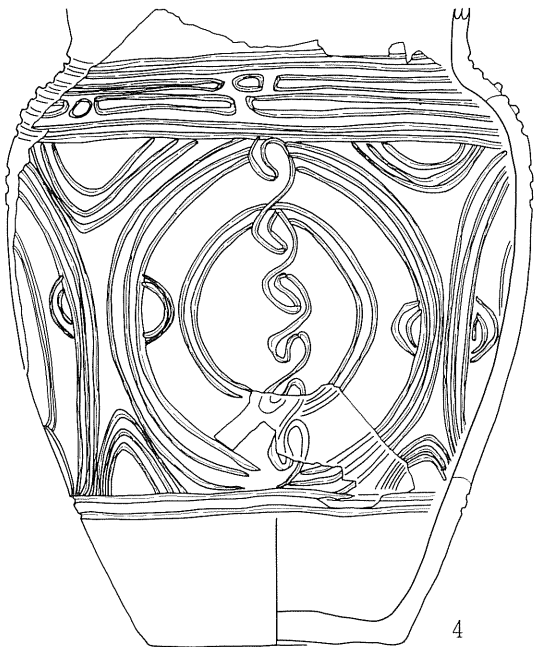
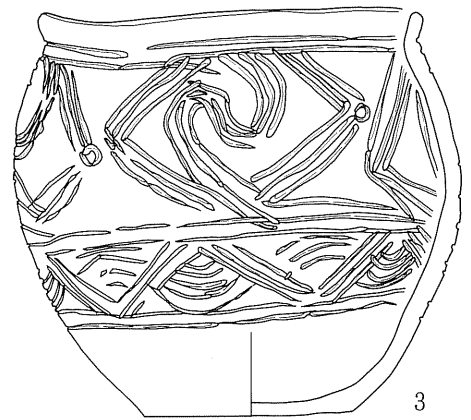
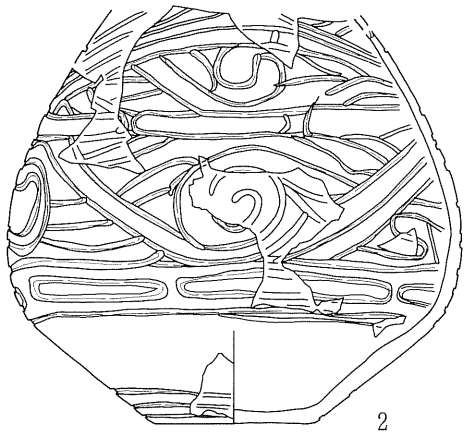
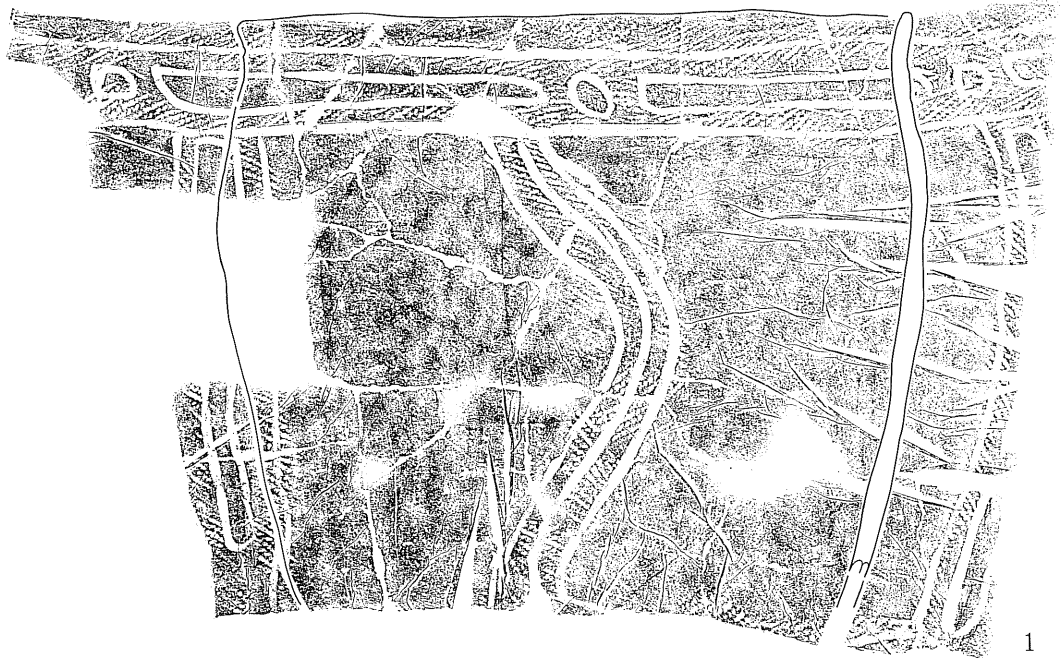
第149図 遺構内出土遺物 土器 (21)

第150図 遺構内出土遺物 土器 (22)

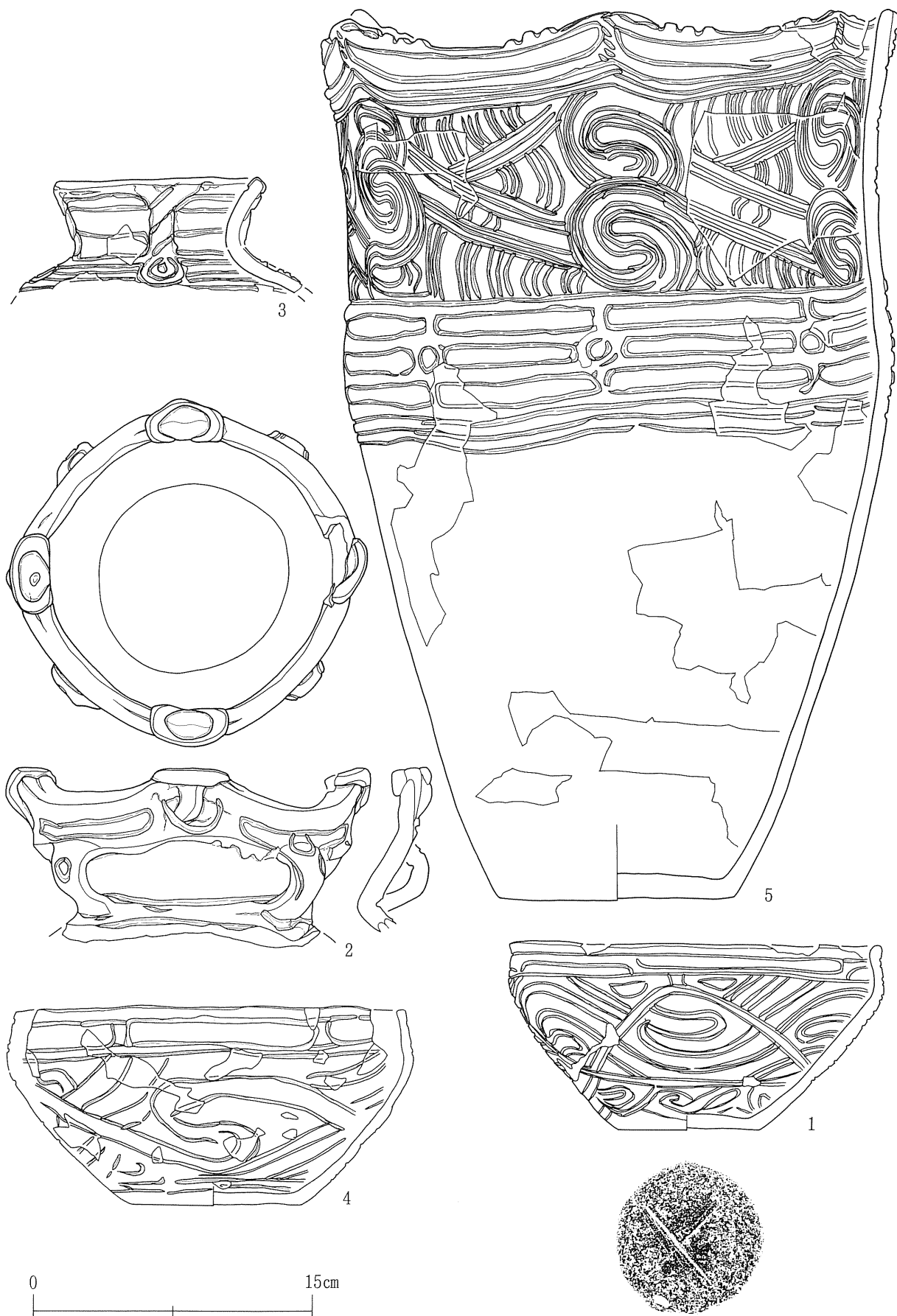




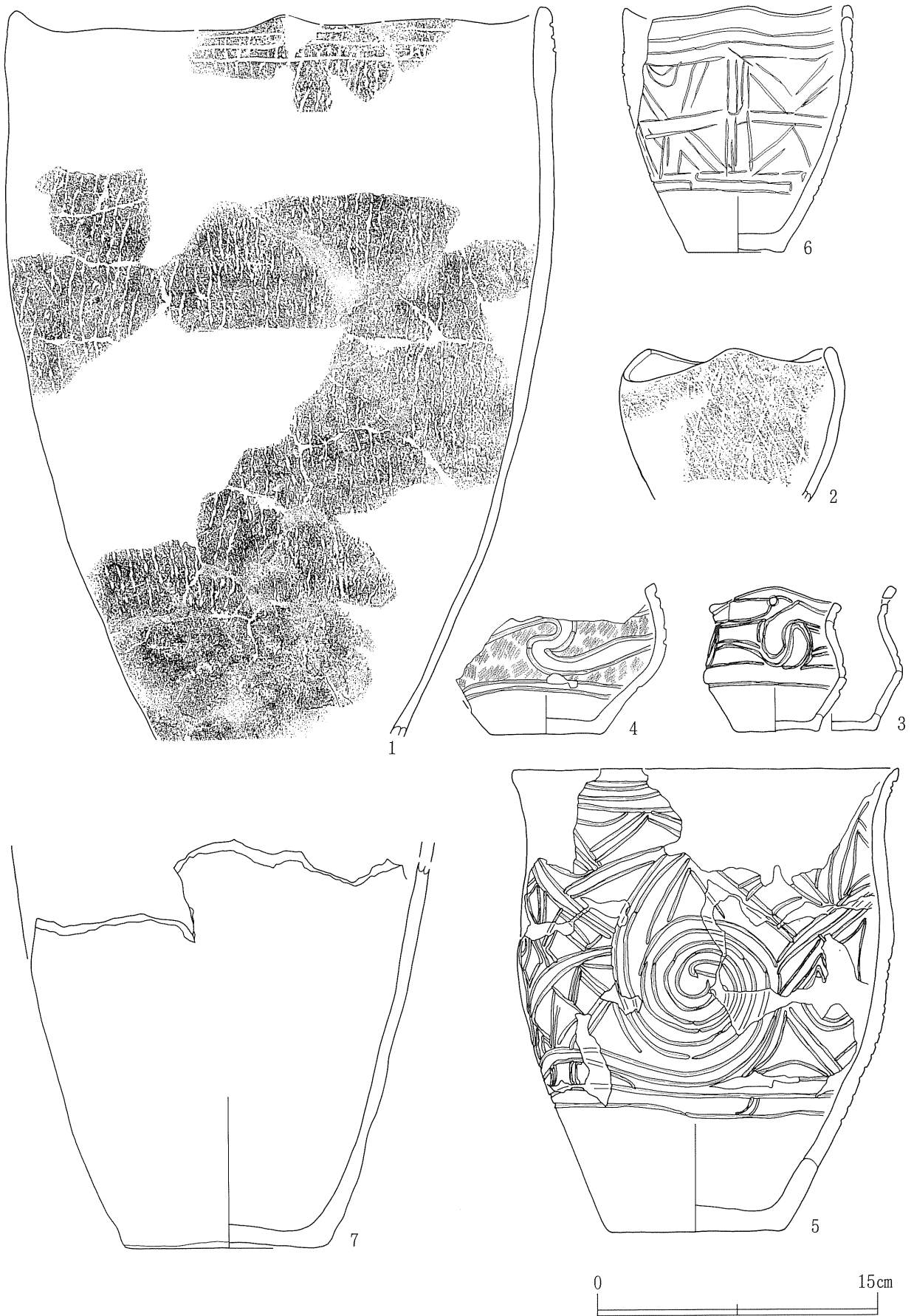
第151図 遺構内出土遺物 土器 (23)



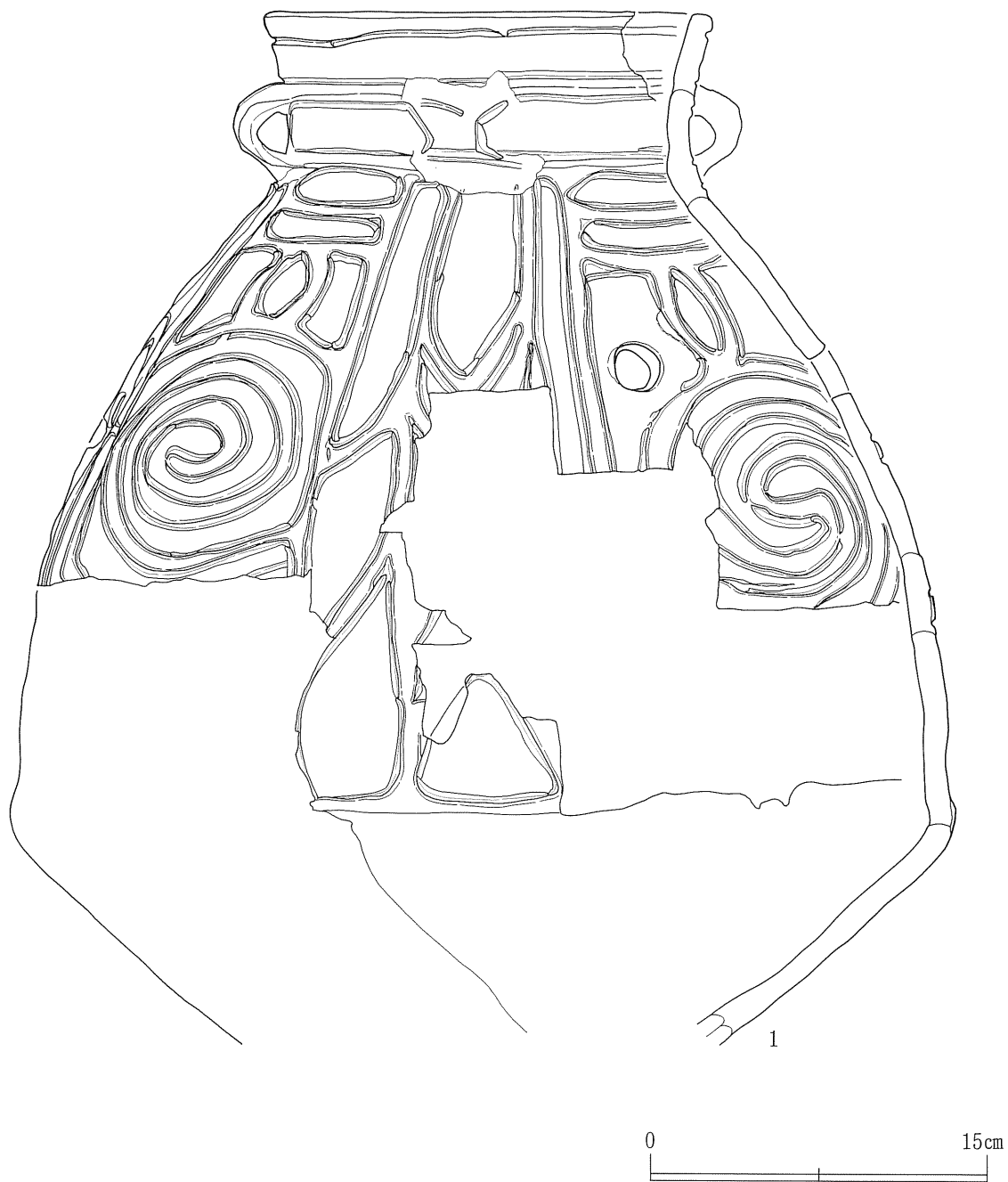
第152図 遺構内出土遺物 土器(24)



第153図 遺構内出土遺物 土器 (25)



第154図 遺構内出土遺物 土器 (26)



第155図 遺構内出土遺物 土器 (27)